

科目名	科目担当代表教員	ページ数
文章表現	佐々木 雅哉	4
心理学概論	小塚 美由記	13
食生活論	荒井 三津子	22
生活と社会環境	辻 幸美	31
総合教養講座	白戸 力弥	40
日本国憲法	池田 杏奈	49
現代医療と福祉・介護	高岡 哲子	58
キャリア入門	白戸 力弥	67
キャリア形成	木村 悠里菜	74
生命科学	有賀 早苗	81
情報処理リテラシー	松岡 審爾	90
統計の基礎	武田 裕康	97
数理・データサイエンス・AI入門	松岡 審爾	106
数理・データサイエンス・AI実践	松岡 審爾	113
物理学	松岡 審爾	120
基礎化学	藤井 駿吾	129
英語Ⅰ	Patrick Hall	138
英語Ⅱ	Walzem Allen George	147
英語Ⅲ	Joseph S Tomasine	156
中国語Ⅰ	玉 珍	165
中国語Ⅱ	玉 珍	174
韓国語Ⅰ	金 京室	183
韓国語Ⅱ	金 京室	192
生涯スポーツⅠ	平岡 英樹	201
生涯スポーツⅠ	平岡 英樹	210
生涯スポーツⅡ	平岡 英樹	219
人体構造学Ⅰ	高岡 哲子	228
人体構造学Ⅱ	坂東 奈穂美	237
人体機能学Ⅰ	高岡 哲子	246
人体機能学Ⅱ	坂東 奈穂美	255
免疫学	澤谷 啓行	264
看護栄養学	松本 信子	271
メンタルヘルス	藤村 恵理子	278
病理学	瀧山 晃弘	287
看護病態治療学Ⅰ	當瀬 規嗣	296
看護病態治療学Ⅱ	菅原 美保	305
看護病態治療学Ⅲ	尾形 裕子	314
看護病態治療学Ⅳ	井上 仁美	323
薬理学	長多 好恵	332
感染症と看護	坂東 奈穂美	341
臨床検査概論	合田 悟	348

看護基礎講座	木口 幸子		355
医療概論	高岡 哲子		364
関係法規	佐藤 洋子		371
生涯発達論	辻 幸美		378
地域包括ケアシステム論	水本 淳		385
保健医療福祉行政論	井上 仁美		392
チーム医療概論	坂東 奈穂美		399
リハビリテーション論	橋田 浩		406
医療英語	Joseph S Tomasine		413
医療英語	Joseph S Tomasine		420
看護学英語文献講読	榎本 常子		427
看護学の基礎	藤長 すが子		434
コミュニケーション論	木口 幸子		443
看護ヘルスアセスメント	木口 幸子		450
看護ヘルスアセスメント	木口 幸子		459
共通看護援助技術	竹之内 優美		468
共通看護援助技術	竹之内 優美		477
日常生活援助技術Ⅰ	竹之内 優美		486
日常生活援助技術Ⅰ	竹之内 優美		495
日常生活援助技術Ⅱ	竹之内 優美		504
日常生活援助技術Ⅱ	竹之内 優美		513
臨床看護技術	竹之内 優美		522
臨床看護技術	竹之内 優美		531
看護過程論	竹之内 優美		540
看護倫理	藤長 すが子		549
看護理論	藤長 すが子		556
成人看護学の基礎	尾形 裕子		563
成人看護学の展開Ⅰ	尾形 裕子		570
成人看護学の展開Ⅱ	尾形 裕子		579
成人看護学の展開Ⅲ	尾形 裕子		588
成人看護学の展開Ⅲ	尾形 裕子		602
老年看護学の基礎	高岡 哲子		616
老年看護学の展開Ⅰ	初見 温子		625
老年看護学の展開Ⅱ	辻 幸美		634
小児看護学の基礎	佐藤 洋子		643
小児看護学の展開Ⅰ	横山 佳世		652
小児看護学の展開Ⅰ	横山 佳世		661
小児看護学の展開Ⅱ	菅原 美保		670
小児看護学の展開Ⅱ	菅原 美保		679
母性看護学の基礎	小堀 ゆかり		688
母性看護学の展開Ⅰ	小堀 ゆかり		697
母性看護学の展開Ⅱ	多賀 昌江		706

母性看護学の展開Ⅱ	多賀 昌江		715
精神看護学の基礎	井上 仁美		724
精神看護学の展開Ⅰ	井上 仁美		733
精神看護学の展開Ⅱ	井上 仁美		742
在宅看護学の基礎	鹿内 あずさ		751
地域看護学の基礎	鹿内 あずさ		760
在宅看護学の展開Ⅰ	小橋 拓真		767
在宅看護学の展開Ⅱ	小橋 拓真		776
家族看護学	鹿内 あずさ		785
看護研究Ⅰ	佐藤 洋子		792
看護臨床判断	佐藤 洋子		801
看護起業論	高岡 哲子		808
リスクマネジメント論	坂東 奈穂美		815
基礎看護学実習Ⅰ	藤長 すが子		822
基礎看護学実習Ⅱ	藤長 すが子		831
成人看護学実習	尾形 裕子		840
小児看護学実習	横山 佳世		849
母性看護学実習	多賀 昌江		858
地域・在宅看護論実習	鹿内 あずさ		867
地域フィールド実習	高岡 哲子		876

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		文章表現				ナンバリング	1102
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木 雅哉						

授業の位置づけ

初年次教育科目である。
幅広い教養を身につけるために、社会で必要となる文章作成能力、プレゼンテーション能力を修得する科目である。

授業の概要

本科目では、大学生活の基本となる日本語の文章表現能力を学ぶ。日本語そのものの基本を押さえた上で、思考法を鍛え、レポート・論文の作成力を修得し、日本語の基礎的な法則を確実に定着させながら、日本語の文章表現の能力を高める。また、文章作成と添削および相互批評を組み合わせた実作学習によって習得することで、社会で必要となるスキルを身に付けることを目指す。
また、「新聞製作の現場」からゲスト講師を招聘し、文章表現の知見を盛り込んだ講義を展開する。

到達目標

- ・社会に存在する様々な文章について、分類することができるようになる。
- ・各講義の目標とする文章表現技術を習得し、実的な文章作成ができるようになる。
- ・文の正誤・適否・美醜等が区別できるようになる。

授業の方法

- 1.講義形式で、文章作成の要素を中心に説明を行う。
- 2.説明に基づいて実際に各自文章作成や相互評価を行う。
- 3.インタビュー・ドキュメンテーション・投稿・観察等を実際に行い、その結果を文章作成に反映させる。
- 4.完成させた文章を、担当教員の指示により提出する。

ICT活用

必要に応じてパワーポイント等を用いた授業を実施し、ICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校での担任、管理職経験や研究団体での研究歴があり、学校教育や国語科教育に幅広い知識と経験を有する。これらを生かし、多面的な視野に基づく文章表現の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

作成した課題は、提出後の講義において適宜紹介したり、例示したりして評価内容を可視化していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】 講義内容を概観し、到達目標や評価について理解する。 「文章の書き方」の基本について学ぶ。 ・学生時代に書く文章には何がある? ・タイトルの意図 ・「作文」と「小論文」	これまでに書いた文章について、どんなものがあつたかを想起する。	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第2回	ゲスト講師による講義①【新聞って何だろう】 当日の新聞を教材に、「テレビとネットの違い」、「信頼できる情報源」などを学ぶ。	新聞の入手方法を調べたり、実際に紙面を観察したりする。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第3回	【会話表現から学ぶ①】 聞き取りやすさ／あいさつ／敬語の使い方	新書などから好きな本を選び、通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第4回	ゲスト講師による講義②【新聞を呼んでみよう】 当日の新聞を教材に、「新聞製作の仕組み」、「面建て」、「読者参加(投稿)面」などについて学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第5回	ゲスト講師による講義③【新聞の作り方】 新聞製作における、「5W1H」、「取材・執筆法」、「レイアウト」などを学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第6回	ゲスト講師による講義④【友だち新聞を作ろう】 ペアをつくり、前回までの講義を参考に、取材一記事執筆を体験する。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第7回	ゲスト講師による講義⑤【オールドメディアとSNSの功罪】 SNSやオールドメディアの功罪を学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第8回	【会話表現から学ぶ②】 発声／自己紹介文／先方を意識した話し方／声かけ／電話／面接	新書などから好きな本を選び、通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第9回	ゲスト講師による講義【表現・基礎① 教科書づくりの現場から】 「教科書をつくる」ということ／教科書の出版事情／教育と文章・文字／文字を正しく書く	小、中学校で使用した教科書について、体裁や学んだ教材について想起する。	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第10回	【表現・基礎②】 文章を書くときの留意点／書き方の基本／正しい表記	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第11回	【表現・応用①】 実習日誌／札状・手紙／メール	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第12回	【表現・応用②】 履歴書／エントリーシート／送付状／送り方	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第13回	【表現・応用③】 小論文の基本的な書き方を学ぶ ・テーマ設定の仕方、具体例と問題意識 ・様式の復習	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時 の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第14回	【表現・応用④】 効果的な(広告)宣伝フレーズを考える。 イベントポスターや新聞広告などのキャッチコピーに注目 する。	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時 の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第15回	【まとめ】 これまで学んできた文章表現の技法を反芻しながら、再確 認していく。 得た知見をまとめる。	これまで授業で使用した資料類 をまとめ、復習しておく。(90分)	指定された提出課題の完成・提 出。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	作成した文章のうち指定されたもののみを提出する。 提出の指示があった課題は、すべて評価の対象とする。 出席率を評価の対象とする。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

必要に応じて提示する。
必要に応じて教材配信システムを活用する。

履修条件・留意事項等

状況により、講義内容の変更や順序が変わる場合がある。(第9回)
出席率を評価対象とする。
連絡はGoogle classroomで行う。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		心理学概論				ナンバリング	1110
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小塚 美由記						
授業の位置づけ							
本科目は、リハビリテーション学科理学療法専攻と作業療法専攻のディプロマポリシーでは「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」に位置付けられ、2年前期の「臨床心理学」と連携している。看護学科のディプロマポリシーでは、「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」に位置付けられており、1年次後期の「メンタルヘルス」と連携している。地域未来学科のディプロマポリシーでは「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」に位置付けられている。健康栄養学科では、「幅広い教養を身につける」「教養人文系」に位置付けられている。							
授業の概要							
本科目では、人格論に焦点を合わせながら現代心理学の概観を試みる。まず学習、動機づけ、知覚等の心理学的概念を用いて人格の形成過程を説明する。さらに摂食障害、薬物依存、多重人格等、広く人格障害に関与する異常行動の病理に言及する。履修者は、心理学を通して、人間が、外側からは知ることのできない人間のこころの内側とそのしくみをどのように解き明かしてきたのかを知ると同時に、その方法を自分自身にも適用し、自分を客観的に見つめ、いまの自分がどのように形成されてきたのか、また、今の自分をどのように変えていくことができるのかという問題に答えられることを期待する。							
到達目標							

- ①心理学が辿った歴史的な研究の過程と特徴を理解できる。(知識・技能)
 ②心理学概論の研究の変遷を適切にとらえ表現することができる。(思考・判断・表現)
 ③心理学概論の学習を他のメンバーと協力し、学習課題を解決することができる。(関心・意欲・態度)

授業の方法

パワーポイントと教科書により講義形式で行う。
 アクティブラーニングとして題材を提示し、グループワークも行う。

ICT活用

Googleフォームを使用する

実務経験のある教員の教育内容

課題に対するフィードバックの方法

質問は授業中、Googleフォームで質問を受け付け、都度回答を行う。学習課題への回答を評価しコメントを添え返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、基礎心理学の進化心理学による行動的形質であるヒューマン・ユニバーサルズの意味、教科書1の自己発見、教科書2のヒポクラテスの単純元素、教科書3のプラトンの自己概念、教科書5のイスラムと精神医学について理解できる。	シラバスにより学習の見通しを持ち、教科書の「はじめに」の内容を熟読する。(90分)	ヒューマン・ユニバーサルズの教科書1の自己発見、教科書の2のヒポクラテスの単純元素、教科書3のプラトンの自己概念、教科書5のイスラムと精神医学を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	教科書6の古代心理学における共通感覚の意味から教科書10のデカルトの思考機械と松果体とその役割、教科書11のウィリスの脳解剖とウィリス動脈輪、さらに教科書12のジョン・ロックの知性の本性としての自己の記録内容について理解できる。	教科書の6の共通感覚から12の知識の本性を熟読し学習内容の把握をする。(90分)	教科書6のデカルトの思考機械、ウィリスの脳解剖、ウィリス動脈輪、教科書12の知識の本性を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	教科書13のバークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、教科書17のキルケゴールの自己の選択、教科書18のフィニアス・ゲージの記憶による前頭前野・大脳皮質の実行機能を中心に学習内容を理解できる。	教科書13のバークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、教科書17のキルケゴールの自己の選択、教科書18のフィニアス・ゲージの記憶による前頭前野・大脳皮質の実行機能を中心に学習内容を理解する。	教科書13のバークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、教科書17のキルケゴールの自己の選択、特に教科書18のフィニアス・ゲージの記憶の研究内容を中心に整理する。(90分)
担当教員			

第4回	教科書19のモーズリーの気分障害から教科書20のダーウィンの情動、教科書19のフランシス・ゴールドンの優生学、教科22のシャルコーのヒステリー法則、教科書24の情動のジェームス・ランゲ説及び感情心理学と情動の2要因理論について理解できる。	教科書19のモーズリーの気分障害から教科書20のダーウィンの情動、教科書19のフランシス・ゴールドンの優生学、教科22のシャルコーのヒステリー法則、教科書24の情動のジェームス・ランゲ説についての範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書19のモーズリーの気分障害から教科書20のダーウィンの情動、教科書19のフランシス・ゴールドンの優生学、教科22のシャルコーのヒステリー法則、教科書24の情動のジェームス・ランゲ説及び感情心理学と情動の2要因理論について整理する。(90分)
担当教員			
第5回	教科書25の脳半球優位性、特に教科書26のフロイトの精神分析理論を中心に教科書27の心理学の原理、28の自立神経系の研究を理解できる。	教科書25の脳半球優位性、教科書26のフロイトの精神分析、教科書27の心理学の原理、28の自立神経系の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書25の脳半球優位性、教科書26のフロイトの精神分析を中心に、教科書27の心理学の原理、28の自立神経系の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	教科書29の双極性障害から教科書35の劣等コンプレックスを中心に教科書36サイコドラマの研究について理解できる。	教科書29の双極性障害から、教科書36のサイコドラマの研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書29の双極性障害から、教科書35の劣等コンプレックスを中心に、教科書36のサイコドラマの研究を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	教科書37の知能指数から教科書42の発達心理学を中心に、教科書45の心理学の場理論の研究について理解できる。	教科書37の知能指数、教科書42の発達心理学、教科書45の心理学の場理論の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書37の知能指数、教科書42の発達心理学を中心に教科書45の心理学の場理論の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	教科書46の自閉症(自閉症スペクトラム・ASD)から教科書50の知能の心理学、教科書52のアルバート・エリスの認知行動の研究を中心に理解できる。	教科書46の自閉症、教科書50の知能の心理学、教科書52のアルバート・エリスの認知行動の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書46の自閉症、教科書50の偏見の学習、教科書52のアルバート・エリスの認知行動の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	教科書53の人生の八つの段階と教科書59の欲求の段階構造の研究を中心に理解できる。	教科書53の人生の八つの段階、教科書59の欲求の段階構造の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書53の人生の八つの段階、教科書59の欲求の段階構造の研究の範囲の学習内容を整理する。(90分)
担当教員			

第10回	教科書60の言語の獲得から教科書63のフェスティンガーの認知的不協和、66のモデリング行動を中心に学習内容を理解できる。	教科書60の言語の獲得、教科書63のフェスティンガーの認知的不協和、67の「スイッチを入れて、波長を合わせ、社会に背を向けよ」の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書60の言語の獲得から教科書63のフェスティンガーの認知的不協和、66のモデリング行動を中心に学習内容を整理する。(90分)
担当教員			
第11回	教科書68のフーコーの人間観から教科書70の抑うつテスト、学習の中心課題である教科書72のボウルビイの愛着理論、教科書74の家族療法の研究を理解できる。	教科書68のフーコーの人間観、教科書70の抑うつテスト、教科書72のボウルビイの愛着理論、教科書74の家族療法の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書68のフーコーの人間観から教科書70の抑うつテスト、学習の中心課題である教科書72のボウルビイの愛着理論、教科書74の家族療法の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	学習の中心となる教科書75の記憶地図からヒューリスティックス、教科書80のアイデンティティ、教科書81の衝動性と脅迫性の研究について理解できる。	教科書75の記憶地図、ヒューリスティックス、教科書80のアイデンティティ、教科書81の衝動性と脅迫性の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	学習の中心となる教科書75の記憶地図からヒューリスティックス、教科書80のアイデンティティ、教科書81の衝動性と脅迫性の研究について整理する。(90分)
担当教員			

第13回	教科書82の感覚データから、学習の中心である教科書83の自己肯定感、教科書85のフロー体験、教科書87の機能的MRIの研究までを理解できる。	教科書82の感覚データ、教科書85のフロー体験、教科書87の機能的MRIの研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書82の感覚データから、学習の中心である教科書83の自己肯定感、教科書85のフロー体験、教科書87の機能的MRIの研究までを整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学習のまとめとしての小テストを実施し、教科書88の六つの基本感情、教科書91の心的外傷後ストレス、教科書93の意識に関する難問について理解できる。	学習のまとめである小テストに向けての準備をし、教科書88の六つの基本感情、教科書91の心的外傷後ストレス、教科書93の意識に関する難問を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書88の六つの基本感情、教科書91の心的外傷後ストレス、教科書93の意識に関する難問の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	教科書94のミラーニューロン、教科書95の社会的調和、教科書100の再現可能性の危機、パーソナリティ・ビッグファイブ理論について理解でき、本科のまとめを行う。	教科書94のミラーニューロン、教科書95の社会的調和、教科書100の再現可能性の危機、パーソナリティ・ビッグファイブ理論を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書94のミラーニューロン、教科書95の社会的調和、教科書100の再現可能性の危機、パーソナリティ・ビッグファイブ理論を整理し、本科目のまとめを行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	各授業で理解度確認問題(1回1点～5点を14回・70点)
その他	30	まとめテスト(1回)
教科書		
図鑑心理学～歴史を変えた100の話～(トム・ジャクソン＝著 清水・井上智義＝監訳・訳(NEWTON PRESS 2020発行)を各自購入し教科書とする。また自作の補助資料を授業ごとに提供する。		
参考文献		

心理学概論・学びと知のイノベーション(小野寺孝義 磯崎三喜年(編)小川俊樹 ナカニシヤ出版 2011発行)

履修条件・留意事項等

学習内容の理解と定着を図るため準備学習、事後学習を重視し学習規律を守り提出物は期限を厳守する。授業中は自ら意見表明するなど能動的な参加態度を必須とする協同的な学びにより、「心理学概論」への理解を深めて頂きたい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		食生活論				ナンバリング	1164
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	荒井 三津子						
授業の位置づけ							
ヒトが食べるモノ、食べるコト、食べる理由を広く学び、食生活全般を扱う学習に必要な基礎知識を身につける教養科目である。また、人間の文化を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。リハビリテーション学科理学療法専攻と作業療法学科のディプロマ・ポリシーでは、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」に位置付けられ、「リハビリテーション栄養学」と連携している科目である。看護学科ではのディプロマポリシーでは「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」に位置付けられられている。地域未来学科のディプロマポリシーでは「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」に位置付けられ、「北海道の食文化」と連携した科目である。健康栄養学科では、「幅広い教養を身につける」「教養人文系」に位置付けられ、「栄養学入門」「応用栄養学」と特に連携した科目となる。さらに、栄養学系教科、調理学および調理科学系教科、食品学系教科の学習の理解に役立つだけでなく、生物学や食文化に視野を広げることで、さまざまな領域の指導者、教育者に必要な教養と実践力を身につけることができる科目である。							
授業の概要							
ヒトはなぜ食べるのか。なぜダイエットするのか。なぜ食卓に花を飾るのか。人間にとって「食」は単に栄養補給のための餌ではなく「食事」である。生命を維持するための「食事」の機能と重要性を確認し、国内外の食事の歴史、文化、食器、食の様式や食事作法、食に関する広告や現在の食事情、将来予測される問題点等について多角的に学習する。							
到達目標							

医療現場や教育機関で食事に関する指導を行う上で必要な食器、食具の歴史や種類、使い方、食空間の演出方法に関して説明できる。

○ 国内外の食事様式の歴史を学ぶことで、食べることの文化的な意味を説明できる。

○ 食に関する情報や広告、外食産業などの仕組みや戦略を理解し、多様化する食事の未来を予測できる。

○ インターネット時代の食事やキャラクター弁当、遺伝子組み換えや環境問題など、食事に関する幅広いテーマについて、将来、医療や教育の現場で問題を提起し議論を展開できる。

授業の方法

- ①必要に応じて板書とパワーポイントを利用し、視覚的な理解を深める。
- ②内容に合わせ、学生たちの調査報告をとりいれ、活発な議論により、食生活への関心を深める。
- ③中間テストとレポート提出により理解度をはかり指導する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

北海道立の高等学校と歯科衛生士専門学校で生物学、調理師学校食文化等の教育経験がある。また長く生活文化研究所を運営しており、人間の生活と食文化、食生活に関する幅広い知識と指導経験がある。この経験を生かし、卒業後の実務に活かせる知識と技術、指導者になるための心構えも指導する。

課題に対するフィードバックの方法

調査レポートと確認試験を採点評価後返却し、講義時間内に解説を行う。提出してもらったレポートと確認試験に質問欄を設け、質問があった場合は直接コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	「食」は生理的、文化人類学的、社会学的、生物学的、環境学的など様々な方向からアプローチできる興味深いテーマである。初回は自分たちが食べる理由や目的について真摯に考察し、15回の講義内容を俯瞰して学習の意味を確認する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	生き物とはなにか、たべるとはなにかをまとめる 90分程度。
担当教員			
第2回	私たちが食べなければならない理由について、イキモノとはなにかという生物学的視野から学び直す。動物に共通する食べる仕組みの精巧さを確認し、同時に他の動物と人間の「食べる」理由の違いについて考察する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	生き物とはなにか、たべるとはなにかをまとめる 90分程度。
担当教員			
第3回	＜食べるヒト・食べる仕組みと最新の「腸内」事情＞ ヒトの消化の仕組みを概観し、食べモノと健康、腸内細菌および消化器官系医療の最新事情について学ぶ。	ヒトが食べない理由を考えてくる 90分程度。	食べる理由と食べない理由をまとめる。90分程度。
担当教員			

第4回	＜ヒトが食べない理由・ダイエットと肥満＞ ダイエットの起源とその変遷、現状と背景を学習する。過食の原因と効果的なダイエット法、機能性食品についての知識も確認し、栄養や健康の指導者としての姿勢を考える。	ヒトが食べない理由を考えてくる。90分程度。	食べる理由と食べない理由をまとめる。90分程度。
担当教員			
第5回	＜ヒトが食べない理由・ベジタリアン事情とフードファディズム＞ 世界にひろがるベジタリアンの実状とその思想の背景、および、特定の食品に過剰な健康効果を期待したり否定するフードファディズムについて学習する。	マスコミが話題にする食を調べる。90分程度。	食事作法の学習の意義をまとめる。90分程度。
担当教員			
第6回	＜「食べ方」を学ぶ理由＞ 学校における栄養教育と家庭と社会における「食べ方」の学びについて学習する。国内外のさまざまな食事作法が誕生した背景と食事作法の意味、さらに継承されつづける理由について考察する。	マスコミが話題にする食を調べる。90分程度。	食事作法の学習の意義をまとめる。90分程度。
担当教員			

第7回	<ヒトから人間へ・食べるモノの変遷> 私たちの「食」の過去と現在を概観する。日本の食事様式の歴史や、外食と中食の歴史と現状についても学習する。そのプロセスで「餌」から「食事」へとその意味を変えてきた人間の「食」の複雑さについて考察する。 アクティブラーニングとして、周囲と自分たちの食事について話し合いをし、発表してもらう。	動物の餌と人間の食事の違いを考える。90分程度。	カラダに良いとはどういうことか、まとめる。90分程度。
担当教員			
第8回	<おいしさとはなにか> 「からだにいい」とはなにか。「栄養がある」とはどういうことか。「おいしい」とはどのようなものか。普段なにげなく口にする表現の意味するところを科学的に学び、食事の機能と意味を理解する。	動物の餌と人間の食事の違いを考える。90分程度。	カラダに良いとはどういうことか、まとめる。90分程度。
担当教員			
第9回	<ヒトはなぜ食べるのか> 講義の前半の総まとめを行い、人間が食べる理由、食べない理由について多方面から考察する。	前半のノートを整理してくる。90分程度。	最新のバイオテクノロジーについて整理する。90分程度。
担当教員			

第10回	<「食」の未来> 染色体操作や遺伝子組み換えなど、最新の品種改良や魚介類の養殖について、その手法や課題、可能性について詳しく学習する。同時に食をめぐる地球規模の環境問題についても学び、未来の「食」に関する課題を考察する。	前半のノートを整理してくる。90分程度。	最新のバイオテクノロジーについて整理する。90分程度。
担当教員			
第11回	<食事空間を学ぶ> 火と水、道具の利用がなければ私たちの「食」の発展はなかった。火と水がどのように扱われ、「台所」はどのように進化してきたか、その変化の社会的文化的意味も合わせて学習する。配膳や食事様式についても学び、食空間の機能についての知識を深める。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			
第12回	<「食」をめぐる仕掛け・外食の歴史と広告> 外食の歴史を概観し、現代の外食産業を支える広告の機能と種類を学習する。そのことから私たちの食行動の変化や時代の流れ、加えて食の未来と問題点を広く考察する。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			

第13回	＜「食」の演出＞ 料理・食器・盛り付け・食卓・食空間のインテリアなど、人間はなぜ「食」の場面を飾るのか。なぜ演出が必要なのか。色彩学やデザインの基礎を学び、食卓装飾の歴史をたどりながら、食べることの意味を広く考察する。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			
第14回	＜餌場から食事の場へ・テーブルコーディネートの機能＞ 食欲やコミュニケーションに大きく作法する食卓の演出について、具体的に学習する。色彩学やテーブルコーディネートの基礎知識を確認し、「食」の場面に必要な知識や技術の深さと広さについて学ぶ。	食の未来と教育について考察する。90分程度。	食の未来と教育について考察する。90分程度。
担当教員			
第15回	＜年中行事と祭り・儀礼の食・縁起について＞ 食の場面における「ハレ」と「ケ」、および日本の冠婚葬祭や年中行事の食の多様性と意味について幅広く学習する。「食」がもつコミュニケーションツールとしての機能や、人間のこころの「よりどころ」や「やすらぎ」としての役割についても考察する。 試験	試験範囲復習。90分程度。	試験の見直し。90分程度。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	確認テスト2回
その他	30	調査レポートの評価
教科書		
なし		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

私語厳禁。
毎回必ず教科書を持参すること。

備考欄

特になし

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		生活と社会環境				ナンバリング	1128
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	辻 幸美、金子 翔拓						
授業の位置づけ							
各該当学科のディプロマ・ポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを鑑み、現代日本の社会環境を高齢者や代表的な疾患による身体障害を持つ人を通して理解するとともに科学的思考力と創造的思考力を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につける共通重要科目であり、更に人の生活全般と関連し、地域医療や社会環境を考える基礎となると共に、将来医療職種専門職を希望される学生においては、必要と考える。また「人間の文化を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。」特に看護科においては、看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を会得する重要科目である。(思考・判断・表現)							

- ① 現代日本の地域医療の現状を説明できる。
- ② 代表的な疾患に適合した生活環境の整備について説明できる。
- ③ 今後の日本における生活環境のあるべき姿を考え、説明することができる。

授業の方法

パワーポイントを用い講義形式ですすめる。また、講義後に課題を提示し講義内容の確認を行う。

ICT活用

授業中の課題の一部にグーグルクラスルームを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として勤務した経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。

辻幸美:22年間、脳神経外科病院で看護師として務めた経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

前回授業の最後に提出された課題に関して、次回の授業で補足説明や解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 医療保険制度の現状を理解する(診療報酬制度等も含む)	自身を取り巻く生活環境について考えてくること。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第2回	高齢者の生活と社会環境① 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)と生活について理解を深める。	高齢者と生活について調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第3回	高齢者の生活と社会環境② 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)に適する生活環境の整備について理解を深める。	高齢者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第4回	高齢者の生活と社会環境③高齢者(虚弱老人・認知症を含む)が生活するうえでの「リスク」について理解を深める。	高齢者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第5回	障害者の生活と社会環境① 筋ジストロフィー疾患患者の生活環境の整備について考える。	筋ジストロフィー疾患患者の生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第6回	障害者の生活と社会環境②重症心身障害児(者)の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	重症心身障害児(者)はどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第7回	障害者の生活と社会環境③ 精神疾患患者の生活環境の整備について考える。	精神疾患患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	ハンセン病とハンセン病療養施設の生活と社会環境について、過去の日本における偏見と差別を鑑み考える。	ハンセン氏病を取り巻く社会の歴史を調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第9回	介護保険制度の現状を理解し、地域社会で在宅サービスを受ける対象者について理解する。	介護保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第10回	障害者の生活と社会環境④ 脳卒中患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	脳卒中とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第11回	障害者の生活と社会環境④ 脳卒中患者の生活環境の整備について考える。	脳卒中患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第12回	障害者の生活と社会環境⑤ パーキンソン病患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	パーキンソン病とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第13回	障害者の生活と社会環境⑤パーキンソン病患者の生活環境の整備について考える。	パーキンソン病患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	障害者の生活と社会環境⑥脊髄損傷患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	脊髄損傷患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	障害者の生活と社会環境⑥脊髄損傷患者の生活環境の整備について考える。 まとめ 1～14回までの内容について総復習を行い、障害を持つ人の生活環境について理解する。	脊髄損傷患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。 1～14回の内容について、これまでに作成したノートを確認しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の課題、授業への参加態度 なお、レポート課題等の提出期限を厳守についても評価の対象である。
その他	0	・授業への参加態度 ・レポート課題等の提出期限を厳守すること
教科書		
なし(プリントにて対応)		
参考文献		

特に指定しない

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		総合教養講座				ナンバリング	1100
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸 力弥、松岡 審爾、大森 圭、小塚 美由記、渡部 俊弘						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学での学習から生活、さらに課外活動や大学祭、建学の理念など広範な分野を理解を深める。本科目の履修により、今後4年間の大学生活がより有意義なものになるよう、新入生を導く道標を示す授業である。 国際教養学科のディプロマ・ポリシー(DP)の「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。」と関連する。国際コミュニケーション学科のDPの「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。」と関連する。地域未来学科のDPの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している」と関連する。看護学科のDPの「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。」と関連する。リハビリテーション学科理学療法学専攻のDPの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。」、「幅広く教養を深め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会をさせることができる。」と特に関連する。また作業療法学専攻のDPの「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。」、「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関連する。							
授業の概要							
この科目は、初年次教育として本学の学生としての所属意識を育み、学生生活をどう有意義に過ごすかを意識化してもらうためのものである。また、これからの社会の変化に対応できる学際的で教養豊かな人間性を養い、本質的な物の見方、捉え方をより豊かなものとし、不確実な時代を自分らしく生きるための柔軟性と自立性を養うことを目的とした科目である。さらに、SDGsの本質を理解し、地球規模の視野で持続可能について考え、地域創生の視点で行動できるグローバルな思想を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。							
到達目標							

- ・本学の建学の理念、宗教と食事制限、SDGsやカーボンニュートラルの取り組みの重要性を理解できること。
- ・4年間を通して、しっかりとした履修計画を立てられること。
- ・大学生活を快適に送るために必要な規則を理解し、それに沿った行動を取れること。
- ・Google Classroomの利用ができること。
- ・図書館を利用し、学習に必要な図書を借りることができること。
- ・充実した大学生活を送るため、勉学、課外活動を含めた効率の良い1日の行動計画を立案・実行出来ること。
- ・大学を盛り上げるための具体的な提案が出来ること。

授業の方法

パワーポイントを用いた授業を行う。また、学内Wi-Fiを用いたICTを用いた授業を行う。さらに、えこりん村でSDGs研修を行う。

ICT活用

一部の授業回で、提示したURLにアクセスし、操作を行ってもらう予定である。また、グーグルフォームなどを使用する

実務経験のある教員の教育内容

ゲスト講師として、恵庭市職員による恵庭市の紹介、警察官とIT企業の職員によるインターネット上の脅威と防御方法を予定している。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルフォームを用いた授業の感想等を述べてもらい、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	北海道文教大学建学の理念 鶴岡夫妻が遺した灯火 学訓「清く 正しく 雄々しく進め」に込められた、真理を探究する明晰な頭脳、誠実な精神、チャレンジ精神を目指す理念を共有する。	本学の創設者である鶴岡夫妻について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で鶴岡夫妻の建学理念を実現する方法についてまとめる。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第2回	この時代、君はどう生きるか これからの社会、不確実な時代を自分らしく生きるための、本質的な物の見方、捉え方を学ぶ。	これまで読んだ本の中から、自分の生き方に影響を与えたと思える本をもう一度読んでおく。(90分)	これからの自分の進路を見据えながら、事前学習で読んだ本を精読する。授業の感想を提出する。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第3回	授業を受講するには① 履修方法・登録方法について、具体的に説明する。また、履修要件、進級基準や卒業要件について説明する。	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、ユニバーサルパスポートを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第4回	授業を受講するには② Google Classroomの使い方について	本学から付与されるGoogleアカウントでログインする。(90分)	各科目のClassroomに参加する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	授業に役立つ図書館の利用法 本学図書館の概要と利用方法について説明する。 レポート作成や発表資料作成で必要になる資料について、蔵書検索機(OPAC)を含めた探し方の方法を習得する。(図書館)	学生便覧の「図書館」の部分を読んでおく。(90分)	実際に図書館を訪れ、蔵書検索で興味のある本を探してみる。また、インターネット経由で蔵書を検索してみる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	SNSの利用上の注意について 大学生活におけるSNSの利用上の注意点について理解を深め、良識あるSNSの利用ができるようになる。	現在までのSNSのトラブルで社会的問題となった内容を調べる。(90分)	大学生活で節度のあるSNSの利用法について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第7回	グローバル化に対応した食知識 グローバル化が進んでいる現代において、外国の食文化や知識を得ることは、どの職業においても円滑なコミュニケーションをとるための一助となる。	宗教によって禁忌とされている食べ物(あるいは食べることが許されている食べ物)について調べておく。(90分)	食事に対する宗教上の戒律の理由についてまとめる。(90分)
担当教員	小塚 美由記		
第8回	サイバーセキュリティについて スマートフォンやパソコン等が普及し誰でも気軽にインターネットを利用できるようになっている一方で、インターネットにまつわるトラブルが増加している。本学では全館Wi-Fiが利用できるためインターネットを安全に使用するためには、より注意が必要である。そこで、無線LANにおいてどのような脅威がありどのように対処すればよいのか、また、無線LANを利用するにあたっての注意事項をゲスト講師を招いて学ぶ。 (NTT東日本、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部)	インターネット使用にあたってどのような脅威があるかを調べておく。(90分)	セキュリティ対策や身につけるべき情報モラルを復習しておく。(90分)
担当教員	松岡 審爾		
第9回	学友会・課外活動団体紹介 中央執行委員会の役割と位置付けについて知り、学生としての自覚を持ち、自ら積極的に大学生活をより有意義にするため、各自が出来ることを考える一助とする。(学友会) 各団体の活動内容と団体所属学生の大学生活を紹介し、勉学と課外活動の両立を図るための具体的な方法を把握する。(各団体)	学生便覧で、学友会に関する項目に目を通しておく。また、大学ホームページなどで、本学所属の課外活動団体について調べておく。(90分)	自らの大学生活を有意義なものにするための目標と計画を立てる。また、勉学時間、課外活動、アルバイトなど各自の1日の行動を見直し、有意義な時間を過ごせるよう計画を立てる。(90分)
担当教員	大森 圭		

第10回	大学祭実行委員会紹介 大学祭実行委員会の役割と位置付けと、大学祭の歴史について紹介する。	各大学の大学祭内容について調べておく。(90分)	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)
担当教員	大森 圭		
第11回	本学のカーボンニュートラルの取り組みの紹介 カーボンニュートラル推進センター	本学のカーボンニュートラルの取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	自ら実践できるカーボンニュートラルの取り組みを考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	恵庭市の歴史と特徴 恵庭市役所からゲスト講師を招き、これからの4年間のほとんどの時間を過ごす恵庭市について理解を深め、地域社会との連携を深める。 (恵庭市企画課)	恵庭市のホームページなどから、恵庭市の概要、特長について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で、恵庭市の未来に貢献する施策を考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第13回	未来のために、今この一瞬を大切に ゲスト講師：青木さやかさん	ゲスト講師のこれまでの活動について、インターネット等で調べておく。(90分)	講義内容を振り返り、自ら実践できることを考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	UHB北海道文化放送制作のドキュメンタリー映画『無理しないケガしない明日も仕事！新根室プロレス物語』の上映	上映映画について予習をする。(90分)	上映映画について復習をする。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	えこりん村SDGs研修 えこりん村の取り組みを研修し、持続可能な社会の在り方について学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の感想等の提出および授業参加の積極性から総合的に判断する。
その他	0	なし。
教科書		
なし。		
参考文献		

渡部俊弘／人とつながる「笑いと涙」の40年一恵庭で描く地方大学のプラットフォーム構想／丸善プラネット
 渡部俊弘／トシさんが行く！～北海道の食の礎を築いた鶴岡トシのパワフル人生記～／北海道文教大学出版会

履修条件・留意事項等

ゲスト講師等の都合により、授業計画の順序通りの内容とならないため、決定次第、別途連絡する。合理的な理由による欠席は点数を考慮するので欠席届を出すこと。15回の授業は、えこりん村での日帰り研修を行う。日程は別途、連絡する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		日本国憲法				ナンバリング	1120
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員		池田 杏奈					
授業の位置づけ							
教養科目のカリキュラムマップにおいて、「人間の社会を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。」に位置づけされる。国際教養学科のディプロマ・ポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」と主に関連する。また、国際教養コミュニケーション学科の「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と主に関連する。さらに、看護学科のディプロマ・ポリシーの「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」と関連する科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」、「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」と関連する。さらに、地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」と関連する。							
授業の概要							
民主主義(国民主義)と基本的人権の相関関係を明確にするとともに、なぜ「憲法」が国家の最高法規とされるかを理解することを目指す。次いで、日常生活の場面で生じる様々な紛争解決する手段としての裁判の意義、システムを学び、同時に法解釈の手法を考察する。以上の基本的な知識を修得した上で、日本国憲法の精神と構造を(明治憲法との比較を含め)大枠で理解するよう努める。							
到達目標							

1. 日本国憲法を最高法規とする我が国の法体系について説明できる。
2. 様々な基本的人権について概要を述べるができる。
3. 法というルールを介して、社会人としての関係形成、問題解決の方法、変化する社会への対応など、我が国において生きていく上で生じ得る問題について自ら考え、論じることができる。

授業の方法

パワーポイント及び配布印刷物を活用しながら講義形式で進める。
各講義中に毎回コメント(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等を記述したもの)をGoogleフォーム、クラスルーム等に提出する。
確認テストをGoogleフォーム等を利用して時間内に行う(全15回)。

ICT活用

Google フォームのテスト作成機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ガイダンス・裁判制度】 担当教員の自己紹介、授業の概要、予習と復習の方法、成績評価についての説明を行う。 日本の裁判制度の概要、法の基礎知識について学ぶ。	事前に教科書を購入し、「読者のみなさんへ」の部分を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第2回	【子どもの人権】 校則を題材にして「子どもの人権」について解説する。	授業前に教科書を購入し、「Theme1 ブラック校則——子どもの人権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第3回	【外国人の権利】 法律上「国民」とは誰を指すのかを知り、「外国人」との権利の違いについて学ぶ。	「Theme2 欲しいのはまず選挙権——外国人の権利」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第4回	【プライバシー権】 プライバシーとはどういうものとして、法律上どのように保護されているかを学ぶ。	「Theme3 わたしの秘密——プライバシー権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第5回	【自己決定権】 自己決定権は憲法によってどのように保障されているのかを学ぶ。	「Theme4 何の自己決定か？——自己決定権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第6回	【法の下での平等】 以前の民法や刑法の条文等を題材に、「法の下での平等」について学ぶ。	「Theme5 再婚は100日後——法の下での平等(1)」「Theme6 むかし親殺しありき——法の下での平等(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第7回	【信教の自由】 「信教の自由」を保障している条文の構造を理解し、保障の限界について判例を基に学ぶ。	「Theme7 法廷の宗教戦争——信教の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第8回	【表現の自由】 「表現の自由」が日本国憲法の保障する人権の中でもとりわけ重要度の高いものといわれる理由を考察し、どのような表現の自由であっても保障されるのかということについて考える。	「Theme8 ポルノの権利——表現の自由(1)」「Theme9 人殺し教えます——表現の自由(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第9回	【営業の自由】 営業の自由はどのように保障されているかを学び、どのような場合に制限されるかについて考える。	「Theme10 銭湯の楽しみ——営業の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第10回	【生存権】 憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのような生活を指すのかについて考える。	「Theme11 クーラーのない生活——生存権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第11回	【教育権】 学校で子どもたちに教えられる教育の内容を決定できるのは誰であるかについて、判例を基に学ぶ。	「Theme12 教科書はつらいよ——教育権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第12回	【死刑制度】 死刑制度の是非について憲法の視点から考える。	「Theme13 罪と罰のはて——死刑制度」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第13回	【国会・内閣・裁判所】 日本国憲法が採用する「二院制」について学び、「国会」の役割について考える。 内閣総理大臣はどのようにして選ばれるのかについて学ぶ。 裁判に関する諸権利について学び、裁判員裁判について考える。	「Theme16 両院は車の両輪——国会(1)」 「Theme17 民の声 vox Dei? ——国会(2)」 「Theme18 首相の選び方——内閣」 「Theme19 裁判はだれのために——裁判所」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第14回	【天皇・平和主義】 明治憲法下での天皇と現行憲法の天皇の違いについて学ぶ。 憲法9条と自衛隊の関係について考える。	「Theme14 皇室外交? ——天皇」 「Theme15 人権の条件——平和主義」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第15回	【地方自治・憲法改正・まとめ】 地方自治とは何かについて学ぶ。 憲法改正の手続きと憲法改正の限界について学ぶ。	「Theme21 住民投票で決着を! ——地方自治」 「Theme22 憲法の変身——改憲の可能性」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する確認テスト、授業への参加態度、授業後に提出するコメントやレポート等により評価する。
その他	0	なし。
教科書		
いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕／初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行／有斐閣		
参考文献		

講義中に適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

特になし。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		現代医療と福祉・介護				ナンバリング	1122
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高岡 哲子						
授業の位置づけ							
各該当学科のディプロマポリシーを鑑み、地域包括ケアシステムにおいて高齢者障害者等が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、[住まい][医療][介護][看護][予防][生活支援]が切れ目なく一体的に提供ができ、「[心/意 欲/態度]が養われる重要な科目である。更に日本の社会事情を広く理解するうえで必要な知識としての[医療/福祉/介護]に焦点をあて、近未来 の社会制度を思考し、構築するための基礎的能力の向上を目指す。							

- ・現代医療・福祉・介護の実態を理解し、日本と世界の課題を比較し説明できる。
- ・現場で役立つ知識やスキルを学び、今後の医療・福祉の未来について考えることができる。
- ・ディスカッションやワークショップを通じて主体的に学ぶ姿勢を身につけることができる。
- ・多職種連携やICTの活用を理解し、実際の現場に適応できる。

授業の方法

講義:教員による解説を中心に、最新のデータや事例を交えながら、医療・福祉・介護の制度や現場の課題について学ぶ。
 グループワーク:学生同士でディスカッションし、現場の課題を分析し、解決策を考える。
 発表:各グループの成果を発表し、全体で学びを共有する。

ICT活用

本授業では、Googleフォームを活用した授業内リアクションペーパーや課題レポートの収集を通じて、学習の効率化を図る。また、電子カルテやAI、遠隔医療など、医療・福祉分野でのICT活用事例を授業内で紹介し、現場での実践的な活用方法を学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

総合病院において看護師として約7年間勤務し、多職種と連携しながら高齢者のケアに携わった経験を活かし、本授業を実施する。現場で直面した医療・福祉・介護の課題や、チーム医療の重要性を具体的な事例を交えて伝えることで、制度や理論だけでなく、実践的な視点での学びを深める。

課題に対するフィードバックの方法

本授業では提出された課題に対し、共通フィードバックを中心に実施し、全体の理解を深める。具体的には、授業内で優れた回答やよくある誤解を共有し、解説を行うことで全体の学習効果を高める。また、個別のフィードバックは、単位取得が危うい場合や、課題の理解が大きくずれている場合に実施する。該当する学生には、具体的な改善点を提示し、学習の方向性を修正できるよう支援する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンスと現代医療・福祉・介護の全体像(講義・GW) 内容:本科目の奥的や方法を理解する。現代の医療・福祉・介護の役割を概観し、様々な課題をグループディスカッションする。 行動目標:・本科目の目的と方法を理解し、学習計画を立てることができる。 ・現代の医療・福祉・介護の全体像を理解し、様々な課題を考察できる。	・シラバスを確認し、授業の進め方を理解する(約90分)。 ・ノートを一冊用意する。	医療と福祉・介護の関係について、新たに気づいたことをノートにまとめる(90分)。
担当教員			
第2回	地域包括ケアと在宅医療の未来(講義・GW) 内容:地域包括ケアシステムの概要と在宅医療・訪問介護の役割を理解する。医療・介護の人材不足や地域格差、多職種連携の課題を理解し、ICT活用など今後の展望について考える。 行動目標:・地域包括ケアシステムの概要を理解し、その役割を説明できる。 ・在宅医療における多職種連携の課題を考えることができる。	地域包括ケアの基本概念を調べ、概要をノートにまとめる(約90分)。	在宅医療について新たに気づいたことをノートにまとめる(約90分)。
担当教員			
第3回	未来の社会課題と対策を考える(GW)。 内容:2040年の日本の医療・福祉・介護を想定し、人口減少や高齢化、医療・介護人材不足などの社会課題を整理する。グループで議論し、政策・制度改革、テクノロジー活用などの視点から解決策を検討する。 行動目標:・2040年における医療・福祉・介護の課題を予測し、整理できる。 ・課題に対する具体的な解決策を考え、グループで議論できる。 ワークシート提出①	Classroomにアップされている第3回ワークシートの1を記載する(90分)。	未来の社会課題について新たに気づいたことをノートにまとめる(90分)。
担当教員			

第4回	未来の社会課題と対策の提案(発表) 内容:第3回のグループワークでまとめた2040年の医療・福祉・介護の課題と解決策を発表し、全体でディスカッションを行う。 行動目標:・2040年の医療・福祉・介護の課題に対する解決策を多角的に考察し、議論できる。 ・発表やディスカッションを通じて、新たな視点を得て、未来の社会に向けた理解を深める。 ① ノート提出	第3回のグループワークを振り返り、他グループの発表に備えて質問や意見を考える(90分)。	講義内容を整理し、2040年に向けた医療・福祉・介護の課題と解決策をノートにまとめる(90分)。
担当教員			
第5回	医療・介護現場のリアルと職種間連携(講義・GW) 内容:医療・介護現場の課題を学び、職種間連携(チーム医療)の重要性を理解する。多職種が協力することで得られるメリットや、連携の成功・失敗事例を通じて、現場での課題と解決策を考察する。 行動目標:・医療・介護現場の現状と職種間連携の重要性を説明できる。 ・チーム医療のメリットと課題を理解し、多職種連携のポイントを考察できる。	・医療・介護分野の職種と役割を調べ、ノートにまとめる(約90分)。	・講義内容を整理し、多職種連携の重要性と課題についてまとめる。 ・現場でのより良い連携のために必要なことを考え、200～300字で記述する(約90分)。
担当教員			
第6回	テクノロジーと医療・福祉の未来(講義・GW) 内容:AI・ロボット・ICT・遠隔医療の最新事例を学び、医療・福祉現場への導入によるメリットと課題を考察する。テクノロジーの発展がもたらす未来の医療・福祉の変化について理解を深める。 行動目標:・医療・福祉分野における最新のテクノロジーの活用事例を説明できる。 ・テクノロジーが医療・福祉の未来に与える影響と今後の展望を考察できる。	医療・福祉分野で導入されている最新のAI・ロボット技術や遠隔医療の事例を調べ、概要をまとめる(90分)。	講義内容を整理し、テクノロジーが医療・福祉に与える影響と2040年の展望について考察し、200～300字で記述する(90分)。
担当教員			

第7回	医療・福祉現場の課題解決(GW) 内容:医療・福祉現場で発生する課題をケーススタディとして取り上げ、グループで分析し、解決策を検討する。多職種連携やテクノロジー活用などの視点を取り入れながら、現場の実践的な対応策を考える。 行動目標:・医療・福祉現場で発生する具体的な課題を分析し、整理できる。 ・課題に対する実践的な解決策を考え、グループで議論できる。	医療・福祉現場の課題事例を調べ、自分なりの考えをまとめる。(90分)	グループで議論した内容を整理し、課題解決のポイントを200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
第8回	現場の課題解決アイデア(発表) 内容:第7回のグループワークで検討した医療・福祉現場の課題と解決策を代表グループが発表し、全体でディスカッションを行う。講義では、現場の成功事例を紹介し、多職種連携やICT活用を含めた課題解決のポイントを学ぶ。 行動目標:・医療・福祉現場の課題と解決策を多角的に考察し、議論できる。 ・発表やフィードバックを通じて、新たな視点や実践的な学びを得る。 ② ノート提出	第7回のグループワークを振り返り、発表に備えて質問や意見を考える(90分)。	講義内容とディスカッションで得た学びを整理し、医療・福祉の課題解決のポイントを200～300字でまとめる。(90分)。
担当教員			
第9回	世界の医療・福祉制度と日本の違い(講義) 内容:北欧、アメリカ、アジアの医療・福祉制度の特徴を比較し、日本の制度との違いを学ぶ。各国の成功例や課題を踏まえ、日本の医療・福祉制度の強みや改善の可能性を考察する。 行動目標:・各国の医療・福祉制度の特徴を理解し、日本との違いを説明できる。 日本の医療・福祉制度の課題と改善策を考察できる。 リアクションシート①	北欧・アメリカ・アジアの医療・福祉制度について調べ、特徴をまとめる。(60分)	講義内容を整理し、日本の医療・福祉制度の強みと課題について200～300字で記述する(90分)
担当教員			

第10回	認知症・精神疾患とケアの最前線(講義・GW) 内容:認知症と精神疾患の基礎知識を学び、最新のケアや支援のアプローチを理解する。地域支援や介護者の負担軽減策に注目し、認知症・精神疾患を持つ人が安心して暮らせる社会のあり方を考察する。 行動目標:・認知症・精神疾患の基本的な知識と最新のケア・支援方法を理解できる。 ・認知症・精神疾患を持つ人を支える社会的な仕組みや課題を考察できる。	認知症や主要な精神疾患の特徴を調べ、簡単にまとめる(90分)。	講義内容を整理し、認知症や精神疾患のケア・支援の重要なポイントを200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
第11回	「もし自分が利用者だったら？」視点で考える(GW) 内容:高齢者・障害者・患者が直面する日常の課題の事例を基に利用者の立場で考える。 行動目標:・高齢者・障害者・患者の立場を想像し、利用者視点での課題を理解できる。 ・利用者のニーズを踏まえた適切な支援策を考え、議論できる。 ワークシート②	第11回のグループワークを振り返り、発表に備えて質問や意見を考える(約90分)。	グループで話し合った内容を整理し、「利用者視点の支援のあり方」について200～300字で記述する。(約90分)。
担当教員			
第12回	利用者視点の支援アイデア(発表) 内容:第11回のグループワークで検討した「利用者視点の支援アイデア」について、代表グループが発表し、全体でディスカッションを行う。 行動目標:・利用者の立場に立った支援アイデアを多角的に考察し、議論できる。 ・発表やフィードバックを通じて、利用者中心の支援のあり方の理解を深める。 ① ノート提出	第11回のグループワークで検討した支援アイデアを振り返り、発表に備えて質問や意見を考える(90分)。	講義内容とディスカッションの振り返りを整理し、「利用者視点の支援とは何か？」について200～300字で記述する(90分)。
担当教員			

第13回	医療事故・倫理と法制度(講義・GW) 内容:医療事故の原因と予防策を学び、医療・介護の安全対策を考察する。医療倫理の基本原則やコンプライアンスの重要性を理解し、法制度との関係を踏まえた適切な対応を学ぶ。 行動目標:・医療事故の原因と予防策を理解し、安全な医療・介護のための対策を説明できる。 ・医療倫理やコンプライアンスの基本を理解し、現場での実践の重要性を考察できる。	過去の医療事故の事例を調べ、その原因と対策を簡単にまとめる(90分)。	講義内容とディスカッションの振り返りを整理し、「利用者視点の支援とは何か?」について200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
第14回	これからの働き方とキャリア形成(講義・GW) 内容:医療・福祉分野のキャリアパスを学び、資格取得やスキル向上の重要性を理解し、未来のキャリア形成について検討する。 行動目標:・医療・福祉分野のキャリアパスを理解し、自身の将来の選択肢を考えられる。 ・多職種連携の重要性を理解し、協働のあり方を考察できる。 ④ ノート提出	医療・福祉分野の職種と役割、資格取得の方法について調べる(90分)。	講義内容を整理し、将来のキャリア形成について200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
第15回	授業のまとめと学びのふりかえり(講義・GW) 内容:これまでの講義をふりかえり、医療・福祉分野における学びを整理する。 行動目標:・これまでの授業内容を整理し、自身の学びを言語化できる。 ・医療・福祉の未来や自身のキャリアの考えを深め、表現できる。 ① リアクションシート	授業全体をふりかえり、印象に残ったテーマを整理する(90分)。	講義のまとめを整理し、医療・福祉の未来や自身の今後の学びについて200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	ワークシート:2回×30点=60点 リアクション:2回×10点=20点
その他	20	ノート提出:4回×5点=20点
教科書		
なし		
参考文献		

必要時講義中に提示する。

履修条件・留意事項等

私語、指示時以外の携帯電話の使用を禁止する。
学習は主体的に行う。
欠席した場合は、必ず欠席届を提出する。
遅刻早退する、もしくはした場合は、必ず、教員へ申し出る。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア入門				ナンバリング	1132
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	白戸 力弥、大森 圭、高岡 哲子、木村 俊昭、熊野 稔						
授業の位置づけ							
本科目は、初年次教育の一貫として、大学生活の充実や社会で活躍するために、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解するための科目である。なお本科目は、「キャリア形成」と連携している教養科目である。							

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」を説明できる。
- ・自己理解の方法(「人生曲線」、「ジョハリの窓」等)、「計画的偶発性」について述べることができる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」を説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、確認テストや事後レポート課題を実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

病院で勤務した経験を活かし、実際の医療現場の視点を交えながら講義を行う(白戸、大森、高岡)。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」などを理解する。	これまで「キャリア」という言葉を使ったり聞いたりした事があれば、その場面はどのようなものだったかを具体的に思い出す。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	大森 圭、白戸 力弥		
第2回	学習内容: ・人間関係づくりの5つの視点 ・信頼関係、自己開示、傾聴、相互理解、フィードバック ・社会人基礎力の3つの能力 * 前に踏み出す力(アクション) * 考え抜く力(シンキング) * チームで働く力(チームワーク) 行動目標: ・実社会でのキャリア形成において「人間関係」と「社会人基礎力」が果たす役割を理解することができる。 ・具体的事例を分析し、5つの視点と社会人基礎力を用いて説明できる。 評価:確認テスト(10点)実施	教科書を熟読して人間関係作りの5つの視点を確認し、ノートにまとめる。	講義で学んだ「5つの視点」や「社会人基礎力」を、自分の体験や今後の目標にどう活かせるかを200字程度で記述する。
担当教員	高岡 哲子		
第3回	自己分析から自己理解のあり方、計画的偶発性等を講義、関連DVDを視聴し、対話する。理解度をみつつ、小テスト(自己紹介の内容確認)を実施し、学び、習い、問い立ての場とする。	「私は…」から始まる文で、自己紹介の内容を考える。(10個以上)(90分) 例:私は、北海道文教大学の学生です。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 俊昭		

第4回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などの概要を理解する。 ゲスト講師:健康栄養学科 田中弘之学科長	生まれてから現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理する。(90分) 例:高校に合格した。失恋した。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点に関する講義、関連DVD視聴を実施し、理解度を確認のうえ、小テスト(コミュニケーション方法)を実施する。	自分自身の日頃のコミュニケーション方法を振り返る。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 俊昭		
第6回	「人間関係づくりとコミュニケーション」の”むきあう”の概要について理解し、不合理な信念とどのように向き合うのか、ワークを通して体験的に学ぶ。 ※教科書を持参すること。 確認テスト(10点) ゲスト講師:看護学科 坂東奈穂美	これまでの人生において苦痛や怒り、悩み・不快・不安のあった出来事と、その出来事をどうしてほしかったのかを考え、教科書P.40にある「エクササイズⅡ」のA、C、Bの欄に記述してくる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第7回	仕事力向上マニュアルの解説及び「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などの概要を理解する。	自分自身の興味・性格・能力・動機を整理する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	熊野 稔		
第8回	仕事力向上マニュアルの解説及びこれまでの講義の総括を実施した上で、大学4年間の目標などを考える。	大学4年間で成し遂げたいことを考えた上で、そのための方法を調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事後レポート、確認テスト
その他	0	
教科書		
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房		
参考文献		
授業内で順次紹介する。		
履修条件・留意事項等		

- ・各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、必要に応じ、各自印刷し持参する。
- ・出欠管理は、講義内で実施する予定である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア形成(非開講)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、社会で活躍する事を視野にいれ、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解し、役立てるための科目である。なお本科目は、「キャリア入門」の発展となる。

授業の概要

これからの人生を、職業を通じて社会に貢献し、生計を立て、また職業人として日々充実感を持つことのできるよう、自らの職業観・勤労観を培うとともに、自らの生き方や生活デザインについて基本的な展望を身につける。

到達目標

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」、「計画的偶発性」を説明できる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」について論じることができ、活用することができる。
- ・キャリアに関する具体的な事例に対し、「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」から説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

大手消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「計画的偶発性」などを理解する。	・「キャリア」の意味やイメージについて思いつくまに考える。 ・「キャリア」の意味について調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	人生曲線、パーソナリティ検査、ジョハリの窓などを学び、テストを実施することで自己理解を深める。「社会人基礎力」について学ぶ。	家族や友人、知人などから、自分自身がどのようにみえているかをヒアリングする。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	人生曲線などの作成や、基本的なORJIサイクル・落とし穴などの理解をとおして、「人間関係づくりとコミュニケーション」のきつづくの視点などを理解する。	出生から現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理した上で、今後の人生の見通しを立てる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	コミュニケーションの分類を学んだ上で、アサーティブな表現などを中心に理解することで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などを理解する。	相手を尊重し、自分の意見や感情をうまく相手に伝えるためのコミュニケーション方法を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	不合理な信念(ビリーフ)やABCD理論などを学び、「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などを理解する。	自分が持つ思い込みにどのようなものがあるのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	ライフ・キャリアのレインボー、統合的ライフ・プランニング、価値観、人間の能力の3つの領域などを学ぶことで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などを理解する。	自分がどんなことに価値を見出し、やる気を起こすのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	社会人基礎力などを理解する。加えて動画の視聴を通して学ぶ。	様々な人々と仕事をするために必要なことを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	これまでの講義の総括を実施する。加えて、キャリアデザインなどについて考える。	なりたい自分ややりたい仕事について考えた上で調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲・グループワークなどの状況など
教科書		
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房		
参考文献		
授業内で順次紹介する。		
履修条件・留意事項等		

- ・講義資料はGoogle Classroomにアップロードするため、各自印刷し持参
- ・出欠管理は、講義内で実施予定
- ・グループワークが中心となるため、積極的参加が必須
- ・授業態度が不適切な場合(例:私語、授業と関係のない行為)、欠席扱いとなることがある
- ・本科目は、キャリア入門の振返りを含む

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		生命科学				ナンバリング	1150
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	有賀 早苗						

授業の位置づけ

科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。
「解剖学」、「生理学」、「生化学」(健康栄養)、「解剖学I」、「解剖学II」、「生理学I」、「生理学II」(看護、リハビリ)、「免疫学」(看護)、「教科教育法 理科」(こども発達)と連携する教養科目である。

授業の概要

生命科学の内容は私たちの健康、医療、食生活、生活環境などの日常生活に密接に関わっているだけではなく、持続的な社会の発展や生物多様性保全など地球生態系にも関係するヒトがよりよく生きるための知識である。この授業科目では、専門科目の学習に発展・深化しうる身近なトピックスを取り上げながら、生物に共通した細胞・分子レベルの仕組みから生物の特性を知り、ヒトと生態系との共生を考える知識基盤を築くと共に、遺伝子操作・再生医療等の科学的基礎理解から健全な生命倫理観の醸成基盤も築いていく。高等学校で生物を履修しなかった学生にも十分理解できるように、初歩的な事項から、最先端研究まで、興味が広がるように解説する。

到達目標

- ・生物が物質から成る細胞を単位に構成されることを理解する
- ・遺伝情報に基づく生物に共通した流れであるセントラルドグマを理解する
- ・細胞・分子レベルから癌等の疾患の原因を理解する
- ・遺伝子操作・再生医療等の基本的な仕組みを理解する

授業の方法

本授業で学ぶべき内容をわかりやすく解説したパワーポイントスライドの映写により講義を進め、指定した教科書も参照しながら学ぶ。授業終わりに各回の授業の要点をまとめたスライドを示す。授業への出席確認はGoogleクラスルームを活用して行う。
アクティブラーニングとして、学期末の講義において、小グループでのディスカッションに基づく課題研究発表を行う。

ICT活用

実習等との日時重複、その他不可避の状況により授業が対面実施できない場合には、Googleクラスルームよりオンデマンドビデオ配信授業を実施する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業後、復習教材として、Googleクラスルームに各回の授業で用いたパワーポイントスライドから抜粋してPDFにした授業資料、および各回の授業内容の理解・定着度をチェックする確認小テスト(自己採点、解答解説もGoogleクラスルームに掲載、成績評価には含めない)を掲載するので、筆記試験に向けた準備・復習に活用されたい。
2回実施する筆記試験後には、解答解説を授業内で行うとともにGoogleクラスルームに掲載する。
授業内容等に関する質問は、授業の前後に直接対面で、あるいはGoogleクラスルームへのメールで受け付ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	物質から成る生物：科目ガイダンスとして、本科目の位置づけ、概要、到達目標、授業方法・進め方、成績評価等について、シラバスに基づき説明する。アンケート等により、履修学生の高等学校までの生物学学習状況を確認する。授業内容としては、非生物と異なる生物の特性、分子・細胞レベルで生物を捉える共通原理(分子生物学のセントラルドグマ)、生物が物質から成ることを理解する。	シラバスをよく読んで、この科目で学ぶこと、学習目標等を把握しておく。また教科書のp.2～6、p.14～16を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、生物を構成する分子で最も多い水分子の意義を説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答してしこ採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第2回	タンパク質：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、タンパク質について、基本構造と性質、生物・生命現象における機能・重要性について学ぶ。	教科書p.7～8, p.116, p.175を読み、疑問点・不明点を整理しておく。また、アミノ酸について簡単に調べておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、タンパク質の変性について説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第3回	核酸①(DNA)：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、核酸(DNA、RNA)について、共通する構造を学び、さらにDNAについて、特徴的な構造・性質、生物・生命現象における重要性について学ぶ。DNA、遺伝子、ゲノム、染色体を正しく区別して認識できるよう解説する。	教科書p.11～16, p.18～19を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、DNA、遺伝子、ゲノム、染色体を正しく区別して、それぞれ説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		

第4回	核酸②(RNA)：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、RNAについて、特徴的な構造・性質、生物・生命現象における重要性について学ぶ。	教科書 p.14～17を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、ノートを整りし、遺伝暗号コードがなぜ3文字(3塩基)配列なのか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第5回	細胞の基本構造：生物の最小構成単位である細胞について、基本構造を学び、原核生物・真核生物の違いを学ぶ。真核生物を構成する真核細胞がもつ細胞内小器官、特に細胞膜、核、ミトコンドリアについて、構造・機能を学ぶ。現代生物学では生物とはみなされないウイルスについても概要を学ぶ。	教科書p.3～12を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、ノートを整りし、なぜウイルスは現代生物学では生物とみなされないのか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第6回	遺伝情報の複製と細胞周期：遺伝情報の複製について、2本鎖DNAの半保存的複製の分子機構の基礎を学ぶ。細胞の生活環である細胞周期の中で、細胞分裂に先立つ特定の時期においてのみ遺伝情報の複製が行われること、また真核生物のDNA末端の繰り返し配列テロメアについても学ぶ。	教科書p.62～71を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、真核生物のDNA末端複製問題とはどのようなことか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テスト、第6回分の回答・自己採点とともに、筆記試験Aに向けて、第1回から第5回の講義内容、出題された確認小テストの問題も復習する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		

第7回	筆記試験A: 第1回から第6回までの授業内容に関する筆記試験(60分程度)を実施する。試験答案回収の後、試験問題と解答の解説を行う。	授業ノートを整理して、第1回から第6回の講義内容、出題された確認小テストの問題を復習する。(120分程度)	筆記試験Aの確認・復習をして、理解・定着の不足していたところを拡充する。(60分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第8回	進化の概要: 生物の進化について、生物の歴史、ダーウィンの『進化論』から木村資生の『中立説』、分子時計、RNAワールド仮説などを通して、進化が進歩ではなく多様性の増加であることを学ぶ。人類の進化についても、ミトコンドリア・イヴ説や鎌状赤血球症の分布などから学ぶ。	木村資生の『中立説』について簡単に調べ、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、ミトコンドリア・イヴ説はどのようにして考えられたか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第9回	遺伝情報の発現: セントラルドグマに沿った遺伝情報の発現の流れについて、転写・翻訳の分子機構の基礎、発現のしくみから見た原核生物・真核生物の違いを学ぶ。遺伝情報発現調節の分子機構について、大腸菌オペロンの例から仕組みの基礎を学ぶ。また、従来の遺伝学だけでは説明のできないエピジェネティクスについても概要を学ぶ。	教科書p.14～17, p.24～26, p.172を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、原核生物・真核生物の遺伝情報発現の仕組みの違いを説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		

第10回	発現調節と細胞分化: 多細胞生物を構成する細胞は生殖細胞と体細胞物とに大別されることを学び、生殖細胞から多様な体細胞が生じる細胞分化の過程は遺伝情報発現調節によって実現されていることを学ぶ。多細胞生物1個体に属するすべての細胞は同一ゲノムをもつことに基づいたクローン動物、iPS細胞の作製原理について学ぶ。一方、限られた遺伝子数で多様性を実現する遺伝子の再構成、および動く遺伝子トランスポゾンについて学ぶ。	教科書p.18～22, p.30～34, p.47～48を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、エビジェネティクスとはどのようなことか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第11回	細胞死・細胞癌化: 細胞の増殖・分化・死・癌化の相関性について学び、多細胞生物の宿命である癌の発症について、原因・分子機構の概略を学ぶ。多細胞生物の発生・個体維持に不可欠な細胞増殖・細胞分化・細胞死の制御機構が破綻した場合に細胞が癌化することを学ぶ。細胞癌化に関わる遺伝子群(原癌遺伝子群)は細胞増殖・分化・死の調節・制御に必須な遺伝子群であることを学ぶ。	教科書p.62～71を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、iPS細胞とはどのようなものか説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第12回	遺伝子操作: 遺伝子そのものや発現調節を人工的に操作する遺伝子操作・バイオテクノロジーについて、方法の基礎を成す技術と、新たな展開を生んだPCR、ゲノム編集などの技術革新について学ぶ。翌週授業で実施する筆記試験Bについて、および翌々週授業で実施のグループ発表の解説も行い、グループ編成等を伝える。	教科書p.26～29, p.34～39を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、原癌遺伝子群とはどのような遺伝子群か説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テスト、第12回分の回答・自己採点とともに、筆記試験Bに向けて、第1回から第11回の講義内容、出題された確認小テストの問題、筆記試験Aも復習する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		

第13回	筆記試験B: これまでの全授業内容に関する筆記試験 (60分程度)を実施する。試験答案回収後、試験問題と解答の解説を行う。 翌週の第14回, 第15回授業で実施するグループ発表に向け、グループに分かれて準備作業を開始する。	授業ノートを整理して、第1回から第6回、第8回から第12回までの講義内容、出題された確認小テストの問題、筆記試験Aの復習をする。(120分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、PCRとは何を利用したどのような技術か説明できるようにする。グループ発表の準備を始める。(60分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第14回	グループ発表: 設定された課題テーマについて、グループごとにパワーポイントスライドを使った発表を行い、参加者全員でディスカッションする。	グループごとに課題テーマに関するディスカッション、パワーポイントスライド作成、発表練習などを行う。(90分程度)	グループ発表に向けた準備作業を行う。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第15回	グループ発表: 前回授業に引き続いて、設定された課題テーマについて、グループごとにパワーポイントスライドを使った発表を行い、参加者全員でディスカッションする。課題レポートについて解説する。	グループごとに課題テーマに関するディスカッション、パワーポイントスライド作成、発表練習などを行う。(90分程度)	自身のグループだけでなく他のグループの発表も踏まえ、課題レポートを作成・提出する。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	出席：15回の授業のうち第7, 13, 14, 15回を含む12回以上の出席を単位取得要件とする 筆記試験：第7回、第13回の授業内に実施する2回の筆記試験の得点を成績評価対象とする(筆記試験A 30点、筆記試験B 50点)
その他	20	グループ発表：第14, 15回の授業時に実施する、予めグループで準備した発表について成績評価対象とする(10点) 課題レポート：第15回の授業で提示する決められた書式で作成し、Googleクラスルームを通じて期日までに提出するレポートを成績評価対象とする(10点)
教科書		
みんなの生命科学 第2版 北口哲也・塚原伸次・坪井貴司・前川文彦 化学同人 ISBN 9784759820997		
参考文献		

授業において適宜紹介する

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		情報処理リテラシー				ナンバリング	1160
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目であり、数理・データサイエンス・AIへの関心を高めそれを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科の「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。							
授業の概要							
コンピュータを用いた表計算、プレゼンテーションの基本操作を学ぶことにより、情報の分析方法およびプレゼンテーション方法を習得する。							
到達目標							

1. 表計算ソフトExcelを用いた基本的な計算やグラフ作成を行うことができる。
2. Excelによりデータの加工、可視化を行いデータの特徴を抽出することができる。
3. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。

授業の方法

Excelを用いた分析、Powerpointを用いた表現は各人がパソコンを操作して習得する。補足的な説明が必要な事項についてはパワーポイントを用いて講義形式で行う。特に第8回目はパワーポイントのプレゼンテーション資料を主体的に作成する。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データ活用のプロセス】データ活用の概略についての知識を得る。 【情報の分析:Excelの基本1 データと数式の入力】データ入力および効率的な数値入力(オートフィル)を習得する。数式の入力方法・コピーを習得する。相対参照と絶対参照の使い分けを習得する。	シラバスを読み、教科書のp20～p26とp91～p95を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【情報の分析:Excelの基本2 関数の使用法】ホームタブの合計ボタンから呼び出す関数の使用法、数式バーの関数挿入ボタンからの関数の使用法を習得する。数値分析に必要な関数の探し方を理解する。統計関数、数学／三角関数の使い方を習得する。	教科書のp96～p100を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【情報の分析:Excelの基本3 検索関数、条件分岐、データベース】あるデータに別のデータ列を結合するVLOOKUP関数を習得する。条件に応じて処理を変えるIF関数の使い方を習得する。リスト形式のデータベースの基本的な操作である並べ替え、抽出を修得する。	教科書のp99～p105を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【情報の分析:Excelの基本4:ピボットテーブル、グラフ作成】 データベースから集計表を作成できるピボットテーブル機能を修得する。Excelを用いた棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、棒グラフ、散布図などのグラフの特徴を学びそれらの作成方法を習得する。	教科書のp37～p41,p44～p48とp106～p116を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【情報の分析:データ分析演習】 教科書記載の顧客分析に関するダミーデータを使用して、データ分析に必要な手順を学ぶ。インターネットの普及に関連した実データをもとにしてデータ分析の実際を学ぶ。	教科書のp42～p43とp52～p63とp127～p129を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【情報の分析結果の表現:PowerPointの基本1～スライドの作成、ビジュアル表現】スライドの作成、コピーや移動方法、スライドの編集方法を習得する。ビジュアルな表現を実現するワードアート、SmartArtの作成法、Excelの表やグラフを挿入する方法を習得する。	教科書のp168～p174を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第7回	【情報の分析結果の表現:PowerPointの基本2-効果の設定と実行操作】スライドへのテキストボックス、画像および図形の挿入方法を習得する。スライドショーにおける画面切り替え効果とアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作、リハーサル機能を習得する。	教科書のp165～p167を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析および結果の表現演習】データ分析からそれをもとにしたスライド作成までの演習を行う。	教科書のp34とp164を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。
その他	0	なし
教科書		
はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス／ノア出版		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		

なし
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		統計の基礎				ナンバリング	1156
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	武田 裕康						
授業の位置づけ							
教養科目のカリキュラムマップの「科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である」および、「数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。」と関連する。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関連する。また作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と主に関連する。さらに地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」と関連する科目である。							
授業の概要							
主としてネイマン-ピアソン理論に基づき、個々の数量的現象の変動や差異と有意性、および集団の特性と変化の推移を理解する手段として統計学の基本的な知識を身につける。さらに統計手法を利用して様々な自然現象や社会現象を把握する際の留意点を十分に理解したうえで、代表値の求め方や分散の取り扱い、相関関係の検討法、各種検定法の特性などを学び、コンピュータを利用して統計処理するための基本理論を学ぶ。							
到達目標							

1. データをもとにして統計的な記述を行いその特徴を見出すことができる。
2. 統計的推定の考え方を説明することができる。
3. 統計的検定の考え方を説明することができる。
4. 各種検定法の特性を理解し、データに適した方法を選択できる。
5. 統計検定を正しく行い、適切な検定結果から正しい結論を導くことができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施するとともに、宿題を課す(全15回)。第6回以降の後半は問題解決を通じて能動的に学ぶアクティブ・ラーニング型となる。
フィードバックとして理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【記述統計①】データの整理と視覚化をおこなうための度数分布表とヒストグラム、また、データを代表する値である平均値と中央値、最頻値について高校までに学習した内容を確認する。また、統計処理の対象となるデータが4つの尺度(比例尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度)に分類されることを学ぶ。	教科書1のp14～p27を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	【記述統計②】データのばらつきを表す指標(散布度)である分散、標準偏差、四分位偏差について高校までに学習した内容を確認し、データの代表値と散布度の表し方を学ぶ。また、確率分布を理解し、二項分布および代表的な分布である正規分布の性質を理解する。	教科書1のp28～p31、p42～p48、p60～p67を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	【推測統計①】統計的調査を母集団全体に行うことは実用的ではないので、標本を抽出して母集団の性質を推測する。まず母集団が正規分布することを仮定して標本から母数を推定する考え方を学んだのち、正規母集団の分散が既知のときに母平均を区間推定する方法を学ぶ。	教科書1のp84～p89、p96～p98、p100～p102、p106～p109、p112～p117を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第4回	【推測統計②】正規分布する母集団から標本抽出し、母分散を区間推定する方法を学ぶ。また、正規分布するが分散が未知の母集団、さらには分布も分散も未知の母集団から標本抽出し、母平均を区間推定する方法を学ぶ。これらの理解に必要な自由度、中心極限定理、t分布、カイ二乗分布を学ぶ。	教科書1のp94、p133～136、p71～p73、p96～p98、p118～p128、p68～p70を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第5回	【推測統計③】統計的検定の基本的手順を習得し、検定における「帰無仮説」「危険率」「棄却」等の考え方を理解する。あわせて、片側検定、両側検定の使い分けや判定の誤り(第1種の過誤、第2種の過誤)を学ぶ。	教科書1のp138～p154を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	【実践編①】関連2群の差の検定法として「対応あるt検定」「ウィルコクソン符号付順位和検定」を学ぶ。これは同じ個体内での変化など、関連のある2つの量に差があるかどうかを判定できる。2つの検定のうちどれを用いるかは正規性の有無で判断するので、正規性の検定も習得する。	教科書2のp48～p51、p101～p110を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第7回	【実践編②】独立2群の差の検定法として「スチューデントのt検定」「ウェルチのt検定」「マン・ホイットニー検定」を学ぶ。これらの検定のうちどれを用いるかは正規性の検定、等分散性の検定により判断する。なお、等分散性の検定に必要なF分布についても紹介する。	教科書1のp74～p76、p167～p170 教科書2のp81～99を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	【実践編③】独立な多群(3群以上)の差を検定する方法として「一元配置分散分析」を分散分析の原理の基本とともに学ぶ。また、正規性や多群の等分散性がないときに用いる「クラスカル・ウォリス検定」、多群の等分散性の検定である「バートレット検定」を学ぶ。	教科書1のp192～p206 教科書2のp111～p124 を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第9回	【実践編④】関連ある多群の差を検定する「重複(または反復)測定一元配置分散分析」を紹介する。また、2要因を同時に分析する「二元配置分散分析」を学ぶ。ここでは2要因の組合せに対してデータが1つの場合に用いる「繰り返しのない二元配置分散分析」「フリードマン検定」を学ぶ。	教科書1のp207～p213 教科書2のp125～p130、p139～p148を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第10回	【実践編⑤】分散分析では多群のどこかに差があるかを検定するが、どの群とどの群に差があるかはわからない。これを明らかにする検定が多重比較である。ここではその概念を学び様々な多重比較法を紹介する。	教科書2のp165～p195が範囲だが、このうちp165、p168～p172を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第11回	【実践編⑥】2要因の組合せに対してデータが複数存在する場合に用いる「繰り返しのある二元配置分散分析」について学ぶ。またここで得られる2要因の絡みあいの指標＝「交互作用」の解釈も学ぶ。さらに、「重複測定二元配置分散分析」についても紹介する。	教科書1のp218～p226 教科書2のp149～p163を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	【実践編⑦】2つの変量の間に相関関係があるかどうかを調べる「ピアソンの相関係数の検定」「スピアマンの順位相関係数検定」を学び、ここで得られる相関係数の意味を学ぶ。また、回帰分析のうち単回帰分析について学ぶ。	教科書1のp34～p40、p172～p184 教科書2のp197～p218を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第13回	【実践編⑧】「2×2分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度の変数があり、各変数が2つの値しかとらないとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは、「カイ2乗独立性の検定」、「フィッシャーの直接確率計算法」、「マクニマー法」について学ぶ。	教科書2のp239～p253を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第14回	【実践編⑨】「m×n分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度か順序尺度の変数があり、少なくとも1つの変数が3つ以上の値をとるとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは「カイ2乗独立性の検定」等について学ぶ。	教科書2のp259～p276を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	【実践編⑩】実践編の総まとめとして、調査したいデータに対してどの検定を選択したらよいかを習得する。 【番外編】統計的検定の問題点について考察する。効果の大きさをあらわす統計的指標である効果量について簡単に紹介する。	教科書2でこれまで行った検定法を復習しておくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	各講義中に提出する理解度確認テストの提出(15回)
その他	50	各回ごとの宿題の提出(15回)
教科書		
1. 統計解析がわかる／涌井良幸, 涌井貞美／技術評論社 2. 4steps エクセル統計(第5版)／柳井久江／オーエムエス出版		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
特になし
備考欄
特になし

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI入門				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。また、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。							
授業の概要							
ICT(情報通信技術)の進歩によってビッグデータをはじめとする様々なデータから、統計、科学的手法、人口知能(AI)を駆使して価値を引き出すデータサイエンスが求められている。この授業ではデータサイエンスの概略や代表的な数理的手法、なかでもAIのさまざまな手法や活用事例を学ぶ。さらに、データやAIの利活用において留意すべき事項も学習する。							
到達目標							

数理・データサイエンス・AIが、現在進行中の社会変化に深く寄与し、生活に影響を与えていることを説明できる。
 数理・データサイエンス・AIが日常生活や社会の課題を解決するうえで有用であると同時に限界もあることについて説明できる。
 数理・データサイエンス・AIが適用されることにより様々な領域であらたな価値がうみだされている実例をあげることができる。
 数理・データサイエンス・AIを活用するにあたって留意すべき事(ELSI、個人情報保護、データを扱う上での倫理)について説明できる。
 実際のデータが与えられたとき、そのデータの全体像をよみとり、その特徴を可視化するための手法を説明することができる。

授業の方法

パワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データ・AI利活用により社会で起きている変化および最新動向】ICT(情報通信技術)の進歩によるビッグデータの集積やIoTの登場、およびAI((Artificial Intelligence:人工知能)の技術の発達、それらがもたらすSociety 5.0の社会をイメージできるようにする。【社会で活用されているデータ】データの種類、および社会でどのようにデータが活用されているかを学ぶ。【データ・AIの活用領域】AIとはなにか、AIの社会における利活用事例を学ぶ。【生成AIの活用の留意点】近年急速に発展した生成AIの特徴、弱点、利用にあたって留意すべき点を概説する。	ビッグデータ、IoT、Society 5.0、生成AIについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【実データの取得とデータ分析のプロセス】データ分析のプロセスを概説したのち、外部団体(e-Stat等)の実データをインターネットから取得する方法、実データの加工解析の概要を学ぶ。【データの特徴を表す方法】データの分布(ヒストグラム)と代表値、データのばらつきについて概説する。2変数の関係を調べるための方法として、散布図からわかること、および相関と因果関係について学ぶ。データのグラフによる表現について学ぶ。	データの特徴を表す方法および2変数の関係を調べる方法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【機械学習における学習方法】AIの分析で用いられる機械学習の3つの学習方法(教師あり、教師なし、強化学習)を理解する。【AIの手法1:教師あり機械学習(回帰)】このうち教師あり機械学習の手法には回帰と分類があることを学ぶ。この中でまず回帰分析とそれらの応用事例を学ぶ。	機械学習とその学習方法について調べておく。また、このうち教師あり機械学習の回帰について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【AIの手法2:教師あり学習(分類)】 教師あり機械学習の分類を行う手法のひとつとしてよく用いられるロジスティック回帰分析および決定木分析の概略を理解する。機械学習の分類における結果の検証方法を学ぶ。AIで問題となる過学習について理解する。	教師あり機械学習の分類、特にロジスティック回帰分析および決定木分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【AIの手法3 :教師なし学習】 教師なし機械学習の手法のうち、クラスティング、アソシエーション分析(=連関分析)について学ぶ。クラスティングはデータを似たもの同士にグループ分けする手法であり、ここではk-means法を紹介する。アソシエーション分析は同時に購入される商品セットやその確率を算出してマーケティング施策に活かすことができる手法である。 【AIの手法4 :ニューラルネットワーク】 ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概略を学ぶ。ディープラーニングによる画像認識の概略を理解する。	教師なし機械学習のクラスティング、アソシエーション分析およびニューラルネットワークについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【社会におけるAIの利活用の現場】 ロボティクス、生成AI、データサイエンスの3つの視点から社会におけるAI利活用の現場レベルの事例を紹介する。その中で共通の重要事項である【データの有用性×人の価値観】のアプローチについて学ぶ。 【実データを用いた解析と結果の共有・伝達方法】 データの共有・伝達に関して、ある企業のクラウドデータプラットフォームの活用事例を用いてデータ解析、共有、伝達の流れを紹介する。 【データ・AI利活用の最新動向】 国内・国外それぞれの最新のAI利活用事例を解説する中で、これからの社会の変化についての予測視点の提供を行う。 (ゲスト講師:山本光喜EZOAI代表)	AIが社会において利活用されている例を調べておく。また、クラウドデータプラットフォームとはなにかを調べておく(90分)	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第7回	【データを守るうえでの留意事項ー情報セキュリティ・情報倫理】情報化社会におけるデータの守り方である情報セキュリティ、個人情報の保護、情報を扱う上での法規や倫理について理解する 【データ・AIを扱う上での留意事項1ーELSI、AIの公平性・平等性】すべての科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI (Ethical: 倫理的、Legal: 法的、Social Issues: 社会的課題)について学ぶ。公平性、平等性を疎外するバイアスとはなにか、どのようなバイアスがありどのような問題が生じているのかについて学ぶ。	科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI、AI利用における公平性、平等性を疎外するバイアスについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【データ・AIを扱う上での留意事項2ーAIの透明性・説明可能性、AIに関する社会的課題】AIの透明性・説明可能性がなぜ必要なのか、それを実現するための技術などについて学ぶ。また、AIに関する様々な社会的課題 (AIにより人間が支配される可能性、人間の仕事の激減、AIによるトラブルと責任の所在、ビッグデータとプライバシー、AIの創作物に対する著作権)について学ぶ。	AI技術の発展がもたらすであろう様々な社会的課題について調べておく(90分)。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
AI/テラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		

なし
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI実践				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。							
授業の概要							
表計算ソフトやプログラミング言語であるPythonを用いて、インターネットから情報を取得してその特徴をとらえる方法、およびデータサイエンスで用いられるAIの手法を駆使してデータを分析する方法を習得する。							
到達目標							

インターネットから取得したデータを分析できる形に整えることができる。
 データを分析できる形に整えることができる。
 データの基本統計量の計算や可視化を行うことによりデータを読みとることができる。
 データの特徴を説明することができる。
 任意のデータファイルを読み込み、機械学習の教師あり学習の回帰、分類の手法でデータを分析することができる。

授業の方法

各人がパソコンを操作してExcelやPythonを実際に動かしながら学習してゆく(全8回)。説明部分はパワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データを扱う方法】インターネットから取得されたデータを分析できる形に整える方法を習得する。 【データを読む方法】データの特徴を得るために表計算ソフトの分析ツールを用いて基本統計量(代表値の計算、データのばらつき(分散、標準偏差))を実際に計算する。データの分布を表すヒストグラムの作成法を習得する。	Excelで基本統計量を求める方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	【表計算ソフトを用いたデータの可視化による説明】グラフによるデータの表現を概観する。特に2変数のデータの間の関係を調べるために、表計算ソフトを用いた散布図の作成、相関係数の計算、および散布図から単回帰式を求める方法を習得する。また、分類の様子を概観するための層別散布図の作成方法を習得する。 【クロス集計】ピボットテーブルを活用してクロス集計を行う方法を習得する。	Excelによる散布図の作成、ピボットテーブルの作成方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	【AI開発を行う道具・Python入門】Google Colaboratoryを用いてプログラム言語であるPythonを実行する方法を習得する。 【プログラミングの基本1】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち順次処理、条件分岐を体験する。	プログラミングの基本のうち順次処理、条件分岐について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第4回	【プログラミングの基本2】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち反復処理を体験する。 【Google Colaboratory上でのファイル読み込み】Google ColaboratoryにExcel形式やcsv形式のファイルを読み込みデータを使用できるようにする方法を習得する。 【Pythonを用いてデータを読み説明する方法】Pythonを用いた代表値の計算、データの分布やばらつき、2変数の相関を調べる方法を習得する。Python用のMatplotlibというライブラリーを用いてデータの可視化の方法を習得する。	プログラミングの基本のうち反復処理について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	【機械学習 教師あり学習(回帰)】回帰分析の概要を復習したのち重回帰において説明変数が量的変数の場合に限らず説明変数にダミー変数を含む場合の意味について学習する。表計算ソフトの分析ツールやPythonを用いて実際に回帰分析(単回帰、重回帰)を行う方法を習得するとともに、その活用法を学習する。	回帰分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	【機械学習 教師あり学習(分類)】Pythonのscikit-learnというライブラリーを用いて、分類を行うロジスティック回帰分析、決定木分析、ランダムフォレストなどの特徴を理解し、それらの実装を体験する。	機械学習における分類の手法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第7回	【機械学習 教師なし学習】多くの変数を少数の合成変数にまとめる手法である主成分分析について理解し、Pythonのscikit-learnを用いて主成分分析後の分類(ロジスティック回帰など)を体験する。また、k-means法によるクラスターリングを体験する。 【ニューラルネットワークを体験する】ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概要を復習したのち、さらに詳細な理解をするためにA Neural Network Playgroundを用いてニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについて学習する。	主成分分析およびクラスターリング手法であるk-means法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	【Pythonによるニューラルネットワークの実装】PythonのKerasというライブラリーを用いてニューラルネットワークを実装する方法を習得する。 【データの分析実習】これまでに習得した機械学習の手法を用いてデータを分析する実習を行う。	教師あり学習における分類の各手法の特徴およびニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについてこれまで習ったことを復習しておく。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
AI/テラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		

CL教室にてGoogleアカウントでログインができるようにID、パスワードがわかるようにしておいて下さい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		物理学				ナンバリング	1152
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 審爾						

授業の位置づけ

科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。
「運動学Ⅰ」(理学、作業)、「運動学Ⅱ」(理学、作業)、「物理療法学Ⅰ」(理学)、「物理療法学Ⅱ」(理学)、「物理療法学演習」(理学)と連携している教養科目である。
看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・理解)」と特に関係がある科目である。
作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関係がある科目である。

授業の概要

物理学は広範な自然現象を統一的に理解しようとするものであり、全ての自然科学の基礎をなしている。ここでは、生体力学や運動学の基礎となるニュートン力学および熱力学の基本的な考えや電磁気学の基礎法則を理解し、剛体の力学、変形体の力学および生体組織の力学的性質および電気、電磁波、超音波の性質や生体作用について学習する。

到達目標

1. ニュートンの法則にもとづいて運動方程式を記述し、物体の運動を求めることができる。
2. 力のモーメントを用いて剛体のつりあいの式を記述できる。
3. 変形する物体の力学的性質や波動の性質について説明できる。
4. 仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存の法則、熱エネルギーについて説明できる。
5. 電磁現象の概略(電気力や磁力の原因、電磁誘導、電磁波の性質)を説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施するとともに、コメントを書かせる(全15回)。
毎回の内容について宿題を課す(1回目～14回目)。
9回目と15回目に試験を実施する。
フィードバックとして理解度確認テストと宿題の解説を行う。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、確認テストと宿題として練習問題を提供し自主学習を促す。
授業の動画(パワーポイントの説明に音声を入力したもの)をGoogle Classroomにアップし復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストおよび宿題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	はじめに 物理学で用いられる単位系について学ぶ。 力学1 【運動の記述】直線上を運動する物体の速度、加速度の計算方法を習得する。また、平面上の運動における物体の位置の表しかた、速度と速さの違いを理解する。	教科書のp5、p9～p10、p12、p14、p19、p25～p28を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	力学2 【運動の記述】平面上の運動における物体の加速度の向きを知る方法を理解する。【ニュートンの運動の法則】ニュートンの運動の3法則である慣性の法則、運動の法則($F=ma$)および作用反作用の法則を理解する。 ・物体に働く力の矢印の書き方を習得する。 ・等速円運動する物体に働く力の向きを理解する。	教科書のp29、p34～p37、p39～p40、p73～p75を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	力学3 【ニュートンの運動の法則の応用】・地球上の物体に働く重力と落下運動について理解する。・床等に置かれた物体が静止するために垂直抗力が働くことが必要なことを理解する。物体の運動方程式を立てることによって、物体に働く力や加速度を求める方法を習得する。・平面における運動式を理解する。	教科書のp41、p43、p46～p47を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第4回	力学4【ニュートンの運動の法則の応用】・力の合成と分解を理解する。・静止摩擦力、最大摩擦力、動摩擦力のちがいを理解する。・垂直抗力と摩擦係数から最大摩擦力、動摩擦力を計算する方法を習得する。斜面上の物体の運動方程式を立てる方法を習得する。	教科書のp42～p43、p45下半分、p48～p50を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	力学5【剛体の力学】・大きさがあるが変形しないというモデルである「剛体」の概念を理解する。物体の回転状態を変化させる作用である力のモーメントの計算方法を習得する。力のモーメントをもとにして重心という概念を理解できること、また重心の位置を計算する方法を習得する。	教科書のp42、p51を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	力学6【剛体の力学】・剛体の力学—剛体が回転せずにつりあうための条件を理解し、これに基づいて剛体に働く力を求める方法を習得する。 【仕事とエネルギー】仕事と仕事率の定義を理解する。	教科書のp44～p45、p52～p53、p59～p62を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第7回	力学7【仕事とエネルギー】・重力の位置エネルギー、運動エネルギーの計算方法を習得する。・仕事と運動エネルギーとの関係から力学的エネルギー保存則が導かれることを理解する。・力学的エネルギー保存の法則を用いて運動する物体の速さを求める方法を習得する。・より広い意味のエネルギー保存則を理解する。 【慣性力】・非慣性系における、みかけの力(慣性力)を学び、遠心力が慣性力であることを理解する。	教科書のp62～p66、p93を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	力学8【変形する物体の静力学】・力を加えると変形するが、力を取り除くと元に戻る性質をもつ物体を弾性体という。弾性体のひずみが小さいとき、弾性体の変形のもととなる応力はひずみに比例する。このときの比例定数が弾性定数であり、これを用いて物体の変形量を計算する方法を習得する。また、いくつかの弾性率(ヤング率、剛性率)の違いを知る。	教科書のp101～p104を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第9回	力学9【流体の力学】・流体の力学—流体とはなにか、またその圧力の特徴を理解する。流体の密度や、ある深さにおける流体の圧力の計算方法を習得する。粘性がずれ応力であることを理解する。 ★授業の1回目から7回目の内容を範囲とした試験を行う。	教科書のp95～p101、p104～p108を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第10回	【波動】・波の表し方および波の基本式を理解する。・正弦波が波の基本的な形であることを理解する。・波の干渉と回折について理解する。・弦に生じる定在波の固有振動の計算を修得する。・超音波の性質を学ぶ。	教科書のp114～p124を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第11回	電磁気学1【電気力】・電気現象を引き起こす電荷について理解する。・真空中の電荷の間に働く力である電気力(クーロン力)の性質を学ぶ。電気力を働かせる空間である電場の概念を理解する。電位の定義を理解し電位差と電気量から電気力がした仕事量を計算する方法を習得する。・電場によって物体表面に電荷が現れる現象である静電誘導について理解する。	教科書のp158～p161、p162～p171を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第12回	電磁気学2【電流・電気回路】・電流、電圧と電気抵抗との間の関係であるオームの法則を理解する。・電力およびジュール熱の計算し、抵抗の発熱量を計算する方法を習得する。・交流による電力と実効値を理解する。・電荷を蓄える装置であるキャパシタの性質を理解する。・比誘電率について理解する。	教科書のp161～p162、p164～p165、p173～p175、p177～p179、p182～p184、p206～p208を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第13回	電磁気学3【磁場】・磁場の性質を理解する。・電流が磁場を発生されることを知り、定常電流がどのような向きの磁場を生じるかを理解する。・磁場中で運動する荷電粒子に働くローレンツ力の向き、また磁場中で電流が流れている導線に働く力を理解する。	教科書のp191～p199を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第14回	電磁気学4【電磁誘導】・電磁誘導(ファラデーの法則)、磁場が時間変化することにより電場が発生することを理解する。・磁場中でコイルを動かすと、磁場が時間変化していなくてもコイルに電流が流れることを理解する。・電場の変化によって磁場の発生することを理解する。・電磁波の発生機序を理解する。	教科書のp199～p203、p212～p214を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第15回	【熱力学】・熱の移動方法は主に熱伝導、対流、熱輻射の3つがある。このうち熱伝導の性質、熱輻射の性質を理解する。 ★授業の8回目から14回目の内容を範囲とした試験を行う。	教科書のp136～p144、p147、p149～p150を読んでおく。(90分)。	授業で行った全範囲について復習しておく(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各講義中に提出する理解度確認テストの提出(15回)、各回ごとの宿題の提出(14回)および授業内(9回目と15回目)に実施する試験により評価する。
その他	0	なし
教科書		
第3版 物理学入門 新装版 Web動画付／原康夫／学術出版図書		
参考文献		

医療系のための物理／佐藤幸一他／東京教学社

履修条件・留意事項等

理学療法学専攻の学生は、運動学、物理療法学の基本となるので、高校で物理基礎のみ履修の学生,それすら未履修の学生は必ず履修すること。作業療法学専攻の学生は、運動学の基本となるので履修するとよい。看護学科、健康栄養学科の学生は専門に直結するわけではないので数理分野が得意で興味があれば履修してもよい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		基礎化学				ナンバリング	1154
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	藤井 駿吾、佐々木 将太						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として化学的知識を学ぶことによって、幅広い教養を身に付けるための科目である。生化学、基礎栄養学などの科目に必要とされる基礎的知識を学ぶ科目である。理学療法学科ではディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」と、作業療法学科では「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている」と特に関連がある科目である。

授業の概要

私たちの身近に存在する物質や身の回りで起こる現象が、どのように化学と結びついているのかを理解するために、化学の基礎知識を習得する。今後専門科目を履修していく上で、化学に関する基礎学力の不足によって支障が生じないように化学の基礎知識を習得する。特に、モル概念、化学反応式の量的関係、濃度等の計算問題をしっかり理解する。

到達目標

1. 原子の構造から、イオン、原子価を理解し、化学結合について説明できる。
2. 化学反応式の表す意味を理解し、反応式の量的関係の計算ができる。
3. 濃度計算ができる。(パーセント濃度、モル濃度)
4. 酸・塩基の定義を理解し、水素イオン濃度とpHの値を求めることができる。
5. 飽和炭化水素、特にアルカンの分子式、示性式、構造式を書くことができる。

授業の方法

パワーポイントによる講義形式で、必要に応じてプリント配布する。
理解度を確認するため、確認テストを実施する。

ICT活用

確認テストや、授業資料の配布にGoogleフォームやGoogle Classroomなどを使用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

Googleフォームによる確認テスト時は、回答送信後、得点および誤答に対する解説を返信する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(佐々木) ・オリエンテーション ・原子の構造について学習する ・電子配置について学習する。	「原子核」、「電子」、「陽子」、「中性子」、「質量数」などの化学用語及び電子配置図について調べておく。(90分)	講義中に出題された問題を、自分の力で再度解答する。電子配置図を正確に書けるようにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第2回	(佐々木) ・イオンについて学習する。 ・電子式の書き方について学習する。(有機化学の分野でも使用) ・化学結合について学習する。 (1) イオン結合 (2) 共有結合(同種原子)	イオン結合、共有結合について調べておく。 「電子式」「構造式」の書き方について調べておく。(90分)	「電子式」「構造式」を確実に書くことができる。 化学式の表記の仕方を確実なものにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第3回	(佐々木) ・化学結合について学習する。 (3)共有結合(異種原子) ・化学式の読み方について、別紙プリントを配布して学習する。 ・分子量の求め方を学習する。	「共有結合」特に単結合、二重結合について、調べておく。 分子量の求め方を調べておく。(90分)	「共有結合」について、説明できるようにする。化学式が確実に読め、かつ書くことができ、分子量を求めることができる。(90分)
担当教員	佐々木 将太		

第4回	(佐々木) ・物質量(モル)の概念について学習する。 ・物質量(モル)の求め方について学習する。	「アボガドロ数」と「モル」の計算上での関係を調べておく。(90分)	講義で出題された問題を復習することで、考え方、求め方を確実なものにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第5回	(佐々木) ・化学反応式の量的関係について学習する。 (化学反応式を使った計算問題を解く)	化学反応式の係数が持つ意味について、計算にどのような使い方をするか確認しておく。(90分)	「モル」「体積」「アボガドロ数」「分子量」の相互関係を確実に理解し、計算で求めることができる。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第6回	(藤井) ・質量パーセント濃度についてしっかり学習する。	質量パーセント濃度の求め方について、高校時の教科書、参考書等で事前に確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第7回	(藤井) ・モル濃度についてしっかり学習する。 (1) 固体 (2) 液体	モル濃度の求め方について、高校時の教科書、参考書等で事前に確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第8回	(藤井) ・酸と塩基について学習する。 ・中和反応について学習する。	中和滴定を利用して、濃度の求め方を確認しておく。 特に、食酢中の酢酸の定量について確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第9回	(藤井) ・水素イオン濃度について学習する。 ・酸化・還元について学習する。	水素イオン濃度とpHの関係について調べておく。 酸化か還元かの判定方法について事前に調べておく。(90分)	講義中に出題された問題を復習し、pHと水素イオン濃度の関係を理解する。 酸化・還元の判断も確実にできる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第10回	(藤井) ・有機化合物の歴史について学習する。 ・有機化合物(炭化水素化合物)の分類について学習する。 ・有機化合物の表し方(分子式、示性式、構造式)について学習する。	「分子式」「示性式」「構造式」の表し方の違いについて事前に調べておく。(90分)	簡単な有機化合物の「示性式」「構造式」を書くことにより、違いを確認し分類できる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第11回	(藤井) ・飽和炭化水素のアルカンについて学習する。 (1)アルカンの性質 (2)アルカンの反応 (3)構造異性体	身近に存在する有機化合物である「アルカン」の性質、特徴及び用途について調べておく。(90分)	講義の内容を復習し、特に構造異性体の構造式を確実に書くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第12回	(藤井) ・IUPAC命名法について学習する。 ・不飽和炭化水素(アルケン)について学習する。 (1)アルケンの性質 (2)アルケンの反応	IUPAC命名法、アルケンの性質、特徴及び付加反応について事前に調べておく。(90分)	IUPAC命名法を用いて確実に物質名を答えることができる。付加反応について理解する。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第13回	(藤井) ・アルコールについて学習する。 (1)アルコールの利用方法 (2)アルコールの分類 (3)アルコールの命名法 (4)線描構造式	基本的なアルコールである「メタノール」「エタノール」「プロパノール」について調べておく。(90分)	講義内容を復習し、「アルコールの酸化」「アルコールの命名法」等自分の言葉で説明することができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第14回	(藤井) ・芳香族炭化水素について学習する。 (1)歴史 (2)構造異性体・命名法 (3)置換反応	「芳香族炭化水素」の構造の特徴や構造異性体について調べておく。(90分)	講義の中で出題された問題をしっかりと復習し、構造異性体、置換反応について、説明することができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第15回	(藤井) ・身の回りに存在する芳香族炭化水素について学習する。	身の回りに存在する代表的な芳香族炭化水素について調べておく。(90分)	生活環境の中に多くの有機化合物が存在することを知ることにより、今後の生活での意識改革に繋がるとよい。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中のランダムな回で行う確認テストの合計で評価する。
その他	0	特になし。
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

高校で使用した「教科書」または「参考書」があれば良い。

履修条件・留意事項等

特になし。

備考欄

Students will practice everyday English skills needed for basic interpersonal communication. Focus will be on speaking, listening, and reading, and being able to describe basic things, ask and answer questions, explain and react appropriately, using good, clear, basic grammar constructions. Although the broad focus is general skills, attention will also be given to interacting with patients in a medical setting. (i.e. greeting patients, asking about their condition, giving instructions, etc.)

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

If needed, this class may utilize Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not Applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Class intro, syllabus, Unit 0	Go over syllabus and Unit 0 vocab (25 minutes)	Prepare Unit 1 p.12-16, p.I (20minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1 Part I p. 12-16: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review Unit 1 part I p. 2-16 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit I part II p. 17-19 (20 Min)
担当教員			
第3回	Unit 1 Part II p.17-19: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review unit 1 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 2, p.20-24 (20 Min)
担当教員			

第4回	Unit 2, Part I p.20-24: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 p.20-24 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 2 Part II (p.25-27) (20 Min)
担当教員			
第5回	Unit 2, Part II p.25-27: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 3 (p28-32) (20 Min)
担当教員			
第6回	Unit 3, Part I p28-32: Schedules and routines. Making appointments with patients	Review unit 3 (p28-32) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 3 Part II (p33-35) (20 Min)
担当教員			

第7回	Unit 3, Part II p33-35: Schedules and routines. Test Prep.	Prepare for Test!! (25minutes)	Review vocabulary and concepts (20 Min)
担当教員			
第8回	Midterm	Review concepts you had trouble with on test (25 Min)	Prepare for Unit 4 Part I, p. 36-40 (20 Min)
担当教員			
第9回	Unit 4, Part I, p36-40: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 (p36-40) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare p41-43 (20 Min)
担当教員			

第10回	Unit 4 Part II, p41-43: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 5, p.44-48 (20 Min)
担当教員			
第11回	Unit 5 Part I, p.44-48: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 p. 44-48 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 5 Part II (p.49-51) (20 Min)
担当教員			
第12回	Unit 5 Part II, p.49-51: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 (p.49-51) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 6 (p.52-56) (20 Min)
担当教員			

第13回	Unit 6, Part I, p52-56: Describing past actions.	Review Unit 6 (p.52-56) (25 Min)	Please read and prepare Unit 6 Part II (p57-59) (20 Min)
担当教員			
第14回	Unit 6, Part II, p57-59: Describing past actions. Side by Side activity: Explaining a visit to a doctor's office in present and past tense. Test prep.	Review Units 4-6 thoroughly!! 25 minutes or more...	Prepare for final exam!! 20 minutes or more
担当教員			
第15回	Final exam	Be sure all assignments have been completed and given to the teacher (25 minutes if necessary)	If you have any makeup work or late assignments, complete them and send to Professor (up to 20 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 30 Final 40 Attendance and participation, quizzes 30
その他	0	
教科書		
English Firsthand, Fifth Edition Written by March Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown Published by Pearson		
参考文献		

Handouts will be given in class

履修条件・留意事項等

please bring textbook, paper, pen or pencil, and previous handouts to each class

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語Ⅱ				ナンバリング	1171
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

本科目は、外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。前期に配置されている「英語Ⅰ」はネイティブ・スピーカー教員によるすべて英語で行われる会話の授業であるが、この後期に配置されている「英語Ⅱ」は日本人教員による専門用語等の説明において、必要に応じて日本語を使用する授業である。こうしたことを通じて、英語圏の国で日常生活に不便を感じないレベルの英語力を身に付けるための科目である。

授業の概要

本授業では、高等学校での学習を基に比較的まとまりのある英文を正しく、丁寧に読み取ることを目的に、発音、語彙、語法、慣用的表現の解説と訓練を行うとともに、具体的な場面を設定して英語で自己表現することができるようになることを目的とする。

到達目標

- 基礎的語彙に慣れ親しむことができる。
- 日本語に訳することなしに英文の意味を理解するとともに、パラグラフ単位で意味が把握できる。
- 具体的な場面における英会話の基礎を身に付け、発話できる。

授業の方法

教科書を中心に、プレゼン資料や板書と配布印刷物を用いた演習形式で行う。
ほぼ毎回、単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。

ICT活用

プレゼンテーションソフトによる教材提示やリスニングを行うとともに、グーグルクラスルームを活用して、課題提出などを行う。

実務経験のある教員の教育内容

特になし

課題に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方や評価方法を理解する。 ◎Unit1 For here, or to go? ・ファストフード店での注文に関する表現を学ぶ。	・Unit1 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit1 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	◎Unit2 How many are in your party? ・レストランでの来客対応に関する表現を学ぶ。	・Unit2 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit2 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	◎Unit3 I'll be right back. ・レストランでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit3 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit3 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第4回	◎Unit4 Would you like me to heat this up? ・コンビニやスーパーでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit4 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit4 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第5回	◎Unit5 Your total comes to 3,240 yen. ・買い物や飲食の会計に関する表現を学ぶ。	・Unit5 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit5 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第6回	◎Unit6 I'm truly sorry for the trouble ・商品やサービスへの苦情とその対応に関する表現を学ぶ。	・Unit6 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit6 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第7回	◎Review1 (Unit1-6) ・Unit1からUnit6までの復習をする。	・Review1 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review1に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第8回	◎Unit7 Do you have a reservation? ・ホテルや旅館での宿泊受付に関する表現を学ぶ。	・Unit7を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit7 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第9回	◎Unit8 Wi-Fi is available in this area. ・客が利用できるサービスや近隣情報の案内に関する表現を学ぶ。	・Unit8 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit8 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第10回	◎Unit9 I highly recommend Sakura Restaurant. ・旅行者の希望に応じた店や観光地などの提案に関する表現を学ぶ。	・Unit9 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit9 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第11回	◎Unit10 Turn right at the first intersection. ・道案内に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第12回	◎Unit11 Take the subway to Hommachi. ・交通案内や観光施設の情報提供に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第13回	◎Unit12 First, put the money in the machine. ・券売機や電化製品の使用方法の説明に関する表現を学ぶ。	・Unit12 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit12 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第14回	◎Review2 (Unit7-12) ・Unit7からUnit12までの復習をする。	・Review2 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review2に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第15回	◎まとめ ・この授業のまとめを行う。	・総復習して、課題に取り組むこと。(35分)	・学んだ内容のポイントを整理しておくこと。(10分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組状況(20%)、授業内小テスト(60%)、課題(20%)
その他	0	
教科書		
You're welcome! / Tae Kudo / センゲージラーニング		
参考文献		

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語Ⅲ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

学生の「関心・意欲・態度」の形成を図り、グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる人を育てる科目として位置付けられる。

授業の概要

これまで学んだことの総括として、健康・医療・食品・教育 などに関するテーマの英文に触れ、与えられた課題について短いレポートを書いたり、実践的な会話を行える能力を養う。

到達目標

By the end of this course, students will be able to plan future English language learning using authentic written material from their specialty area.			
授業の方法			
This course utilizes a variety of learning structures, including teacher-directed instruction, task-based group work and individualized work.			
ICT活用			
The course utilizes the learning management system Google Classroom as well as the associated multimedia tools for creating documents (Google Docs), presentations (Google Slides), and synchronous online meetings (Google Meets).			
実務経験のある教員の教育内容			
The instructor has a Masters of Arts in Teaching with a speciality in Teaching English to Speakers of Other Languages, as well as 15 years of teaching experience in the classroom.			
課題に対するフィードバックの方法			
Feedback will be given on each individual assignment, at the end of each group work task and in response to each test; it will be given orally to groups and in writing to individuals.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(1) Students will learn about the course, its methods and its assessments. (2) Students will learn about the systems of language: phonetics, vocabulary, grammar, discourse	Students will read the syllabus, consider their goals for the course and prepare questions to ask the teacher. (45 minutes)	Students will re-read the syllabus, revise their goals for the course and review their notes from the lecture. (45 minutes)
担当教員			
第2回	Students will experience a range of English language learning structures which they will rate and indicate their preferences for during the rest of the course.	(1) Students will reflect on their language learning history, their learning style and the learning structures they prefer. (2) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will respond to a survey about their preferences in learning structures. (2) Students will review their notes from the lecture. (3) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			
第3回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on presentation skills (PT, OT or N) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			

第4回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on presentation skills (OT) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			
第5回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on presentation skills (PT, OT or N) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			
第6回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on presentation skills (PT, OT or N) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			

第7回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on report writing skills (paragraph structure). (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			
第8回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on report writing skills (essay structure). (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			
第9回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 1: get ideas) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will prepare their report by getting ideas. (45 minutes)
担当教員			

第10回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 2: rough draft) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will prepare their report by completing a rough draft. (45 minutes)
担当教員			
第11回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 3: revise) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will prepare their report by revising their rough draft (45 minutes)
担当教員			
第12回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 4: edit) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will prepare their report by editing their revised draft. (45 minutes)
担当教員			

第13回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 5: polish) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will complete their report by polishing their edited draft. (45 minutes)
担当教員			
第14回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) As necessary, students will take part in a student-led presentation (3) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will submit their report. (45 minutes) *Students will NOT prepare an issue log	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			
第15回	(1) Students will take their test. (2) Students will receive feedback on their report.	(1) Students will prepare for their test. (2) Students will self-assess their report. (45 minutes) *Students will NOT prepare an issue log.	(1) Students will reflect on their performance on the test. (2) Students will reflect on their performance on the report. (45 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Issue Log: 25% Presentation: 25% Report: 25% Test: 25%
その他	0	
教科書		
This class does not use a textbook.		
参考文献		

All materials will be distributed by the instructor.

履修条件・留意事項等

Not applicable.

備考欄

Not applicable.

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 外国語					
科目名		中国語 I				ナンバリング	1178
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	玉 珍						

授業の位置づけ

外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。
履修者が中国語を初めて学ぶことを前提として、入門中国語にとって最も大切な発音の練習から、中国語がどういう言語なのかを基礎的につかめるようにする。

授業の概要

中国語の発音をマスターする(ローマ字を見て発音できる、発音を聞いてローマ字に直せるようになる)ということは、中国語の基礎をマスターすることに等しい。この授業では、日本人の習慣を考慮した学習法により、効率的に中国語の発音をマスターすることを目指す。また、それと同時に、基本的な語彙や、すぐに役に立つ会話句をも紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。

到達目標

中国語の発音と基本文型を理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面で使う表現を習得できるようになる。

授業の方法

授業時間を半分ずつ、前回の内容の復習と今回の新しい内容にあてる。

ICT活用

中国語学習にとって有用なホームページ、ネット教材を紹介し、独学において役立てることができるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

(なし)

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業開始時に配られるノート兼ねたプリントの答えを記入して授業終了後に提出し、次回に返却されたものを見ながら重要点を復習する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション(授業の進め方・参考図書について) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる。	中国語に関する知識の探索。(90分)	中国語学習の方向性認識。(90分)
担当教員	玉 珍		
第2回	発音 プロローグA 声調、日本人にとって難しい発音 日本人にとって難しい中国語の発音が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第3回	発音 プロローグB -n:-ng、そり舌音、iの特別な発音、iu 中国語の発音の中でも、特に注意を要すべきものについて理解できるようになる①。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		

第4回	発音 プロローグC 日本語にない子音の発音 日本語にない子音の発音について理解できるようになる②。 。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第5回	発音 プロローグD 書き換え規則、二重母音・三重母音、隠れるローマ字 中国語の発音の中でも、特に注意を要すべきものについて理解できるようになる③。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第6回	第1課 1. 指示代名詞 2. 形容詞述語文と“很” 3. “嗎”疑問文 4. “不” 5. “不”の変調 指示代名詞と形容詞述語文と“很”と“嗎”疑問文と“不”と“不”の変調が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		

第7回	第2課 1. 正反疑問文 2. 選択疑問文 3. “的”が省略できる場合 4. 動詞句+“的”→名詞句 正反疑問文と選択疑問文と“的”が省略できる場合と動詞句+“的”→名詞句親族名称が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第8回	第3課 1. 親族名称 2. “両” 3. “有”と“没有” 4. 年齢の聞き方 5. “一”の変調 6. 21から99までの“十”の発音 親族名称と“両”と“有”と“没有”と年齢の聞き方と“一”の変調と21から99までの“十”の発音が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第9回	第4課 1. 助動詞“想” 2. 日付と曜日 3. 動詞の重ね型 4. 前置詞“給” 5. 積極的な気持ちを表す“来” 助動詞“想”と日付と曜日と動詞の重ね型と前置詞“給”と積極的な気持ちを表す“来”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		

第10回	第5課 1. 月 2. 時刻 月と時刻の言い方が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第11回	第6課 1. お金の言い方 2. 100以上の数 3. 数量補語 4. “児化” お金の言い方と100以上の数と数量補語と“児化”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第12回	第7課 1. 助動詞“在” 2. 助動詞“要” 3. 前置詞“離” 助動詞“在”“要”と前置詞“離”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		

第13回	第8課 1. 助動詞“在” 2. 助動詞“能” 3. 二重目的語 4. “多一点兒” 助動詞“在”“能”と二重目的語と“多一点兒”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第14回	第9課 1. 助動詞“会” 2. 連動文 3. “別”“不要” 助動詞“可以”と連動文と“別”“不要”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第15回	第10課 1. 助動詞“可以” 2. 比較の言い方 助動詞“可以”と比較の言い方が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	授業中に小テスト、グループワークを行い、総合評価する。
その他	10	授業態度が積極的な場合は加点する。
教科書		
いま始めよう！アクティブラーニングー初級中国語ー/陳淑梅 /朝日出版社		
参考文献		

授業中に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

遅刻は減点の対象になるので注意すること。

備考欄

なし。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 外国語					
科目名		中国語Ⅱ				ナンバリング	1179
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	玉 珍						
授業の位置づけ							
初年度教育の一環として、これから専門領域を学習する心構えを養うための科目である。 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。							

中国語の発音と基本文型をさらによく理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面で使う表現を習得できるようになる。

授業の方法

- ・パワーポイントと配布印刷物を用いた方法で説明し、グループ学習を行う。
- ・小テストを行い、理解度を確認する。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション(授業の進め方・参考図書について) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる。	前期で学んだの中国語の発音・ 文法・語彙を復習すること。(90 分)	講義で学んだ発音、文法、語彙 のまとめをすること(90分)
担当教員	玉 珍		
第2回	中国の医療保健制度や病院、西洋医学と中医学について 理解する 中国語の発音(声調、母音)習得できる	教科書p.7-15を予習する(90分)	教科書p.9, 12, 16の練習問題 を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		
第3回	第4課:自我介绍 第5課:医院指南 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.17-23を予習する(90 分)	教科書p.20, 24の練習問題を完 成する(90分)
担当教員	玉 珍		

第4回	第6 課: 门诊确认 第7 課: 既往病史 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.25-31を予習する(90分)	教科書p.28, 32の練習問題を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		
第5回	第8 課: 诊断治疗 第9 課: 骨折疗养 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.33-39を予習する(90分)	教科書p.36, 40の練習問題を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		
第6回	第10 課: 对症下药 第11 課: 答疑解惑 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.41-47を予習する(90分)	教科書p.44, 48の練習問題を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		

第7回	第12 課:予約就诊 第13 課:外科急診 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.49-55を予習する(90分)	教科書p.52, 56の練習問題を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		
第8回	第14 課:住院生活 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.57-59を予習する(90分)	教科書p.60の練習問題を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		
第9回	第15課:日常交际 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.61-63を予習する(90分)	教科書p.64の練習問題を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		

第10回	第16課: 康复 出院 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.65-67を予習する(90分)	教科書p.68の練習問題を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		
第11回	常用表現 (1) 日常寒暄 (2) 院内施設 必要な単語をマスターし、発音できるようになる	教科書p.69-72を予習する(90分)	授業中学んだ単語を記憶し、会話を練習する(90分)
担当教員	玉 珍		
第12回	常用表現 (3) 挂号候診 (4) 身体部位 必要な単語をマスターし、発音できるようになる	教科書p.73-76を予習する(90分)	授業中学んだ単語を記憶し、会話を練習する(90分)
担当教員	玉 珍		

第13回	常用表現 〈5〉病名症状 〈6〉 <u>问诊治疗</u> 〈7〉注射点滴 必要な単語をマスターし、発音できるようになる	教科書p.77-82を予習する(90分)	講義内容を復習し、p.77の振り返りシートを完成すること。(90分)。
担当教員	玉 珍		
第14回	常用表現 〈8〉 <u>常规検査</u> 〈9〉 <u>特殊検査</u> 〈10〉住院出院 必要な単語をマスターし、発音できるようになる	教科書p.83-88を予習する(90分)	授業中学んだ単語を記憶し、会話を練習する(90分)
担当教員	玉 珍		
第15回	常用表現 〈11〉付款窓口 〈12〉 <u>药房指南</u> 必要な単語をマスターし、発音できるようになる 小テスト	教科書p.89-92を予習する 1-14回の授業で学んだことを復習すること(90分)	授業で学んだ単語を使って簡単な会話ができるように復習を行う(90分)
担当教員	玉 珍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中に書き込んだプリントや小テストを総合評価する。
その他	0	授業に関係のない作業をしている場合(スマホ操作など)欠席と見なす。
教科書		
看護・保健・医療スタッフの基礎中国語 著者:劉建		
参考文献		

指定しない

履修条件・留意事項等

遅刻は減点の対象になるので注意すること。
前期の中国語Ⅰを履修しているか、中国語の基礎をマスターしていることを前提とする。

備考欄

遅刻は減点の対象になるので注意すること。

・韓国語の基礎的な読み・書きができる。 ・韓国語で簡単な自己紹介ができる。

授業の方法

・基本的には、パワーポイントと教科書を用いた方法で説明したのち、グループ学習を行う。

ICT活用

・Google formを用いた課題提出を行ってもらう。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション・ハングルについて ・ハングルの特徴について理解する	ハングル文字について確認しておくこと(90分)	講義で配布した資料および教科書を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	第1課 おはようございますー出会い I ・韓国語で挨拶ができる ・韓国語の母音を発音・書くことができる	教科書p1-4を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p1-4を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第3回	第2課 おはようー出会い II ・韓国語で挨拶ができる ・韓国語の子音を発音・書くことができる	教科書p5-8を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p5-8を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第4回	第3課 さようなら一別れⅠ ・韓国語で挨拶ができる ・濁り音の理解・発音・書くことができる	教科書p9-12を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p9-12を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第5回	第4課 明日またね一別れⅡ ・韓国語で挨拶ができる ・激音の理解・発音・書くことができる	教科書p13-16を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p13-16を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第6回	第1-4課のまとめと復習 ・韓国語で挨拶ができる ・韓国語を発音・書くことができる ・小テスト①	教科書p1-16を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p1-16を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第7回	第5課 これ、どうですか ・韓国語で尋ねる・答えることができる ・濃音を理解・発音・書くことができる	教科書p17-20を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p17-20を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第8回	第6課 ありがとう ・韓国語で感謝を表現することができる ・半母音を理解・発音・書くことができる	教科書p21-24を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p21-24を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第9回	第7課 ありがとうございます ・韓国語で丁寧に感謝を表現することができる ・パッチムを理解・発音・書くことができる	教科書p25-28を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p25-28を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第10回	第8課 何ですか ・韓国語で質問することができる ・連音を理解・発音することができる ・数字を読むことができる	教科書p32-38を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p32-38を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第11回	第5-8課のまとめと復習 ・韓国語で質問や答えができる ・韓国語を発音・書くことができる ・小テスト②	教科書p17-38を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p17-38を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第12回	第9課 申し訳ありません ・韓国語で謝罪することができる ・弱音化・鼻音化 I を理解・発音することができる	教科書p39-41を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p39-41を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第13回	第10課 私は山崎未来です ・韓国語で自己紹介することができる ・助詞・疑問詞を理解・発音することができる	教科書p42-47を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p42-47を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第14回	第11課 誕生日はいつですか？ ・韓国語で日付を理解・発音することができる ・韓国の記念日を発音することができる	教科書p48-51を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p48-51を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第15回	第1－11課のまとめと復習 ・韓国語を発音・書くことができる ・簡単な会話ができる ・小テスト③	教科書p1-51を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p1-51を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	筆記・口頭による復習テストで評価する(80%)・授業参加度(20%)
その他	0	なし
教科書		
コミュニケーション韓国語聞いて話そうⅠ 長谷川由起子 白帝社		
参考文献		

指定なし

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 外国語					
科目名		韓国語Ⅱ				ナンバリング	1189
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金 京室						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。							

・韓国語の基礎的な読み・書きができる。 ・韓国語で簡単な会話ができる。

授業の方法

・基本的には、パワーポイントと配布印刷物を用いた方法で説明したのち、グループ学習を行う。 ・小テストを行い、理解度を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション・第1～11課の復習 ・第1～11課の復習を行う	第1～11課の復習しておくこと (90分)	講義で配布した資料および教科書 を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	第12課 なに学科ですか一所属と学年 ・疑問詞を使うことができる ・助詞の表現ができる	教科書p52-55を読んでおく(90 分)	講義の資料および教科書p52- 55を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第3回	第13課 僕は音楽が好きです ・好みの表現ができる ・助詞の表現ができる	教科書p56-59を読んでおく(90 分)	講義の資料および教科書p56- 59を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第4回	第14課 未来さんの携帯じゃありませんか ・指し示す言葉や所有・所属の表現ができる ・否定文が理解できる	教科書p60-63を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p60-63を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第5回	第15課 彼女いますか？ ・存在表現ができる ・丁寧語・助詞の表現ができる	教科書p64-67を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p64-67を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第6回	第16課 満では19です ・年齢を言うことができる ・助詞の表現ができる	教科書p68-73を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p68-73を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第7回	第12-16課 まとめと復習 ・小テスト①	教科書p52-67を読んでおく、 発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p52-67を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第8回	第17課 K-POPに大いに興味があります ・流音化・2重パッチムが理解できる ・助詞が表現できる	教科書p74-79を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p74-79を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第9回	第18課 大学で習っています① ・否定表現ができる ・助詞が表現できる	教科書p80-87を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p80-87を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第10回	第18課 大学で習っています② ・否定表現ができる ・助詞が表現できる ・逆接の接続語尾が表現できる	教科書p80-87を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p80-87を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第11回	第19課 先週末何をしましたか ・過去形が理解できる ・行き来の目的を表す表現ができる	教科書p88-93を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p88-93を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第12回	第20課 ソウルに旅行しようと思っています ・予定・つमりの表現ができる ・希望表現ができる	教科書p94-99を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p94-99を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第13回	第17-20課 復習およびまとめ 小テスト②	教科書p74-99を読んでおく、発 音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p74- 99を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第14回	韓国に行くならどこに行く？そこで何を食べる？ グループ 学習 ・韓国の旅行先についてグループで話し合い、予定を計画 する ・計画を発表する	韓国の地理について予習する(90分)	講義の資料や発表資料を復習 する(90分)
担当教員	金 京室		
第15回	第1-20課のまとめと復習 小テスト③	教科書p1-99を読んでおく、発 音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p1-99 を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	筆記・口頭による復習テストで評価する(80%)・授業参加度(20%)
その他	0	なし
教科書		
コミュニケーション韓国語聞いて話そうⅠ 長谷川由起子 白帝社		
参考文献		

指定なし

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツ I (1組)				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール② ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール③ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボール基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニス基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第11回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツ I (2組)				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

到達目標

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール② ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール③ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボール基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニス基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第11回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツⅡ				ナンバリング	1197
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等について解説する。	シラバスで授業内容を確認する。 (20分)	受講にあたっての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	バドミントン・卓球(1) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第3回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			

第4回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第6回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)一個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第7回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー) 一人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第8回	フットサル(1) ゲーム(技術の応用) ルールを理解し、個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第9回	フットサル(2) ゲーム(技術の応用) 一人技術を活用し、2人・3人のプレーを生かし、5人でゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第10回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う	ニュースポーツにはどのような競技があるかかを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第11回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンビプレーを活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(3) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第13回	ニュースポーツ(4) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第14回	モルック(1) ルールを理解しゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第15回	モルック(2) ルールを理解し、戦術を考えながらゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能					
科目名		人体構造学Ⅰ				ナンバリング	2202
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世						
授業の位置づけ							
本科目は「看護を行うために知っておくべき人体の構造と機能を学ぶ」に位置づけられ、ディプロマポリシーの「健康状態やその変化に応じた看護に必要な、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解を高め、看護師としての実践応力を有している」人材育成につながる基本的な人体の構造を理解するために必要な基礎知識を習得する。本科目と「人体機能学Ⅰ」「人体構造学Ⅱ」「人体機能学Ⅱ」「免疫学」「看護栄養学」によって人体の構造と機能を学習する。これらの科目を基盤として「疾病の成り立ちと回復の促進」に配置した科目の「看護病態治療学Ⅰ～Ⅳ」につなげる。							
授業の概要							
本科目は、健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、看護の視点から人体を系統立てて理解し、観察力や判断力を強化することで、看護の対象である人々の日常生活行動が継続され生命維持に必要な身体の構造を学ぶ。学習内容は、生命を維持するために必要な日常生活行動のうち「内部環境の恒常性」「恒常性を維持するための物質の流通と調節機構」の身体の仕組みである。							
到達目標							

- ・生命の営みそのものが日常生活であることが理解できる。
- ・内部環境と外部環境を区別している皮膚の正常な状態が説明できる。
- ・内部環境を構成している細胞や体液の構造や分類が説明できる。
- ・恒常性を維持するための、物質の流通に必要な血液と血管、リンパ管、脾臓、心臓の構造を説明できる。
- ・恒常性を維持するための、調節に必要な神経やホルモンの構造を説明できる。

授業の方法

授業の方法は、講義形式、グループワーク(全5回)と発表(適宜)を活用して行う。教材は、教科書と担当教員が作成した資料である。本科目は、理解度を確認するための小テスト(全6回)と確認テスト(1回)、事前事後学習の確認(10回)によって評価する。

ICT活用

- ・Google classroomを活用して講義関連連絡や課題提出を行う。
- ・Google formのアンケート作成機能を用いてアンケートを行う。

実務経験のある教員の教育内容

- ・約7年間の看護経験を活かし、実践的な視点から人体構造学を教授し、理解を深められるように知識を提供する(高岡)。
- ・小児科・NICUでの臨床経験や知識を活かした講義を行う(横山)。
- ・病院にて看護師として、循環器外科の経験があり、この経験を活かし、授業を行う(木口)。
- ・小児科・呼吸器、循環器(内科)での臨床経験や知識を活かした講義を行う(菅原)。

課題に対するフィードバックの方法

本授業では提出された課題に対し、共通フィードバックを中心に実施し、全体の理解を深める。具体的には、授業内で優れた回答やよくある誤解を共有し、解説を行うことで全体の学習効果を高める。また、個別のフィードバックは、単位取得が危うい場合や、課題の理解が大きくずれている場合に実施する。該当する学生には、具体的な改善点を提示し、学習の方向性を修正できるよう支援する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス・なんのための生活行動か・構造学とは(講義・GW:高岡) 内容: ・シラバスの説明 ・なんのための生活行動か:生きているとはどういうことか ・どうして身体の構造を学ぶのか? 行動目標: ・ガイダンスの内容を基に、学習内容と学習方法が理解できる。 ・生命の営みと日常生活の関連が説明できる。 ・看護学において人体構造学を学ぶ意味が説明できる。	・シラバスを熟読する。 ・教科書②p1-2を熟読する。 ＊第1章何のための生活行動か ＊A生きているとはどういうことか ・教科書①p18-21を熟読する。 ＊1. 解剖学、生理学とは(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・自身の学習計画を立案する ・提出①:教科書③p2-3のからだの白地図を完成する。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第2回	全身像(講義:高岡) 内容:解剖学的用語 行動目標: ・解剖学的正位、方向の用語と断面を説明できる。 ・人体内の4つの腔所名と内部の臓器名を上げることができる。 小テスト①:教科書③p2-3のからだの白地図	・教科書①p22-29を熟読する。 ＊2. 解剖学的用語 ・上記のポイントをノートにまとめておく。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 - 提出②:教科書③p4-8を完成する。 ＊2体腔、3方向・断面の呼び方(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第3回	細胞(講義:高岡) 内容:細胞の構造 行動目標: ・人体を構成する4種類の主な元素と数種類の微量元素を上げることができる。 ・核の構造が説明できる。 ・細胞膜の構造が説明できる。 ワークシート	・教科書①p34-49を熟読する。 ＊細胞と組織 ・上記のポイントをノートにまとめておく。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 - 提出③:教科書①p34-35の細胞の一般的構造、細胞膜、核の図と名称を記載する。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		

第4回	組織(講義:高岡) 内容:4つの主要な組織の構造 行動目標: ・4種の主要な組織の構造が説明できる。 - 各組織が存在する人体の部位が特定できる。 ワークシート	・教科書①64-85を熟読する。 ＊人体を構成する4種の組織 ・上記のポイントをノートにまとめておく。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織が存在する人体の部位を確認してノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第5回	血液循環器(講義:菅原) 内容:物質を運搬するしくみ 行動目標: ・血液の機能が説明できる。 ・血液の成分が説明できる。	教科書①第3章p148-163を読む。(90分)	行動目標の自己評価を行う。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第6回	血液循環器(講義:菅原) 内容:血球と機能 行動目標: ・白血球の形態と機能が説明できる。 ・侵入物に対する防衛が説明できる。 小テスト②血液の成分と機能	教科書①第3章p164-167(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 提出④:教科書①p154-156 血液の機能と組成 p164-167 白血球の形態と機能についてまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		

第7回	血液循環器(講義:菅原) 内容:心臓の構造 行動目標: - 心臓の構造について説明できる。 - 血液の流入が説明できる。	教科書①第3章p186-193(90分)。	- 行動目標の自己評価を行う。 - 提出⑤:教科書③p27 やってみよう⑩を完成させる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第8回	血液循環器(講義:菅原) 内容:血管と循環 - 物質の流通路が説明できる。 - 血管の構造が説明できる。 - 主な動脈が説明できる。 小テスト③心臓の構造	教科書①第3章p186-209を読む。(90分)	- 行動目標の自己評価を行う。 - 提出⑥:教科書①p188-189の内容についてまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第9回	皮膚と膜(講義:木口) 内容:体や臓器を守るしくみ 行動目標: - 漿膜について構造学的に説明できる。 - 粘膜について構造学的に説明できる。 - 皮膚と皮膚の付属器について構造学的に説明できる。 - 体熱産生と体温について構造学的に説明できる。 ワークシート 漿膜・粘膜・皮膚と皮膚の付属器・体熱産生と体温についてのワークシートに取り組む。	教科書①pp442～462、488～497、教科書②pp2～3、pp14～16を読む。(90分)	- 行動目標の自己評価を行う。 - 提出⑦:体温の調節についてA4用紙1枚にまとめ提出する。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		

第10回	免疫系(講義:木口) 内容:異物を認識、記憶して排除するしくみ 行動目標: ・獲得免疫と自然免疫について構造学的に説明できる。 ・抗体の構造を説明できる。 小テスト④以下の範囲から出題 教科書①p448図10-13、p452図10-21、p458図10-26、p459図10-27	教科書①pp464～484、教科書②pp22～23を読む。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・提出⑧:獲得免疫系と自然免疫系についてA4用紙1枚にまとめ提出する。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第11回	体液～体内の水分を調節するしくみ(講義:横山) 内容:体液の分布と組成について、膠質浸透圧について、水分と電解質平衡について 行動目標: ・体液の分布と組成について説明できる。 ・体内の水分を調節するしくみについて説明できる。	教科書①第5章pp256～267、教科書②pp66～74を読む。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・提出⑨:講義内で提示した「ワークシート」に取り組み、提出する。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第12回	内分泌系①(講義:横山) 内容: ・内分泌系とホルモンについて ・脳、甲状腺、副甲状腺の構造とホルモン分泌器官について 行動目標 ・内分泌系の定義を説明できる。 ・内分泌系に関与する器官の構造を説明できる。 ・ホルモンのフィードバック機構について説明できる。 ・ホルモン分泌の調節を説明できる。 小テスト⑤:体液の分布と組成について、体内の水分を調節する仕組みについて(ワークシートからも出題)	教科書①pp504～520、教科書②pp66～74を読む。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・正のフィードバック制御と負のフィードバック制御についてA4用紙1枚にまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		

第13回	内分泌系②(講義:横山) 内容:膵臓、副腎にあるホルモン分泌器官について 行動目標 ・膵臓、副腎の構造を説明できる。 ・膵島で作られるホルモンのうち、血糖調節に関わるホルモンの種類を説明できる。 ・副腎皮質ホルモンのうち、ストレス反応に関わるものについて説明できる。	教科書①pp521～527、教科書②pp66～74を読む。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・提出⑩:講義内で提示した「ワークシート」に取り組み、提出する。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第14回	内分泌系③(講義:横山) 内容: ・性腺、そのほかのホルモンを分泌する器官や組織について ・内分泌系の成長と老化について 行動目標: ・精巣・卵巣、腎臓、消化管の構造を説明できる。 ・性腺、そのほかの器官や組織から分泌されるホルモンについて説明できる。 ・レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系の血圧調節の機序を説明できる。 小テスト⑥:膵臓、副腎にあるホルモン分泌器官について(ワークシートからも出題)	教科書①pp528～535、教科書②pp22～23、pp190～192を読む。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系の血圧調節の機序を説明についてA4用紙1枚にまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第15回	確認テスト・フィードバック(テスト・講義) 内容: 確認テストと解説、14回分の講義のふりかえり 行動目標: 本講義のふりかえりができる。	今までの学習をふりかえり、確認テストに備える。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・今までの学習成果をいつでも見返せるように整理する。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト:6回×10点=60点(持ち込み不可) 確認テスト:1回×30点=30点(持ち込み不可) 事後学習:10回×1点=10点
その他	0	
教科書		
①武田裕子:ナースング・グラフィカ人体の構造と機能第4版、メディカ出版、2021 ②菱沼典子:看護形態機能学 生活行動からみるからだ第4版、日本看護協会出版会、2021 ③菱沼典子:看護形態機能学ワークブック 体験して考えるからだのいとなみ、日本看護協会出版会、2022		
参考文献		

- ① 佐藤達夫:新版からだの地図帳、講談社、2020
② 坂井建雄:系統看護学講座 専門基礎看護分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学、医学書院、2022

履修条件・留意事項等

- ・私語、必要時以外の携帯の使用を禁止する。
- ・学習は主体的に行う。
- ・提出物と小テストは定期試験と同等に扱う。
- ・やむを得ず欠席した場合は、必ず欠席届を提出する。
- ・やむを得ず遅刻、もしくは早退する場合は必ず教員へ申し出る。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能					
科目名		人体構造学Ⅱ				ナンバリング	2203
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子						
授業の位置づけ							
本科目はディプロマポリシーの「健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、看護の視点から人体を系統立てて理解し、観察力や判断力を高め、看護師としての実践能力を有した人材」育成につながる人体の構造を理解するために必要な基礎的知識を習得する。本科目は、「人体構造学Ⅰ」「人体機能学Ⅰ」をもとに、「人体機能学Ⅱ」と関連づけながら、日常生活行動における身体のしくみを学習し、「看護病態治療学」につなげる。							
授業の概要							
本科目は、健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、看護の視点から人体を系統立てて理解し、観察力や判断力を強化するため、看護の対象である人々の日常生活行動が継続され、生命が維持されるために必要な身体の構造を学ぶ。学習内容は、生命を維持するために必要な日常生活行動のうち「動く」「食べる」「息をする」「トイレに行く」「話す・聞く」「眠る」「お風呂に入る」「子どもを生む」の身体の仕組みについてである。							
到達目標							

1. 日常生活の維持に関連する器官・臓器の位置を説明できる。
2. 日常生活(動く・食べる・息をする・トイレに行く・話す・聞く)を行うために必要な器官・臓器の仕組みの関連性が説明できる。
3. 日常生活(眠る・お風呂に入る・子どもを産む)を行うために必要な器官・臓器の仕組みの関連性が説明できる。

授業の方法

PowerPoint と配布資料を用いて講義を行う。
コメントシートにより、授業の理解度を確認する(全7回)。

ICT活用

出席の確認や課題の提出に Google Classroom を活用する。

実務経験のある教員の教育内容

- ・22年間の脳神経外科病院の勤務経験から生活と看護を結び付けられるように指導する(辻)。
- ・医療機関における勤務経験から生活と看護を学べるように指導する(坂東)。
- ・医療機関、及び、地域包括支援センター、社会福祉協議会での看護活動から生活と看護を結びつけて学べるように指導する(小橋)。
- ・急性期病院、および訪問看護ステーション看護師としての勤務経験から、看護につなげる人体構造について授業を行う(初見)。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト、及び、確認テストのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 動く①【講義】(坂東・辻・小橋・初見) 骨の組織と構造について説明する。骨の種類、名称と部位、数、について説明する。 コメントシート①	教科書の第2章(P86～115)を読んで学習する。 (60分)	授業の内容について、自分のノートにまとめる。 (90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第2回	動く②【講義】(坂東・初見・辻・小橋) 筋の種類、身体の運動と骨格筋について説明する 小テスト1	教科書の第2章(P122～124、P132～142)を読んで学習する (60分)	授業の内容について、自分のノートにまとめる。 (90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第3回	呼吸器系の構造①(初見・坂東・辻・小橋) 目標:呼吸器系の全体像を描くことができる。副鼻腔の位置と名称を言える。喉頭軟骨の名称と位置を示すことができる。気管の構造と気管支左右の角度の違いを言える。右肺と左肺の肺葉の数を言える。 内容:気道と肺の構造 コメントシート②	教科書① p.210-227を読む。 教科書③p42(呼吸器の構造)p45(気道の構造)のワークを実施し呼吸器系の構造をイメージする。 (60分)	講義で指示した部位の構造をノートにスケッチし、名称を記入する。 (90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		

第4回	呼吸器系の構造②(初見・坂東・辻・小橋) 目標:気管支の壁の構造を説明できる。肺胞の構造を説明できる。 内容:気管支と肺胞の構造、縦郭の構造 小テスト2	教科書① p.228-234を読む (60分)	講義で指示した部位の構造をノートにスケッチし、名称を記入する。 (90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第5回	尿をつくる【講義】(小橋・初見・辻・坂東) 尿をつくる仕組み(腎臓・尿管)/ 排尿・体液量調節の機能 コメントシート③	教科書①p.268 -282を学習する 教科書②p.145-149を学習する。 教科書③ p.47を学習する。 人体構造学Ⅰと人体機能学Ⅰの体液調整について復習する。 (60分)	尿がどのように生成されるのか、体内の体液量はどのように調整されるのかについて、ノートにまとめる。 (90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第6回	尿意を感じてからトイレに行く【講義】(小橋・初見・辻・坂東) 排尿のメカニズム(膀胱容量・支配神経と膀胱平滑筋・尿道括約筋) 小テスト3	教科書①p.283-289を学習する 教科書②p.139-144を学習する。 教科書③ p.49-50を学習する。 (60分)	尿意はどのように生じて、体外へ排出されるのかについて、ノートにまとめる。 (90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		

第7回	確認テスト①(初見・小橋・辻・坂東) まとめ:確認テスト①について解説する	第1回～第6回の授業内容を復習する (60分)	確認テストで間違った問題を復習する. (90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第8回	食べる―消化する―【講義】(坂東・初見・辻・小橋) 食欲がわき、食べ物を口にいれ、咀嚼し味わい飲み込み、消化するまでのプロセスについて、消化管の構造を中心に口から胃までを説明する。 コメントシート④	教科書の第7章(P.292～316)、教科書②のP109～117を読んで学習する. (60分)	授業の内容について、自分のノートにまとめる. (90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第9回	食べる―栄養を吸収する―【講義】(坂東・初見・辻・小橋) 胃で消化された栄養が小腸で吸収・代謝され、身体の各臓器に運ばれ、便が形成され排出されるまでに通る器官について説明する。 小テスト4	教科書①の第7章(P.317～341)、教科書②のP119～125を読んで学習する. (60分)	授業の内容について、自分のノートにまとめる. (90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		

第10回	神経系【講義】 学習内容:神経系の分類・神経組織の構造・中枢神経系 行動目標:なぜ、人が眠るのか説明できる。 コメントシート⑤	教科書①のP342～381までを熟読し学習する。(90分)	授業内容をノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第11回	神経系【講義】 学習内容:末梢神経・神経系の成長と老化、神経系の障害 行動目標:末梢神経・神経系の成長と老化、神経系の障害が説明できる。 小テスト5	教科書①P382～399までを熟読し学習する。(90分)	授業内容をノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第12回	感覚器系【講義】 学習内容:感覚器系とは・視覚・聴覚と平衡覚 行動目標:感覚器系と視覚と聴覚が説明できる。 コメントシート⑥	教科書①P400～425までを熟読し学習する。(90分)	授業内容をノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		

第13回	皮膚の構造【講義】(小橋) 学習内容:皮膚の構造(表皮・真皮・皮下組織), 漿膜や粘膜の構造, 温点・冷点 学習目標:皮膚の構造(表皮・真皮・皮下組織), 漿膜や粘膜の構造, 温点・冷点を説明できる。 小テスト6	教科書①P438～454までを熟読し学習する。(90分)	授業内容をノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第14回	生殖器系の構造(初見・坂東・辻・小橋) 目標:男性・女性生殖器を構成する器官の構造を説明できる。 内容:男性生殖器および付属生殖腺の構造, 男性生殖器の神経支配, 精子の構造, 女性生殖器(子宮, 卵巣, 卵巣付属器, 乳房)の構造, 妊娠期の女性生殖器・胎盤の構造 小テスト7	教科書① p.p538, 540, 544-553,574-579 教科書② p.192を読む。教科書③ p65-66のワークを実施する。(60分)	講義で指示した部位の構造をノートにスケッチし, 名称を記入する。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第15回	確認テスト②(小橋・辻・坂東・初見) まとめ:確認テストについて解説する	第8回～第14回の講義の復習をする。(60分)	確認テスト②で間違った問題を復習する。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(事後学習の提出):26%(13回×2%) 小テスト:35%(7回×5%) 確認テスト:39%
その他	0	
教科書		
① 林正健二:ナースングラフィカ人体の構造と機能 第5版, メディカ出版, 2023. ② 菱沼典子:看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版, 日本看護協会出版会, 2021 ③ 菱沼典子:看護形態機能学ワークブック 体験して考えるからだのいとなみ, 日本看護協会出版会, 2022		
参考文献		

- ① 佐藤達夫 監修:新版 からだの地図帳, 講談社, 2013
② 坂井建雄:系統看護学講座 専門基礎看護分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学, 医学書院, 2022.

履修条件・留意事項等

- ・私語, 必要時以外の携帯電話の使用を禁止します。
- ・主体的に学習に取り組んでください。
- ・人体構造学Ⅱとのつながりが強い科目のため、人体構造学Ⅱの復習を十分に行って授業に臨んでください。
- ・課題やテストが毎回ありますので、欠席や遅刻をしないようスケジュール管理を十分に行ってください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能					
科目名		人体機能学Ⅰ				ナンバリング	2210
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世						
授業の位置づけ							
本科目は「看護を行うために知っておくべき人体の構造と機能を学ぶ」に位置づけられ、ディプロマポリシーの「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解を高め、看護師としての実践能力を有している」人材育成につながる基本的な人体の構造を理解するために必要な基礎知識を習得する。本科目と「人体構造学Ⅰ」「人体構造学Ⅱ」「人体機能学Ⅱ」「免疫学」「看護栄養学」によって人体の構造と機能を学習する。これらの科目を基盤として「疾病の成り立ちと回復の促進」に配置した科目の「看護病態治療学Ⅰ～Ⅳ」につなげる。							
授業の概要							
本科目は、健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、看護の視点から人体を系統立てて理解し、観察力や判断力を強化することで、看護の対象である人々の日常生活行動が継続され生命維持に必要な身体の機能を学ぶ。学習内容は、生命を維持するために必要な日常生活動作のうち「内部環境の恒常性」「恒常性を維持するための物質の流通と調節機構」の身体の働きである。							
到達目標							

- ・生命の営みそのものが日常生活であることが理解できる。
- ・内部環境と外部環境を区別している皮膚の役割と働きが説明できる。
- ・内部環境を構成している細胞や体液の役割と働きが説明できる。
- ・恒常性を維持するため物質の、流通に必要な血液と血管、リンパ管、脾臓、心臓の役割と働きを説明できる。
- ・恒常性を維持するための、調節に必要な神経やホルモンの役割と働きを説明できる。

授業の方法

授業の方法は、講義形式、グループワークと発表を活用して行う。教材は、教科書と担当教員が作成した資料である。本科目は、理解度を確認するための小テスト(全6回)と確認テスト(1回)、事前事後学習の確認(10回)によって評価する。

ICT活用

- ・Google classroomを活用して講義関連連絡や課題提出を行う。
- ・Google formのアンケート作成機能を用いてアンケートを行う。

実務経験のある教員の教育内容

- ・総合的な病院において看護師として約7年間勤務した経験の中で、ケアを行った経験を活かして授業を行う(高岡)。
- ・小児科・NICUでの臨床経験や知識を活かした講義を行う(横山)。
- ・病院にて看護師として、循環器外科の経験があり、この経験を活かし、授業を行う(木口)。
- ・小児科・呼吸器、循環器(内科)での臨床経験や知識を活かした講義を行う(菅原)。

課題に対するフィードバックの方法

本授業では提出された課題に対し、共通フィードバックを中心に実施し、全体の理解を深める。具体的には、授業内で優れた回答やよくある誤解を共有し、解説を行うことで全体の学習効果を高める。また、個別のフィードバックは、単位取得が危うい場合や、課題の理解が大きくずれている場合に実施する。該当する学生には、具体的な改善点を提示し、学習の方向性を修正できるよう支援する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス・なんのための生活行動か・機能学とは(講義・GW:高岡) 内容: ・シラバスの説明 ・なんのための生活行動か:生きているとはどういうことか ・どうして身体の機能を学ぶのか? 行動目標: ・ガイダンスの内容を基に、学習内容と学習方法が理解できる。 ・生命の営みと日常生活の関連が説明できる。 ・看護学において人体機能学を学ぶ意味が説明できる。	・シラバスを熟読する。 ・教科書②p1-2を熟読する。 ＊第1章解剖学、生理学とは ＊A生きているとはどういうことか ・教科書①p18-21を熟読する。 ＊1解剖学・生理学とは (90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・自身の学習計画を立案する。 ・本日の学習内容をノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第2回	全身像(講義:高岡) 内容: ・ホメオスタシス(恒常性) ・フィードバック機構 行動目標: ・ホメオスタシスの意味を説明できる。 ・フィードバック機構の構成要素が説明できる。 ・人体におけるフィードバック機構の役割が説明できる。 ワークシート	・教科書①p30-33を熟読する。 ＊3ホメオスタシス(恒常性) ＊4フィードバック機構 ・上記のポイントをノートにまとめておく。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・提出①:教科書③p29-31(2恒常性維持のための調節機構)を完成する。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第3回	細胞(講義:高岡) 内容:細胞の機能 行動目標: ・核の機能が説明できる。 ・細胞膜の機能が説明できる。 ・細胞内小器官の機能が説明できる。 ・体細胞の分裂と生殖細胞の分裂(減数分裂)が説明できる。 小テスト①:教科書③p29-31	・教科書①p50-63を熟読する。 ＊細胞の機能 ＊細胞の分化と成長、老化 ・上記のポイントをノートにまとめておく。(90分)。	・行動目標の自己評価を行う。 ・教科書①p56-57(細胞周期の絵を書いたうえで各期の説明を記載する。教科書①p59図1-20減数分裂を転記する(説明9も含む)。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		

第4回	組織(講義:高岡) 内容:4つの主要な組織の機能 行動目標: ・4つの主要な組織の機能が説明できる。 ワークシート	・教科書①p64-85を熟読する。 ・*2人体を構成する4種の組織 ・上記のポイントをノートにまとめておく。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・提出③:教科書③p9-13(4からだをつくる4つの組織)を完成する。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第5回	血液循環器(講義:菅原) 内容:物質を運搬するしくみ 行動目標: ・骨髄と造血について説明できる。 ・赤血球とその機能が説明できる。	教科書①第3章 P94-95 P160-163 (90分)	・行動目標の自己評価を行う。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第6回	血液循環器(講義:菅原) 内容:血液型と輸血 行動目標: ・血小板の機能と血液凝固について説明できる。 ・ABO式血液型が説明できる。 ・輸血に際しての交差適合試験 小テスト② 赤血球の機能	教科書①第3章p164-172(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・提出④:教科書①p160-163 赤血球とその機能、p168-169血小板と血液凝固についてまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		

第7回	血液循環器(講義:菅原) 内容:心臓 行動目標: - 心臓の機能を説明できる。 - 血圧を説明できる。	教科書①第3章p173-185を読む。(90分)	- 行動目標の自己評価を行う。 - 教科書③p28やってみよう②⑩を完成させる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第8回	血液循環器(講義:菅原) 内容:血管と循環 - 門脈系が説明できる。 - 胎児循環が説明できる。 - 全身のリンパ管の構造と機能を説明できる。 小テスト③:刺激伝導系について	教科書①第3章p186-209を読む。(90分)	行動目標の自己評価を行う。 提出⑤:教科書①P198-199 p204-205の内容をまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第9回	皮膚と膜(講義:木口) 内容:体や臓器を守るしくみ 行動目標 - 漿膜について機能学的に説明できる。 - 粘膜について機能学的に説明できる。 - 皮膚と皮膚の付属器について機能学的に説明できる。 - 体熱産生と体温について機能学的に説明できる。 ワークシート 漿膜・粘膜・皮膚と皮膚の付属器・体熱産生と体温についてのワークシートに取り組む。	教科書①pp442～462、pp488～497、教科書②pp2～3、pp14～16を読む。(90分)	- 行動目標の自己評価を行う。 - 提出⑥:毛・爪・脂腺・汗腺が皮膚の機能にどのように関与しているかについてA4用紙1枚にまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		

第10回	免疫系(講義:木口) 内容:異物を認識、記憶して排除するしくみ 行動目標 ・獲得免疫と自然免疫について機能学的に説明できる ・抗体の機能を説明できる 小テスト④ 教科書① p455～456 皮膚の機能	・教科書①pp464～484、教科書②pp22～23を読む。 ・教科書②pp2～3、pp14～16を読む。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・提出⑦:獲得免疫系と自然免疫系についてA4用紙1枚にまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第11回	体液～体内の水分を調節するしくみ(講義:横山) 内容:酸塩基平衡について、脱水について 行動目標: ・酸塩基平衡について説明できる。 ・アシドーシスとアルカローシスについて説明できる。	教科書①第5章pp256～267、教科書②pp4～12を読む。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・提出⑧:「水分と電解質平衡」「アシドーシスとアルカローシス」について学んだことをA4版用紙1枚にまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第12回	内分泌系①(講義:横山) 内容: ・ホルモンの作用機序について ・脳、甲状腺、副甲状腺から分泌されるホルモンの調節と作用について 行動目標: ・恒常性維持のためのホルモンの仕組みについて説明できる。 ・視床下部ホルモンと下垂体ホルモンの関係を説明できる。 ・カルシトニンと副甲状腺ホルモンの関係を説明できる。 小テスト⑤:酸塩基平衡について	教科書①pp504～520、教科書②pp66～74を読む。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・提出⑨:カルシトニンと副甲状腺ホルモンの関係についてA4用紙1枚にまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		

第13回	内分泌系②(講義:横山) 内容:膵臓、副腎にあるホルモン分泌器官について 行動目標 ・膵島で作られるホルモンのうち、血糖調節に関わるホルモンの作用について説明できる。 ・副腎皮質ホルモンのうち、ストレス反応に関わるホルモンの作用について説明できる。	教科書①pp521～527、教科書②pp66～74を読む。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・提出⑩:講義内で提示した「ワークシート」に取り組み、提出する。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第14回	内分泌系③(講義:横山) 内容: ・性腺、そのほかのホルモンを分泌する器官や組織について ・内分泌系の成長と老化について 行動目標 ・性腺、そのほかの器官や組織から分泌されるホルモンの作用機序を説明できる ・レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系の血圧調節の機序を説明できる 小テスト⑥:血糖調節について、ストレス反応について 教科書① pp521～523	教科書①pp528～535、教科書②pp22～23、pp190～192を読む。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・第二性徴における性腺ホルモンの役割についてA4用紙1枚にまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
第15回	確認テスト・フィードバック(テスト・講義) 内容: 確認テストと解説、14回分の講義のふりかえり 行動目標: 本講義の振り返りができる。	今までの学習を振り返り、確認テストに備える。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・今までの学習成果をいつでも見返せるように整理する。(90分)
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、菅原 美保、横山 佳世		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・小テスト:6回×10点=60点(持ち込み不可) ・確認テスト:1回×30点=30点(持ち込み不可) ・事後学習:10回×1点=10点
その他	0	なし
教科書		
① 武田裕子:ナースング・グラフィカ人体の構造と機能第5版、メディカ出版、2023 ② 菱沼典子:看護形態機能学 生活行動からみるからだ第4版、日本看護協会出版会、2021 ③ 菱沼典子:看護形態機能学ワークブック 体験して考えるからだのいとなみ、日本看護協会出版会、2022		
参考文献		

- ① 佐藤達夫:新版からだの地図帳、講談社、2020
② 坂井建雄:系統看護学講座 専門基礎看護分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学、医学書院、2022

履修条件・留意事項等

- ・私語、必要時以外の携帯の使用を禁止する。
- ・学習は主体的に行う。
- ・提出物と小テストは定期試験と同等に扱う。
- ・やむを得ず欠席した場合は、必ず欠席届を提出する。
- ・やむを得ず遅刻、もしくは早退する場合は必ず教員へ申し出る。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能					
科目名		人体機能学Ⅱ				ナンバリング	2211
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子						
授業の位置づけ							
本科目はディプロマポリシーの「健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、看護の視点から人体を系統立てて理解し、観察力や判断力を高め、看護師としての実践能力を有した人材」育成につながる人体の構造を理解するために必要な基礎的知識を習得する。「人体構造学Ⅰ」と「人体機能学Ⅰ」をもとに、「人体構造学Ⅱ」と関連づけながら、生命を維持するために必要な日常生活行動における身体の機能を学習し、「看護病態治療学」につなげる。							
授業の概要							
本科目は、健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、看護の視点から人体を系統立てて理解し、観察力や判断力を強化することで、看護の対象である人々の日常生活行動が継続され生命維持に必要な身体の機能を学ぶ。 学習内容は、生命を維持するために必要な日常生活動作のうち、「動く」「食べる」「息をする」「トイレに行く」「話す聴く」「眠る」「お風呂に入る」「子どもを生む」の身体の働きである。							
到達目標							

1. 生命維持に直結する(動く・食べる・息をする・トイレに行く・眠る)に必要な身体の状態を説明できる.
2. 日常生活(動く・食べる・息をする・トイレに行く・話す聴く)を営むための器官・臓器の働きを説明できる.
3. 日常生活(眠る・お風呂に入る・子どもを生む)を営むための器官・臓器の働きを説明できる.

授業の方法

講義の後に、グループでの演習もしくは個人ワークを行う

ICT活用

出席の確認や課題の提出に Google Classroom を活用する.

実務経験のある教員の教育内容

- ・22年間の脳神経外科病院の勤務経験から生活と看護を結び付けられるように指導する(辻).
- ・医療機関における勤務経験から生活と看護を学べるように指導する(坂東).
- ・医療機関, 及び, 地域包括支援センター, 社会福祉協議会での看護活動から生活と看護を結びつけて学べるように指導する(小橋).
- ・急性期病院, および訪問看護ステーション看護師としての勤務経験から, 看護につなげる人体機能について授業を行う(初見).

課題に対するフィードバックの方法

小テスト, 及び, 確認テストのフィードバックを行う.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイドダンス 動く①【演習】(坂東・辻・小橋・初見) 目標:基本的な日常生活での動きで、関節がどのように動いているのかについて確認できる 内容:関節の種類と動き方について説明する。椅子に座る、しゃがむ、立ち上がるなどの動作時に、どの関節がどの程度動いているのか体験的に学ぶ。	教科書①の第2章(P116～121)、教科書②(P104～107)を読んで学習する(60分)	授業の内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第2回	動く②【演習】(坂東・辻・小橋・初見) 目標:筋肉がどのように収縮・弛緩しているのか、筋肉の種類による動き方の特徴を説明できる 内容:動くことが人の身体や精神に及ぼす影響についてグループで考える 小テスト1	教科書①の第2章(P125～131)を読んで学習する(60分)	授業の内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第3回	呼吸器系の機能①(初見・坂東・辻・小橋) 目標:呼気と吸気のメカニズムを説明できる。発声のしくみを説明できる。肺活量とは何か、説明することができる。鼻腔での空気の温度調整、加湿のしくみが説明できる。咳と痰が出るしくみが説明できる。 内容:換気のしくみ、上気道(鼻孔～喉頭まで)の各機関の働き、生体防御機構について GW:腹式呼吸についてわかりやすく伝える。	教科書①p 236-241教科書②127-134、を読む。 人体構造学Ⅱ第3回の講義資料を読み、換気に関わる呼吸器の構造を復習する。(60分)	教科書③p45(スパイログラム)のワークを実施する。講義の内容(項目は授業で指示する)をノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		

第4回	呼吸器系の機能②(初見・坂東・辻・小橋) 目標:内呼吸・外呼吸とは何か説明できる。酸素と二酸化炭素の運搬を説明できる。酸素飽和度とは何か説明できる。呼吸調整のしくみを説明できる。呼吸のプロセスの全体像を説明することができる。 内容:内呼吸と外呼吸、ガス交換と呼吸調整のしくみ GW:教科書③p44やってみよう①～④ 小テスト2	教科書① p.235、242-250 教科書②p.10-13、p.135-137を読む 人体構造学Ⅱ第4回の講義資料を読み、ガス運搬に関わる呼吸器の構造を復習する。(60分)	教科書③ p.43のワークを実施する。講義の内容(項目は授業に指示する)をノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第5回	尿をつくる【演習】(小橋・辻・坂東・初見) 学習のねらい:事例を通じて、尿をつくる過程や体液調整の仕組みを理解できる 事例:水分をたくさん摂っても、身体がむくまないのはなぜか	教科書①p.268-282を学習する 教科書② p.139-149を学習する 教科書③ p.47-48を学習する。(60分)	尿を作る過程や体液調整について、根拠にもとづいてノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第6回	尿意を感じてからトイレに行く【演習】(小橋・初見・辻・坂東) 目標:事例を通じて、尿意を感じて排尿するまでのメカニズムを理解できる。 事例:尿意を感じたとき、トイレまで我慢できるのはなぜか? 小テスト3	教科書①p.283-289を学習する 教科書② p.139-149を学習する 教科書③ p.49-50を学習する。(60分)	尿意を感じて排尿するまでのメカニズムを、根拠にもとづいてノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		

第7回	確認テスト①(初見・小橋・坂東・辻) まとめ: 確認テスト①について解説する	第1回から第6回の講義内容を 復習する(60分)	確認テストで間違った問題を復 習する。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第8回	消化する【演習】(坂東・初見・辻・小橋) 目標: 食べ物が消化され、吸収できる形になるまでを説明 できる。食べることが心身に、どのような影響を及ぼすのか について説明できる 学習内容: あなたが考える楽しい食事とは? についてグル ープで検討する	人体構造学Ⅱの第8回の講義内 容を復習する(60分)	授業内容を自分のノートにまと める (90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第9回	栄養をとる【演習】(坂東・初見・辻・小橋) 目標: 栄養を吸収し、体で利用できる形に変化させ、各臓 器に送るプロセスについて説明できる。 学習内容: お腹が鳴るとき、身体の中で何が起きているの か? についてグループで検討する 小テスト4	教科書②のP126を飲んで学習 する。人体構造学Ⅱの第9回の 講義内容を復習する(60分)	食べ物の消化・吸収・排便まで のプロセスを、根拠にもとづいて ノートにまとめる。 (90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		

第10回	神経系【演習】(辻・小橋・初見・坂東) 学習内容:神経組織の機能 行動目標:GWを通し、人が眠るしくみを説明できる。	教科書②のP163～170までを熟読し学習する。(90分)	授業内容をノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第11回	神経系【演習】(辻・小橋・初見・坂東) 学習内容:話す・聞く 行動目標:GWを通し、人が話して、聞くということを説明できる。 小テスト5	教科書②P155～161までを熟読し学習する。(90分)	授業内容をノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第12回	感覚器系【演習】(辻・小橋・初見・坂東) 学習内容:外部から情報を取り入れるしくみと平衡感覚 行動目標:GWを通し、外部から取り入れるしくみと平衡感覚が説明できる。	教科書①P400～425までを熟読し学習する。(90分)	授業内容をノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		

第13回	皮膚と付属器の機能【講義】(小橋・辻・初見・坂東) 学習内容:皮膚による身体の保護(物理的・化学的・科学的刺激などの外部環境からの保護), 身体の支持, 毛器官などの付属器の機能等 学習目標:皮膚や毛器官等の機能を踏まえ, 入浴の効果や清潔ケアの注意点などを説明できる。 小テスト6	教科書①P442～463までを熟読し学習する。(90分)	授業内容をノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第14回	生殖器系の機能(初見・坂東・辻・小橋) 目標:性分化と男性・女性生殖器の機能について説明できる。妊娠・出産のしくみについて説明できる。 内容:遺伝による性分化, 精子の形成過程(減数分裂), 精子の産生から射精までのしくみ, 性ホルモンの機能, 女性の性周期と月経の機序, 受精～妊娠にいたるプロセス, ホルモンの変化, 出産時～出産後の女性生殖器の働きと体の変化 GW:基礎体温で卵巣の働きがなぜわかるのかをわかりやすく伝える。 小テスト7	教科書①p539, 541-543, 554-567, 571-573,580-581, 教科書② p.179-182, p183-193を読む。人体構造学Ⅱ第14回の講義資料を読み, 復習する。(60分)	講義内容を(項目は授業で指示する)ノートにまとめる。教科書③ p65, p67のワークを実施する。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
第15回	確認テスト②(小橋・坂東・辻・初見) まとめ: 確認テスト②について解説する	第8回から第14回の演習の復習をする。(60分)	確認テスト②で間違った問題を復習する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美、小橋 拓真、初見 温子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(事後学習の提出):26%(13回×2%) 小テスト:35%(7回×5%) 確認テスト:39%
その他	0	
教科書		
① 林正健二:ナースングラフィカ人体の構造と機能 第5版, メディカ出版, 2023. ② 菱沼典子:看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版, 日本看護協会出版会, 2021 ③ 菱沼典子:看護形態機能学ワークブック 体験して考えるからだのいとなみ, 日本看護協会出版会, 2022		
参考文献		

- ①佐藤達夫 監修:新版 からだの地図帳, 講談社, 2018
②坂井建雄:系統看護学講座 専門基礎看護分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学, 医学書院, 2022.

履修条件・留意事項等

- ・私語, 必要時以外の携帯電話の使用を禁止します。
- ・主体的に学習に取り組んでください。
- ・人体構造学Ⅱとのつながりが強い科目のため、人体構造学Ⅱの復習を十分に行って授業に臨んでください。
- ・課題やテストが毎回ありますので、欠席や遅刻をしないようスケジュール管理を十分に行ってください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能					
科目名		免疫学				ナンバリング	2258
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	澤谷 啓行						
授業の位置づけ							
本学ディプロマポリシーの「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」を達成するために、疾病の原因および治療における基礎的な知識を身につける科目である。「臨床検査概論」「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」と関連し、生体防御機構を習得するための科目である。看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につける科目である。学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけるための科目である。							

- ・免疫とは何かがわかる。
- ・感染症を起こす微生物の種類と特徴を挙げることができる。
- ・常在細菌叢の種類と生体防御における役割について説明できる。
- ・免疫担当細胞の種類と働きを説明できる。
- ・免疫系の破綻によりもたらされる様々な免疫関連疾患について説明できる。

授業の方法

パワーポイントや印刷物を用いて説明する。
必要に応じて確認テストやレポート作成を行う。

ICT活用

classroomの活用

実務経験のある教員の教育内容

病院勤務約15年間の経験(内科病棟・ICU・救急外来)と、感染管理分野の専門性を活かし、免疫について学生にイメージ化させられる。

課題に対するフィードバックの方法

講義中および講義後に質問を受け、次回の講義でフィードバックします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	＜免疫の概念・病原微生物＞ ・免疫の定義を理解する。 ・病原微生物の構造の違いなど、各病原微生物の特徴を理解する。	罹患したことがある感染症、興味のある病原微生物のまとめを行う。(90分)	各病原微生物の特徴のまとめを行う。(90分)
担当教員			
第2回	＜標準予防策・経路別感染予防策＞ ・標準予防策の特徴を理解する。 ・経路別感染予防策(接触感染予防策・飛沫感染予防策・空気感染予防策)の特徴を理解する。 ・各病原微生物に対して必要な経路別感染予防策を理解する。	標準予防策とは何か、経路別予防策とは何かのまとめを行う。(90分)	標準予防策、接触感染予防策、飛沫感染予防策、空気感染予防策の特徴のまとめを行う。(90分)
担当教員			
第3回	＜免疫システム:自然免疫＞ ・免疫システムの概要を理解する。 ・自然免疫の特徴を理解する。 ＜免疫システム:獲得免疫＞ ・獲得免疫である液性免疫の特徴を理解する。 ・獲得免疫である細胞性免疫の特徴を理解する。	免疫システム(自然免疫と獲得免疫)とは何かのまとめを行う。(90分)	自然免疫に関わる免疫細胞の特徴、液性免疫と細胞性免疫に関わる免疫細胞の特徴のまとめを行う。(90分)
担当教員			

第4回	<日和見感染症> ・医療関連感染の定義を理解する。 ・日和見感染症の定義を理解する。 ・代表的な日和見感染症と原因となる病原微生物を理解する。	医療関連感染、日和見感染症とは何かのまとめを行う。(90分)	代表的な日和見感染症と原因となる病原微生物のまとめを行う。(90分)
担当教員			
第5回	<ワクチン・アレルギー> ・ワクチンの種類(生ワクチン・不活化ワクチン)と特徴を理解する。 ・ワクチンの定期接種と任意接種の違いを理解する。 ・各型のアレルギーの発生機序と関連疾患の特徴を理解する。	興味があるワクチンとアレルギーのまとめを行う。(90分)	各ワクチンの特徴と各型のアレルギーの特徴のまとめを行う。(90分)
担当教員			
第6回	<自己免疫疾患> ・自己免疫疾患の定義を理解する。 ・代表的な自己免疫疾患(関節リウマチなどの膠原病他)とその特徴を理解する。 ・自己免疫疾患に関わる自己抗体の種類と特徴を理解する。	興味がある自己免疫疾患のまとめを行う。(90分)	全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、関節リウマチの特徴のまとめを行う。(90分)
担当教員			

第7回	＜ウイルス性肝炎・ヒト免疫不全ウイルス(HIV)と後天性免疫不全症候群(AIDS)＞ ・各型のウイルス性肝炎の特徴を理解する。 ・HIVおよびHIV感染症の特徴を理解する。 ・AIDSの特徴を理解する。	ウイルス性肝炎、HIVとAIDSとは何かのまとめを行う。(90分)	B型肝炎とC型肝炎の特徴、HIV感染症とAIDSの特徴のまとめを行う。(90分)
担当教員			
第8回	＜薬害被害＞ ・薬害被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史を知り、薬害問題について考えることができる ・薬害被害者や遺族への差別や偏見の問題について考えることができる	興味がある薬害被害(薬害問題)のまとめを行う。(90分)	薬害被害に対する自身の考えについてまとめを行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義後のミニテストの成績、レポートや欠席届等の提出物、および受講態度に基づいて総合的に判断する。
その他	0	なし。
教科書		
特に指定はなし。最初の講義で推奨するテキストを紹介する。		
参考文献		
なし。		
履修条件・留意事項等		

欠席した場合は、欠席届を提出する。

備考欄

なし。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能					
科目名		看護栄養学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	松本 信子						
授業の位置づけ							
看護の対象者が、病気の治療に伴うセルフケアを行うために必要な栄養・食事療法を行うための基本的な知識を学び専門科目の基礎となる。ディプロマ・ポリシーの「康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象 理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。							

- ・栄養状態の評価に必要な基本的な指標、臨床検査値、身体測定などについて説明できる。
- ・栄養補給法の概略について説明できる。
- ・主な疾患と栄養学的対策との関連を理解し説明できる。
- ・学生自らの基礎代謝量を知り、推定エネルギー必要量を算出できる。
- ・多職種で取り組む栄養管理について説明できる。

授業の方法

パワーポイントと教科書、配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

Googleクラスルームを使用し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

医療機関にて、管理栄養士として臨床に携わった経験を活かし、チーム医療での役割・栄養管理のあり方など実際に基づいて授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

まとめのレポートにコメントを添えて返却します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の概要と到達目標を説明する。 病院食の概要：一般食、治療食、検査食、食形態について	教科書により病院給食の意義と種類を学習し、授業に備える。(120分)	食事療法の意義についてまとめる。(120分)教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。
担当教員	松本 信子		
第2回	栄養補給法と補給ルート:経腸栄養法、静脈栄養法とそれぞれの合併症と必要栄養量の求め方について	経腸栄養、静脈栄養について教科書を読み授業に備える。(120分)	食事療法の意義についてまとめる。(120分)教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。
担当教員			
第3回	代謝性疾患の栄養・食事療法 糖尿病の食事療法	糖尿病の食事療法について、教科書を読み授業に備える。(120分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員			

第4回	循環器疾患の栄養・食事療法 動脈硬化の危険因子と生活習慣病の発症 高血圧症、心疾患、脳血管疾患の病態に応じた食事療法	循環器疾患の食事療法について、教科書を読み授業に備える。(120分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員			
第5回	腎疾患の栄養・食事療法 慢性腎臓病、腎不全、人工透析の病期に応じた食事療法	腎臓疾患の食事療法について、教科書を読み授業に備える。(120分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員			
第6回	場面別の栄養管理 がんの食事療法について	がんの食事療法について、教科書を読み授業に備える。(120分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員			

第7回	チームで取り組む栄養管理 栄養サポートチームについて	チームで取り組む栄養管理 について、教科書を読み授業に備える。(120分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員			
第8回	術前後の栄養管理 消化管術前後の栄養・食事療法の留意点 確認テスト及び授業のまとめ	術前後の栄養管理 について、教科書を読み授業に備える。(180分)	教科書や講義の内容をまとめて復習する。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト 50% まとめのレポート 30% 授業への参加度 20%
その他	0	
教科書		
系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能③ 医学書院		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		

この授業を履修することで、病院の栄養管理について関心を深めて下さい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		メンタルヘルス				ナンバリング	2338
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	藤村 恵理子、井上 仁美						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「健康状態やその変化に応じた看護に必要な看護となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している」とことと特に関係がある科目である。また、「看護過程の展開や臨床判断に必要な問題探求力・問題解決能力を有している」とも関係する科目である。教養科目の「心理学概論」と連携しており、「精神看護学の基礎」「精神看護学の展開Ⅰ・Ⅱ」に関連する科目である。							
授業の概要							
本科目は、健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、臨床心理学の基本的な理解の枠組みを学ぶことを通して、心理臨床的支援に関わる関係者との共通なベースを構築していくための手がかりを提供する。学習内容は①臨床心理学の歴史と背景、②カウンセリングの理論と実際、③遊戯療法・音楽療法・家族療法に関する理論と実際である。さらに、学習を深めるために、ロールプレイ実習および臨床をあとづけていくための分析法の実習を組み入れて演習を実施する。							
到達目標							

1. 臨床心理学の基本的な理論を学び、自己理解と他者理解について述べることができる
2. 人々が抱える様々なメンタルヘルスの現状を理解し、メンタルヘルスについて論じることができる
3. メンタルヘルスに関する基本的な知識を身につけ、メンタルヘルスを健康に保てるよう具体的なアプローチを実践できる

授業の方法

授業担当者が作成した資料を受講生に配布しパワーポイントを用いて講義する。適宜メディア学習を取り入れる。ゲストスピーカーによる講義やグループによる体験学習・演習、ディスカッションやプレゼンテーションなど多様な方法を通して授業を展開していく。学んだ知識の定着を促進するために授業開始時または終了前に確認テストを行いGoogle Classroomで指定した準備・事後学習を提出することで学びを深める。ゲストスピーカーの講義の後には自分の考えを課題レポートとして提出する。演習では課題に関してパワーポイントを用いてプレゼンテーションし、学びを共有する。体験学習・演習の後にはワークシートで振り返り理解を深める。

ICT活用

適宜メディア学習を取り入れる。レポート課題や事前学習・事後学習の提出、フィードバックはGoogle Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

精神保健看護で看護師として実務経験のある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

確認テスト回収後に講義時間内またはGoogle Classroomで行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業開始のガイダンス:授業の位置づけ、概要、目標方法、留意事項等についての説明を行う。メンタルヘルスの概念を整理し、ストレスとはどのようなものか、心と体の関連について学習する。	シラバスを読んで授業の概要を把握しておくこと。自分が感じているストレスについて振り返ってみること(60分)	次回の授業で確認テストを行うため、レジュメを復習する。配布した資料の該当箇所をまとめたノートを作成し、Google Classroomに提出すること(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第2回	臨床心理学の歴史と背景:メンタルヘルスを臨床心理学の視点から学習していくための基礎的な知識を学習する。臨床心理学の成り立ちについて、臨床心理学とはどのような学問なのか、その特徴や方法について理解する。あわせて臨床心理学と近接した学問領域についてどのような領域があるのかを学ぶ。 カウンセリングの理論と実際:エリック・バーンによって提唱された交流分析について学習する。実際にエゴグラムを用いて自身の心の状態を知り、自己理解を深める。授業開始時に確認テスト①(第1回目の内容)を行う。	臨床心理学について自分なりに調べておくこと、自己理解というキーワードについて整理しておくこと(90分)	次回の授業で確認テストを行うため、レジュメを復習する。配布した資料の該当箇所をまとめたノートを作成し、Google Classroomに提出すること(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第3回	カウンセリングの理論と実際:精神分析学の創始者であるジークムント・フロイトによって提唱された精神分析に関わる理論を学習する。あわせてエリクソンやピアジェによる精神発達に関する理論についても理解を深める。授業開始時に確認テスト②(第2回目の内容)を行う。	パーソナリティというキーワードについて調べておくこと(90分)	次回の授業で確認テストを行うため、レジュメを復習する。配布した資料の該当箇所をまとめたノートを作成し、Google Classroomに提出すること(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		

第4回	カウンセリングの理論と実際:カール・ロジャーズが提唱した来談者中心療法と心理療法の中心的位置を占める認知行動療法の基本的な知識とアプローチの方法について、ロールプレイを取り入れながら学習する。授業開始時に確認テスト③(第3回目内容)を行う。	傾聴、共感、自己一致、自動思考というキーワードについて調べておくこと(90分)	次回の授業で確認テストを行うため、レジュメを復習する。配布した資料の該当箇所をまとめたノートを作成し、Google Classroomに提出すること(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第5回	遊戯療法と音楽療法に関する理論と実際:子どもを対象とした遊戯療法の基本的な知識と方法について事例を紹介しながら理解する。音楽療法の基本的な知識と心と体どのように作用するかを学習する。医療・福祉・教育の場で実践する音楽療法の方法を理解する。授業開始時に確認テスト④(第4回目内容)を行う。	遊びとは何か調べておくこと。子どもの発達段階について整理しておくこと(90分)	次回の授業で確認テストを行うため、レジュメを復習する。配布した資料の該当箇所をまとめたノートを作成し、Google Classroomに提出すること(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第6回	家族療法に関する理論と実際:家族療法の発展の流れと理論家の治療技法を理解し、家族への支援方法を学ぶ。ここでは家族の感情コントロールのトレーニングとしてアンガーマネジメントについても学習する。授業開始時に確認テスト⑤(第5回目内容)を行う。	EE(感情表出:Expressed Emotion))というキーワードについて調べておくこと(90分)	確認テストを行うため、レジュメを復習する。配布した資料の該当箇所をまとめたノートを作成し、Google Classroomに提出すること(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		

第7回	ゲストスピーカー(精神看護専門看護師:坂東敬一先生)による講義①:青年期に陥りやすい若年層の死因第一位である自殺の現状および自殺対策による予防とケアについて学習する。終了後、リアクションペーパーと期日までにレポート課題を提出する。	青年期における自殺の現状について調べておくこと(90分)	課題に関するレポートを作成し、Google Classroomに提出すること(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第8回	ゲストスピーカー(精神看護専門看護師:坂東敬一先生)による講義②:看護師の様々な資格や(リエゾン)精神看護専門看護師の活動を知り、受講生が看護師としてのキャリアビジョンを見出すことができる。医療機関におけるメンタルヘルスケアの実際を理解する。終了後、リアクションペーパーと期日までにレポート課題を提出する。	リエゾンというキーワードについて調べておくこと(90分)	課題に関するレポートを作成し、Google Classroomに提出すること(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第9回	ゲストスピーカー(精神看護専門看護師:坂東敬一先生)による講義③:病院で働く多職種に対するメンタルヘルスケア、看護師が行っているセルフメンテナンス、地域におけるメンタルヘルスの現状とメンタルヘルスケアの実際について理解する。終了後、リアクションペーパーと期日までにレポート課題を提出する。	バーンアウト、リアリティショックというキーワードについて調べておくこと(90分)	課題に関するレポートを作成し、Google Classroomに提出すること(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		

第10回	心の健康を維持・増進するための方法について学ぶ。体のメカニズムを結びつけながら理解していく。授業開始時に確認テスト⑥(第6回目内容)を行う。	メンタルヘルス不調とリラクゼーションの関連について調べておくこと(90分)	次回の授業で確認テストを行うため、レジュメを復習する。配布した資料の該当箇所をまとめたノートを作成し、Google Classroomに提出すること(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第11回	グループによる体験学習:心の健康を保持・増進するためのケアの実践ではアロマオイルを用いたハンドマッサージを体験する。個人で実施した後に受講生同士でも実施し合い、感じたことや考えたことをワークシートで振り返る。終了時、ワークシートを提出する。授業開始時に確認テスト⑦(第10回目内容)を行う。	「アロマセラピー」について調べておくこと(90分)	課題に関するワークシートを作成し、提出すること。配布資料を読んでこれまでの学習のまとめを行うこと(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第12回	グループによる演習①:各グループに分かれてメンタルヘルスを保つためのリラクゼーション技法と効果について考える。資料とパワーポイントを作成する。授業開始時に確認テスト⑧(第1,2,3,4,5,6,10回目内容)を行う。	各自でメンタルヘルスを保つためのリラクゼーション技法について考えておくこと。配布資料を読んでこれまでの学習のまとめを行うこと(90分)	メンタルヘルスを保つためのリラクゼーション技法と効果について整理しておくこと。グループワークで示された課題について各自で進める(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		

第13回	グループによる演習②:各グループに分かれてメンタルヘルスを保つためのリラクゼーション技法と効果について考える。資料とパワーポイントを作成する。終了時に資料を提出する。	各グループでメンタルヘルスを保つためのリラクゼーション技法と効果についてプレゼンテーションできるように準備する。資料を整理する(90分)	メンタルヘルスを保つためのリラクゼーション技法と効果について整理しておくこと。グループワークで示された課題について各自進める(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第14回	グループによる演習③:前半発表グループのメンタルヘルスを保つためのリラクゼーション技法と効果についてパワーポイントでプレゼンテーションする。ワークシートで学びを振り返る。ニーズに応じた技法の選択について理解する。終了時にワークシートを提出する。	メンタルヘルスを保つためのリラクゼーション技法と効果について調べておくこと(90分)	前半発表グループのメンタルヘルスを保つためのリラクゼーション技法と効果を復習しておくこと(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第15回	グループによる演習④:後半発表グループのメンタルヘルスを保つためのリラクゼーション技法と効果についてパワーポイントでプレゼンテーションする。ワークシートで学びを振り返る。ニーズに応じた技法の選択について理解する。終了時にワークシートを提出する。	メンタルヘルスを保つためのリラクゼーション技法と効果について調べておくこと(90分)	後半発表グループのメンタルヘルスを保つためのリラクゼーション技法と効果を復習しておくこと。配布資料を読んでこれまでの学習のまとめを行うこと(90分)
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト:45%(5点満点×7回・10点満点×1回)、ゲストスピーカー講義レポート:15%(5点満点×3回)、体験学習ワークシート:10%(5点満点×2)グループワーク演習の成果内容・発表およびワークシート:30%(25点満点・5点満点)、評価基準は授業内に提示する。確認テストは授業開始時または終了前に実施する。ゲストスピーカーによる講義の後にテーマを設定してレポートを課す。授業の回の予習およびレジュメによる復習を手書きで作成した自己学習ノートを期限内にGCのフォームに提出した場合は内容と量で1～3点を加点する。
その他	0	
教科書		
教科書は使用しない。必要な資料は授業担当者が作成して、その都度配布する。		
参考文献		

面白いほどよくわかる！臨床心理学 / 下山晴彦 / 西東社
適宜、授業やGCで紹介する。

履修条件・留意事項等

グループワークの取り組みが重視されるので積極的な参加が求められる。確認テストは遅刻や欠席をすると受けられないので0点となる。レポート課題等の期日迄の未提出も同様である。確認テストはレジュメや自己学習ノートを持ち込みは可。ゲストスピーカーの来校の都合上、講義の回の順番及び日程が変更になることがある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		病理学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
看護学・栄養学に必要な病理学の基礎的知識・技能を身につけるための科目である。 看護学科においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】健康状態やその変化に応じた看護に必要な、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。」と特に関係がある科目である。「免疫学」「医療概論」「人体構造学Ⅰ」「人体構造学Ⅱ」「人体機能学Ⅰ」「人体機能学Ⅱ」と関連し、「看護病態治療学Ⅰ」「看護病態治療学Ⅱ」「看護病態治療学Ⅲ」「看護病態治療学Ⅳ」「臨床検査概論」の基礎となる。 健康栄養学科においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】データサイエンスを理解・活用し、科学的根拠に基づき、食環境および生活の質(Quality Of Life:QOL)向上に貢献するために必要な能力を身につけている。」と関係する科目である。「解剖学」「生理学」「運動生理学」「病態生理学」「生化学」「免疫と食物アレルギー」と関連し、「臨床医学概論」の基礎となる。							
授業の概要							
健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、病気が起こる原因やその発症のメカニズム、細胞・組織傷害、細胞死と老化、先天異常と遺伝病、代謝障害、循環障害、腫瘍など原因や機序別に分けて総論を学ぶ。その総論を基礎として各臓器ごとにその代表的疾患の発症機序や病態などの各論を学習する。							
到達目標							

1. 病院病理の役割や病理診断の意義、加えて病理解剖の意義を説明できる。
2. 細胞傷害および細胞死の分類や機序、その形態的特徴を述べることができる。
3. 先天異常や遺伝性疾患、代謝異常、循環障害、腫瘍について、それぞれの病態や種類、発症機序を説明できる。また、それぞれの代表的疾患を挙げ説明できる。
4. 各臓器の代表的疾患について、それぞれの発症機序や病態を説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
必要に応じてオンライン授業を実施する。

ICT活用

Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

病理専門医として病理診断や病理解剖などに従事した経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、練習問題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【病理学総論1.「病理学とは」「細胞傷害」】 病理学の概念と医学における位置付け、医療における病理診断の役割について学ぶ。また、細胞傷害の種類やその機序、及び傷害を受けた細胞組織の形態変化やその修復について学習する。	参考書のpp.14~52を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第2回	【病理学総論2.「先天異常」】 先天異常の種類と代表的な疾患、先天奇形について学ぶ。染色体異常とその代表的疾患として、常染色体の異常によるダウン症候群や、性染色体の異常によるクラインフェルター症候群、ターナー症候群などを学ぶ。	参考書のpp.53~64を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第3回	【病理学総論3.「循環障害」】 体液循環の機構や、局所の循環障害として、血栓、塞栓、梗塞の関係、出血、うっ血と浮腫、ショックについて、また全身循環障害について学ぶ。	参考書のpp.65~75を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第4回	【病理学総論4.「炎症」】 炎症に関わる細胞の種類や液性因子、炎症の分類やその転帰について学ぶ。急性炎症の結果としての膿瘍や蜂窩織炎、肉芽組織など、及び慢性非特異性炎症と肉芽腫を形成する特異性炎症との違いについて学ぶ。	参考書のpp.76～87を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第5回	【病理学総論5.「免疫異常とアレルギー」】 免疫と免疫系の細胞、I型からV型までの各種のアレルギー反応、臓器移植と拒絶反応、先天性免疫不全症と後天性免疫不全症候群(AIDS)、臓器特異的自己免疫疾患や膠原病などについて学ぶ。	参考書のpp.88～102を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第6回	【病理学総論6.「感染症」】 感染の原因となる病原体の種類や感染の成立、病原体に対する宿主の反応、病原性と増殖速度、日和見感染、病原体の感染経路、内因性感染症と外因性感染症、劇症型感染症などについて学ぶ。	参考書のpp.103～117を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第7回	【病理学総論7.「腫瘍」】 腫瘍の概念や分類、良性腫瘍と悪性腫瘍、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違いとその形態的特徴、発生機序、がんの浸潤・転移や病期、宿主への影響や予後の違い、がんの診断、治療法などについて学ぶ。	参考書のpp.118~134を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第8回	【病理学各論1.「心臓の疾患」「脈管系の疾患」】 狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、心筋炎と心筋症、リウマチ熱と感染性心内膜炎、心弁膜症、心房中隔欠損症や心室中隔欠損症などの先天性心疾患、心不全、動脈瘤、動脈硬化症、血管炎などについて学ぶ。	参考書のpp.136~166を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第9回	【病理学各論2.「造血系・リンパ系の疾患」】 巨赤芽球性貧血など各種の貧血、血液凝固因子や血小板の異常による出血性疾患、白血病、多発性骨髄腫などの形質細胞性腫瘍、各種の悪性リンパ腫、リンパ節炎などその他の造血系・リンパ系疾患について学ぶ。	参考書のpp.167~185を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第10回	【病理学各論3.「呼吸器系の疾患」】 扁桃炎やアデノイド肥大、鼻咽頭腫瘍、喉頭腫瘍など上気道の疾患、慢性閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、肺塞栓症などの肺血管疾患、肺炎、抗酸菌感染症、肺癌とその主な組織型、その他の肺疾患について学ぶ。	参考書のpp.186~212を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第11回	【病理学各論4.「消化管の疾患」】 白板症や口腔癌、歯源性腫瘍などの口腔・顎部の疾患、胃食道逆流症、食道静脈瘤、食道癌などの食道の疾患、慢性胃炎や胃潰瘍、胃癌、胃の悪性リンパ腫など胃の疾患、炎症性腸疾患や大腸癌など小腸・大腸の疾患について学ぶ。	参考書のpp.213~237を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第12回	【病理学各論5.「肝臓、胆嚢、膵臓の疾患」】 各種ウイルス性肝炎、アルコール性肝疾患、代謝機能障害関連脂肪肝炎、肝硬変、肝細胞癌などの肝臓の疾患、胆石症と慢性胆嚢炎、胆道癌などの胆嚢・胆道の疾患、急性膵炎と慢性膵炎、膵癌などの膵臓の疾患について学ぶ。	参考書のpp.238~254を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第13回	【病理学各論6.「泌尿器系、男性生殖器系、女性生殖器系と乳腺、内分泌系の疾患」】 糸球体疾患、腎細胞癌などの泌尿器系の疾患、精巣腫瘍や前立腺過形成、前立腺癌などの男性生殖器系の疾患、子宮頸癌、子宮体癌、乳癌などの女性生殖器系と乳腺の疾患、下垂体腺腫、甲状腺癌など内分泌系の疾患について学ぶ。	参考書のpp.255～323を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第14回	【病理学各論7.「筋・骨格系、皮膚、脳・神経系、眼と耳、全身性疾患」】 筋ジストロフィー、重症筋無力症、骨肉腫などの筋・骨格系の疾患、炎症性皮膚疾患や皮膚の腫瘍、脳血管疾患、頭蓋内感染症、脱髄疾患、主な神経系腫瘍、膠原病やアミロイドーシスなどの全身性疾患について学ぶ。	参考書のpp.324～398を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第15回	【まとめと修了テスト】 第1回から第14回までの総括、及び修了テストを実施する。	第1回から第14回までの内容を復習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回で実施する小テスト、第15回の修了テストなど。詳細は授業中に伝える。
その他	0	なし
教科書		
教科書としては指定しないが、参考文献に挙げた書籍を教科書に準ずる参考書として使用する。		
参考文献		

クイックマスター病理学第2版／堤寛著／サイオ出版

履修条件・留意事項等

特記事項なし。

備考欄

特記事項なし。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		看護病態治療学Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	當瀬 規嗣						
授業の位置づけ							
「生理学」と「解剖学」を基礎知識として、疾病のなりたちと治療を学習する。 「病態治療学Ⅰ」①呼吸器②循環器病学③糖尿病代謝内分泌④血液学の4分野からなる。 DP「健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、臨床で遭遇する頻度の高い代表的な疾患の病態生理、診断のための臨床検査・評価、治療までを系統立てて理解する。本科目では主に薬物療法、食事療法、注射・輸液療法による治療に着目し、呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、糖尿病・代謝・内分泌疾患を学ぶ。							
授業の概要							
健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、臨床で遭遇する頻度の高い代表的な疾患の病態生理、診断のための臨床検査・評価、治療までを系統立てて理解する。本科目では主に薬物療法、食事療法、注射・輸液療法による治療に着目し、呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、糖尿病・代謝・内分泌疾患を学ぶ。							
到達目標							

1. 生体の基本的解剖・生理を理解する
2. 病的変化から疾病に至る過程を理解する。
3. 内科的疾患の看護を可能とする知識・技術・態度を理解する。

授業の方法

講義形式で行います。スライドを提示し、順次説明して講義を行います。プリントはGoogle classroomで事前に配布します。

ICT活用

出席確認、プリント配布はGoogle classroomを用います
確認テストもGoogle classroomを用います。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

確認テストの採点は返信後、すぐにわかります

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	呼吸器病学(1) 呼吸器の解剖、生理。胸部写真、CTのみかた。肺機能検査、血液ガスのみかた。	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第2回	呼吸器病学(2) 呼吸器系の疾患と症状、痰と鼻水、咳とくしゃみ、呼吸不全の病態と治療	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第3回	呼吸器病学(3) 呼吸器感染症、肺がんの診断と治療	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			

第4回	呼吸器病学(4) 肺循環障害、気胸、胸膜疾患、睡眠時無呼吸症候群	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第5回	循環器病学(1) 心臓の解剖と生理、心電図	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第6回	循環器病学(2) 頻拍性不整脈の診断と治療	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			

第7回	循環器病学(3) 徐脈性不整脈、心不全	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第8回	循環器病学(4) 虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第9回	循環器病学(5) 先天性心疾患、心筋疾患、動脈疾患	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			

第10回	糖尿病・脂質代謝異常	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第11回	内分泌:下垂体・甲状腺疾患	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第12回	内分泌:副腎疾患	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			

第13回	血液病学1 血液の基礎、血液型不適合	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第14回	血液病学2 貧血、白血病、出血傾向	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第15回	確認テスト	科目全体の復習をしてください(90分)	採点結果をもとに回答を復習してください(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	キーワード返信による出席確認 出席3分の2以上を評価対象とする 授業中の確認テストの結果を含め、総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

病気が見える2循環器
病気が見える3糖尿病代謝内分泌
病気が見える4呼吸器
病気が見える5血液

履修条件・留意事項等

この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件である。単位の修得不可の場合は実習は受けられない。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		看護病態治療学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	菅原 美保、津村 宣彦						
授業の位置づけ							
本科目は看護学科のディプロマポリシーの「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。」と特に関係がある。また「看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探求能力・問題解決能力を有している。」こととも関係する。 女性と新生児および小児の各種疾患の成因や病態および治療を科学的根拠の上に立って理解し、また女性のライフスタイル におけるそれぞれの時期における性機能の変化や異常を修得、および新生児および小児の健康的な発育・発達を支援するための基礎的な知識を獲得するための授業であり、「母性看護学の展開Ⅰ」「小児看護学の展開Ⅰ」へ繋ぐ科目である。							
授業の概要							
周産期の問題点から新生児疾患の病態と治療に始まり、小児の主な消化器疾患, 呼吸器疾患, 先天性心疾患, 血液疾患, 小児がん, 神経・筋疾患, 腎臓疾患, 成長障害, 糖尿病, 先天性代謝障害, 免疫・アレルギー疾患, 感染症などの病態と治療について学修する。							
到達目標							

【女性・周産期】 ・人間の性と生殖生理、性機能についての基本的な知識を学び、妊娠、分娩、産褥の機序と各期の正常経過の維持のしくみについて、さらにその異常経過の病因を説明できる ・女性のライフサイクルにおける、性機能の変化や異常と各期に罹患しやすい疾患の病因・治療などを説明できる 【小児】 ・子どもの身体について解剖・生理的側面の特徴を理解し、異常や障害が起こるメカニズムを説明できる ・子どもに特有な疾患の病因、病態、症状、治療、検査について理解し、説明できる			
授業の方法 授業方法はパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材などを用いた講義形式とする。			
ICT活用 双方向型授業(Google classroomを利用したミニテスト、レスポンスカード) 自主学習支援(e-ラーニング「今日の臨床サポート」)の活用、Google classroomを利用したレポート・課題提出、資料提供、予習課題の提示)			
実務経験のある教員の教育内容 津村は産婦人科での臨床経験や知識を活かした講義を行う。 菅原は小児科での臨床経験や知識を活かした講義を行う。			
課題に対するフィードバックの方法 レスポンスカードを利用し、毎回の講義中における質問・意見については、丁寧に返答し、学びを共有する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 女性生殖器の構造と機能および女性のライフサイクルについて	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第2回	妊娠成立の機序および胎児・胎盤の発育について:月経周期、排卵、受精、着床、黄体、胎盤の働きなど	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第3回	異常妊娠について:流産、感染症、ハイリスク妊娠、胎盤異常など	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		

第4回	正常分娩・産褥および産科検査法について:陣痛発来から出産および産褥まで、超音波検査、羊水検査、出生前診断、胎児胎盤機能検査など	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第5回	異常分娩について:陣痛異常、産道異常、胎位・胎児異常、産科ショックなど	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第6回	婦人科検査および月経異常・性感染症、避妊法など:内分泌検査、不妊検査、不育症など産婦人科に関連した検査法、性感染症の疫学とその防止対策、避妊法のメリット・デメリット、月経異常および薬物治療について	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		

第7回	婦人科疾患について: 良性疾患(子宮筋腫、子宮内膜症など)および悪性腫瘍	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第8回	〃確認テスト①: 日本の産婦人科医療の抱えている問題および授業の把握度をテストで評価し、その解説をする。 小児の健康障害についての理解をテストで確認し、解説を行う	参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第9回	小児の消化器疾患: 口唇裂・口蓋裂、ヒルシュスプリング病、ロタウイルス感染症、潰瘍性大腸炎、ネフローゼ症候群	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		

第10回	小児の呼吸器疾患・感染症:急性気管支炎、急性細気管支炎、肺炎、学校感染症(麻疹・風疹・水痘・ムンプス・インフルエンザなど)	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		
第11回	腎疾患・内分泌疾患:尿路感染症、1型糖尿病など	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		
第12回	小児の循環器疾患・神経疾患:心室中隔欠損症、ファロー四徴症、川崎病、てんかん、熱性けいれん、筋ジストロフィーなど 確認テスト②	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		

第13回	小児の血液腫瘍疾患:小児の免疫、急性白血病(リンパ性・骨髄性)・悪性リンパ腫・脳腫瘍など	e-ラーニング・参考書などで, 事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		
第14回	小児のアレルギー疾患・耳鼻科疾患・小児救急:食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、中耳炎、アデノイド増殖症、口蓋扁桃肥大、外傷、熱傷、誤飲など	e-ラーニング・参考書などで, 事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		
第15回	ハイリスク新生児・先天疾患・発達障害:新生児仮死、新生児黄疸、呼吸窮迫症候群、ダウン症候群、18トリソミー、13トリソミー、自閉症、学習障害など 確認テスト③	参考書などで, 事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義内容に関する確認テストを実施する 確認テスト①(50%) 確認テスト②(10%) 確認テスト③(10%)
その他	0	
教科書		
系統看護学講座成人看護学 (9) 女性生殖器第15版/末岡浩他/医学書院 系統看護学講座母性看護学 (2) 母性看護学各論第14版/森恵美他/医学書院 ナーシング・グラフィカ小児看護学 (3) 小児の疾患と看護第3版/中村友彦他編/メディカ出版		
参考文献		

看護学テキストNiCE 小児看護学Ⅰ,Ⅱ第4版/二宮啓子,今野美紀/ 南江堂
病気がみえる vol.15 小児科/医療情報科学研究所編/ メディックメディア

履修条件・留意事項等

評価対象物に不正行為が認められた場合は単位習得を認めない。他学生の学びを妨げる行為は慎み、講義中の私語は厳禁である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		看護病態治療学Ⅲ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介						
授業の位置づけ							
本科目は、専門基礎科目の中で外科治療の対象となる疾患を取り扱う。そのため、人体の構造と機能を学ぶ「人体構造学Ⅰ・Ⅱ」「人体機能学Ⅰ・Ⅱ」などと連携している。また、疾病の成り立ちと回復の促進を学ぶ「看護病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ」及び「病理学」とは相互に関連する。そして、専門科目の「臨床看護技術」や「成人看護の展開Ⅱ」などの基礎となる科目である。DP「健康状態やその変化に応じた看護に必要な、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。							
授業の概要							
健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、臨床で遭遇する頻度の高い代表的な疾病の病態生理、診断のための臨床検査・評価、治療までを系統立てて理解する。本科目では外科処置に着目して、消化器疾患、乳腺疾患、皮膚科疾患、耳鼻科疾患、眼科疾患、口腔外科疾患、運動器・整形外科疾患を学ぶ。							
到達目標							

- 1.外科治療の種類と分類、身体機能の障害や問題に応じた治療方法を説明することができる
- 2.手術に対する生体の反応と合併症について説明することができる
- 3.手術の対象となる疾患の病態について説明することができる
- 4.手術の対象となる主要な疾病の処置と管理方法を説明することができる

授業の方法

パワーポイントと配信した講義資料を用いて講義形式で進める
課題、レポート、理解度確認テストを行う

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

外科治療を行う病院において看護師として勤務した経験を活かして、臨床に基づいた講義を行う

課題に対するフィードバックの方法

事前課題、理解度確認テストの回答と解説は授業の中でフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 1.外科治療の概要 1) 外科治療とその対象となる疾患 2) 手術の種類と分類 3) 身体機能の障害や問題に応じた治療	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法を確認する医学概論の外科的治療について復習する(90分)	第1回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第2回	2.手術療法の実際 1) 麻酔導入と管理 2) 手術療法の流れと術中管理	麻酔管理と手術中管理について教科書を読み知識を整理する(90分)	第2回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第3回	2.手術療法の実際 3) 手術療法の実際に関するゲストスピーカーの講話	麻酔管理と手術中管理について教科書を読み知識を整理する(90分)	第3回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		

第4回	3.術前の身体評価と処置 1) 術前アセスメント 2) 術前処置	術前の身体評価と処置について教科書を読み知識を整理する(90分)	第4回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第5回	4.手術侵襲と合併症 1) 手術侵襲 2) 主要な合併症の理解	手術侵襲と合併症について教科書を読み知識を整理する(90分)	第5回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第6回	5. 外科的処置と創傷管理 創傷回復を促進するための援助と褥瘡処置の実際に関するゲストスピーカーの講話	外科的処置と創傷管理について教科書を読み知識を整理する(90分)	第6回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		

第7回	6.手術の対象となる疾病と処置の理解 1) 消化器疾患;胃・食道 上部消化管検査および手術について、胃癌の手術を例に説明する	胃と食道の解剖・生理、胃がんの病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第7回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する 第1～7回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第8回	理解度確認テスト1 2) 消化器疾患;大腸 下部消化管の検査および手術について、大腸癌を例に説明する ストーマ造設、消化管癌の転移についてふれる	大腸の解剖・生理、大腸がんの病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第8回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する
担当教員	高橋 洋介		
第9回	3) 消化器疾患;肝・胆・膵 胆嚢炎を例に、胆道ドレナージ、腹腔鏡手術、動脈塞栓術について説明する	肝・胆・膵の解剖・生理、胆嚢炎の病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第9回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	高橋 洋介		

第10回	4) 皮膚科疾患 皮膚科の主要な疾患を例に、手術や処置、スキンケアについて説明する。 5) 眼科疾患 眼科の主要な疾患を例に、手術や処置について説明する	皮膚の解剖・生理について教科書を読み知識を整理する 眼の解剖・生理、白内障の病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第10回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第11回	6) 耳鼻咽喉科疾患 耳鼻咽喉科の主要な疾患を例に、手術や処置について説明する 7) 口腔外科疾患 口腔外科の主要な疾患を例に、手術や処置について説明する	耳・鼻・咽頭・喉頭の解剖・生理、喉頭がんの病態と治療について教科書を読み知識を整理する 口腔の解剖・生理、舌がんの病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第11回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第12回	8) 口腔衛生 口腔衛生管理に関するゲストスピーカーの講話	歯の解剖・生理について人体の構造・機能の教科書を読み知識を整理する(90分)	第12回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	証本 常子		

第13回	9)運動器・整形外科疾患1 運動器・整形外科疾患の主要な疾患を例に、手術や処置について説明する	運動器の解剖・生理、病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第13回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する 第8～13回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第14回	理解度確認テスト2 9)運動器・整形外科疾患2 整形外科疾患の主要な疾患を例に、手術や処置について説明する	大腿骨頸部骨折の病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第14回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第15回	10)乳腺疾患 乳がんの診断、手術の種類と適応、処置や術後管理と看護に関するゲストスピーカーの講話	乳房の解剖・生理、乳がんの病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第15回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	理解度確認テスト・課題・レポート
その他	0	なし
教科書		
成人看護学 急性期看護I 概論・周手術期看護改訂第4版 病気がみえるvol.1 消化器 第7版 メディックメディア 病気がみえるvol.11 運動器・整形外科 第2版 メディックメディア クイックマスター病理学 新訂版 第2版 サイオ出版		
参考文献		

講義の中で随時紹介する

履修条件・留意事項等

課題・レポートの提出遅延、未提出は減点する

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		看護病態治療学Ⅳ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	井上 仁美、辻 幸美、藤長 すが子、小橋 拓真						
授業の位置づけ							
本科目はDPの「健康状態やその変化に応じた看護に必要な、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している」と特に関連する科目であり、「看護過程の展開や臨床判断に必要な問題探求能力・問題解決能力を有している」と関連する科目である。							

精神疾患(統合失調症、気分障害、神経症性障害、不眠症、薬物依存症、アルコール依存症)の病態と治療について説明できる。
 脳の構造と機能、CTとMRI、脳腫瘍、水頭症、脳外傷と血種、脳ヘルニア、頭痛、脊髄の解剖、髄液検査、脳波、髄膜炎、プリオン病、てんかん、アルツハイマー病、小脳疾患、交感神経系と副交感神経系、パーキンソン病、筋電図、筋委縮性側索硬化症、ポリオ、多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症、筋ジストロフィーについて説明できる。
 アレルギー疾患(アレルギー性鼻炎、気管支ぜん息、蕁麻疹・アトピー性皮膚炎、アレルギー性結膜炎、食物アレルギー、アナフィラキシー、自己免疫性溶血性貧血、血小板減少症、顆粒球減少症、新生児溶血性黄疸、全身性エリスマトーデス(SLE)、全身性強皮症、多発筋炎、皮膚筋炎、シェーグレン症候群、混合性結合組織病、関節リウマチ(RA)ベーチェット病、橋本病、臓器移植後の拒絶反応や移植片対宿主病(GVHD)について説明できる。
 尿管・膀胱・尿道・前立腺での外科的処置の対象となる手術および、泌尿器検査について説明できる。造影剤の副作用、衝撃波治療、経尿道的手術、ロボット手術とその看護について説明できる。
 腎移植が対象となる病態、移植の方法、拒絶反応や移植片対宿主病(GVHD)などの問題とその看護について説明できる。

授業の方法

講義形式で授業を行う。講義時間内に適宜、確認テストを行う。

ICT活用

参考文献提示やテストのフィードバックについてはGoogle Classroomを活用して学習支援を行う。

実務経験のある教員の教育内容

本科目は看護師として実務経験のある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

準備学習・事後学習および確認テストについては、講義時間内またはClassroomでフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス(井上) 本科目の概要と学習方法について説明する。 精神疾患①統合失調症の病態と治療1 目標;本科目の概要と学習方法を説明できる。 統合失調症の病態と治療について説明できる。	テキスト『薬がみえる VOL.1 第2版』P. 232～250、10を読んで学習する(90分)。	本日学習した内容をノートにまとめ次回の確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第2回	精神疾患②統合失調症の病態と治療2(井上) 抗精神病薬の作用、副作用、自律神経との関連 講義最初に第1回目講義内容の確認テストを行う(8点) 今回の確認テストでは、自己学習をした手書きのノートのみ持ち込み可とする。 テキストの持ち込みは認めない。 目標;統合失調症の病態と治療について説明できる。抗精神病薬の作用、副作用、自律神経との関連について説明できる。	テキスト『薬がみえる VOL.1 第2版』P. 232～250、10、18～23を読んで学習する(90分)。	本日学習した内容をノートにまとめ次回の確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第3回	精神疾患③気分障害 うつ病の病態と治療(井上) 講義最初に第2回目講義内容の確認テストを行う(8点) 今回の確認テストでは、自己学習をした手書きのノートのみ持ち込み可とする。 テキストの持ち込みは認めない。 目標;うつ病の病態と治療について説明できる。	テキスト『薬がみえる VOL.1 第2版』P. 253～265を読んで学習する(90分)。	本日学習した内容をノートにまとめ次回の確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		

第4回	精神疾患④気分障害 双極性障害の病態と治療 不眠症の病態と治療(井上) 講義最初に第3回目講義内容の確認テストを行う(8点) 今回の確認テストでは、自己学習をした手書きのノートのみ持ち込み可とする。 テキストの持ち込みは認めない。 目標;双極性障害および不眠症の病態と治療について説明できる。	テキスト『薬がみえる VOL.1 第2版』P. 266～283を読んで学習する(90分)。	本日学習した内容をノートにまとめ次回の確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第5回	精神疾患④神経症性障害の病態と治療(井上) 講義最初に第4回目講義内容の確認テストを行う(8点) 今回の確認テストでは、自己学習をした手書きのノートのみ持ち込み可とする。 テキストの持ち込みは認めない。 目標;神経症性障害の病態と治療について説明できる。	テキスト『薬がみえる VOL.1 第2版』P. 284～291を読んで学習する(90分)。	本日学習した内容をノートにまとめ次回の確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第6回	精神疾患④薬物依存症、アルコール依存症の病態と治療(井上) 講義最初に第5回目講義内容の確認テストを行う(8点)。 今回の確認テストでは、自己学習をした手書きのノートのみ持ち込み可とする。 テキストの持ち込みは認めない。 目標;薬物依存症、アルコール依存症の病態と治療について説明できる。	テキスト『薬がみえる VOL.1 第2版』P. 293～298を読んで学習する(90分)。	本日学習した内容をノートにまとめ、第15回に行う確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		

第7回	脳疾患【講義】(辻) 学習内容: 脳の構造と機能、CTとMRI、脳腫瘍、水頭症、脳外傷と血腫、脳ヘルニア、頭痛 行動目標: 本日学習した疾患の病態と治療を説明できる	脳の機能と脳脊髄液の流れを学習する。(90分)	本日学習した疾患の看護をノートにまとめる。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	脳疾患【講義】(辻) 学習内容: 脊髄の解剖、髄液検査、脳波、髄膜炎、プリオン病、てんかん、アルツハイマー病、小脳疾患 行動目標: 本日学習した疾患の病態と治療を説明できる	脳の機能と脳脊髄液の流れを学習する。(90分)	本日学習した疾患の看護をノートにまとめる。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第9回	神経疾患【講義】(辻) 学習内容: 交感神経系と副交感神経系、パーキンソン病、筋電図、筋委縮性側索硬化症、ポリオ、多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症、筋ジストロフィー 行動目標: 本日学習した疾患の病態と治療を説明できる	脳神経を復習してくる。(90分)	本日学習した疾患の看護をノートにまとめる。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第10回	アレルギー疾患①【講義】(小橋) アレルギー性鼻炎, 気管支ぜん息, 蕁麻疹・アトピー性皮膚炎, アレルギー性結膜炎, 食物アレルギー, アナフィラキシー 目標: 本日学習した疾患の病態と治療を理解できる	免疫反応を復習する(90分)	本日学習した疾患の看護をノートにまとめる(90分)
担当教員	小橋 拓真		
第11回	アレルギー疾患②【講義】(小橋) 自己免疫性溶血性貧血, 血小板減少症, 顆粒球減少症, 新生児溶血性黄疸 目標: 本日学習した疾患の病態と治療を理解できる	アレルギー疾患Ⅰ～Ⅱ型を復習する(90分)	本日学習した疾患の看護をノートにまとめる(90分)
担当教員	小橋 拓真		
第12回	膠原病【講義】(小橋) 全身性エリスマトーデス(SLE), 全身性強皮症, 多発筋炎, 皮膚筋炎, シェーグレン症候群, 混合性結合組織病, 関節リウマチ(RA)ベーチェット病, 橋本病, 臓器移植後の拒絶反応や移植片対宿主病(GVHD) 目標: 本日学習した疾患の病態と治療を理解できる	アレルギー疾患のⅢ～Ⅳ型を復習する(90分)	本日学習した疾患の看護をノートにまとめる(90分)
担当教員	小橋 拓真		

第13回	泌尿器系疾患【講義】(藤長) 講義の最初に腎・泌尿器系の構造と機能について確認を行う。 目標:尿管・膀胱・尿道・前立腺での外科的処置の対象となる手術および、泌尿器検査について説明できる。造影剤の副作用、衝撃波治療、経尿道的手術、ロボット手術とその看護について説明できる	腎・泌尿器系の構造と機能を復讐する(90分)。	本日学習した代表的な外科的治療法とその看護についてまとめる(90分)。
担当教員	藤長 すが子		
第14回	腎疾患【講義】(藤長) 講義の最初に13回目の講義内容について確認を行う。 目標:腎移植が対象となる病態、移植の方法、拒絶反応や移植片対宿主病(GVHD)などの問題とその看護について説明できる	腎移植について教科書の該当ページをノートにまとめ、わからないところを調べる(90分)。	事前学習したノートに、本日学習した内容を追加しまとめる(90分)。
担当教員	藤長 すが子		
第15回	本科目の振り返りおよびフィードバック(井上) 確認テスト(精神疾患5点、脳疾患および神経疾患20点、アレルギー疾患および膠原病20点、腎・泌尿器疾患15点;計60点)を実施する。	これまでの講義内容を復習し確認テストの準備を行う(90分)。	確認テストのフィードバックについて学習する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	第2回～第6回講義で行う確認テスト(各8点×5回)および第15回で行う確認テスト60点(精神疾患5点、脳・神経疾患20点、アレルギー疾患・膠原病20点、腎疾患15点)で評価する。 第2回～第6回講義で行う確認テストでは自分で作成した手書きのノートのみ持ち込み可とする。 第2回～第6回講義で作成した手書きのノートをClassroomに提出することで、内容と量から1～3点/回を加点するため提出すること。 第15回で行う確認テストはすべて持ち込み不可とする。
その他	0	
教科書		
第1回～第6回講義でメディックメディア『薬がみえる VOL.1 第2版』を使用するため必ず購入すること		
参考文献		

適宜、提示する。

履修条件・留意事項等

第1回～6回、15回の講義については資料を配布せず、教科書のみで講義を行うため教科書は必ず購入する。

備考欄

私語は厳禁とする。
 確認テストは講義の最初に行うため、遅刻・欠席した場合はテストは受けられず、その回のテストは0点となるため注意すること。
 確認テストで計60点未満の場合はDH判定となるため、再試対象となる。
 遅刻は20分まで認める。20分以上の遅刻は欠席となる。遅刻3回で欠席1回となる。講義時間中に体調不良以外の理由で席をむやみに立ったり、教室外に行かないこと。
 お手洗い等で教室外に行くときは、10分以上席に戻らない場合、早退とみなすことがあるため注意する。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		薬理学				ナンバリング	2344
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	長多 好恵、瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
本学DPにある「健康状態やその変化に応じた看護に必要な、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」を基に、医療に欠くことのできない薬物療法について、看護師として必要な知識を習得する。その上で以下について習得する科目である。 ①初年次教育の一つとして、医療職における薬と看護師の関わりを学びそれを踏まえて薬物の特性や体内での作用全般について習得する。 ②「人体構造学」、「人体機能学」および「免疫学」の学習を基礎として、薬物の知識を習得する。							

①各規制医薬品について表示方法、保管方法について説明することができる。
 ②投与された薬物が排泄されるまでの過程(体内動態)について説明することができる。
 ③2種類以上の薬物あるいは食品と薬物間の服用で起こり得る薬物相互作用についての知識を得ることができる。④各疾患の成因・病態を理解し、薬物による治療効果や薬物の作用機序、副作用など薬物治療学的知識を習得し説明することができる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用い、講義形式で解説する。講義において、過去の国家試験問題も取り入れ解答と解説をする。7回目の講義と15回目の講義では、試験を行い理解度を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

大学(本学およびその他)での教育経験、病院、企業および調剤薬局においても薬剤師として勤務経験がある。これを活かして疾病に対する薬物治療や副作用について講義を行う。また、規制医薬品などについても講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義内において確認問題を実施し、解答・解説により知識を整理する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	薬理学総論Ⅰ ・薬の歴史的背景(薬害を含む)を学習する。 ・新薬が誕生するまでの道のりを学ぶ。 ・薬物療法における看護師の役割を理解する。	チーム医療と薬物治療、薬物治療における看護師の役割について考えをまとめる(90分)。	講義時に配布した資料内容について復習する(90分)。
担当教員	長多 好恵		
第2回	薬理学総論Ⅱ ・薬の使用目的、主作用および有害作用について理解する。 ・処方箋、添付文書の形態を理解する。 ・薬の剤形、投与経路、規制医薬品について理解する。	薬の説明文書(添付文書)、処方箋について調べる(90分)。	講義時に配布した資料内容について復習する(90分)。
担当教員	長多 好恵		
第3回	薬理学総論Ⅲ ・薬物の体内動態(吸収・分布・代謝・排泄)について理解する。 ・薬物の作用パターン(受容体・イオンチャネル・酵素・トランスポーター)について理解する。	投与された薬は、体内においてどのような経過を辿るか調べる(90分)。	講義時に配布した資料内容について復習する(90分)。
担当教員	長多 好恵		

第4回	薬理学総論Ⅳ ・薬効に影響する因子(薬用量・生物学的半減期・薬物の連用・年齢・薬物相互作用など)について理解する。	薬の効果は年齢、性、遺伝子などに影響されるかについて調べる(90分)。	講義時に配布した資料内容について復習する(90分)。
担当教員	長多 好恵		
第5回	薬理学各論Ⅰ ・自律神経系に作用する治療薬について理解する(自律神経系における神経伝達物質と受容体の関係を学習し、交感神経・副交感神経に作用する薬について理解する)。	交感神経および副交感神経の機能について予習する(90分)。	講義時に配布した資料内容について復習する(90分)。
担当教員	長多 好恵		
第6回	薬理学各論Ⅱ ・抗炎症薬(炎症のしくみを学習する)および解熱鎮痛薬、抗アレルギー薬について理解する。 ・消毒薬の分類、取り扱いについて理解する。	炎症、アレルギーの概要について予習する(90分)。	講義時に配布した資料内容について復習する(90分)。
担当教員	長多 好恵		

第7回	薬理学各論Ⅲ ・骨代謝関連薬について理解する。 ・第1～7回までの講義内容の理解度を確認するために試験を実施する。	第1回目から6回目までの講義内容について復習をする(90分)。	講義時に配布した資料内容について復習する(90分)。
担当教員	長多 好恵		
第8回	薬理学各論Ⅳ ・消化器系疾患治療薬について理解する(消化性潰瘍・消化不良・嘔吐・下痢・便秘のしくみを通して各治療薬を学習する)。 ・呼吸器系疾患治療薬を理解する。	消化器および呼吸器の構造、機能について予習する(90分)。	講義時に配布した資料内容について復習する(90分)。
担当教員	瀧山 晃弘		
第9回	薬理学各論Ⅴ ・代謝系疾患(糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症)治療薬について理解する。 ・甲状腺ホルモン疾患とその関連薬について理解する。	糖尿病および脂質異常症の病態、甲状腺ホルモンの機能について予習する(90分)。	講義時に配布した資料内容について復習する(90分)。
担当教員	瀧山 晃弘		

第10回	薬理学各論Ⅵ ・血液・造血器系疾患(貧血・血栓性疾患・出血性疾患)治療薬について理解する。 ・血液製剤について理解する。	血液・造血器系疾患の病態について予習する(90分)。	講義時に配布した資料内容について復習する(90分)。
担当教員	瀧山 晃弘		
第11回	薬理学各論Ⅶ ・中枢神経系疾患(不眠症・統合失調症・不安障害・気分障害)治療薬について理解する	中枢神経系の構造・機能・疾患(不眠症・統合失調症・不安障害・気分障害)について予習する(90分)。	講義時に配布した資料内容について復習する(90分)。
担当教員	瀧山 晃弘		
第12回	薬理学各論Ⅷ ・中枢神経系疾患(てんかん・パーキンソン病・認知症)治療薬について理解する。	中枢神経系疾患(てんかん・パーキンソン病・認知症)について予習する(90分)。	講義時に配布した資料内容について復習する(90分)。
担当教員	瀧山 晃弘		

第13回	薬理学各論IX ・心臓血管系疾患(高血圧・虚血性心疾患・心不全・不整脈) 治療薬について理解する。	心血管系の構造・機能について 予習する(90分)。	講義時に配布した資料内容に ついて復習する(90分)。
担当教員	瀧山 晃弘		
第14回	薬理学各論X ・抗感染症薬(抗菌薬・抗結核薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬) について理解する。	感染症の概要について予習する(90分)。	講義時に配布した資料内容に ついて復習する(90分)。
担当教員	瀧山 晃弘		
第15回	薬理学各論XI ・抗がん薬について理解する。・第9～15回までの講義内容の理解度を確認するために試験を実施する。	第9回から14回までの講義内容について復習をする(90分)。	講義時に配布した資料内容について復習する(90分)。
担当教員	瀧山 晃弘		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義7回目および15回目の試験、受講態度および欠席届の提出等により総合的に判断する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

- ①参考教科書・系統看護学講座専門基礎 薬理学「医学書院」・看護学テキスト 薬理学「南江堂」
②参考問題集・パワーアップ演習問題 薬理学「サイオ出版」

履修条件・留意事項等

- ・薬物の作用の前段階として人体構造学・人体機能学について理解することが重要である。
- ・講義欠席の際は、欠席届を提出する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		感染症と看護				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシー「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力有している(知識・技能)」に特に関連した科目である。「共通看護援助技術」「免疫学」「看護病態治療学Ⅰ」「看護病態治療学Ⅱ」「看護病態治療学Ⅲ」「看護病態治療学Ⅳ」に基づき、これ以降各専門科目全てに関連する。							

1. 感染が成立する機序と感染症予防の考え方と技術について説明できる。
2. 感染看護の実際について説明できる。
3. 組織的な感染管理について説明できる。

授業の方法

PowerPointと配布資料を用いながら講義形式で行う。
Googleフォームを利用し、授業についての振り返りや、考えたこと、疑問に思ったことなどコメントを記載してもらう(全3回)。
授業内に知識を確認するためのテストを行う(全1回)。

ICT活用

Googleフォームで出席状況の確認を行う。
Googleフォームのアンケート機能を用いて双方向型授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

急性期病院での勤務経験を活かして感染症と感染予防について授業を行う(坂東)
22年間の脳神経外科病院の勤務経験から生活と看護を結び付けられるように指導できる(辻)

課題に対するフィードバックの方法

コメントに対して、必要時、解説を行う。
確認テストを回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	感染とはなにか(坂東) 感染の成立と発症までのプロセスと感染経路、宿主と病原微生物との関係、様々な感染症、滅菌と消毒の違いについて説明する。現代の主な感染症と法制度について概説する。	教科書P11～P25, P81～83, P202を熟読する。(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第2回	常在菌と感染症(坂東) 体内に存在する微生物とそれらが引き起こす感染症について説明する コメントシート(1)	教科書P57～P80を熟読する。(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第3回	感染症の種類と微生物の存在部位①(辻) 口腔や気道からの分泌物、嘔吐物や便中から排泄される微生物や、皮膚や軟部組織の病変から検出される微生物について説明する。	教科書P84～P126を熟読する。(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第4回	感染症の種類と微生物の存在部位②(坂東) 性行為により感染する微生物、血液や体液、涙、乳汁、尿中に存在する微生物について説明する。髄膜炎や農園を起こす微生物、環境中に存在する微生物について説明する。 コメントシート(2)	教科書P127～P176までを熟読する。(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第5回	医療行為と感染症①(坂東) 手術に部位感染、移植に伴う感染症、血管内カテーテルの挿入に関連する感染症について説明する。	教科書P178～P185, P190～P192を熟読する。(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第6回	医療行為と感染症②(辻) 透析に伴う感染症、膀胱内留置カテーテルの挿入に関連する感染症、人工呼吸器の装着に伴う感染症について説明する。 コメントシート(3)	教科書P186～P189, P193～P197を熟読する。(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第7回	感染管理の実際(坂東) ゲストスピーカー:医療施設における感染管理が、実際にどのように行われているのかについて説明する。 レポート課題	感染管理認定看護師、感染症看護専門看護師について調べてくる。(90分)	レポート課題に取り組み、期限までに提出する。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第8回	確認テスト(辻) 第1回から第6回までの授業内容について、知識を確認するテストを実施した後に、出題した内容について解説する。	第1回～第6回までの授業内容をまとめたノートで復習する。(90分)	確認テストで間違っていたところを復習する(90分)
担当教員	辻 幸美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	コメントシート30%(各10点×3回) レポート課題10% 確認テスト60%(辻20%+坂東40%)
その他	0	
教科書		
微生物学・感染看護学―微生物から感染防止を考える―/岡田 忍, 小池 和子, 白澤 浩(編)/医歯薬出版株式会社		
参考文献		
看護学テキストNice 感染看護学 患者の健康と権利を守り安全に看護を実践する/操 華子、川上 和美(編)/南江堂		
履修条件・留意事項等		

授業中の私語、必要時以外の携帯電話の操作は禁止する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		臨床検査概論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	合田 悟						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「健康状態やその変化に応じた看護に必要な、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している」ことと特に関係がある科目である。また、「看護過程の展開や臨床判断に必要な問題探求能力・問題解決能力を有している」こととも関係する。 疾病の原因および治療における基礎的な知識を身につけ、看護に必要な臨床検査の原理や方法、実際の臨床現場の注意点、患者に与える負担等について学ぶ科目である。 「免疫学」「人体構造学Ⅰ」「人体構造学Ⅱ」「人体機能学Ⅰ」「人体機能学Ⅱ」と関連し、疾病の成り立ちを理解する基礎となる。							
授業の概要							
健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、臨床検査の意義と一般検査の内容と役割を学ぶ。学習内容は臨床検査の意義、原理、方法、患者に与える負担、検査時の看護上の注意点を理解する。							
到達目標							

主な臨床検査について、検査の意義、原理、検査方法が分かる。
 検体の適切な取り扱いができる。
 臨床検査と看護の関係が分かる。
 臨床検査に関して患者へ適切な説明ができる。

授業の方法

パワーポイントや印刷物を用いて説明する。
 必要に応じて確認テストやレポート作成を行う。

ICT活用

なし。

実務経験のある教員の教育内容

医療機関で臨床検査業務に関わった経験を活かして講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義中および講義後に質問を受け付けます。回答はその都度あるいは次回の講義時に全体に対して行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	一般検査 ・臨床検査の概要と意義を理解する。 ・尿検査、尿糖、ケトン体、尿酸、クレアチニン、便検査、便潜血を理解する。	教科書の臨床検査の基本を読みまとめること。(90分)	尿検査の項目、注意事項のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	微生物検査 ・感染症の概要と検査法を理解する。 ・細菌、ウイルス、リケッチア、真菌、グラム染色、生化学的性状、培養検査を理解する。	教科書で微生物の種類をまとめること。(90分)	疾病の原因微生物のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	血液学的検査 ・血液の概要と意義を理解する。 ・赤血球、白血球、貧血、血球代謝、血液凝固検査、血小板数、ヘマトクリット、ヘモグロビンを理解する。	解剖生理学の教科書で血液を復習しまとめること。(90分)	血液検査の項目のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			

第4回	生化学的検査 ・生化学の意義と検査法を理解する。 ・電解質、タンパク、糖代謝、非タンパク性窒素、脂質、有機化合物を理解する。	教科書の臨床化学検査を読みま とめておくこと。(90分)	疾病と検査値の関係のまとめを 行うこと。(90分)
担当教員			
第5回	酵素・機能検査 ・酵素の概要と意義を理解する。 ・アミラーゼ、リパーゼ、乳酸脱水素酵素、クレアチンキナーゼ、腎機能、肝機能、炎症マーカーを理解する。	解剖生理学の教科書で泌尿器系を復習しまとめておくこと。(90分)	疾病と検査値の関係のまとめを 行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	生理検査 ・循環器系の基礎と検査法を理解する。 ・心電図、呼吸機能、脳波を理解する。	解剖生理学の教科書で循環器系を復習しまとめておくこと。(90分)	心電図の原理、基本のまとめを 行うこと。(90分)
担当教員			

第7回	輸血検査・病理検査 ・血液型の概要と意義を理解する。 ・病理学検査の概要と意義を理解する。 ・ABO式血液型、HLA型、血液製剤、GVHDを理解する。	教科書の輸血検査を読みまとめておくこと。(90分)	輸血検査の手順を復習しまとめて行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	・検査の進め方を理解する。 ・検査データの判読を理解する。 ・検査時の医療事故の予防を理解する。 ・遺伝子の基礎を理解する。 ・DNA(遺伝子、染色体)、遺伝子疾患について理解する。 まとめの確認テストを行う。	解剖生理学の教科書で細胞を復習しまとめておくこと。(90分)	遺伝子の基本と遺伝子疾患を復習しまとめて行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト、まとめの確認テスト、レポートや欠席届等の提出物、受講態度等を総合的に判断する。
その他	0	なし。
教科書		
新体系看護学全書 臨床検査 池田斎 メヂカルフレンド社		
参考文献		
特に指定しない。		
履修条件・留意事項等		

欠席した場合は、速やかな欠席届の提出が必須であり、遅滞や未提出は減点の対象となる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		看護基礎講座				ナンバリング	1101
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木口 幸子、初見 温子						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、看護学を学ぶ上で必要とされるアカデミックスキルを修得することを目的とし、大学生の学びの技法である、文献の読み方、レポートの書き方、礼節・接遇・コミュニケーションスキル・倫理的態度などを学習する科目である。また、ディプロマポリシーである、医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる(関心・意欲・態度)ことを目指す科目である。							

1. 学ぶとは何か、自主的自律的に学ぶとは説明できる。
2. 大学で学ぶことを説明できる。
3. 文献の活用と引用方法について説明できる。
4. レポートの書き方を理解し、パソコンを使用して作成できる。
5. 看護系大学の大学生に必要な基本的な態度について説明できる。
6. 効果的なプレゼンテーションとは何か理解し、実施できる

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式で進める。
グループワークとグループ発表・ディスカッション(全2回)を行う。

ICT活用

今後の学生生活、および医療専門職として必要なICTスキル修得のため、実際にパソコンを使用した実践を取り入れる。
学生の授業へのレスポンスにGoogle Formsを活用し、双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

(木口) 修士課程において看護教育学を専攻し、教育について幅広い知識を有している。この経験を活かして看護基礎講座を行う。
(初見) 急性期病院で5年、訪問看護ステーションで5年、看護師としての経験を有する。この経験を活かして、臨地で看護学を学ぶ際に必要なアカデミックスキルを養うための講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出した記録物について、必要時コメントを入れ、返却時に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・自ら学ぶことについて ・学習者としての責任	大学に進学した理由、看護を選択した理由、大学と高校の違いは何か考えてくる(90分)。	講義資料を再度読み、自ら学ぶとは何か、学習者としての責任と何かについて考える(90分)
担当教員	木口 幸子、初見 温子		
第2回	・大学で学ぶ ・自律的に学習効果的な学び方	テキストの該当するページを読んでくる(90分)。	講義資料、テキストを再度読み、大学で学ぶという意味、自律的にまなぶという意味を考える(90分)
担当教員	木口 幸子、初見 温子		
第3回	・社会人基礎力 ・礼節	テキストの該当するページを読む(90分)。	講義資料、テキストを再度読み、社会人基礎力の意味、礼節の意味を考える。(90分)
担当教員	木口 幸子、初見 温子		

第4回	文章を作成することについて	テキストの該当するページを読む。中学高校で学んだ作文の作成方法について復習する(90分)	講義資料、テキストを再度読み、原則に従った文章の作成方法について復習する(45分) テーマに沿って感想文を作成し提出する(60分)。
担当教員	木口 幸子、初見 温子		
第5回	- コミュニケーション - ディスカッション	テキストの該当するページを読む(90分)。	講義資料、テキストを再度読み、自ら発語する意義、グループで話し合う意義を考える(90分)。
担当教員	木口 幸子、初見 温子		
第6回	情報リテラシー 個人情報扱う医療者の責任 パソコンの使用方法、データ漏洩の防止策 講義後、実際にパソコンを使用し、Google Classroomの活用方法、USBの使い方などを実践する。 ＊パソコン持参	テキストの該当ページを読む(90分)	- 講義資料を再度読む - 医療者が身に付けるべき情報リテラシーについて、自分の考えをまとめる。(90分)
担当教員	木口 幸子、初見 温子		

第7回	・文献の読み方・活用方法・文献リスト① 文献とは何か、何のために必要なのか、今後大学で学習する上で、どのように活用すればよいのかを学ぶ。	・テキストの該当ページを読む (90分)	・講義資料、テキストを再度読む。 (90分)
担当教員	木口 幸子、初見 温子		
第8回	・文献の読み方・活用方法・文献リスト② 文献検索方法・使用方法・表示方法 講義後、実際に文献を検索してみる。 規定に沿った引用や文献リスト作成を実践する。 * パソコン持参	・テキストの該当ページを読む (90分)	・講義資料、テキストを再度読む。
担当教員	木口 幸子、初見 温子		
第9回	・レポートの書き方① 言語化・文章化する意義 学術的な文章のまとめ方 体裁やルールを守った文章作成の実践 * パソコン持参	・テキストの該当ページを読む (90分)	・第8回、第9回の講義資料、テキストを再度読み、課題①を完成させて提出する。 (90分)
担当教員	木口 幸子、初見 温子		

第10回	・レポートの書き方② 体裁やルールを守った文章作成の実践 課題①で実際に見られた体裁面の間違いや、文章の問題点について解説する。 学生は自分の課題①を添削する。	・第8回、第9回の授業資料を読んで復習する(90分)	・講義資料、テキストを再度読む(90分)。
担当教員	木口 幸子、初見 温子		
第11回	・レポートの書き方③ 自身の考えを踏まえた学術的な文章の書き方 課題①での体裁面の間違いや問題点を正し、さらに自身の考えを踏まえた学術的な文章作成を実践する。	・テキストの該当ページを読む(90分)	・講義資料、テキストを再度読む。 ・課題②を作成して提出する
担当教員	木口 幸子、初見 温子		
第12回	・プレゼンテーションスキル プレゼンテーションとは パワーポイント作成、発表のポイント 講義後、与えられたテーマについて情報収集し、プレゼンテーション資料をパワーポイントで作成する(個人) *パソコン持参	講義資料を復習し、プレゼンテーション資料作成の準備に取り組む(90分)	プレゼンテーション資料を作成する(90分)
担当教員	木口 幸子、初見 温子		

第13回	・発表資料を作成(個人・グループワーク) パワーポイントを作成し、個人のプレゼンテーション資料を仕上げていく。同じテーマを担当している者で、ディスカッションしながら完成度を高めていく。 *パソコン持参	プレゼンテーション資料を作成する(90分)	プレゼンテーション資料の完成度を高めていく(90分)
担当教員	木口 幸子、初見 温子		
第14回	・プレゼンテーションの実際 各テーマごとに1名ずつ選抜された者がプレゼンテーションを行う。 司会やタイムキーパーの役割、クラス全体でディスカッションするためのメンバーシップを実践する。	作成したプレゼンテーション資料をもとに発表の準備を行う(90分)	・個人で作成したプレゼンテーション資料の提出
担当教員	木口 幸子、初見 温子		
第15回	・まとめ ・最終レポート説明	これまでの講義資料を読み返す(90分)	・指示されたテーマ、体裁の最終レポートを作成し、提出する
担当教員	木口 幸子、初見 温子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	感想文10% 課題①課題② 40%(各20%) 最終レポート 40% プレプレゼンテーション資料10%
その他	0	
教科書		
前原澄子・遠藤俊子監(2020).看護学生のためのよくわかる大学での学び方, 第2版, 金芳堂		
参考文献		

水戸美津子(2020).ナースのためのレポートの書き方：仕事で使える「伝わる文章」の作法, 第2版
中央法規出版

履修条件・留意事項等

やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届けを提出すること。
評価対象物において代筆や盗用等の不正行為があった場合にはD判定となる場合があります。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		医療概論				ナンバリング	2370
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	高岡 哲子、藤長 すが子						
授業の位置づけ							
本科目は、健康支援と社会保障制度の「看護に関係した健康支援と社会保障制度について学ぶ」に位置づけられ、ディプロマポリシーの「医療・看護にかかわる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任感を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる」につながる。「看護学の基礎」や「在宅看護学の基礎」などと同様に看護学を学ぶ上での基盤となる科目である。							
授業の概要							
本科目では、医学や医療の歴史、医療現場の特徴、医療と医学の違いを理解し、看護職としての視点を養う。また、医療が個人の生活や社会全体に与える影響を考えながら、医療者としての倫理観や多職種連携の重要性も学ぶ。さらに、科学的根拠に基づく医療の重要性を理解し、将来の看護実践に活かせるような基礎的な考え方を身につける。							
到達目標							

- ・医療の基礎概念と看護の役割を理解し、医療現場における専門職としての視点を持つことができる。
- ・医療と医学の違いや倫理的ジレンマを理解し、医療者として適切な判断の視点を持つことができる。
- ・医療に必要なクリティカルシンキングと科学的実践の必要性が理解できる

授業の方法

講義：教員による解説を中心に、医療の歴史、医療と医学の違い、医療現場の特徴、医療倫理の課題などを学ぶ。最新のデータや事例を交えながら、医療の本質を理解する。
 グループワーク：学生同士でディスカッションを行い、医療現場で直面する課題や倫理的ジレンマについて考察する。小グループで意見を共有し、多角的な視点から問題解決の方法を探る。
 発表：各グループで議論した内容を代表チームが発表し、全体で共有する。発表後、講師と学生がフィードバックを行い、より深い理解につなげる。

ICT活用

本科目では、Googleフォームを活用した授業内リアクションの収集や、デジタル教材の配布を通じて、学習の効率化を図る。また、医療データの活用、エビデンスに基づく医療 (EBM)、遠隔医療、AI医療技術など、医療現場におけるICT活用の事例を紹介し、最新の医療技術とその実践的な活用方法について学ぶ。さらに、グループワークの成果をデジタルで記録・共有することで、ディスカッション内容を整理し、医療の課題について多角的に考察できるよう支援する。

実務経験のある教員の教育内容

- ・総合病院で約7年間勤務した経験を活かし、実際の医療現場の視点を交えながら、医療概論の講義を行う(高岡)。
- ・看護師資格を有し、大学病院での医療経験を活用しながら講義を行う(藤長)。

課題に対するフィードバックの方法

本科目では、提出された課題に対し、共通フィードバックを中心に実施し、全体の理解を深める。具体的には、講義内で優れた回答やよくある誤解を共有し、解説を行うことで、全体の学習効果を高める。また、個別のフィードバックは、単位取得が危うい場合や、課題の理解が大きくずれている場合に限り実施する。該当する学生には、具体的な改善点を提示し、学習の方向性を修正できるよう支援する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス・「看護とは何か？」(講義・GW:藤長・高岡) 授業内容:本科目の目的や方法を理解する。医療と看護の違いをグループディスカッションする。 行動目標:本科目の目的と学習の進め方を理解し、看護の役割について考察できる。 ワークシート①	・シラバスを熟読する。 ・「自分が思う看護のイメージ」をノートにまとめる(90分)。	授業を振り返り、「看護とは何か？」について学んだことを整理する(90分)。
担当教員	高岡 哲子、藤長 すが子		
第2回	医療現場の特徴(講義) 授業内容:医療現場の特徴や多職種連携の重要性と看護師の役割を理解する。倫理的ジレンマの事例を通じて、患者の権利や医療者の責任を、適切な判断について議論する。 行動目標:・医療現場の特徴を理解し、看護師の役割を説明できる。 ・医療現場における倫理的ジレンマを理解し、解決の視点を考察できる。 課題レポート①	「生命」「生活の質」「死生学」「健康」の言葉の意味を調べる(90分)。	医療現場の特徴と倫理的ジレンマについて学んだことを整理する(90分)。
担当教員	高岡 哲子		
第3回	医療と医学の違い・医学の歴史とエビデンスの重要性(講義・GW) 授業内容:医療(Healthcare)と医学(Medicine)の違いを理解し、それぞれの役割や目的を考える。さらに、エビデンス(科学的根拠)に基づく医療の重要性を学び、医学の歴史を振り返りながら、医療の進化が社会に与えた影響を考察する。「医療は科学か？」をテーマにディスカッションを行い、科学的根拠と医療倫理の関係について議論する。 行動目標:・医療と医学の違いを説明し、エビデンス(科学的根拠)の重要性を説明できる。 ・医学の歴史を学び、科学的根拠が医療の発展に果たしてきた役割を説明できる。 ワークシート②	・医療と医学の違いについて、自分の考えをノートにまとめる。 ・医学の歴史について調べ、社会への影響を整理する(90分)。	・医療と医学の違い、エビデンスの重要性について学んだことを整理する。 ・グループワークで学んだ「医療は科学か？」について自身の考えをノートにまとめる(90分)。
担当教員	高岡 哲子		

第4回	医療と社会の関係 - 未来の医療を考える(講義) 授業内容:「10年後の医療はどうなるのか?」をテーマに、未来の医療と看護について考え、自分の意見をレポートにまとめる。 行動目標:・社会の変化が医療や看護の仕事に与える影響を理解できる。 ・10年後の看護師の役割について、自分の意見を持つことができる。 課題レポート②	「未来の医療」に関するニュースや記事を1つ読んで、印象に残ったことをノートにまとめる(90分)。	授業の内容を振り返り、「未来の看護師」として自分がどう関わるかを100字程度で書く(90分)。
担当教員	高岡 哲子		
第5回	医療における科学的実践(講義) 授業内容:実践とは何か。科学的実践とは何かについて考察する。 行動目標:・医療(看護)に求められる科学的実践とは何かについて説明できる。 ・看護実践に求められる科学的根拠の必要性について説明できる 課題レポート③	実践とは何かについて、調べてことをノートにまとめる(90分)。	授業を振り返り、医療における科学的実践の必要性についてレポートにまとめる(90分)
担当教員	藤長 すが子		
第6回	臨床疫学とEBM(講義・GW) 授業内容:事前配布資料の中から、理解できた内容をディスカッションする。臨床疫学とは何か。臨床疫学とEBMの関連について。 行動目標:・臨床疫学とは何かについて説明できる。・臨床疫学とEBMの関連について説明できる。 ワークシート③	配布資料を読む(90分)。	臨床疫学の事例を検索しまとめる(90分)。
担当教員	藤長 すが子		

第7回	看護実践に必要なクリティカルシンキング（講義＋GW） 授業内容：クリティカルシンキングとは。クリティカルシンキングに必要な要素。 行動目標：・主観的と客観的情報の違いが説明できる。・クリティカルシンキングに必要な要素が説明できる ワークシート④ 課題レポート④	クリティカルシンキングとは何か、ノートにまとめる(90分)。	医療の実践においてクリティカルシンキングが必要な理由をレポートする(90分)。
担当教員	藤長 すが子		
第8回	本科目のまとめ(講義：藤長・高岡) 内容1～7回までの講義内容をふりかえる。 行動目標：本科目の学習内容をふりかえり、ポイントを説明できる。 GW：本科目を今後の学習にどのように活かすのかを考える。	1回～7回目の授業内容を復習する(90分)。	今までの学習成果をいつでも見返せるように整理する(90分)。
担当教員	高岡 哲子、藤長 すが子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	ワークシート:10点×4回=40点 課題レポート:15点×4回=60点
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
必要時講義中に提示する。		
履修条件・留意事項等		

- ・私語、必要時以外の携帯電話の使用を禁止する。
- ・学習は主体的に行う。
- ・レポートは学生便覧の定期試験と同等に扱う。
- ・欠席した場合は、必ず欠席届を提出する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		関係法規				ナンバリング	2374
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 洋子						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる」に関係し、看護に関係した健康支援と社会保障制度について学ぶための基礎的知識を獲得するための科目として位置づけられる。							

- 1.保健医療福祉に関する諸制度・諸法令の概要を説明できる。
- 2.看護師の業務範囲と看護師以外の医療職との法律上の業務の違いと協力関係について述べることができる。
- 3.医療過誤、チーム医療の在り方、医療制度の今後の変化など医療をめぐる問題について自ら考え、論じることができる。

授業の方法

授業方法はパワーポイントとハンドアウト資料等を用いた講義形式とする。理解を深めるためQuiz・小テストを実施する。また、適宜レポート課題を提示する。

ICT活用

Google Classroomを活用して、Quiz回答やレポート提出や準備学習・事後学習を行い自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

本講義は看護実務の経験がある教員が授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Quiz・小テスト・課題レポートを実施した後、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	コースオリエンテーション(佐藤) シラバスに基づく科目の説明 1.法及び関連する規範の概念、法規範の特質 2.衛生法	シラバスを確認する。 教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度) テキスト:第1章 pp.1-17、他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員			
第2回	医療従事者の身分・制度 I 1.保健師助産師看護師法の概要	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度) テキスト:第2章 pp.19-48、他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員			
第3回	医療従事者の身分・制度 II 1.保健師助産師看護師の免許、業務、責任 2.その他の関連事項	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度) テキスト:第2章 pp.19-48、他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員			

第4回	医療従事者の身分・制度Ⅲ 1.医師法 2.医療従事者の身分・業務に関連する法規	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度) テキスト:第3章 pp.72-113、他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員			
第5回	医療供給体制と法 1.医療法	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度) テキスト:第3章 pp.49-72、他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員			
第6回	医療従事者の身分・制度Ⅱ－② 1.薬務法 2.その他の法、制度	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度) テキスト:第5章 pp.167-187、他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員			

第7回	医療過誤と看護師の法的責任Ⅰ 1.民事、刑事、行政上の責任 2.医療に関連する裁判例の検討	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(60分間程度) テキスト:第1章 pp.36-39、他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員			
第8回	医療事故と看護師の法的責任Ⅱ 1.患者の人権と法 2.医療とリスクマネジメント	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義内での確認テスト・Quiz (60点) 課題1レポート:20点 課題2レポート:20点
その他	0	
教科書		
森山幹夫 / 健康支援と社会保険制度4 看護関係法令 / 医学書院 / 2022年		
参考文献		
無し。		
履修条件・留意事項等		

講義中は能動的な学修姿勢で臨むこと。
他学生の学びを妨げる行為は慎むこと。
講義中の私語は厳禁。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		生涯発達論				ナンバリング	2376
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	辻 幸美、尾形 裕子、多賀 昌江、横山 佳世						
授業の位置づけ							
看護学科のディプロマポリシー「健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、発達による変化や、発達に影響を及ぼす要因を理解し、人間の発達がどのように起こり得るかについて理解し、小児看護学、母性看護学、成人看護学、老年看護学において成長・発達の特徴と各ライフステージの課題を理解することで、今後の障害や疾患との結びつきを考える能力を養う。 (オムニバス方式/全8回) (多賀昌江/2回) ライフサイクルにおける女性の身体的発達と心理社会的発達を学ぶ。胎児期・新生児期の特徴と発達を学ぶ。 (横山佳世/2回) 乳幼児期・学童期・思春期に当たる小児の身体的発達と心理・社会的発達を学ぶ。 (尾形裕子/2回) 青年期と成人期の身体的特徴と心理・社会的発達を学ぶ。 (辻 幸美/2回) 科目ガイダンスと老年期の身体的特徴と心理・社会的発達を学ぶ。							
授業の概要							
本科目では、健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、発達による変化や、発達に影響を及ぼす要因を理解し、人間の発達がどのように起こり得るかについて理解し、小児看護学、母性看護学、成人看護学、老年看護学において成長・発達の特徴と各ライフステージの課題を理解することで、今後の障害や疾患との結びつきを考える能力を養う。 (オムニバス方式/全8回) (多賀昌江/2回) ライフサイクルにおける女性の身体的発達と心理社会的発達を学ぶ。胎児期・新生児期の特徴と発達を学ぶ。 (横山佳世/2回) 乳幼児期・学童期・思春期に当たる小児の身体的発達と心理・社会的発達を学ぶ。 (尾形裕子/2回) 青年期と成人期の身体的特徴と心理・社会的発達を学ぶ。 (辻 幸美/2回) 科目ガイダンスと老年期の身体的特徴と心理・社会的発達を学ぶ。							
到達目標							

- 1.人間を生涯発達の視点でとらえ、人間発達の共通性と特異性を理解する。
- 2.発達各期の特徴と発達課題を理解し、発達各期の健康問題を理解する。
- 3.胎児期から老年期までのライフサイクルにおける看護援助の視点を明らかにする。

授業の方法

板書、パワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いて、講義形式ですすめる。グループワークでは、その内容について発表を行う。講義内容についての振り返り・質問・意見を記載するレスポンスカードを使用する場合もある。

ICT活用

Classroomを活用し課題提出やレスポンスとして使用する。

実務経験のある教員の教育内容

助産師経験(多賀)と看護師経験(尾形・横山・辻)を活かし、臨床現場の場面などから、看護の対象である人間の発達段階をよりリアルにイメージできるように教授する。

課題に対するフィードバックの方法

レスポンスカードへの質問・意見について解説する。
提出されたレポートは評価して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス:本科目概説とスケジュール・履修上の注意点を説明する。 発達とは何か、発達を理解するための視点、発達に影響を及ぼす因子、各発達段階に関する主な理論の概説を学ぶ。 ライフサイクルにおける女性の生涯発達 ライフサイクルにおける女性の健康と心身の特徴、ジェンダーについて学ぶ	第1章・第2章を熟読し、疑問点を明らかにしておく(45分) 教科書のp4-p57、p156-p215を読んで疑問点を明らかにしておくこと(45分)	教科書と配布資料を参考にし準備学習で出た問題点を解決できたか確認する。(45分) 講義資料を読み直し、教科書の関連ページ読んで理解すること(45分)
担当教員	多賀 昌江		
第2回	家族形成期の発達 親性の発達、家族形成期と家族の発達、胎児期・新生児期の特徴と発達について学ぶ	教科書のp64-p81を読んで疑問点を明らかにしておくこと(60分)	講義資料を読み直し、教科書の関連ページ読んで理解する。提示した課題レポートを作成する(120分)
担当教員	多賀 昌江		
第3回	乳幼児期の心と身体 ライフサイクルにおける小児期を学習する。 乳幼児期における身体的発達の特徴と評価、および心理・社会的側面の発達について学ぶ。	第4章p-83～p-118を精読し、疑問点を明らかにしておくこと。(60分)	教科書および配布資料を復習し事前学習での疑問点が理解できているか確認する。(60分)
担当教員	横山 佳世		

第4回	学童・思春期の心と身体 学童・思春期における身体的発達の特徴と心理・社会的側面の発達について学ぶ。学童・思春期における健康上の問題について学ぶ。	第5～6章p-121～p-187を精読し、疑問点を明らかにしておくこと。(60分)	教科書および配布資料を復習し事前学習での疑問点が理解できているか確認する。 小児期のレポートを作成する(120分)
担当教員	横山 佳世		
第5回	青年期の心と体 青年期及の機能・形態的側面の発達及び心理・社会的側面の発達についての特徴を学習する。これらの特徴から生じる健康上の問題や、発達に必要な支援を学ぶ。	第7章p192～218を読み、疑問点を明らかにしておく(90分)	本講の講義内容を復習し、提示した課題レポートを作成する(60分)
担当教員	尾形 裕子		
第6回	成人期の心と体 成人期の機能・形態的側面の発達及び心理・社会的側面の発達についての特徴を学習する。これらの特徴から生じる健康上の問題や、発達に必要な支援を学ぶ。	第8章p220～250を読み、疑問点を明らかにしておく(90分)	本講の講義内容を復習し、提示した課題レポートを作成する(120分)
担当教員	尾形 裕子		

第7回	老年期の発達 ライフサイクルにおける老いのイメージを明確化し、老年期の 特徴と多様な老いを考える。 老年期の形態・機能的側面について学習する。	第9章p251-p256を熟読し、疑問 点を明らかにしておく(90分)	教科書と配布資料を参考にし準 備学習で出た問題点を解決で きたか確認する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	老年期の発達 老年期の心理・社会的側面からみた発達の特徴について 学習する。 老年期の発達の評価と理論を基に発達課題を学習する。	第9章p256-p289を熟読し、疑問 点を明らかにしておく(120分)	教科書と配布資料を参考にし準 備学習で出た問題点を解決で きたか確認する。 老年期のレポートを作成する。(120分)
担当教員	辻 幸美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	多賀、横山、尾形、辻:各レポート25点。 提出が遅れた場合は減点とする。 評価基準は各教員が提示する。
その他	0	なし
教科書		
舟島なおみほか「看護のための人間発達学」医学書院、2022第5班6刷		
参考文献		
必要時提示		
履修条件・留意事項等		

評価の対象となるものに対する不正行為、また不正と疑わしい行為は、D評価になる場合がある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		地域包括ケアシステム論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳、小橋 拓真						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる」、「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる」と特に関係がある科目である。また、「臨床場面や研究において、状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている」などとも関係する。							
授業の概要							
超高齢社会を迎えた日本では、医療・介護保険制度また関連する施策改定により、各地域の実情に合った地域包括ケアシステムの構築を推進しており、看護師・理学療法士・作業療法士等の活躍が期待されている。そのため地域包括ケアシステムの制度およびその実践を学び、地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、地域包括ケアシステムにおいてリーダー的役割を担うことができる能力を養う。							
到達目標							

・地域連携の基本的な連携について説明できる。 ・地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉と専門職の役割について説明できる。 ・在宅療養者と家族を中心とする地域包括ケアシステムについて説明できる。

授業の方法

・パワーポイントと配布資料、視聴覚教材を用いた講義形式とグループワークを進める。 ・授業の理解度確認のため小テストを実施する。 ・ゲストスピーカーによる地域における実践例について、レポート課題を実施する。

ICT活用

・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。 ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

水本は理学療法士として、これまで臨床・研究、行政職の経験があり、地域リハビリテーションについて幅広い知識を有している。この経験を活かして地域包括ケアシステムに関する授業を行う。 小橋は、看護師、保健師としての実務経験、及び、地域包括支援センター、社会福祉協議会における実務経験を講義に活用する。

課題に対するフィードバックの方法

・アクティブラーニングとして小テストを実施し、実施後には、解答・解説を行い知識を深める。 ・小テストの最後に質問事項の記述欄を設け、次回の授業時に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1.地域包括ケアシステム論の概要, 地域連携の方法論および地域連携と多職種連携について【講義】(小橋) 1)地域包括ケアの概念 2)地域連携の理論と方法 3)我が国の社会保障制度の変遷 4)我が国の医療の背景と特徴, ケアサイクルの概念と理論 5)連携の方法と形式について 6)地域包括ケアシステムが求められる背景	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	小橋 拓真		
第2回	2.地域包括ケアシステムにおけるリハ職の役割【講義】(水本) 1)退院支援から地域連携におけるリハ職の役割 2)様々な地域の事例から地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み 3)薬剤師, ソーシャルワーカーなど他の役割について 小テスト1および解説	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	水本 淳		
第3回	3.地域包括ケアシステムにおける看護職の役割【講義】(小橋) 1)退院支援から地域連携において, 看護師にはどのような役割があるのかについて 2)退院支援のプロセス第1段階, 第2段階, 第3段階について 3)地域連携の展望と課題 4)認知症ケアが必要とする地域連携 5)小規模多機能型居宅介護が進める地域連携	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	小橋 拓真		

第4回	4.地域医療連携における退院支援の実践【講義】(小橋・水本) ゲストスピーカー:盛岡友愛病院 退院支援専従看護師 看護師長 高江柄 敦子 先生 1)退院支援部門の看護師による退院支援院内チームと地域連携の取り組みについて	教科書の関連する内容を読む。(90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと,感想についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員	小橋 拓真		
第5回	5.地域連携の方法論【演習】(水本・小橋) ゲストスピーカー:大津 崇輔 先生(元経済産業省/北海道子ども総合医療・療育センター 企画総務課) 1)日本における地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み ・国の機関(経済産業省・厚生労働省・内閣府など)や地域公共団体が支える地域包括ケアシステム	教科書の関連する内容を読む。(90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと,感想についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員	水本 淳		
第6回	6.地域包括ケアシステムにおける多職種の連携【演習】(水本) グループワーク 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む。(90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと,感想についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員	水本 淳		

第7回	7.地域包括ケアにおける医師の役割と地域連携の実践【講義】(小橋・水本) ゲストスピーカー: 柴田 岳三 先生(緩和ケアクリニック恵庭) 1)恵庭市で緩和ケアクリニックを開業している医師から恵庭市における在宅緩和ケアを中心とした地域包括ケアシステムの取り組みについて	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	小橋 拓真		
第8回	8.地域包括ケアシステムの展望について【講義】(水本) 1)インテグレートケアについて 2)地域包括ケアシステムの展望について 視聴覚教材の視聴 小テスト2および解説	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	水本 淳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	課題レポート(60%:8回)
その他	40	小テスト:2回(40%:20%×2回)
教科書		
地域連携論－医療・看護・介護・福祉の協働と包括的支援－ 高橋紘士・武藤正樹／オーム社		
参考文献		
講義内で紹介する		
履修条件・留意事項等		

地域のサービスについて興味を持って学ぶこと

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		保健医療福祉行政論				ナンバリング	2382
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	井上 仁美						
授業の位置づけ							
本科目は「健康支援と社会保障制度」分野の科目である。また、DPの「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる」と関連した科目である。教養科目の「日本国憲法」「現代医療と福祉・介護」「関係法規」とも関連し、わが国の保健医療福祉制度を学ぶ科目である。							
授業の概要							
わが国では、少子高齢化、多死社会に向かっており、保健・医療・福祉領域において、地域での支援システムやネットワークの確立が不可欠になっている。そのため、看護職が社会福祉領域と協働して活動することが重要な課題となっている。保健医療福祉行政の基礎となっている日本国憲法をふまえて、社会福祉・社会保障の理念、および、看護活動に必要な様々な制度を学ぶ							
到達目標							

- ・健康に関する指標として、人口静態・人口動態および 受療行動などの統計について説明できる。
- ・保健医療福祉行政の根拠と公衆衛生の定義を説明できる。
- ・わが国の社会保障制度の考え方について説明できる。
- ・わが国のセーフティネットの種類と仕組みについて説明できる。
- ・わが国の医療保険制度と課題について説明できる。
- ・わが国の介護保険制度を含めた高齢者を対象とした社会保障・福祉制度の仕組みと課題について説明できる。
- ・わが国の障害者施策の概要と課題について説明できる。
- ・わが国の年金制度と課題について説明できる。

授業の方法

講義は指定しているテキストを主に使用して行う。学生は本科目用にノートを用意し、講義内容をノートにまとめる。ノートを準備学習・事後学習として作成し提出することで継続的な学習習慣を確立する。講義内容は次回の講義で確認テストを実施することで、必要な知識を定着する。

ICT活用

Google Classroom (以下、GC) に準備学習・事後学習を提示し、課題を提出することで自主学習の支援を行う。

実務経験のある教員の教育内容

本科目は看護師として実務経験のある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

準備学習および事後課題や時間内に実施する確認テストについては、講義時間内またはGCでフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス わが国の保健統計 ・わが国の人口動態・人口静態について学ぶ ・死因統計および疾病統計について学ぶ	テキストの該当箇所をよく読んで重要なところに下線を引く(90分)。	第2回講義で確認テストを実施するため、自己学習ノートを作成し提出する。(90分)。
担当教員			
第2回	公衆衛生と疫学・統計【確認テスト10点;第1回目の内容】 ・公衆衛生と健康の概念について学習する ・疫学と統計解析の基礎について学習する	テキストの該当箇所を読んで重要な箇所に下線を引く(90分)。	第3回講義で確認テストを実施するため、自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第3回	医療と社会【確認テスト10点;第2回目の内容】 ・医の倫理と患者の人権について学ぶ ・保健師助産師看護師法および他職種の資格法について学習する ・医療の質と安全の確保について学習する	テキストの該当箇所を読んで重要な箇所に下線を引く(90分)。	第4回講義で確認テストを実施するため、自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			

第4回	社会保障と社会福祉【確認テスト10点;第3回目の内容】 ・社会保障制度、所得保障である年金制度、生活保護について学習する ・社会福祉について学習する	テキストの該当箇所を読んで重要な箇所に下線を引く(90分)。	第5回講義で確認テストを実施するため、自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第5回	わが国の医療保障制度と国民医療費【確認テスト10点;第4回目の内容】 ・医療保険と保険診療の仕組みについて学習する ・国民医療費、公費医療について学習する	テキストの該当箇所をよく読んで重要なところに下線を引く(90分)。	第6回講義で確認テストを実施するため、自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第6回	薬害について学ぶ<薬害の当事者の方(ゲストスピーカー)から薬害の実際について話をお聞きする> ・薬害の事例と当事者の困難について説明できる ・薬害を起こさないようにするにはどうしたらよいか考えることができる	厚生労働省『薬害をまなぶ』を読む(90分)。	お話を聞いたのちにレポートを作成し提出する(90分)。
担当教員			

第7回	高齢者保健福祉【確認テスト10点;第5回目の内容】 ・老人福祉法、介護保険法などの高齢者に関する保健医療福祉制度とその問題点について学習する	テキストの該当箇所をよく読んで重要なところに下線を引く(90分)。	第8回講義で確認テストを実施するため、ノートを作成し確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第8回	障害者福祉【講義の最初に第7回講義の内容の確認テスト10点、講義の終了前に第8回講義の内容の確認テスト10点】 ・疾病・障害の概念について学ぶ ・障害者の福祉施策を学習する	テキストの該当箇所をよく読んで重要なところに下線を引く(90分)。	指定されたテーマでレポートを作成し提出する。 講義で学習したことをノートに復習し提出する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の確認テスト10点×7回(計70点)を実施する。レポート3回(10点×3)と合わせて100点とする。 確認テストは授業開始時に前回の内容の確認テストを実施する。 テスト内容はおもにテキストと講義で説明したことから出題する。 確認テストはテキストと自分が作成したノートの持ち込みのみ可とする。スマホやパソコンの使用は認めない。テキストやノートを忘れた場合、他の学生からの貸し借りは認めない。 授業を欠席した場合(公欠含む)は、その回のテストは0点となるが、欠席及び公欠をした場合の代替措置はGCに提示するので、指示された内容で提出することで補うことはできる。 確認テストは返却しないが、Classroomでフィードバックを行う。 自分で作成したノート(手書きのみ有効)をGCに写メ等でUPし提出した場合は、内容と量に応じて1～3点/回を加点する。
その他	0	
教科書		
『公衆衛生がみえる2024-2025 第6版』安藤雄一他 メディックメディア 本科目は資料は配布せず、教科書を用いてすべての講義を行うため、第1回講義までに必ず教科書を購入しておくこと。		
参考文献		
適宜、GCに提示する。		
履修条件・留意事項等		

毎回、必ず出席を取るため、遅刻・欠席がないようにすること。遅刻が20分を超える場合は欠席となる。
遅刻3回で1回の欠席とする(看護学科申し合わせ事項)。計8回のうち、3分の1以上の欠席で単位認定をしないことがある。
欠席および遅刻をした場合は、その回の確認テスト(10点)が0点となる。配点が大きいため注意すること。
総合点で60点に満たない場合はDHの対象者となり再試を実施する。
私語は厳禁とする。授業時間中にやむを得ない理由以外で席を立たないこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		チーム医療概論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	坂東 奈穂美、佐藤 明紀、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
看護学科のディプロマポリシー「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる」に関連した科目である。 他の科目とのつながり： 「保健医療福祉行政論」「コミュニケーション論」「リハビリテーション論」「地域包括ケアシステム論」と関連し、「看護マネジメント論」および専門科目の看護学臨地実習分野の基礎となる。							
授業の概要							
本科目は、チーム医療の視点を持ち、多職種連携を理解することを目標とする。学習方法は異なる職種で構成されるチームメンバーの役割と機能を把握し、効果的なチームビルディングに必要な知識を習得する。これらの知識を基盤として各専門職の立場からチームにおける自らの役割を考察する。							
到達目標							

- ・チーム医療における各専門職の役割について説明できる
- ・多職種で連携する目的と、その実現に向けたシステムについて説明できる。
- ・多職種と協働するために必要なコミュニケーションスキルについて説明できる

授業の方法

パワーポイントとハンドアウトによる講義、および講義の内容に基づいたグループワークを行う。

ICT活用

Google Classroomを用いて、授業資料の配信や出席確認、レポート課題の提出などを行う場合がある。

実務経験のある教員の教育内容

坂東奈穂美：看護師として急性期病院での勤務経験を活かした授業を行う。
 佐藤明紀：理学療法士として、総合病院での臨床経験15年を有し、活動経験を基に授業を行う。
 金谷匡紘：作業療法士として急性期や回復期、生活期のリハビリテーションに従事しており、その経験を基に授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

コメントシートは授業内、もしくはGoogle Classroom内で解説する。レポート課題については、必要時、コメントによりフィードバックをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 【看護師の役割】 チーム医療が求められるようになった背景と、看護職に求められる役割について説明する。(坂東) コメントシート①	チーム医療における看護師の役割を調べる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第2回	【理学療法士の役割】 理学療法士の役割について説明する(佐藤) コメントシート②	理学療法士の仕事について調べる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	【多職種との連携①】 他職種を理解し連携を考える(佐藤)	指定された他職種の仕事について調べる(90分)	レポート課題①を期限までに提出する(90分)
担当教員	佐藤 明紀		

第4回	【作業療法士の役割】 チーム医療における作業療法士の役割について説明する(金谷)	作業療法士の仕事について調べる(90分)	授業内容をノートにまとめる。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第5回	【多職種との連携②】 病院と地域をつなぐチーム医療(金谷)	医療ソーシャルワーカーの仕事について調べる(90分)	レポート課題②を期限までに提出する(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第6回	【連携・協働のためのスキル】(坂東) 多職種で連携・協働するためのコミュニケーション、チームが出来上がるまでのプロセス、連携のための心構え(DVD)、多職種で連携しやすくするための取り組み(IPW/IPE)コメントシート④	友人や知人などと関係性を作るときに気を付けていることをあげてくる(90分)	他職種を理解するために自分はどうしたいのか考えをまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		

第7回	グループワーク:他職種を理解するために、どのようなことを行うと良いのかを考える。一チームとして協力し合うために必要なことー(佐藤、金谷、坂東)	自分とは異なる考えや価値観を持った相手に対して、自分はどうのように捉えるのか、自分の傾向を振り返える(90分)	グループで検討した内容をまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、佐藤 明紀、金谷 匡紘		
第8回	グループワークの発表会(佐藤・金谷・坂東) それぞれのグループで話し合った事について発表し、共有する。	発表の準備をする(90分)	レポート課題③に取り組む(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、佐藤 明紀、金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	コメントシート:40%(10%×4回) レポート課題:60%(15%×2回、30%×1回)
その他	0	
教科書		
なし。授業内で資料を配布する		
参考文献		
・実践チーム医療論—実際と教育プログラム 水本清久他 編著 医歯薬出版 2011 ・「チーム医療」とは何か—患者・利用者本位のアプローチに向けて(第2版) 細田満和子 著 日本看護協会出版会 2021 ・新しいチーム医療—看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門(改訂版) 田村由美 編著 看護の科学社 2018		
履修条件・留意事項等		

コメントシートや課題は授業内容やグループで検討した内容や準備学習・事後学習に基づいているので、欠席しないこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		リハビリテーション論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	橋田 浩、大川 浩子						
授業の位置づけ							
・ディプロマ・ポリシーの「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。 ・総合教養講座・医学概論・日本国憲法・現代医療と福祉・介護と関連し、母性看護学の基礎・小児看護学の基礎・成人看護学の基礎・老年看護学の基礎・精神看護学の基礎・在宅看護学の基礎、チーム医療概論の基礎となる科目である。							
授業の概要							
・本科目は、地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、看護を実践に必要な基本的なリハビリテーション(医学的・社会的・教育的・職業的)の知識を身につけるため、リハビリテーションの概念・目標、リハビリテーションの対象となる状態像を理解することを目標とする。学習内容は、リハビリテーションの基礎知識、わが国のリハビリテーションを支える社会制度や社会資源、多職種によるチームワークの重要性を学ぶ。							
到達目標							

1. 病気や障害の捉え方を説明できる。
2. リハビリテーション分野の定義や現状を具体的に説明できる。
3. リハビリテーション分野の関連職種の名称を述べるができる。
4. リハビリテーションを支える社会制度や社会資源、法律についておおまかに説明できる。

授業の方法

- ・視聴覚教材を併用しながら基本的なリハビリテーションへの理解を深める。
- ・アクティブラーニングでは理解すべき基本的事項を確認課題として各自に課し、その解答にフィードバックを行う。

ICT活用

Googleのクラスルームを利用するのでスマートフォン等を持参する事。

実務経験のある教員の教育内容

病院において理学療法士、作業療法士としての勤務経験を活かし授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして確認課題を行い、質問などに対する解説を行う。
授業時間以外はgoogle クラスルームを通じて個別の質問等に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	リハビリテーションの歴史と理念。医学的リハビリテーションの対象疾患。QOLと何か。リハビリテーション医療における看護の役割など。【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	大川 浩子		
第2回	リハビリテーション医療の特殊性。チーム医療の必要性和チームアプローチ。リハビリテーション医療に携わる専門職の役割と機能、パートナーシップなど。【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	大川 浩子		
第3回	WHOの国際分類(ICD,ICIDH,ICF)が生まれた背景。国際生活機能分類(ICF)の理念と活用法。代表的なADL評価(FIM、BI)への理解と活用法。「している」ADLと「できる」ADLの違いなど。【アクティブラーニング】確認課題実施。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	大川 浩子		

第4回	医療保険でのリハビリテーション。脳卒中の急性期・回復期におけるリハビリテーションのチームアプローチと高次脳機能障害について。廃用症候群の諸症状と不動や低活動の予防。生活レベルでの活動の促進について。 【アクティブラーニング】確認課題実施授業内で確認テスト実施(授業範囲1回~4回)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	大川 浩子		
第5回	運動機能障害のある人へのリハビリテーション「脳卒中の場合」(脳卒中の生活期を支えるチームアプローチと各種介護サービスの紹介。) 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第6回	運動機能障害のある人へのリハビリテーション「脊髄損傷の場合」(急性期・回復期・生活期のリハビリテーション治療目標と各種支援方法。脊髄損傷者の障害理解と麻痺を補う自助具、機器の活用法など。) 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		

第7回	運動機能障害のある人へのリハビリテーション「大腿骨近位部骨折及び変形性膝関節症の場合」 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第8回	地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション 【アクティブラーニング】確認課題実施 テスト実施(授業範囲5回・8回)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中間時及び授業終了時の確認テストの計2回の合計点で評価する。
その他	0	
教科書		
リハビリテーション看護(改訂第3版)／酒井郁子・金城利雄・深堀浩樹 ISBN978-4-524-24629-2		
参考文献		
必要に応じてPDF資料をgoogleクラスルームにて配信する。		
履修条件・留意事項等		

・定期試験は行わず、授業中間時及び授業終了時の確認テストの計2回の合計点で評価する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		医療英語(1組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

本科目は、共通語としての英語を重視することにより、グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる(関心・意欲・態度)看護師の育成に不可欠な科目として位置付けられる。

授業の概要

This class is a practical, basic introduction to everyday nursing English. In this course learners will acquire the vital communicative essentials for everyday nursing, without demanding a high level of English.

到達目標

The overarching goal of this course is for learners to acquire the variety of English language spoken and understood by nurses and patients in common situations in hospitals. In order to achieve this goal, learners must first understand the variety of English that is spoken in common situations in hospitals. Secondly, learners must learn appropriate learning strategies that will be effective for acquiring this variety of English. Thirdly, learners must learn how to generate, receive and act upon feedback they will receive when they use this variety of English in the workplace.

授業の方法

Students will learn key expressions, vocabulary, and conversations for common situations in hospitals. Students will study vocabulary, new expressions and listen and check comprehension of two conversations between a nurse and a patient in each unit. Students will be required to complete a unit quiz after completing each unit.

ICT活用

Students will use the Google Suite for Education during this course. The material will be posted on Google Classroom. Students will use the textbook and worksheets to study material covered in each unit. The unit Quizzes will be posted on Google classroom.

実務経験のある教員の教育内容

I have a Masters of Arts in Teaching with a focus on Teaching English to Speakers of Other Languages (MAT-TESOL). I have been teaching in the classroom for over 10 years.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be given during each class, or on Google Meet if the classes are online, and scores from the unit quizzes will be returned

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Study units 1 and 2 key expressions, vocabulary, conversations with the teacher.	Preparation:units 1 and 2 key expressions, vocabulary, conversations (90 minutes)	Review: Unit 1 and 2 (90 minutes)
担当教員			
第2回	Study units 3 and 4 key expressions, vocabulary, conversations with the teacher.	reparation: units 3 and 4 key expressions, vocabulary, conversations (90 minutes))	Review unit 3 and 4 (90 minutes).
担当教員			
第3回	Study units 5 and 6 key expressions, vocabulary, conversations with the teacher.	Preparation: units 5 and 6 key expressions, vocabulary, conversations (90 minutes)	Review unit 5 and 6. (90 minutes)
担当教員			

第4回	Complete the script-making assignment.	Preparation: review units 1-6; prepare for the script-making assignment. (90 minutes)	Review: look back over units 1-6. (90 minutes)
担当教員			
第5回	Study units 8 and 9 key expressions, vocabulary, and conversations.	Preparation: units 8 and 9 key expressions, vocabulary, and conversations. (90 minutes)	Review units 8 and 9 key expressions, vocabulary, conversations. (90 minutes)
担当教員			
第6回	Study units 10 and 11 key expressions, vocabulary, and conversations.	Preparation: units 10 and 11 key expressions, vocabulary, and conversations. (90 minutes)	Review units 10 and 11. (90 minutes)
担当教員			

第7回	Study unit 12 key expressions, vocabulary, and conversations.	Preparation: unit 12 key expressions, vocabulary, and conversations. (90 minutes)	Review unit 12. (90 minutes)
担当教員			
第8回	Complete the video-recording assignment.	Preparation: review units 8-12; prepare for the video-recording assignment (90 minutes)	Review: look back over units 8-12. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	No such test	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Participation and Homework 50 Assignments 50
その他	0	Not applicable
教科書		
Bedside Manner Beginner by Simon Capper Perceptia Press 2019 Third Edition ISBN 978-4-939130243		
参考文献		
None		
履修条件・留意事項等		

This course is only available to students in the Nursing Department

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		医療英語(2組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

本科目は、共通語としての英語を重視することにより、グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる(関心・意欲・態度)看護師の育成に不可欠な科目として位置付けられる。

授業の概要

This class is a practical, basic introduction to everyday nursing English. In this course learners will acquire the vital communicative essentials for everyday nursing, without demanding a high level of English.

到達目標

The overarching goal of this course is for learners to acquire the variety of English language spoken and understood by nurses and patients in common situations in hospitals. In order to achieve this goal, learners must first understand the variety of English that is spoken in common situations in hospitals. Secondly, learners must learn appropriate learning strategies that will be effective for acquiring this variety of English. Thirdly, learners must learn how to generate, receive and act upon feedback they will receive when they use this variety of English in the workplace.

授業の方法

Students will learn key expressions, vocabulary, and conversations for common situations in hospitals. Students will study vocabulary, new expressions and listen and check comprehension of two conversations between a nurse and a patient in each unit. Students will be required to complete a unit quiz after completing each unit.

ICT活用

Students will use the Google Suite for Education during this course. The material will be posted on Google Classroom. Students will use the textbook and worksheets to study material covered in each unit. The unit Quizzes will be posted on Google classroom.

実務経験のある教員の教育内容

I have a Masters of Arts in Teaching with a focus on Teaching English to Speakers of Other Languages (MAT-TESOL). I have been teaching in the classroom for over 10 years.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be given during each class, or on Google Meet if the classes are online, and scores from the unit quizzes will be returned

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Study units 1 and 2 key expressions, vocabulary, conversations with the teacher.	Preparation:units 1 and 2 key expressions, vocabulary, conversations (90 minutes)	Review: Unit 1 and 2 (90 minutes)
担当教員			
第2回	Study units 3 and 4 key expressions, vocabulary, conversations with the teacher.	reparation: units 3 and 4 key expressions, vocabulary, conversations (90 minutes))	Review unit 3 and 4 (90 minutes).
担当教員			
第3回	Study units 5 and 6 key expressions, vocabulary, conversations with the teacher.	Preparation: units 5 and 6 key expressions, vocabulary, conversations (90 minutes)	Review unit 5 and 6. (90 minutes)
担当教員			

第4回	Complete the script-making assignment.	Preparation: review units 1-6; prepare for the script-making assignment. (90 minutes)	Review: look back over units 1-6. (90 minutes)
担当教員			
第5回	Study units 8 and 9 key expressions, vocabulary, and conversations.	Preparation: units 8 and 9 key expressions, vocabulary, and conversations. (90 minutes)	Review units 8 and 9 key expressions, vocabulary, conversations. (90 minutes)
担当教員			
第6回	Study units 10 and 11 key expressions, vocabulary, and conversations.	Preparation: units 10 and 11 key expressions, vocabulary, and conversations. (90 minutes)	Review units 10 and 11. (90 minutes)
担当教員			

第7回	Study unit 12 key expressions, vocabulary, and conversations.	Preparation: unit 12 key expressions, vocabulary, and conversations. (90 minutes)	Review unit 12. (90 minutes)
担当教員			
第8回	Complete the video-recording assignment,	Preparation: review units 8-12; prepare for the video-recording assignment. (90 minutes)	Review: look back over units 8-12. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	No such test	

定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Participation and Homework 50 Unit Quizzes 50
その他	0	Not applicable
教科書		
Bedside Manner Beginner by Simon Capper Perceptia Press 2019 Third Edition ISBN 978-4-939130243		
参考文献		
None		
履修条件・留意事項等		

This course is only available to students in the Nursing Department

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		看護学英語文献講読(非開講)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	梶本 常子、佐藤 洋子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる」とことと特に関係がある科目である。英語文献を講読することで研究する力を身につけ、「看護研究Ⅰ」と「看護研究Ⅱ」と連携している。

授業の概要

看護学と医療・保健の質向上に貢献できる研究能力を養うため、看護学の英語文献を実際に日本語に翻訳する中で、英語の長文を講読する方法を習得し、学術文献の内容を理解できるように実践的に学ぶ。

到達目標

1. 英語文献を講読する意味が理解できる。
2. 看護学関連の英語文献を日本語に翻訳することができる。
3. 翻訳した英語文献を基に自らの考えを述べることができる。

授業の方法

講義形式と学生同士のディスカッション、発表を活用して行う。
教材は、担当教員が作成した資料を用いる。

ICT活用

レポートの提出などはclassroomを活用して行う。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は、看護師資格を有し臨床経験に基づいた講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、個別に評価する。
フィードバックは全体へ行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	コースガイダンス 授業の概要、進めかた、評価方法などについて説明する	英語論文を読むことの意義について調べておく(90分)	講義内容を振り返る(90 分)
担当教員	佐藤 洋子		
第2回	看護学関連の英語文献を講読する意義 看護学関連の英語文献を講読する必要性、講読するポイント、英語文献の検索方法(CINAHL)、文献の抽出。	英語文献の検索方法(CINAHL)について調べておく(90分)	抽出した文献を翻訳する(90 分)
担当教員	佐藤 洋子		
第3回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献を翻訳する(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	榎本 常子		

第4回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献を翻訳する(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	証本 常子		
第5回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献に対する自分の意見をまとめる(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	証本 常子		
第6回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献に対する自分の意見をまとめる(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	証本 常子		

第7回	発表会(発表・講義) 抽出した文献の概要と自身の考えを発表して、他者から意見をもらう。	発表準備を行う(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	榎本 常子、佐藤 洋子		
第8回	本講義のまとめ 本講義の内容を振り返る。 最終レポート:抽出した英語文献の概要と自身の考えをレポートとして1200字程度にまとめる。	これまでの講義内容を振り返る(90分)	最終レポートを作成する(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	最終レポート
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
必要時講義中に提示する。		
履修条件・留意事項等		

私語、必要時以外の携帯の使用を禁止する。
学習は主体的に行う。
評価対象物への不正行為は、D判定となる場合があります。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		看護学の基礎				ナンバリング	3400
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	藤長 すが子						
授業の位置づけ							
本科目は、「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している」というディプロマポリシーを中心に展開される。看護学を説明するための概念や理論と同時に、科学的根拠を土台に人々の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得するための科目である。授業においては、学習への主体的・自律的な行動が期待され、専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけることが望まれる。看護学を学ぶにあたり最初に学習する専門科目であり、看護学全体の基本的内容を含む科目である。							
授業の概要							
健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、看護学の歴史的発展と看護学の基盤となる主要概念である「看護」「人間」「健康」「環境」について学習する。また、看護の対象となる人々の「生活」を理解するとともに、看護活動を提供するための場と仕組み、および専門職の役割・機能について学ぶ							
到達目標							

1. 看護とは何かについて、自分の言葉で述べることができる
2. 看護学の基本概念である「看護」・「人間」・「健康」・「環境」について説明できる
3. 看護の対象となる人間の「生活」の理解を通して、看護の役割と機能について説明できる
4. 看護の歴史の変遷について説明できる
5. 看護を取り巻く法について説明できる
6. 看護提供の場と仕組みについて説明できる

授業の方法

1. 講義形式: パワーポイントと配布資料を用いる
2. グループディスカッション
3. プレゼンテーション
4. DVDの活用
5. 課題学習ノートとリフレクションカードを用いる

ICT活用

Google Classroomを用いて課題の提示、回収、必要時コメントを実施する。
Formsを用いて知識の確認などを実施する
インターネット活用による事前学習を行う

実務経験のある教員の教育内容

看護師としての病院勤務経験をもとに、看護についての基本的な考え方を具体的な事例を用いて教授する。また、障がいをもちながら生活をしている当事者や看護師としての臨床経験豊かなゲストスピーカーによる講義を実施する予定である

課題に対するフィードバックの方法

授業終了時にFormsやリフレクションカードなどを用いて授業内容に関する疑問・質問を受け付け、次回講義時にフィードバックする
提出された課題には、必要時コメントをつけて返却する
必要時、Google Classroomを用いてコメントを返却する

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【講義】 コースオリエンテーション 看護を学ぶ意義と大学における学習方法 看護とは 看護の原点、看護の語源	教科書1. p2-5を読みノートにまとめる 看護の語源について調べる(60分)	看護とは何かについて調べ、ノートにまとめる(90分)
担当教員			
第2回	【講義】 看護の歴史的変遷 看護学の発展	教科書1. p50-79を読みノートにまとめる(90分)	ゴールドマークレポートとブラウンレポートの背景と内容及び歴史的な意味についてノートにまとめる(90分)
担当教員			
第3回	【講義・グループディスカッション】 看護学と看護の概念 GW:看護とは何かについて調べてきたことをグループディスカッションする グループで話し合われたことをプレゼンテーションする 講義:看護の定義 看護学の主要概念	教科書1. p13-18を読みまとめる 「看護」の定義について文献などを用いて調べ、ノートに整理する(90分)	保健師助産師看護師法とICNの看護の定義の共通点と違いについて検討し、ノートに整理する(90分)
担当教員			

第4回	【講義】 看護の基本概念:「人間」 ・看護の対象:生活者としての「人間」 ・人間のこころとからだ ・人間の基本的ニード ・生活とは ・発達理論 ・家族、集団、地域	教科書1. p19-27、p82-101を 読みノートにまとめる 人間について文献などを用いて 調べ、ノートに整理する(90分)	看護の対象について整理する 人間の基本的ニードについてノ ートにまとめる(90分)
担当教員			
第5回	【講義・グループディスカッション】 看護学の主要概念:「健康」 GW:健康とは何かについて、事前に調べてきた内容をも とにグループディスカッションする グループで話し合われた内容をプレゼンテーションす る 講義:健康とは何か ・健康モデル ・ライフサイクルとライフコース	教科書1. p101-108を読みま とめる 健康とは何かについて文献など を用いて調べ、ノートにまとめる(90分)	看護と健康の関連について整 理する(90分)
担当教員			
第6回	【講義】 看護の主要概念:「健康」 ・ヘルスプロモーション、予防、障害 ・人口統計と出生・死亡 ・ライフスタイル ・健康に影響する要因	人口統計、出生と死亡、疾病構 造について調べノートに整理す る(90分)	ICIDHとICFの考え方の違いに ついて整理する(90分)
担当教員			

第7回	【講義】 看護の主要概念:「環境」 ・環境とは ・看護と環境の相互関連	「環境」とは何かについて、共通看護援助技術の授業を参考にしながらまとめる(90分)	看護と環境の関連についてノートにまとめる(90分)
担当教員			
第8回	【講義・グループディスカッション】 看護の役割と機能 GW: ケアについて調べたことをグループディスカッションする グループで話し合った内容をプレゼンテーションする 講義:看護ケア 看護職が機能する場 看護活動を展開するための法的基盤	教科書1. p110-122を読みまとめる ケアについて調べ、ノートにまとめる(90分)	ケア・キュア・コアの違いについて整理する(90分)
担当教員			
第9回	【講義】 看護実践の特徴 ・医療安全と医療の質の保証 ・看護の質保証に必要な要件 ・看護における安全・安楽・自立/自律 ・看護行政	教科書1. p208-217を読みノートにまとめる(90分)	看護の質保証において安全・安楽・自立/自律が必要な理由を整理する 医療事故の発生要因と問題解決についてノートにまとめる(90分)
担当教員			

第10回	【講義】 ゲストスピーカー 視覚障がいを持ちながら生活をしている当事者による講義 ・障がいを持ちながら生活すること ・看護師を含めた医療従事者に期待すること	これまでの講義を振り返り、「障がいを持ちながら生活をするとは」について自分の考えをまとめる(90分)	課題レポート① ゲストスピーカーの講義を受け、「障がいを持ちながら生活をする」ことについて学んだことをレポートする(90分)
担当教員			
第11回	【講義・DVD】 看護の専門性 ・専門職とは ・専門職の要件	教科書1. p236-240を読みノートにまとめる(90分)	講義内容とDVDを視聴しての学びを整理する(90分)
担当教員			
第12回	【講義】 保健医療福祉システムと多職種連携 ・保健医療福祉に関わる各職種 ・保健医療福祉システムとは ・地域包括ケアシステムとは ・看護において多職種連携が必要な理由	教科書1. p123-138を読みノートにまとめる(90分)	地域包括ケアシステムにおける看護職の役割についてノートにまとめる(90分)
担当教員			

第13回	【講義】 ゲストスピーカー 臨床の場における看護実践の実際に関する講義	ゲストスピーカーの勤務する病院について、インターネットなどで概要を調べる(60分)	ゲストスピーカーによる講義内容をもとに、自らの看護に対する考えをレポートする(90分)
担当教員			
第14回	【講義・グループディスカッション】 現在の看護職の活動と将来の展望 GW:現在の看護の課題について、事前に考えてきた内容をもとにグループディスカッションする グループディスカッションした内容をプレゼンテーションする	現代の看護の課題についてノートにまとめる(90分)	テーマに沿ってレポートを作成する。テーマはGoogle Classroomで発表する(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 確認テスト	これまでの学習内容の復習をする 教科書1. p313-314の問題を解く(90分)	確認テストで出された内容を復習する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	50% 筆記試験による 35% 課題提出と課題の達成度(事前学習・事後学習含) 15% 課題レポート提出状況と内容の充実度
その他	0	
教科書		
1. 宮脇美保子編(2021). 新体系看護学全書 基礎看護学①看護学概論,第5版. メヂカルフレンド社. 2. フローレンス・ナイチンゲール, 小玉香津子, 尾田葉子訳(2019). 看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護. 日本看護協会出版会. 3. ヴァージニア・ヘンダーソン, 湯嶺ます・小玉香津子訳(2016). 看護の基本となるもの. 日本看護協会出版会.		
参考文献		

授業の中で適宜参考文献を紹介する

履修条件・留意事項等

学習は主体的に行うこと
全授業時間の3分の2以上の出席をもって評価対象とする
評価対象物において代筆や盗用、カンニングなどの不正行為があった場合には、D判定となる場合がある
欠席をした場合は欠席届を提出すること

備考欄

ゲストスピーカーの講義は、状況により日程に変更が生じる可能性がある

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		コミュニケーション論				ナンバリング	3402
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木口 幸子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有した人材」に関連した科目である。また、地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働・チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割が担える人材、医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を探究でき、豊かな人間性と高い倫理観・社会的責任感を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる人材他のディプロマポリシーとも関連している。本科目は看護師・患者関係の成立のための基本的技術であり、基礎看護科目と深く関連しており、看護学の理論や科学的根拠に基づき、人々の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得するための科目であり、臨地実習も含めた看護学全体へつながる科目である。

授業の概要

看護の対象となる様々な生活環境をもつ人間を理解するための理論と方法を理解する。自己理解、他者理解、対人関係をスムーズにするための礼儀とマナー、コミュニケーションの過程と構成要素など体験的に習得する。また、対象理解能力を養うため、看護における援助的人間関係の形成について理解する。人が人を看護するとは何か、主体的に関わるとは何かを「考え、相互理解を深めることを目的とする。言語的・非言語的コミュニケーション、援助的人間関係(援助として聴くこと、伝えること)、ケアに活かすコミュニケーションスキルについて習得する。

到達目標

1. コミュニケーションの意義と目的が説明できる。
2. 看護におけるコミュニケーションの目的を説明できる。
3. コミュニケーションの方法について説明できる。
4. 医療におけるコミュニケーションと信頼関係について説明できる

授業の方法

講義形式で行い、グループディスカッションも取り入れる。
プレゼンテーション方法としてパワーポイント、DVDを使用する。

ICT活用

無し

実務経験のある教員の教育内容

病院にて看護師として勤務の経験があり、この経験を活かし授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題にコメントを記載し、講義時に返却と説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・コミュニケーションとは	・自分自身のコミュニケーションについて考えてみる。 ・教科書の該当箇所を読む。(60分)	・教科書の該当箇所を読む。 ・講義資料を復習する。(60分)
担当教員	木口 幸子		
第2回	・対人関係プロセスとしての看護	教科書の当該箇所を読む。(60分)	・教科書の該当箇所を読む。 ・講義資料を復習する。(60分)
担当教員	木口 幸子		
第3回	・看護理論とコミュニケーション	・教科書の該当箇所を読む。(60分)	・教科書②③を読み、指示に従い課題①を提出(90分)
担当教員	木口 幸子		

第4回	・コミュニケーションのプロセスに影響する要因	・教科書の該当箇所を読む。(60分)	・講義資料を読む。(60分)
担当教員	木口 幸子		
第5回	・看護とコミュニケーション ・自己紹介と他者紹介の実際	・教科書p200演習課題1の①②を行う。(60分)	・自己紹介と他者紹介を通して自己の課題について記載し提出課題②(90分)
担当教員	木口 幸子		
第6回	・医療における信頼関係とコミュニケーション ・疾患に伴ったコミュニケーション障害がある人への対応	・教科書の該当箇所を読む。(60分)	・講義資料を再度読む。(60分)
担当教員	木口 幸子		

第7回	コミュニケーションの実際(グループワーク) ・指定された場面についてグループで話し合う。	・これまでの講義を振り返り、コミュニケーションについて復習する。 (60分)	・GWを振り返り、課題を提出 課題③ (90分)
担当教員	木口 幸子		
第8回	まとめ 確認試験	これまでの講義資料を再度読む (90分)	無し
担当教員	木口 幸子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題①②③60点(各20点×3回分) まとめの試験40点
その他	0	
教科書		
①深井喜代子編(2023):基礎看護学② 基礎看護技術 I, メヂカルフレンド社. ②ヴァージニア・ヘンダーソン, 湯槇ます・小玉香津子訳(2016). 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会, ③フロレンス・ナイティンゲール, 小玉香津子・尾田葉子訳(2019). 看護覚え書 本当の看護とそうでない看護, 日本看護協会出版会. ④筒井真優美(2019). 看護理論 看護理論21の理解と実践への応用, 改定第3版. 南江堂.		
参考文献		
無し		
履修条件・留意事項等		

評価対象物において代筆や盗用等の不正行為があった場合にはD判定となる場合があります。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		看護ヘルスアセスメント(1組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーとの関連は、健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解を高め、看護師としての実践能力を有した人材、及び、看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探求能力・問題解決能力を有した人材である。関連する科目としては、人体構造学、人体機能学、看護病態治療学、看護過程、臨床看護技術となる。							

1. 看護におけるヘルスアセスメントの意義と目的について説明ができる。
2. ヘルスアセスメントに必要な基本技法を実施できる。
3. 既習の人体構造学・人体機能学を活用し、日常生活行動を遂行するためのからだの機能についてヘルスアセスメントが実施できる。
4. アセスメントによって得られた結果を、身体的・心理的・社会的側面から看護ケアに関連づけることができる

授業の方法

1. 板書、パワーポイントと配布印刷物にて講義と演習を並行して行う。
2. 演習は要項を配布し、演習の目的、進め方を熟読し、e-ラーニング(ナースィングスキル、他動画)も活用する
3. 演習ではシミュレーターモデルも活用し、様々な健康障害に関する情報収集を体験する
4. 演習時は、グループ内で患者役・看護師役を交互に経験し、得られた情報を正確に記録し、評価を行う。

ICT活用

ナースィングスキル(e-ラーニング)
他動画

実務経験のある教員の教育内容

病院にて看護師としての経験がありこの経験を活かし、授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題にコメントを記載し、講義時に返却と説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	コース説明 【講義】 ＜看護におけるヘルスアセスメント＞ ・日常生活行動とヘルスアセスメント ・ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント ・フィジカルアセスメントの基本 【講義】 ＜生きていることのアセスメント:生命活動の維持①＞ ・呼吸 ・生命活動の徴候:循環	・シラバスを読む ・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修した呼吸器と循環器の構造と機能を復習する。(90分)	・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第2回	【講義】 ＜生きていることのアセスメント:生命活動の維持①＞ ・生命活動の維持:呼吸 ・生命活動の徴候:循環	・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修した呼吸器と循環器の構造と機能を復習する。(90分)	・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第3回	小テスト① 呼吸器系・循環器系 【講義】 ＜生きていることのアセスメント:生命活動の維持②＞ ・バイタルサインズ	・小テストの準備を行う。 ・呼吸、脈拍、体温、血圧、酸素飽和度について学習してくる。(90分)	・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第4回	【演習】 <生きていることのアセスメント①> ・呼吸器系、循環器系のアセスメントの実際	・講義資料、演習要項を熟読する。 ・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修した呼吸器及び心臓の構造と機能を復習する。 ・演習課題に取り組み、演習時に持参する。(90分)	・事後学習に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	【演習】 <生きていることのアセスメント①> ・呼吸器系、循環器系のアセスメントの実際	・講義資料、演習要項を熟読する。 ・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修した呼吸器及び心臓の構造と機能を復習する。 ・演習課題に取り組み、演習時に持参する。(90分)	・事後学習に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第6回	小テスト② バイタルサイン 【講義】<動くことのアセスメント> ・筋、骨格系	・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて動くことの構造と機能を復習する。(90分)	・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第7回	【講義】 ＜話す・聴く・視ることのアセスメント＞ ・脳神経系 ・運動機能	・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて話す。聴く、視ることに関係する構造と機能を復習する。(90分)	・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第8回	【演習】 ＜動くことのアセスメント＞ ・筋・骨格系のアセスメントの実際 ＜話す・聴く・視ることのアセスメント＞ ・感覚器系・神経系のアセスメントの実際	・講義資料、演習要項を熟読する。 ・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修し筋・骨格系、感覚器系・神経系の構造と機能を復習する ・演習課題にとりくみ、演習時に持参する。(90分)	・事後課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第9回	【演習】 ＜動くことのアセスメント＞ ・筋・骨格系のアセスメントの実際 ＜話す・聴く・視ることのアセスメント＞ ・感覚器系・神経系のアセスメントの実際	・講義資料、演習要項を熟読する。 ・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修し筋・骨格系、感覚器系・神経系の構造と機能を復習する ・演習課題にとりくみ、演習時に持参する。(90分)	・事後課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第10回	小テスト③ 筋・骨格系、感覚器系・脳神経系 【講義】＜食べる・排泄するアセスメント＞ ・消化器系 ・泌尿器系	・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて食べること、排泄することに関係する構造と機能を復習する。(90分)	・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第11回	【演習】＜食べる・排泄するアセスメント＞ ・消化器系、泌尿器系のアセスメントの実際	・講義資料、演習要項を熟読する。 ・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修した消化器系、泌尿器系の構造と機能を復習する。 ・演習課題にとりくみ、演習時に持参する。(90分)	・事後課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	【演習】 ＜生きていることのアセスメント②＞ ・バイタルサインズの実際	・講義資料、演習要項を熟読する。 ・教科書の該当箇所を読む ・体温測定、呼吸測定、脈拍測定、血圧測定、経皮的酸素飽和測定について、学習してくる。(90分)	・事後課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第13回	【演習】 際 ＜生きていることのアセスメント②＞ ・バイタルサインズの実	・講義資料、演習要項を熟読する。 ・教科書の該当箇所を読む・ 体温測定、呼吸測定、脈拍測定、 血圧測定、経皮的酸素飽和度測 定について、学習してくる。(90 分)	・事後課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	【演習:技術試験】 バイタルサインズ測定技術試験	・バイタルサインズ測定について 復習する。 (90分)	・自己評価表提出(60分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	まとめ 確認テスト	・これまでの講義・演習について 教科書・講義資料を読む。 (90分)	無し
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト30点(10点×3回) 提出物20点 技術試験20点 確認テスト30点 *技術試験については、合格に至らなかった場合は技術試験について再試を行う。
その他	0	
教科書		
① 深井喜代子編:新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術 I, メヂカルフレンド社 ② 人体構造学及び人体機能学にて使用した教科書・講義資料		
参考文献		

- ①大久保暢子編;日常生活行動からみるヘルスアセスメント、日本看護協会出版会
②熊谷たまき、水戸優子他監修;看護がみえる フィジカルアセスメント、メディカ出版

履修条件・留意事項等

提出物について、盗用等が認められた場合は、D判定となる場合がある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		看護ヘルスアセスメント(2組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーとの関連は、健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解を高め、看護師としての実践能力を有した人材、及び、看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探求能力・問題解決能力を有した人材である。関連する科目としては、人体構造学、人体機能学、看護病態治療学、看護過程、臨床看護技術となる。							

1. 看護におけるヘルスアセスメントの意義と目的について説明ができる。
2. ヘルスアセスメントに必要な基本技法を実施できる。
3. 既習の人体構造学・人体機能学を活用し、日常生活行動を遂行するためのからだの機能についてヘルスアセスメントが実施できる。
4. アセスメントによって得られた結果を、身体的・心理的・社会的側面から看護ケアに関連づけることができる

授業の方法

1. 板書、パワーポイントと配布印刷物にて講義と演習を並行して行う。
2. 演習は要項を配布し、演習の目的、進め方を熟読し、e-ラーニング(ナーシングスキル、他動画)も活用する
3. 演習ではシミュレーターモデルも活用し、様々な健康障害に関する情報収集を体験する
4. 演習時は、グループ内で患者役・看護師役を交互に経験し、得られた情報を正確に記録し、評価を行う。

ICT活用

ナーシングスキル(e-ラーニング)
他動画

実務経験のある教員の教育内容

病院にて看護師としての経験がありこの経験を活かし、授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題にコメントを記載し、講義時に返却と説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	コース説明 【講義】 ＜看護におけるヘルスアセスメント＞ ・日常生活行動とヘルスアセスメント ・ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント ・フィジカルアセスメントの基本 【講義】 ＜生きていることのアセスメント:生命活動の維持①＞ ・生命活動の維持:呼吸 ・生命活動の徴候:循環	・シラバスを読む ・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修した呼吸器と循環器の構造と機能を復習する。(90分)	・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第2回	【講義】 ＜生きていることのアセスメント:生命活動の維持①＞ ・生命活動の維持:呼吸 ・生命活動の徴候:循環	・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修した呼吸器と循環器の構造と機能を復習する。(90分)	・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第3回	小テスト① 呼吸器系・循環器系 【講義】 ＜生きていることのアセスメント:生命活動の維持②＞ ・バイタルサインズ	・小テストの準備を行う。 ・呼吸、脈拍、体温、血圧、酸素飽和度について学習してくる。(90分)	・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第4回	【演習】 <生きていることのアセスメント①> ・呼吸器系、循環器系のアセスメントの実際	・講義資料、演習要項を熟読する。 ・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修した呼吸器及び心臓の構造と機能を復習する。 ・演習課題に取り組み、演習時に持参する。(90分)	・事後学習に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	【演習】 <生きていることのアセスメント①> ・呼吸器系、循環器系のアセスメントの実際	・講義資料、演習要項を熟読する。 ・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修した呼吸器及び心臓の構造と機能を復習する。 ・演習課題に取り組み、演習時に持参する。(90分)	・事後学習に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第6回	小テスト② バイタルサイン 【講義】<動くことのアセスメント> ・筋、骨格系	・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて動くことの構造と機能を復習する。(90分)	・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第7回	【講義】 ＜話す・聴く・視ることのアセスメント＞ ・脳神経系 ・運動機能	・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて話す。聴く、視ることに関関係する構造と機能を復習する。(90分)	・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第8回	【演習】 ＜動くことのアセスメント＞ ・筋・骨格系のアセスメントの実際 ＜話す・聴く・視ることのアセスメント＞ ・感覚器系・神経系のアセスメントの実際	・講義資料、演習要項を熟読する。 ・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修し筋・骨格系、感覚器系・神経系の構造と機能を復習する ・演習課題にとりくみ、演習時に持参する。(90分)	・事後課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第9回	【演習】 ＜動くことのアセスメント＞ ・筋・骨格系のアセスメントの実際 ＜話す・聴く・視ることのアセスメント＞ ・感覚器系・神経系のアセスメントの実際	・講義資料、演習要項を熟読する。 ・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修し筋・骨格系、感覚器系・神経系の構造と機能を復習する ・演習課題にとりくみ、演習時に持参する。(90分)	・事後課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第10回	小テスト③ 筋・骨格系、感覚器系・脳神経系 【講義】＜食べる・排泄するアセスメント＞ ・消化器系 ・泌尿器系	・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて食べること、排泄することに関係する構造と機能を復習する。(90分)	・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第11回	【演習】＜食べる・排泄するアセスメント＞ ・消化器系、泌尿器系のアセスメントの実際	・講義資料、演習要項を熟読する。 ・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修した消化器系、泌尿器系の構造と機能を復習する。 ・演習課題にとりくみ、演習時に持参する。(90分)	・事後課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	【演習】 ＜生きていることのアセスメント②＞ ・バイタルサインズの実際	・講義資料、演習要項を熟読する。 ・教科書の該当箇所を読む ・体温測定、呼吸測定、脈拍測定、血圧測定、経皮的酸素飽和測定について、学習してくる。(90分)	・事後課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第13回	【演習】 際 ＜生きていることのアセスメント②＞ ・バイタルサインズの実	・講義資料、演習要項を熟読する。 ・教科書の該当箇所を読む・ 体温測定、呼吸測定、脈拍測定、 血圧測定、経皮的酸素飽和度測 定について、学習してくる。(90 分)	・事後課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	【演習:技術試験】 バイタルサインズ測定技術試験	・バイタルサインズ測定について 復習する。 (90分)	・自己評価表提出(60分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	まとめ 確認テスト	・これまでの講義・演習について 教科書・講義資料を読む。 (90分)	無し
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト30点(10点×3回) 提出物20点 技術試験20点 確認テスト30点 *技術試験については、合格に至らなかった場合は技術試験について再試を行う。
その他	0	
教科書		
① 深井喜代子編:新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術 I, メヂカルフレンド社 ② 人体構造学及び人体機能学にて使用した教科書・講義資料		
参考文献		

- ①大久保暢子編;日常生活行動からみるヘルスアセスメント、日本看護協会出版会
②熊谷たまき、水戸優子他監修;看護がみえる フィジカルアセスメント、メディカ出版

履修条件・留意事項等

提出物について、盗用等が認められた場合は、D判定となる場合がある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		共通看護援助技術(1組)				ナンバリング	3408
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	竹之内 優美、木口 幸子、藤長 すが子、渡辺 一代、赤坂 浩子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの中でも特に「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」に関連した科目である。本科目では、基礎看護学科目のほか、各看護学領域の科目の基盤となる看護技術の基礎的知識・技術を学ぶ。

授業の概要

科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力を用いた実践能力を養うため、看護実践の基盤となる技術の重要性や共通する基礎的な方法を理解する。看護技術の特徴を踏まえたうえで看護援助に必要な看護者の思考・態度、健康と環境の相互作用、看護提供の基盤となる基本的技術(感染予防、療養生活の安全・安楽、ボディメカニクスの原理、ポジショニング、体位変換等)について理解する。

到達目標

1. 療養環境を整えるための基本的知識について理解できる。
2. 感染予防策に関する基本的知識について理解できる。
3. ボディメカニクスの原理を活用した体位変換および安楽な体位に関する基本的知識について理解できる。
4. 看護提供の基盤となる基本的技術(感染予防、療養生活の調整、ボディメカニクスと安楽な体位、体位変換等)を模擬実践できる。

授業の方法

1. 講義:パワーポイントと配布資料および必要に応じて動画視聴を用いて説明する。
2. 演習:講義後に学生間で患者役・看護師役になり、基本的な看護援助を実践する。
3. グループディスカッション:演習実施後は、対象者の安全・安楽・自立性の視点から看護技術についてディスカッションを行い、気づき・学びを共有する。

ICT活用

Google Formのアンケート機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

看護師として病院勤務を有する各教員が臨床経験を活かし、看護技術を教授する。

課題に対するフィードバックの方法

1. 講義に関連した課題については、講義の中で全体へのフィードバックを行う。
2. 演習記録に関しては、コメントを記載し返却する、または全体へのフィードバックを行う。
3. 小テストおよび科目確認テスト実施後に、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【コースガイダンス】 【講義】療養環境と看護 人間にとっての環境の意義と療養環境の調整のための看護の視点を学ぶ。 1) 人間にとっての環境 2) 環境の諸要素 3) 療養環境と環境調整	教科書2. 「基礎看護技術Ⅱ」p2-12を熟読する 【30分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		
第2回	【講義・演習】療養環境の観察 療養環境の観察の実際を学ぶ。 1) 療養環境の観察と測定 ・模擬病室(実習室のベッド周囲)の構成 ・物理化学的・生物学的・社会的環境 2) 小テスト①「療養環境」	演習要項の熟読 教科書2. 「基礎看護技術Ⅱ」p2-12と第1回目の授業資料で療養環境の基礎知識を確認する 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		
第3回	【講義】感染予防①:感染予防の基本 感染予防の基礎知識と看護の役割を学ぶ。 1) 感染と感染予防策の基礎知識 2) 感染予防における看護の役割 3) 感染経路への対策(手洗いと个人防护用具)	教科書1. 「基礎看護技術Ⅰ」p236-245および p257-270を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第4回	【演習】 感染予防対策の実際①:手洗いと個人防護用具 1) 衛生的な手洗いの実際 2) 個人防護用具の着脱の実際 3) 感染性廃棄物の取り扱いの実際	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	【講義】 ボディメカニクスと安楽な体位 ボディメカニクスの原理原則と安楽な体位の基礎的知識を学ぶ 1) ボディメカニクスと姿勢・動作 2) ボディメカニクスと看護技術への応用 3) 体位の種類 4) ボディメカニクスと安楽な体位	教科書1. 「基礎看護技術Ⅰ」p318-334を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第6回	【講義】 体位変換 体位変換の基礎的知識を学ぶ 1) 体位変換の目的 2) 体位変換の方法と留意点 3) 小テスト②「安楽な体位、体位変換」	教科書2. 「基礎看護技術Ⅱ」p117-129を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第7回	【演習】ボディメカニクスと安楽な体位の実際 ボディメカニクスの原理原則と安楽な体位の実際を学ぶ 1) ボディメカニクスの実際 支持基底面の広さと安定性、重心と重心線の移動 2) 仰臥位・側臥位の安楽な体位の実際と体圧測定 3) ギャッジアップのずれ予防と背抜きの方法	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第8回	【演習】体位変換の実際 運動機能が低下した対象者への安全・安楽・自立を考慮した体位変換の実際を学ぶ 1) 水平移動・平行移動の援助方法 2) 側臥位の援助方法 3) 長座位・端座位の援助方法	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第9回	【講義・演習】療養環境の調整①:ベッドメイキングの部分練習 ベッドメイキングを行うための基本を学ぶ 1) ベッドメイキングとは 2) ベッドメイキングの順序と準備の実際 3) シーツの敷き方の部分練習	教科書2. 「基礎看護技術Ⅱ」p12-20 を熟読する 【30分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		

第10回	【演習】療養環境の調整②:ベッドメイキングの実際 ベッドメイキングの具体的な方法を学ぶ 1)ベッドメイキングの実施 ・クローズドベッド、オープンベッド	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第11回	【演習】療養環境の調整③:臥床患者のリネン交換 臥床している対象者へのリネン交換の実際を学ぶ 1)安全・安楽かつ自立を考慮しながら臥床患者のシーツと枕カバーを交換する。 2)実施後、環境整備・環境清掃を行う。	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	【演習】療養環境の調整④:臥床患者のリネン交換 臥床している対象者へのリネン交換の実際を学ぶ 1)安全・安楽かつ自立を考慮しながら臥床患者のシーツと枕カバーを交換する。 2)実施後、環境整備・環境清掃を行う。	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第13回	【講義】感染予防②:無菌操作 感染源への対策と無菌操作の基礎知識を学ぶ 1) 洗浄・滅菌・消毒の違いとその方法 2) 滅菌物の取り扱い 3) 感染性廃棄物の取り扱い ・小テスト③「感染予防」	教科書1. 「基礎看護技術Ⅰ」p245-257および p271-284を熟読する 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	【演習】感染予防対策の実際②:無菌操作 無菌操作の実際を学ぶ。 1) 滅菌物の取り扱いの実施 2) 無菌操作の実施 3) 感染性廃棄物の取り扱いの実施	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	【科目確認テスト(40点)】 【まとめ】 ・本科目の学習内容のまとめ	テキスト・講義資料・演習記録の内容を復習する 【90分】	本科目の学習内容を整理する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1) 科目確認テスト(40%)、小テスト(3回)30%、演習記録(事前課題・実施記録)30% ※演習記録の評価基準については、コースガイダンス時に説明する 2) 提出物の遅延・参加態度・演習時の身だしなみ等は減点対象とする
その他	0	なし
教科書		
1. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 2. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
参考文献		

1. 有田 清子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院
 2. 松尾ミヨ子 他 編：ナースング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
- その他、授業の中で随時紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・出席時間2/3以上かつ総合評価60%以上の2つの要件を満たした場合に、本科目の単位を認定します。
- ・演習内容によっては、2講続きとなる場合や3組編成となる場合があります。授業予定については、第1回目のコースガイダンス時に説明します。
- ・成績評価の一部であっても不正行為があった場合は単位認定不可(DH対象外であり、D判定です)となるので注意してください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		共通看護援助技術(2組)				ナンバリング	3408
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	竹之内 優美、木口 幸子、藤長 すが子、渡辺 一代、赤坂 浩子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの中でも特に「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」に関連した科目である。本科目では、基礎看護学科目のほか、各看護学領域の科目の基盤となる看護技術の基礎的知識・技術を学ぶ。							
</							

1. 療養環境を整えるための基本的知識について理解できる。
2. 感染予防策に関する基本的知識について理解できる。
3. ボディメカニクスの原理を活用した体位変換および安楽な体位に関する基本的知識について理解できる。
4. 看護提供の基盤となる基本的技術(感染予防、療養生活の調整、ボディメカニクスと安楽な体位、体位変換等)を模擬実践できる。

授業の方法

1. 講義:パワーポイントと配布資料および必要に応じて動画視聴を用いて説明する。
2. 演習:講義後に学生間で患者役・看護師役になり、基本的な看護援助を実践する。
3. グループディスカッション:演習実施後は、対象者の安全・安楽・自立性の視点から看護技術についてディスカッションを行い、気づき・学びを共有する。

ICT活用

Google Formのアンケート機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

看護師として病院勤務を有する各教員が臨床経験を活かし、看護技術を教授する。

課題に対するフィードバックの方法

1. 講義に関連した課題については、講義の中で全体へのフィードバックを行う。
2. 演習記録に関しては、コメントを記載し返却する、または全体へのフィードバックを行う。
3. 小テストおよび科目確認テスト実施後に、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【コースガイダンス】 【講義】療養環境と看護 人間にとっての環境の意義と療養環境の調整のための看護の視点を学ぶ。 1) 人間にとっての環境 2) 環境の諸要素 3) 療養環境と環境調整	教科書2. 「基礎看護技術Ⅱ」p2-12を熟読する 【30分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		
第2回	【講義・演習】療養環境の観察 療養環境の観察の実際を学ぶ。 1) 療養環境の観察と測定 ・模擬病室(実習室のベッド周囲)の構成 ・物理化学的・生物学的・社会的環境 2) 小テスト①「療養環境」	演習要項の熟読 教科書2. 「基礎看護技術Ⅱ」p2-12と第1回目の授業資料で療養環境の基礎知識を確認する 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		
第3回	【講義】感染予防①:感染予防の基本 感染予防の基礎知識と看護の役割を学ぶ。 1) 感染と感染予防策の基礎知識 2) 感染予防における看護の役割 3) 感染経路への対策(手洗いと个人防护用具)	教科書1. 「基礎看護技術Ⅰ」p236-245および p257-270を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第4回	【演習】感染予防対策の実際①:手洗いと個人防護用具 1) 衛生的な手洗いの実際 2) 個人防護用具の着脱の実際 3) 感染性廃棄物の取り扱いの実際	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	【講義】ボディメカニクスと安楽な体位 ボディメカニクスの原理原則と安楽な体位の基礎的知識を学ぶ 1) ボディメカニクスと姿勢・動作 2) ボディメカニクスと看護技術への応用 3) 体位の種類 4) ボディメカニクスと安楽な体位	教科書1. 「基礎看護技術Ⅰ」p318-334を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第6回	【講義】体位変換 体位変換の基礎的知識を学ぶ 1) 体位変換の目的 2) 体位変換の方法と留意点 3) 小テスト②「安楽な体位、体位変換」	教科書2. 「基礎看護技術Ⅱ」p117-129を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第7回	【演習】ボディメカニクスと安楽な体位の実際 ボディメカニクスの原理原則と安楽な体位の実際を学ぶ 1) ボディメカニクスの実際 支持基底面の広さと安定性、重心と重心線の移動 2) 仰臥位・側臥位の安楽な体位の実際と体圧測定 3) ギャッジアップのずれ予防と背抜きの方法	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第8回	【演習】体位変換の実際 運動機能が低下した対象者への安全・安楽・自立を考慮した体位変換の実際を学ぶ 1) 水平移動・平行移動の援助方法 2) 側臥位の援助方法 3) 長座位・端座位の援助方法	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第9回	【講義・演習】療養環境の調整①:ベッドメイキングの部分練習 ベッドメイキングを行うための基本を学ぶ 1) ベッドメイキングとは 2) ベッドメイキングの順序と準備の実際 3) シーツの敷き方の部分練習	教科書2. 「基礎看護技術Ⅱ」p12-20 を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		

第10回	【演習】療養環境の調整②:ベッドメイキングの実際 ベッドメイキングの具体的な方法を学ぶ 1)ベッドメイキングの実施 ・クローズドベッド、オープンベッド	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第11回	【演習】療養環境の調整③:臥床患者のリネン交換 臥床している対象者へのリネン交換の実際を学ぶ 1)安全・安楽かつ自立を考慮しながら臥床患者のシーツと枕カバーを交換する。 2)実施後、環境整備・環境清掃を行う。	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	【演習】療養環境の調整④:臥床患者のリネン交換 臥床している対象者へのリネン交換の実際を学ぶ 1)安全・安楽かつ自立を考慮しながら臥床患者のシーツと枕カバーを交換する。 2)実施後、環境整備・環境清掃を行う。	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第13回	【講義】感染予防②:無菌操作 感染源への対策と無菌操作の基礎知識を学ぶ 1) 洗浄・滅菌・消毒の違いとその方法 2) 滅菌物の取り扱い 3) 感染性廃棄物の取り扱い ・小テスト③「感染予防」	教科書1. 「基礎看護技術Ⅰ」p245-257および p271-284を熟読する 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	【演習】感染予防対策の実際②:無菌操作 無菌操作の実際を学ぶ。 1) 滅菌物の取り扱いの実施 2) 無菌操作の実施 3) 感染性廃棄物の取り扱いの実施	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	【科目確認テスト(40点)】 【まとめ】 ・本科目の学習内容のまとめ	テキスト・講義資料・演習記録の内容を復習する 【90分】	本科目の学習内容を整理する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1) 科目確認テスト(40%)、小テスト(3回)30%、演習記録(事前課題・実施記録)30% ※演習記録の評価基準については、コースガイダンス時に説明する 2) 提出物の遅延・参加態度・演習時の身だしなみ等は減点対象とする
その他	0	なし
教科書		
1. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 2. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
参考文献		

1. 有田 清子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院
 2. 松尾ミヨ子 他 編：ナースング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
- その他、授業の中で随時紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・出席時間2/3以上かつ総合評価60%以上の2つの要件を満たした場合に、本科目の単位を認定します。
- ・演習内容によっては、2講続きとなる場合や3組編成となる場合があります。授業予定については、第1回目のコースガイダンス時に説明します。
- ・成績評価の一部であっても不正行為があった場合は単位認定不可(DH対象外であり、D判定です)となるので注意してください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		日常生活援助技術Ⅰ(1組)				ナンバリング	3411
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	竹之内 優美、木口 幸子、藤長 すが子、渡辺 一代、赤坂 浩子						

授業の位置づけ

本科目は、看護学科のディプロマポリシーの中でも特に「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」に関連した科目である。本科目を学ぶことにより、人々の健康的な生活を支援するための基礎的知識・技術を獲得すると共に、状況に合わせた判断やコミュニケーションおよび自己の看護実践を客観的に評価するための基礎的能力を養うことにもつながる。また本科目は、1年次前期に開講される各専門基礎科目や専門科目「看護学概論」・「共通看護援助技術」での学びを基盤としており、さらに「日常生活援助技術Ⅱ」をはじめとする各専門科目を学ぶうえでの基礎となる。

授業の概要

科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力を用いた実践能力を養うため、看護の対象である人間の活動と休息のバランス、清潔と衣生活についての概念や技術理論を学ぶ。また、対象者の日常生活動作と活動の拡大、休息への援助方法、清潔と衣生活に関連した援助技術を理解する。加えて、活動援助及び清潔・衣生活への援助の技術を習得する。

到達目標

1. 人間にとっての活動・休息の意義を理解し、健康的な生活を送るために必要な活動・休息に関する看護を実践するための基礎的知識を説明できる。 2. 人間にとっての清潔・衣生活の意義を理解し、健康的な生活を送るために必要な清潔・衣生活に関する看護を実践するための基礎的知識を説明できる。 3. 原理・原則に基づき、活動および清潔・衣生活の援助に関する基本的な看護技術を実施できる。 4. 看護援助の際に、実施前・中・後の対象者の反応を観察できる。 5. 看護援助後の振り返りを通し、対象者にとっての安全・安楽・自立(自律)性の視点から看護について考えたことを述べることができる。

授業の方法

1. 講義:パワーポイントと配布資料および必要に応じて動画視聴を用いて説明する。 2. 演習:講義後に学生間で患者役・看護師役になり、基本的な看護援助を実践する。また、実施後は、対象者の安全・安楽・自立性の視点から看護援助についてグループでディスカッションを行う。

ICT活用

Google Formのアンケート機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

看護師として病院勤務を有する各教員が臨床経験を活かし、日常生活援助技術を教授する。

課題に対するフィードバックの方法

1. 講義に関連した課題については、講義の中で全体へのフィードバックを行う。 2. 演習記録に関しては、コメントを記載し返却する、または全体へのフィードバックを行う。 3. 小テストおよび科目確認テスト実施後に、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【コースガイダンス】 【講義】活動と休息の援助① 人間にとっての活動・休息の意義と看護実践に必要な活動・休息のアセスメントの視点を学ぶ。 1)活動・休息の意義 2)休息・睡眠のアセスメントの視点 3)睡眠・休息の援助	教科書Ⅱp105-109およびp.141-147を熟読する 【30分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		
第2回	【講義】活動と休息の援助② 活動と休息に関する看護技術の基礎的知識を学ぶ。 1)活動・運動のアセスメントの視点 2)活動の援助(関節可動域運動) 3)移動の援助(歩行・車いす・ストレッチャー) 【小テスト(10点)】	教科書Ⅱp.109-116およびp.129-141を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第3回	【演習】対象者の状況に合わせた歩行の援助技術 歩行用具の使用体験および歩行の援助を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1)歩行用具を使用した歩行体験(杖・歩行器) 2)歩行の援助	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第4回	【演習】離床のための援助技術 離床の援助に関する基本的な看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 移乗の援助(椅子・車いす・ストレッチャー)	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	【演習】車椅子・ストレッチャー移送の看護技術 移送に関する基本的な看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 車椅子による移送の援助 2) ストレッチャーによる移送の援助	演習要項の熟読 看護技術に関する教科書の該当部分の熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第6回	【講義】安楽確保のための援助 人間にとっての安楽の意義および安楽な日常生活を支えるために必要な看護技術の基礎的知識を学ぶ。 1) 安楽の意義 2) 安楽をもたらす看護技術	教科書 I p.318-319およびp.334-342 を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		

第7回	【講義】 清潔・衣生活の援助① 人間にとっての清潔・衣生活の意義と看護実践に必要な清潔・衣生活のアセスメントの視点を学ぶ。 1) 清潔・衣生活の意義 2) 清潔の援助の種類とアセスメントの視点	教科書Ⅱp.150-154を熟読する【30分】	学習した講義内容を復習する【45分】
担当教員	竹之内 優美		
第8回	【講義】 清潔・衣生活の援助② 身体の清潔に関する看護技術の基礎的知識を学ぶ。 1) 清潔の援助方法の実際 (入浴・手浴・足浴・洗髪・陰部洗浄)	教科書Ⅱp.155-167およびp.174-177を熟読する【45分】	学習した講義内容を復習する【45分】
担当教員	竹之内 優美		
第9回	【講義】 清潔・衣生活の援助③ 身体の清潔に関する看護技術の基礎的知識を学ぶ。 1) 清潔の援助方法の実際(清拭・口腔ケア・整容) 2) 衣生活の援助方法の実際(寝衣交換) 【小テスト(10点)】	教科書Ⅱp.168-174およびp.177-189を熟読する【45分】	学習した講義内容を復習する【45分】
担当教員	竹之内 優美		

第10回	【演習】臥床患者への洗髪・整髪の援助技術 洗髪・整髪に関する基本的な看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 洗髪(ケリーパッド／洗髪車) 2) 整髪	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第11回	【演習】臥床患者への部分浴の援助技術 足浴に関する基本的な看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 足浴	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	【演習】清拭・寝衣交換に関する援助技術の部分練習と実験 清拭・寝衣交換に関する看護技術の部分体験と実験を通し、科学的根拠に基づいた看護実践の重要性について理解を深める。 1) 寝衣交換の基本 2) 清拭時の湯の温度の測定実験 3) 安全・安楽な身体の拭き方	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第13回	【演習】 臥床患者への清拭・更衣の援助技術① 本科目での学びを総括して部分清拭・寝衣交換に関する基本的な看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 部分清拭(上肢・下肢・背部清拭) 2) 寝衣交換(和式寝間着⇒長病衣)	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	【演習】 臥床患者への清拭・更衣の援助技術② 本科目での学びを総括して部分清拭・寝衣交換に関する基本的な看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 部分清拭(上肢・下肢・背部清拭) 2) 寝衣交換(和式寝間着⇒長病衣)	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 演習後レポートを作成する(活動・清潔援助の演習を通して、対象者の安全・安楽・自立(自律)について考えたことをまとめる) 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	【科目確認テスト(40点)】 【まとめ】 ・本科目の学習内容のまとめ	テキスト・講義資料・演習記録の内容を復習する 【90分】	本科目の学習内容を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1) 科目確認テスト(40%)、小テスト(2回)20%、演習記録(事前課題・実施記録)40% ※演習記録の評価基準については、コースガイダンス時に説明する 2) 提出物の遅延・参加態度・演習時の身だしなみ等は減点対象とする
その他	0	なし
教科書		
1. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 2. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
参考文献		

1. 有田 清子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院
 2. 任和子・井川順子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院
 3. 松尾ミヨ子 他 編：ナースング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
 4. 横山美樹：看護がみえる！Vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア
- その他、授業の中で随時紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・出席時間2/3以上かつ総合評価60%以上の2つの要件を満たした場合に、本科目の単位を認定します。
- ・演習内容によっては、2講続きとなる場合や3組編成となる場合があります。授業予定については、第1回目のコースガイダンス時に説明します。
- ・成績評価の一部であっても不正行為があった場合は単位認定不可(DH対象外であり、D判定です)となるので注意してください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		日常生活援助技術 I (2組)				ナンバリング	3411
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	竹之内 優美、木口 幸子、藤長 すが子、渡辺 一代、赤坂 浩子						

授業の位置づけ

本科目は、看護学科のディプロマポリシーの中でも特に「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」に関連した科目である。本科目を学ぶことにより、人々の健康的な生活を支援するための基礎的知識・技術を獲得すると共に、状況に合わせた判断やコミュニケーションおよび自己の看護実践を客観的に評価するための基礎的能力を養うことにもつながる。また本科目は、1年次前期に開講される各専門基礎科目や専門科目「看護学概論」・「共通看護援助技術」での学びを基盤としており、さらに「日常生活援助技術Ⅱ」をはじめとする各専門科目を学ぶうえでの基礎となる。

授業の概要

科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力を用いた実践能力を養うため、看護の対象である人間の活動と休息のバランス、清潔と衣生活についての概念や技術理論を学ぶ。また、対象者の日常生活動作と活動の拡大、休息への援助方法、清潔と衣生活に関連した援助技術を理解する。加えて、活動援助及び清潔・衣生活への援助の技術を習得する。

到達目標

1. 人間にとっての活動・休息の意義を理解し、健康的な生活を送るために必要な活動・休息に関する看護を実践するための基礎的知識を説明できる。 2. 人間にとっての清潔・衣生活の意義を理解し、健康的な生活を送るために必要な清潔・衣生活に関する看護を実践するための基礎的知識を説明できる。 3. 原理・原則に基づき、活動および清潔・衣生活の援助に関する基本的な看護技術を実施できる。 4. 看護援助の際に、実施前・中・後の対象者の反応を観察できる。 5. 看護援助後の振り返りを通し、対象者にとっての安全・安楽・自立(自律)性の視点から看護について考えたことを述べることができる。

授業の方法

1. 講義:パワーポイントと配布資料および必要に応じて動画視聴を用いて説明する。 2. 演習:講義後に学生間で患者役・看護師役になり、基本的な看護援助を実践する。また、実施後は、対象者の安全・安楽・自立性の視点から看護援助についてグループでディスカッションを行う。

ICT活用

Google Formのアンケート機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

看護師として病院勤務を有する各教員が臨床経験を活かし、日常生活援助技術を教授する。

課題に対するフィードバックの方法

1. 講義に関連した課題については、講義の中で全体へのフィードバックを行う。 2. 演習記録に関しては、コメントを記載し返却する、または全体へのフィードバックを行う。 3. 小テストおよび科目確認テスト実施後に、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【コースガイダンス】 【講義】活動と休息の援助① 人間にとっての活動・休息の意義と看護実践に必要な活動・休息のアセスメントの視点を学ぶ。 1)活動・休息の意義 2)休息・睡眠のアセスメントの視点 3)睡眠・休息の援助	教科書Ⅱp105-109およびp.141-147を熟読する 【30分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		
第2回	【講義】活動と休息の援助② 活動と休息に関する看護技術の基礎的知識を学ぶ。 1)活動・運動のアセスメントの視点 2)活動の援助(関節可動域運動) 3)移動の援助(歩行・車いす・ストレッチャー) 【小テスト(10点)】	教科書Ⅱp.109-116およびp.129-141を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第3回	【演習】対象者の状況に合わせた歩行の援助技術 歩行用具の使用体験および歩行の援助を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1)歩行用具を使用した歩行体験(杖・歩行器) 2)歩行の援助	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第4回	【演習】離床のための援助技術 離床の援助に関する基本的な看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 移乗の援助(椅子・車いす・ストレッチャー)	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	【演習】車椅子・ストレッチャー移送の看護技術 移送に関する基本的な看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 車椅子による移送の援助 2) ストレッチャーによる移送の援助	演習要項の熟読 看護技術に関する教科書の該当部分の熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第6回	【講義】安楽確保のための援助 人間にとっての安楽の意義および安楽な日常生活を支えるために必要な看護技術の基礎的知識を学ぶ。 1) 安楽の意義 2) 安楽をもたらす看護技術	教科書 I p.318-319およびp.334-342 を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		

第7回	【講義】清潔・衣生活の援助① 人間にとっての清潔・衣生活の意義と看護実践に必要な清潔・衣生活のアセスメントの視点を学ぶ。 1) 清潔・衣生活の意義 2) 清潔の援助の種類とアセスメントの視点	教科書Ⅱp.150-154を熟読する【30分】	学習した講義内容を復習する【45分】
担当教員	竹之内 優美		
第8回	【講義】清潔・衣生活の援助② 身体の清潔に関する看護技術の基礎的知識を学ぶ。 1) 清潔の援助方法の実際 (入浴・手浴・足浴・洗髪・陰部洗浄)	教科書Ⅱp.155-167およびp.174-177を熟読する【45分】	学習した講義内容を復習する【45分】
担当教員	竹之内 優美		
第9回	【講義】清潔・衣生活の援助③ 身体の清潔に関する看護技術の基礎的知識を学ぶ。 1) 清潔の援助方法の実際(清拭・口腔ケア・整容) 2) 衣生活の援助方法の実際(寝衣交換) 【小テスト(10点)】	教科書Ⅱp.168-174およびp.177-189を熟読する【45分】	学習した講義内容を復習する【45分】
担当教員	竹之内 優美		

第10回	【演習】臥床患者への洗髪・整髪の援助技術 洗髪・整髪に関する基本的な看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 洗髪(ケリーパッド／洗髪車) 2) 整髪	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第11回	【演習】臥床患者への部分浴の援助技術 足浴に関する基本的な看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 足浴	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	【演習】清拭・寝衣交換に関する援助技術の部分練習と実験 清拭・寝衣交換に関する看護技術の部分体験と実験を通し、科学的根拠に基づいた看護実践の重要性について理解を深める。 1) 寝衣交換の基本 2) 清拭時の湯の温度の測定実験 3) 安全・安楽な身体の拭き方	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第13回	【演習】臥床患者への清拭・更衣の援助技術① 本科目での学びを総括して部分清拭・寝衣交換に関する基本的な看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 部分清拭(上肢・下肢・背部清拭) 2) 寝衣交換(和式寝間着⇒長病衣)	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	【演習】臥床患者への清拭・更衣の援助技術② 本科目での学びを総括して部分清拭・寝衣交換に関する基本的な看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 部分清拭(上肢・下肢・背部清拭) 2) 寝衣交換(和式寝間着⇒長病衣)	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	実施記録を整理する 演習後レポートを作成する(活動・清潔援助の演習を通して、対象者の安全・安楽・自立(自律)について考えたことをまとめる) 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	【科目確認テスト(40点)】 【まとめ】 ・本科目の学習内容のまとめ	テキスト・講義資料・演習記録の内容を復習する 【90分】	本科目の学習内容を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1) 科目確認テスト(40%)、小テスト(2回)20%、演習記録(事前課題・実施記録)40% ※演習記録の評価基準については、コースガイダンス時に説明する 2) 提出物の遅延・参加態度・演習時の身だしなみ等は減点対象とする
その他	0	なし
教科書		
1. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 2. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
参考文献		

1. 有田 清子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院
 2. 任和子・井川順子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院
 3. 松尾ミヨ子 他 編：ナースング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
 4. 横山美樹：看護がみえる！ Vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア
- その他、授業の中で随時紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・出席時間2/3以上かつ総合評価60%以上の2つの要件を満たした場合に、本科目の単位を認定します。
- ・演習内容によっては、2講続きとなる場合や3組編成となる場合があります。授業予定については、第1回目のコースガイダンス時に説明します。
- ・成績評価の一部であっても不正行為があった場合は単位認定不可(DH対象外であり、D判定です)となるので注意してください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		日常生活援助技術Ⅱ(1組)				ナンバリング	3415
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	竹之内 優美、木口 幸子、藤長 すが子、渡辺 一代、赤坂 浩子						

授業の位置づけ

本科目は、看護学科のディプロマポリシーの中でも特に「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」に関連した科目であり、1年次前期に開講される各専門基礎科目や専門科目における学びを活用する。本科目を学ぶことにより、人々の健康的な生活を支援するための基礎的知識・技術を獲得すると共に、食事と排泄の援助を通して対象者の尊厳を守るための倫理観を養う。ここでの学びは、2年次以降の各専門科目につながる看護援助の基盤となる。

授業の概要

科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力を用いた実践能力を養うため、看護の対象である人間の生活における栄養と排泄の意義、援助における看護の役割を理解する。また、栄養及び排泄における援助の技術を習得する。

到達目標

1. 人間にとっての食事の意義を理解し、健康的な生活を送るために必要な食事に対する看護援助に関する基礎的知識を説明できる。
2. 人間にとっての排泄の意義を理解し、健康的な生活を送るために必要な排泄に対する看護援助に関する基礎的知識を説明できる。
3. 原理・原則に基づき、食事および排泄の援助に関する基本的な看護技術を実施できる。
4. 看護援助の際に、実施前・中・後の対象者の反応を観察できる。
5. 看護援助後の振り返りを通し、対象者にとっての安全・安楽・自立(自律)と尊厳の視点から看護について考えたことを述べることができる。

授業の方法

1. 講義: パワーポイントと配布資料および必要に応じて動画視聴を用いて説明する。
2. 演習: 講義後に学生間で患者役・看護師役になり、基本的な看護援助を実践する。また、実施後は、対象者の安全・安楽・自立(自律)性および尊厳の視点から看護援助についてグループでディスカッションを行う。

ICT活用

Google Formのアンケート機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

看護師として病院勤務を有する各教員が臨床経験を活かし、日常生活援助技術を教授する。

課題に対するフィードバックの方法

1. 講義に関連した課題については、講義の中で全体へのフィードバックを行う。
2. 演習記録に関しては、コメントを記載し返却する、または全体へのフィードバックを行う。
3. 小テストおよび科目確認テスト実施後に、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【コースガイドランス】 【講義】食事の援助① 人間にとっての食事・栄養の意義と看護実践に必要な食事・栄養のアセスメントの視点を学ぶ。 1) 食事・栄養の意義 2) 「食べる」ために必要な機能 3) 食事・栄養のアセスメントの視点	シラバスおよび教科書p22-31を熟読する 【30分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		
第2回	【講義・演習】食事の援助② 食事援助の基本的知識を学ぶ。さらに、自分自身の情報から、食事・栄養状態のアセスメントの実際を学ぶ。 1) 対象者の状況に合わせた食事の看護援助 2) 栄養アセスメントに必要な計算 ・基礎代謝量と必要エネルギー推定量の計算 ・1日の摂取カロリーの計算と栄養バランス ・IN-OUTの計算と水分出納バランス 3) 自分自身の栄養バランスの把握	自分自身の食生活の状況を記録する。 教科書Ⅱ p26-29を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第3回	【講義・デモンストレーション】食事の援助③ 経口摂取以外の栄養補給の方法と看護援助を学ぶ。 1) 経腸栄養法と静脈栄養法 2) 経腸栄養を受ける対象者への看護援助 3) 経鼻カテーテルの挿入 4) 経腸栄養を受ける対象者の観察と管理方法の実際 5) 食事援助演習のデモンストレーション ・食事前・中・後の観察点 ・事例に合わせた食事援助のポイント	デモンストレーション内容の看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		

第4回	【演習】食事摂取の自立に支障をきたしている対象者への援助技術① 事例の状況に合わせた食事の援助を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 利き手の上肢の機能障害を持つ対象者の食事援助 2) 視覚障害を持つ対象者の食事援助 3) 頸部の可動が困難である対象者の食事援助 4) 口腔ケアの基本的な援助方法	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	【演習】食事摂取の自立に支障をきたしている対象者への援助技術② 事例の状況に合わせた食事の援助を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 利き手の上肢の機能障害を持つ対象者の食事援助 2) 視覚障害を持つ対象者の食事援助 3) 頸部の可動が困難である対象者の食事援助 4) 口腔ケアの基本的な援助方法	演習要項の熟読 看護技術に関する教科書の該当部分の熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第6回	【講義】排泄の援助① 人間にとっての排泄の意義と排泄のアセスメントの視点を学ぶ。 1) 排泄の意義 2) 排泄に必要な機能 3) 排泄のアセスメント 4) 水分出納バランスの計算 5) 排泄援助の基本 6) 床上排泄時の看護援助(便器・尿器、おむつ)	教科書Ⅱp58-73を熟読する 【30分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		

第7回	【講義】排泄の援助② 排便障害の種類と健康的な排便を促すための看護援助を学ぶ。 1) 排便障害とアセスメントの視点 2) 自然排便を促すための看護援助 3) 摘便の目的・適応と留意点 4) 浣腸の目的・適応と留意点 【小テスト10点】	教科書Ⅱ p.73-81およびp.85-97 を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美、赤坂 浩子		
第8回	【講義・デモンストレーション】排便障害を持つ対象者の援助技術① 事前排便が困難である対象者への看護技術の実際を学ぶ。 1) 床上排泄の対象者に対する便器・尿器を用いた援助の実際 2) 自然排便を促すための腹部マッサージと腰部温罨法の実際 3) 安全な摘便・浣腸の方法と援助の実際	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		
第9回	【演習】排便障害を持つ対象者の援助技術② 原理原則に基づき、対象者の状態に合わせた排便に関する看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 浣腸と便器・尿器の挿入	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第10回	【演習】排便障害を持つ対象者の援助技術③ 原理原則に基づき、対象者の状態に合わせた排便に関する看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 浣腸と便器・尿器の挿入	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第11回	【講義】排泄の援助③ 排尿障害の種類とその状態に合わせた看護援助を学ぶ。 1) 排尿障害とアセスメントの視点 2) 失禁に対する看護援助 3) おむつの使用の目的・適応と留意点 4) 導尿の目的・適応と留意点 5) 膀胱留置カテーテルの目的・適応と留意点 【小テスト10点】	教科書Ⅱp81-84およびp.97-103 を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	【講義・デモンストレーション】排尿障害を持つ対象者の援助技術① 事前排便が困難である対象者への看護技術の実際を学ぶ。 1) おむつを着用している対象者への援助の実際 2) 陰部の清潔を保つための援助の実際 3) 安全な一時的導尿の方法と援助の実際	デモンストレーション内容の看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第13回	【演習】排便障害を持つ対象者の援助技術② 原理原則に基づき、対象者の状態に合わせた排尿に関する看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1)一時的導尿	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 (45分)	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	【演習】排便障害を持つ対象者の援助技術③ 原理原則に基づき、対象者の状態に合わせた排尿に関する看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1)一時的導尿	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 (45分)	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	【科目確認テスト(40点)】 【まとめ】 ・本科目の学習内容のまとめ	テキスト・講義資料・演習記録の内容を復習する 【90分】	本科目の学習内容を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1) 科目確認テスト(40%)、小テスト(2回)20%、演習記録(事前課題・実施記録)40% ※演習記録の評価基準については、コースガイダンス時に説明する 2) 提出物の遅延・参加態度・演習時の身だしなみ等は減点対象とする
その他	0	なし
教科書		
1. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
参考文献		

1. 有田 清子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院
 2. 松尾ミヨ子 他 編：ナースング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
 3. 香川芳子編：七訂 食品80キロカロリーガイドブック 女子栄養大学出版部
 4. 任和子・井川順子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院
 5. 横山美樹：看護がみえる！ Vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア
- その他、授業の中で随時紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・出席時間2/3以上かつ総合評価60%以上の2つの要件を満たした場合に、本科目の単位を認定します。
- ・演習内容によっては、2講続きとなる場合や3組編成となる場合があります。授業予定については、第1回目のコースガイダンス時に説明します。
- ・成績評価の一部であっても不正行為があった場合は単位認定不可(DH対象外であり、D判定です)となるので注意してください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		日常生活援助技術Ⅱ(2組)				ナンバリング	3415
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	竹之内 優美、木口 幸子、藤長 すが子、渡辺 一代、赤坂 浩子						
授業の位置づけ							
本科目は、看護学科のディプロマポリシーの中でも特に「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」に関連した科目であり、1年次前期に開講される各専門基礎科目や専門科目における学びを活用する。本科目を学ぶことにより、人々の健康的な生活を支援するための基礎的知識・技術を獲得すると共に、食事と排泄の援助を通して対象者の尊厳を守るための倫理観を養う。ここでの学びは、2年次以降の各専門科目につながる看護援助の基盤となる。							
授業の概要							
科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力を用いた実践能力を養うため、看護の対象である人間の生活における栄養と排泄の意義、援助における看護の役割を理解する。また、栄養及び排泄における援助の技術を習得する。							
到達目標							

1. 人間にとっての食事の意義を理解し、健康的な生活を送るために必要な食事に対する看護援助に関する基礎的知識を説明できる。
2. 人間にとっての排泄の意義を理解し、健康的な生活を送るために必要な排泄に対する看護援助に関する基礎的知識を説明できる。
3. 原理・原則に基づき、食事および排泄の援助に関する基本的な看護技術を実施できる。
4. 看護援助の際に、実施前・中・後の対象者の反応を観察できる。
5. 看護援助後の振り返りを通し、対象者にとっての安全・安楽・自立(自律)と尊厳の視点から看護について考えたことを述べることができる。

授業の方法

1. 講義:パワーポイントと配布資料および必要に応じて動画視聴を用いて説明する。
2. 演習:講義後に学生間で患者役・看護師役になり、基本的な看護援助を実践する。また、実施後は、対象者の安全・安楽・自立(自律)性および尊厳の視点から看護援助についてグループでディスカッションを行う。

ICT活用

Google Formのアンケート機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

看護師として病院勤務を有する各教員が臨床経験を活かし、日常生活援助技術を教授する。

課題に対するフィードバックの方法

1. 講義に関連した課題については、講義の中で全体へのフィードバックを行う。
2. 演習記録に関しては、コメントを記載し返却する、または全体へのフィードバックを行う。
3. 小テストおよび科目確認テスト実施後に、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【コースガイダンス】 【講義】食事の援助① 人間にとっての食事・栄養の意義と看護実践に必要な食事・栄養のアセスメントの視点を学ぶ。 1) 食事・栄養の意義 2) 「食べる」ために必要な機能 3) 食事・栄養のアセスメントの視点	シラバスおよび教科書p22-31を熟読する 【30分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		
第2回	【講義・演習】食事の援助② 食事援助の基本的知識を学ぶ。さらに、自分自身の情報から、食事・栄養状態のアセスメントの実際を学ぶ。 1) 対象者の状況に合わせた食事の看護援助 2) 栄養アセスメントに必要な計算 ・基礎代謝量と必要エネルギー推定量の計算 ・1日の摂取カロリーの計算と栄養バランス ・IN-OUTの計算と水分出納バランス 3) 自分自身の栄養バランスの把握	自分自身の食生活の状況を記録する。 教科書Ⅱ p26-29を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第3回	【講義・デモンストレーション】食事の援助③ 経口摂取以外の栄養補給の方法と看護援助を学ぶ。 1) 経腸栄養法と静脈栄養法 2) 経腸栄養を受ける対象者への看護援助 3) 経鼻カテーテルの挿入 4) 経腸栄養を受ける対象者の観察と管理方法の実際 5) 食事援助演習のデモンストレーション ・食事前・中・後の観察点 ・事例に合わせた食事援助のポイント	デモンストレーション内容の看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		

第4回	【演習】食事摂取の自立に支障をきたしている対象者への援助技術① 事例の状況に合わせた食事の援助を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 利き手の上肢の機能障害を持つ対象者の食事援助 2) 視覚障害を持つ対象者の食事援助 3) 頸部の可動が困難である対象者の食事援助 4) 口腔ケアの基本的な援助方法	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	【演習】食事摂取の自立に支障をきたしている対象者への援助技術② 事例の状況に合わせた食事の援助を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 利き手の上肢の機能障害を持つ対象者の食事援助 2) 視覚障害を持つ対象者の食事援助 3) 頸部の可動が困難である対象者の食事援助 4) 口腔ケアの基本的な援助方法	演習要項の熟読 看護技術に関する教科書の該当部分の熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第6回	【講義】排泄の援助① 人間にとっての排泄の意義と排泄のアセスメントの視点を学ぶ。 1) 排泄の意義 2) 排泄に必要な機能 3) 排泄のアセスメント 4) 水分出納バランスの計算 5) 排泄援助の基本 6) 床上排泄時の看護援助(便器・尿器、おむつ)	教科書Ⅱp58-73を熟読する 【30分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		

第7回	【講義】排泄の援助② 排便障害の種類と健康的な排便を促すための看護援助を学ぶ。 1) 排便障害とアセスメントの視点 2) 自然排便を促すための看護援助 3) 摘便の目的・適応と留意点 4) 浣腸の目的・適応と留意点 【小テスト10点】	教科書Ⅱ p.73-81およびp.85-97 を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美、赤坂 浩子		
第8回	【講義・デモンストレーション】排便障害を持つ対象者の援助技術① 事前排便が困難である対象者への看護技術の実際を学ぶ。 1) 床上排泄の対象者に対する便器・尿器を用いた援助の実際 2) 自然排便を促すための腹部マッサージと腰部温罨法の実際 3) 安全な摘便・浣腸の方法と援助の実際	デモンストレーション内容の看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	竹之内 優美		
第9回	【演習】排便障害を持つ対象者の援助技術② 原理原則に基づき、対象者の状態に合わせた排便に関する看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 浣腸と便器・尿器の挿入	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第10回	【演習】排便障害を持つ対象者の援助技術③ 原理原則に基づき、対象者の状態に合わせた排便に関する看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1) 浣腸と便器・尿器の挿入	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第11回	【講義】排泄の援助③ 排尿障害の種類とその状態に合わせた看護援助を学ぶ。 1) 排尿障害とアセスメントの視点 2) 失禁に対する看護援助 3) おむつの使用の目的・適応と留意点 4) 導尿の目的・適応と留意点 5) 膀胱留置カテーテルの目的・適応と留意点 【小テスト10点】	教科書Ⅱp81-84およびp.97-103 を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	【講義・デモンストレーション】排尿障害を持つ対象者の援助技術① 事前排便が困難である対象者への看護技術の実際を学ぶ。 1) おむつを着用している対象者への援助の実際 2) 陰部の清潔を保つための援助の実際 3) 安全な一時的導尿の方法と援助の実際	デモンストレーション内容の看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第13回	【演習】排便障害を持つ対象者の援助技術② 原理原則に基づき、対象者の状態に合わせた排尿に関する看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1)一時的導尿	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 (45分)	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	【演習】排便障害を持つ対象者の援助技術③ 原理原則に基づき、対象者の状態に合わせた排尿に関する看護技術を実践し、それを基にグループでディスカッションを行うことによって看護の学びを深める。 1)一時的導尿	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 (45分)	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	【科目確認テスト(40点)】 【まとめ】 ・本科目の学習内容のまとめ	テキスト・講義資料・演習記録の内容を復習する 【90分】	本科目の学習内容を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1) 科目確認テスト(40%)、小テスト(2回)20%、演習記録(事前課題・実施記録)40% ※演習記録の評価基準については、コースガイダンス時に説明する 2) 提出物の遅延・参加態度・演習時の身だしなみ等は減点対象とする
その他	0	なし
教科書		
1. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
参考文献		

1. 有田 清子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院
 2. 松尾ミヨ子 他 編：ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
 3. 香川芳子編：七訂 食品80キロカロリーガイドブック 女子栄養大学出版部
 4. 任和子・井川順子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院
 5. 横山美樹：看護がみえる！ Vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア
- その他、授業の中で随時紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・出席時間2/3以上かつ総合評価60%以上の2つの要件を満たした場合に、本科目の単位を認定します。
- ・演習内容によっては、2講続きとなる場合や3組編成となる場合があります。授業予定については、第1回目のコースガイダンス時に説明します。
- ・成績評価の一部であっても不正行為があった場合は単位認定不可(DH対象外であり、D判定です)となるので注意してください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		臨床看護技術(1組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	竹之内 優美、木口 幸子、藤長 すが子、渡辺 一代、赤坂 浩子						
授業の位置づけ							
本科目は、看護学科のディプロマポリシーの中でも特に「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」に関連した科目である。本科目は、1年次に履修する各専門基礎・専門科目ならびに2年前期に開講される「看護過程論」や「看護ヘルスアセスメント」の学びを基盤とする。 本科目を学ぶことにより、疾病を持つ人々が安全に治療・検査を受け、安心して療養生活を送ることができるように支援するための基礎的知識・技術を獲得すると共に、状況を的確にとらえる判断力やコミュニケーション能力の向上を図る。そして、ここでの学びは2年次後期の「基礎看護学実習Ⅱ」や3年次前期の各専門科目に繋がる。							
授業の概要							
科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力を用いた実践能力を養うため、生命活動を支える技術の原理・原則や治療、処置に伴う看護技術を理解する。また、検査および薬物療法における基本知識及び看護師の役割と法的責任を述べることができる。安全で適切な注射・採血の技術を習得する。これまで学んだ知識や技術を活用しながら対象の健康課題を検討し、演習を通して臨床判断能力を養う。							
到達目標							

1. 治療・処置を受ける対象者への看護の役割と法的責任を説明できる。
2. 与薬・輸血および検査に関する基礎的知識を説明できる。
3. 与薬・輸血および検査に関する看護技術の基本と留意点を説明できる。
4. 演習を通し、安全かつ適切な採血・注射の看護技術を習得できる。
5. 事例の健康状態のアセスメントを基盤に、援助場面における臨床判断を行い、状況に合わせた看護援助の実践ができる。
6. 自己の臨床判断能力に関する課題を明確にすることができる。

授業の方法

1. 講義: パワーポイントと配布資料および必要に応じて動画視聴を用いて説明する。
2. 演習: シミュレーターまたは模擬患者役の学生に対し、採血および皮下注射を実施する。
3. グループワーク: グループ内で意見交換しながら、事例の理解を深め、適切な状況判断を導くための準備学習を行う。
4. 客観的臨床能力試験 (OSCE): 事例の状況に合わせた看護の模擬実践および客観的評価に基づいたリフレクションを行う。

ICT活用

Google Formのアンケート機能を用いて双方向授業を取り入れる。
Google class roomに教員が作成した技術動画等をアップし、自主学習への支援を行う。
タブレットを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

看護師として病院勤務を有する各教員が臨床経験を活かし、生命活動を支えるための治療、処置に伴う看護技術を教授する。

課題に対するフィードバックの方法

1. 講義に関連した課題については、講義の中で全体へのフィードバックを行う。
2. 演習記録に関しては、コメントを記載し返却する、または全体へのフィードバックを行う。
3. 客観的臨床能力試験 (OSCE) の実施後、個々にフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【コースガイダンス】 【講義】 1) 検査に伴う看護の役割 ・検査場面における看護師の役割と援助の基本 ・検査の種類と意義 2) 検査を受ける対象者への看護① ・排泄物の検査(尿、便、喀痰) ・生体検査	教科書Ⅱp.340-345およびp.364-382を熟読する。 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第2回	【講義】 1) 検査を受ける対象者への看護② ・体液・組織の検査 (血液検査、穿刺液検査、分泌物機能検査、組織検査・生検・細胞診 【ミニテスト10点】	教科書Ⅱp.345-369を熟読する。 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第3回	【講義】 薬物療法を受ける対象者を看護するための基礎的知識 1) 薬物療法に伴う看護師の役割 2) 与薬に関する基礎的知識 3) 薬物療法の種類と意義	教科書Ⅱp.270-379を熟読する。 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第4回	【講義】 薬物療法を受ける対象者への看護 1)経口与薬法 2)外用薬の皮膚・粘膜適用 3)注射法	教科書Ⅱp.329-339を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	【講義】 輸血を受ける対象者への看護技術 1)輸血の基礎知識 2)輸血の説明・同意と副作用の観察 3)輸血実施時の留意点	教科書Ⅱp.329-339を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第6回	【演習】 1)駆血帯の使用方法和採血部位の選択の実際 2)静脈血採血のデモンストレーション 3)静脈血採血時のリスクへの対応	デモンストレーション内容の看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第7回	【演習】 静脈血採血を受ける対象者への援助技術の実際1 1) 事例の状況に合わせ、事前の観察と説明を行い、採血の同意を得る。 2) 採血モデルを用いて採血を実施する。 3) 実施後の観察を行う。	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第8回	【演習】 静脈血採血を受ける対象者への援助技術の実際② 1) 事例の状況に合わせ、事前の観察と説明を行い、採血の同意を得る。 2) 採血モデルを用いて採血を実施する。 3) 実施後の観察を行う。	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第9回	【演習】 薬物療法を受ける対象者への看護技術 1) 点滴静脈内注射時の看護援助の実際 2) 筋肉注射の部位の選択 3) 筋肉内注射のデモンストレーション	デモンストレーション内容の看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第10回	【演習】 皮下注射を受ける対象者への援助技術の実際① 1) 事前の観察(シミュレータ使用)) 2) 説明と同意 3) 準備、実施、後片付け 4) 事後の観察(シミュレータ使用))	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第11回	【演習】 皮下注射を受ける対象者への援助技術の実際② 1) 事前の観察(シミュレータ使用)) 2) 説明と同意 3) 準備、実施、後片付け 4) 事後の観察(シミュレータ使用))	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	臨床判断演習① ※変化する対象者の状態を判断し、状況に合わせた看護援助を検討する。 【グループワーク】 2) 複数の事例を提示し、紙面と「シナリオ」の情報から事例の健康状態をアセスメントする。 3) 健康上で起こりうるリスクを予測する。	事例を読み、事前課題に取り組む。 【45分】	課題に取り組む。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第13回	臨床判断演習② ※変化する対象者の状態を判断し、状況に合わせた看護援助を検討する。 【グループワーク】 対象者の状況を踏まえたうえで安全・安楽な援助方法を選択し、具体的な手順・留意点を考える。 1) 事例の様々な状況に合わせた援助方法を検討する。 2) 援助実施中のリスクへの対応について検討する。	課題に取り組む。 【45分】	課題の追加修正を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	【客観的臨床能力試験(OSCE)】 1. 直前に複数事例の中のどの模擬患者に看護援助を行うのかを伝える。 2. 追加情報を提示し、その状況に合わせて、援助技術を実践する。 3. 援助中に模擬患者の訴えやトラブルに対応する。 4. 実施15分、報告(事実と判断)とフィードバック5分とする。 5. リフレクションにより自己の臨床判断と実践内容を振り替える。	実践に向けて準備する。 【90分】	リフレクション内容を演習記録にまとめる。 【60分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	【科目確認テスト(30点)】 【まとめ】 ・本科目の学習内容のまとめ	教科書・講義資料・演習記録の内容を復習する 【90分】	本科目の学習内容を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1) 科目確認テスト30%、小テスト10%、演習記録・課題40%、客観的臨床能力試験20% ※演習記録の評価基準については、コースガイダンス時に説明する 2) 提出物の遅延・参加態度・演習時の身だしなみ等は減点対象とする
その他	0	なし
教科書		
1. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 2. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
参考文献		

1. 有田 清子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院
 2. 任和子・井川順子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院
 3. 松尾ミヨ子 他 編：ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
 4. 横山美樹：看護がみえる！ Vol.2 基礎看護技術 第1版 メディックメディア
- その他、授業の中で随時紹介する。

履修条件・留意事項等

・出席時間2/3以上、客観的臨床能力試験の合格、総合評価60%以上の3つの要件を満たした場合に、本科目の単位を認定します。
 ・演習内容によっては2講続きとなる場合があります。授業予定は第1回目のコースガイダンス時に説明します。
 ※成績評価の一部であつても不正行為に該当する事実があつた場合は、単位認定不可(DH対象外であり、D判定です)となるので注意してください。
 ※その他、履修上の留意点については、初回に配布するガイダンス資料に基づきます。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		臨床看護技術(2組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	竹之内 優美、木口 幸子、藤長 すが子、渡辺 一代、赤坂 浩子						
授業の位置づけ							
本科目は、看護学科のディプロマポリシーの中でも特に「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」に関連した科目である。本科目は、1年次に履修する各専門基礎・専門科目ならびに2年前期に開講される「看護過程論」や「看護ヘルスアセスメント」の学びを基盤とする。 本科目を学ぶことにより、疾病を持つ人々が安全に治療・検査を受け、安心して療養生活を送ることができるように支援するための基礎的知識・技術を獲得すると共に、状況を的確にとらえる判断力やコミュニケーション能力の向上を図る。そして、ここでの学びは2年次後期の「基礎看護学実習Ⅱ」や3年次前期の各専門科目に繋がる。							
授業の概要							
科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力を用いた実践能力を養うため、生命活動を支える技術の原理・原則や治療、処置に伴う看護技術を理解する。また、検査および薬物療法における基本知識及び看護師の役割と法的責任を述べることができる。安全で適切な注射・採血の技術を習得する。これまで学んだ知識や技術を活用しながら対象の健康課題を検討し、演習を通して臨床判断能力を養う。							
到達目標							

1. 治療・処置を受ける対象者への看護の役割と法的責任を説明できる。
2. 与薬・輸血および検査に関する基礎的知識を説明できる。
3. 与薬・輸血および検査に関する看護技術の基本と留意点を説明できる。
4. 演習を通し、安全かつ適切な採血・注射の看護技術を習得できる。
5. 事例の健康状態のアセスメントを基盤に、援助場面における臨床判断を行い、状況に合わせた看護援助の実践ができる。
6. 自己の臨床判断能力に関する課題を明確にすることができる。

授業の方法

1. 講義: パワーポイントと配布資料および必要に応じて動画視聴を用いて説明する。
2. 演習: シミュレーターまたは模擬患者役の学生に対し、採血および皮下注射を実施する。
3. グループワーク: グループ内で意見交換しながら、事例の理解を深め、適切な状況判断を導くための準備学習を行う。
4. 客観的臨床能力試験 (OSCE): 事例の状況に合わせた看護の模擬実践および客観的評価に基づいたリフレクションを行う。

ICT活用

Google Formのアンケート機能を用いて双方向授業を取り入れる。
Google class roomに教員が作成した技術動画等をアップし、自主学習への支援を行う。
タブレットを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

看護師として病院勤務を有する各教員が臨床経験を活かし、生命活動を支えるための治療、処置に伴う看護技術を教授する。

課題に対するフィードバックの方法

1. 講義に関連した課題については、講義の中で全体へのフィードバックを行う。
2. 演習記録に関しては、コメントを記載し返却する、または全体へのフィードバックを行う。
3. 客観的臨床能力試験 (OSCE) の実施後、個々にフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【コースガイダンス】 【講義】 1) 検査に伴う看護の役割 ・検査場面における看護師の役割と援助の基本 ・検査の種類と意義 2) 検査を受ける対象者への看護① ・排泄物の検査(尿、便、喀痰) ・生体検査	教科書Ⅱp.340-345およびp.364-382を熟読する。 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第2回	【講義】 1) 検査を受ける対象者への看護② ・体液・組織の検査 (血液検査、穿刺液検査、分泌物機能検査、組織検査・生検・細胞診 【ミニテスト10点】	教科書Ⅱp.345-369を熟読する。 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第3回	【講義】 薬物療法を受ける対象者を看護するための基礎的知識 1) 薬物療法に伴う看護師の役割 2) 与薬に関する基礎的知識 3) 薬物療法の種類と意義	教科書Ⅱp.270-379を熟読する。 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第4回	【講義】 薬物療法を受ける対象者への看護 1)経口与薬法 2)外用薬の皮膚・粘膜適用 3)注射法	教科書Ⅱ p.280-328を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	【講義】 輸血を受ける対象者への看護技術 1)輸血の基礎知識 2)輸血の説明・同意と副作用の観察 3)輸血実施時の留意点	教科書Ⅱ p.329-339を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第6回	【演習】 1)駆血帯の使用方法和採血部位の選択の実際 2)静脈血採血のデモンストレーション 3)静脈血採血時のリスクへの対応	デモンストレーション内容の看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第7回	【演習】 静脈血採血を受ける対象者への援助技術の実際① 1) 事例の状況に合わせ、事前の観察と説明を行い、採血の同意を得る。 2) 採血モデルを用いて採血を実施する。 3) 実施後の観察を行う。	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第8回	【演習】 静脈血採血を受ける対象者への援助技術の実際② 1) 事例の状況に合わせ、事前の観察と説明を行い、採血の同意を得る。 2) 採血モデルを用いて採血を実施する。 3) 実施後の観察を行う。	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第9回	【演習】 薬物療法を受ける対象者への看護技術 1) 点滴静脈内注射時の看護援助の実際 2) 筋肉注射の部位の選択 3) 筋肉内注射のデモンストレーション	デモンストレーション内容の看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第10回	【演習】 皮下注射を受ける対象者への援助技術の実際① 1) 事前の観察(シミュレータ使用)) 2) 説明と同意 3) 準備、実施、後片付け 4) 事後の観察(シミュレータ使用))	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第11回	【演習】 皮下注射を受ける対象者への援助技術の実際② 1) 事前の観察(シミュレータ使用)) 2) 説明と同意 3) 準備、実施、後片付け 4) 事後の観察(シミュレータ使用))	演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】	演習の実施記録を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	臨床判断演習① ※変化する対象者の状態を判断し、状況に合わせた看護援助を検討する。 【グループワーク】 2) 複数の事例を提示し、紙面と「シナリオ」の情報から事例の健康状態をアセスメントする。 3) 健康上で起こりうるリスクを予測する。	事例を読み、事前課題に取り組む。 【45分】	課題に取り組む。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第13回	臨床判断演習② ※変化する対象者の状態を判断し、状況に合わせた看護援助を検討する。 【グループワーク】 対象者の状況を踏まえたうえで安全・安楽な援助方法を選択し、具体的な手順・留意点を考える。 1) 事例の様々な状況に合わせた援助方法を検討する。 2) 援助実施中のリスクへの対応について検討する。	課題に取り組む。 【45分】	課題の追加修正を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	【客観的臨床能力試験(OSCE)】 ※準備・後片づけは別途設ける。 1. 直前に複数事例の中のどの模擬患者に看護援助を行うのかを伝える。 2. 追加情報を提示し、その状況に合わせて、援助技術を実践する。 3. 援助中に模擬患者の訴えやトラブルに対応する。 4. 実施15分、報告(事実と判断)とフィードバック5分とする。 (1人20分×6ベッド(一部7ベッド)=24名/1コマ※4開講：12月終日) 5. リフレクションにより自己の臨床判断と実践内容を振り替える。	実践に向けて準備する。 【90分】	リフレクション内容を演習記録にまとめる。 【60分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	【科目確認テスト(30点)】 【まとめ】 ・本科目の学習内容のまとめ	教科書・講義資料・演習記録の内容を復習する 【90分】	本科目の学習内容を整理する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1) 科目確認テスト30%、小テスト10%、演習記録・課題40%、客観的臨床能力試験20% ※演習記録の評価基準については、コースガイダンス時に説明する 2) 提出物の遅延・参加態度・演習時の身だしなみ等は減点対象とする
その他	0	なし
教科書		
1. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 2. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
参考文献		

1. 有田 清子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院
 2. 任和子・井川順子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院
 3. 松尾ミヨ子 他 編：ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
 4. 横山美樹：看護がみえる！Vol.2 基礎看護技術 第1版 メディックメディア
- その他、授業の中で随時紹介する。

履修条件・留意事項等

・出席時間2/3以上、客観的臨床能力試験の合格、総合評価60%以上の3つの要件を満たした場合に、本科目の単位を認定します。
 ・演習内容によっては2講続きとなる場合があります。授業予定は第1回目のコースガイダンス時に説明します。
 ※成績評価の一部であっても不正行為に該当する事実があった場合は、単位認定不可(DH対象外であり、D判定です)となるので注意してください。
 ※その他、履修上の留意点については、初回に配布するガイダンス資料に基づきます。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		看護過程論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	竹之内 優美、木口 幸子、藤長 すが子、渡辺 一代、赤坂 浩子						
授業の位置づけ							
看護学の理論や科学的根拠に基づき、対象者の健康課題を解決するための基礎的な能力を獲得するための科目である。本科目は、看護学科のディプロマ・ポリシーの中でも特に「看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探求力・問題解決能力を有している。(思考・判断・表現)」に関連している。ここでの学びは、2年次後期に開講される基礎看護学実習Ⅱの実習目標を達成するうえで不可欠である。さらに、今後の専門科目において求められる看護の思考プロセスの基盤を身に着けるうえで重要な位置づけとなる科目である。							

1. 看護過程の概念および看護実践における看護過程活用の意義を説明できる。
2. 看護過程の概要および各構成要素について説明できる。
3. 事例をもとに、看護過程の各段階を展開することができる。
4. 看護実践の記録としての看護記録について説明できる。

授業の方法

1. 講義: パワーポイントと配布資料を用いて説明する。
2. 個人ワーク: 講義内容を活用しながら、アセスメント・全体像(全体関連図)・看護計画を個々に作成する。
3. グループワーク: 個人ワークをもとに、グループ内で意見交換しながら内容を深めて看護計画を作成する。
4. ロールプレイ: グループで作成した看護計画について、一場面を設定し、看護援助の実施・評価を行う。
5. グループ討論: 看護計画および実施の内容について、グループ発表およびグループ間討議を行う。

ICT活用

Google class roomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

看護師としての病院勤務経験をもとに、看護過程の事例の具体的な状況を示しながら教授する。

課題に対するフィードバックの方法

1. 毎回、授業終了時に授業内容に関する疑問、質問をFormsで受けつけ、次回講義前あるいは次回講義時にフィードバックする。
2. 提出された課題には、随時、コメントをつけて返却する。
3. 必要時、Google class roomを用いてクラス全体へのコメントを返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【コースガイダンス】 【講義】 1)看護過程とは 2)看護過程の意義と目的 3)看護過程とクリティカルシンキング 4)看護過程の構成要素 5)ゴードンの機能的健康パターンの活用	シラバスを熟読する 看護過程とはなにか、教科書1. のp.14-19を熟読する。 【60分】	看護過程の意義とクリティカルシンキング、構成要素についてまとめる 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第2回	【講義】 1)ゴードンの機能的健康パターンの各クラスターの概要 2)情報収集・整理の方法 【個人ワーク】 1)各パターンの情報整理	ゴードンの機能的健康パターンの11.項目について調べる。 【90分】	学習した講義内容を復習する 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第3回	【講義】 1)アセスメントの視点:健康知覚—健康管理パターン 【個人ワーク】 1)健康知覚—健康管理パターンの分析解釈	事例情報を熟読する 健康知覚—健康管理パターンについて教科書2.p91を熟読する。 【90分】	事例の情報整理、分析解釈を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第4回	【講義】 1) アセスメントの視点: 栄養—代謝パターン 2) アセスメントの視点: 排泄パターン 【個人ワーク】 1) 栄養—代謝パターンの分析解釈	健康知覚—健康管理パターン のアセスメント提出に向けて準備する。 栄養—代謝パターンについて教科書2.p92-93を熟読する。 必要エネルギー量および必要水分量の計算、水分出納バランスの計算 【90分】	事例の情報整理、分析解釈を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	【講義】 1) アセスメントの視点: 活動—運動パターン 2) アセスメントの視点: 睡眠—休息パターン 【個人ワーク】 1) 活動—運動パターンの分析解釈 2) 睡眠—休息パターンの分析解釈	栄養—代謝パターンのアセスメント提出に向けて準備する。 排泄パターンについて教科書2.p94を熟読する。 【90分】	事例の情報整理、分析解釈を行う。コメント内容について追加・修正を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第6回	【講義】 1) アセスメントの視点: 認知—知覚パターン 2) アセスメントの視点: 自己知覚—自己概念パターン 【個人ワーク】 1) 認知—知覚パターンの分析解釈 2) 自己知覚—自己概念パターンの分析解釈	排泄パターンのアセスメント提出に向けて準備する。 活動—運動パターンおよび睡眠—休息パターンについて教科書2.p95-96を熟読する。 【90分】	事例の情報整理、分析解釈を行う。コメント内容について追加・修正を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第7回	【講義】 1) アセスメントの視点:役割—関係パターン 2) アセスメントの視点:セクシュアリティ—生殖パターン 【個人ワーク】 1) 役割—関係パターンの分析解釈 2) セクシュアリティ—生殖パターンの分析解釈	活動—運動パターン、睡眠—休息パターンのアセスメント提出に向けて準備する。 認知—知覚パターン、自己知覚—自己概念パターン、役割—関係パターンについて教科書2.p96-98を熟読する。 【90分】	事例の情報整理、分析解釈を行う。コメント内容について追加・修正を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第8回	【講義】 1) アセスメントの視点:コーピング—ストレス耐性パターン 2) アセスメントの視点:価値—信念パターン 【個人ワーク】 1) コーピング—ストレス耐性パターンの分析 2) 価値—信念パターンの分析	認知—知覚パターン、自己知覚—自己概念パターン、役割—関係パターンのアセスメント提出に向けて準備する。 セクシュアリティ—生殖パターン、コーピング—ストレス耐性パターン、価値—信念パターンについて教科書2.p95-96を熟読する。 【90分】	事例の情報整理、分析解釈を行う。コメント内容について追加・修正を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第9回	【講義】 1) 全体像 2) 全体関連図の描き方 3) 看護上の課題の特定 4) 優先順位の考え方 【個人ワーク】 1) 病態関連図の作成	11) パターンのアセスメントの再提出に向けて準備する。 【90分】	全体関連図を作成する。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第10回	【講義】 1)看護目標(長期目標・短期目標)の設定 2)看護計画の立案 3)実施 4)評価 【個人ワーク】 1)看護課題リストの作成	看護上の課題と優先順位について教科書1.のp41-43を熟読する 【90分】	全体関連図を修正する。 看護課題リストと優先順位の根拠を作成する。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第11回	【グループワーク】 1)グループで1つの看護課題を取り上げ、看護計画を立案する 2)次回の発表・実践の準備(役割分担や練習)を行う。	全体関連図、看護課題リストと優先順位の根拠の提出に向けて準備する。 看護目標と看護計画についての教科書1.のp43-47を熟読する 【90分】	個人ワークの記録物の追加・修正を行う。 グループの看護計画の内容を個々に作成する。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	【発表とグループ討議】 ※1組・2組を分ける。 1)各グループの看護計画(1つ)の発表 2)グループ間で意見交換 【グループワーク】 1)質問・意見や他グループの発表からの学びを活かし、計画内容を修正する。	グループの看護計画の内容を個々に作成する。 【90分】	個人ワークの記録物の追加・修正を行う。 発表・実践の準備 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第13回	【模擬看護実践とグループ討議】 1) 各グループの看護計画内容のデモンストレーション 2) グループ間で意見交換を行う。 【グループワーク】 1) 行動計画の実施評価を行う。	看護計画のグループ発表準備 【90分】	グループで取り上げた看護計画以外にもう1つ個人で看護計画を作成する。 デモンストレーションの準備 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	【講義】 1) 事例に関する看護過程の見直しポイント 【個人ワーク】 1) アセスメントの看護課題とその要因を修正する。 2) 全体関連図を修正する。 3) 看護課題リストを修正する。	個人ワークの看護計画の提出準備 デモンストレーション準備 【90分】	個人ワークの記録物の追加・修正を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	【科目確認テスト(40点)】 【まとめ】	教科書・講義資料の内容を復習する。 【90分】	最終提出に向けて、看護過程の全記録のまとめをする 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	30% 科目確認テスト 60% 個人課題提出(アセスメント、全体関連図、看護課題リストと優先順位、看護目標の設定、看護計画立案の取り組みと最終提出状況、参加態度を含む) 10% グループ看護計画作成・発表およびデモンストレーション ※課題の評価基準については、コースガイダンス時に説明する。
その他	0	なし
教科書		
1. 深井喜代子編(2017). 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I. メヂカルフレンド社 2. 渡邊トシ子編(2011). ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント. ヌーヴェルヒロカワ 3. 山岸節子編(2000). 自分で描ける病態関連図. 照林社		
参考文献		

授業の中で、適宜、参考文献を紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・出席時間2/3以上かつ総合評価60%以上の2つの要件を満たした場合に、本科目の単位を認定します。
- ・グループ課題以外はすべて個人課題です。
- ・個人課題の評価対象物において、課題の一部であっても他者の課題内容の盗用や代筆などの不正行為があった場合は、単位認定不可(D判定)です。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		看護倫理				ナンバリング	3422
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	藤長 すが子						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシーである「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め看護師としての実践能力を有している」ことを中心に展開する。看護実践者としての基盤となる科目であり、1学年前期の「看護学の基礎」で学んだことを踏まえ、その後に行われる専門科目で発展的に展開される位置づけにある							
授業の概要							
健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を修得するため、生命倫理に関する基本的な考え方に立ち、看護として重要なアドボカシーやインフォームドコンセント、秘密保持など看護実践における倫理的概念を理解する。また、看護倫理の歴史的変遷を踏まえながら看護実践のひとつのあり方としてのケアの倫理について考える。看護者としての基本的な姿勢と看護専門職の役割を理解し、臨床における倫理的な場面に気づき、意思決定プロセスの基礎を養う							
到達目標							

1. 看護倫理とは何かが説明できる
2. 看護職の倫理綱領の目的、概要について説明できる
3. 看護実践における倫理の必要性について述べるができる
4. 事例をもとに倫理的意決定プロセスについて述べるができる

授業の方法

1. パワーポイントと配布資料を用いた講義形式
2. グループディスカッションとプレゼンテーション
3. 課題学習ノートとリフレクションカードの活用
4. Google ClassroomとFormsの活用

ICT活用

Google ClassroomおよびFormsを活用しての課題提示、回収、必要時コメントを行う
看護職の倫理綱領については、日本看護協会のホームページなどを活用する

実務経験のある教員の教育内容

看護師としての病院勤務経験と看護教育の経験をもとに、看護倫理に関する基本的な考え方を具体的な事例を用いて教授する

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業終了時に授業内容に関する疑問・質問をFormsやリフレクションカードなどで受けつけ、次回講義時にフィードバックする
提出された課題には、必要時コメントをつけて返却する
必要時、Google Classroomを用いてコメントを返却する

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【講義1】 コースオリエンテーション 倫理とは 倫理と法、道徳の違い 医療における倫理原則	教科書1p2-6、p35-41を読みノートにまとめる。わからない用語は事前に調べる(90分)	倫理原則の問題点についてノートに整理する(90分)
担当教員			
第2回	【講義2】 看護倫理とは 看護倫理の歴史的推移	教科書1p11-21を読みノートにまとめる。わからない用語は事前に調べる(90分)	看護倫理の意義についてノートに整理する(90分)
担当教員			
第3回	【講義3】 専門職と倫理 看護職の倫理綱領	教科書1p76-79を読みノートにまとめる。看護職の倫理綱領の歴史的背景について調べノートにまとめる(90分)	看護職の倫理綱領の内容に具体的な説明を加えノートに整理する(90分)
担当教員			

第4回	【講義4】 看護活動と倫理1 ・再生医療 ・性と生殖をめぐる看護と倫理 ・終末期医療と倫理 ・異文化間の看護と倫理	教科書1p177-196を読みノートにまとめる(90分)	看護活動における倫理的課題について整理する(90分)
担当教員			
第5回	【講義5】 看護活動と倫理2 ・守秘義務 ・アドボカシー ・パターナリズム ・インフォームド・コンセント	教科書1p88-92,98-102,115-121,122-129を読みノートにまとめる(90分)	課題レポート① 看護援助実施時における倫理的行動についてレポートする(90分)
担当教員			
第6回	【講義・グループディスカッション1】 倫理的意思決定のプロセス1 事例のケアについて、グループディスカッションを通じて倫理的課題について考える グループディスカッションした内容をプレゼンテーションする	事例を読み、倫理的課題について考える(90分)	グループディスカッションした内容から、自分の考えをノートにまとめる(90分)
担当教員			

第7回	【グループディスカッション2】 倫理的意思決定のプロセス2 事例のケアについて、グループディスカッションを通じて倫理的意思決定について考える グループディスカッションした内容をプレゼンテーションする	事例を読み、倫理的課題と倫理的意思決定についてノートに整理する(90分)	グループディスカッションした内容を基に、事例の倫理的意思決定プロセスの妥当性について整理する(90分)
担当教員			
第8回	【講義6・確認テスト】 確認テスト まとめ	これまでの講義ノートの内容を復習する(90分)	課題レポート② 看護活動における自己の倫理観についてレポートする(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	40% 確認テスト 30% 課題提出と課題の達成度(事前学習・事後学習内容) 10% グループディスカッションにおける参加状況 20% 課題レポート提出状況と内容の充実度
その他	0	
教科書		
1. 小西恵美子編集(2021).看護倫理 よい看護・よい看護師へのみちしるべ. 改定第3版. 南江堂. 2. 宮脇美保子(2021).新体系看護学全書 基礎看護学1 看護学概論 メヂカルフレンド社.		
参考文献		
授業の中で適宜参考文献を紹介する		
履修条件・留意事項等		

- ・学習は主体的に行うこと
- ・全授業時間数の3分の2以上の出席をもって評価対象とする
- ・評価対象物において代筆や盗用・カンニングなどの不正行為があった場合は、D判定となる場合がある
- ・提出物の提出期限を守ること
- ・欠席した場合は欠席届を提出すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		看護理論				ナンバリング	3428
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	藤長 すが子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーである「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め看護師としての実践能力を有している」ことを中心に展開する。1学年前期の「看護学の基礎」を踏まえ、理論と実践の関りについて学びを深める看護学の基礎となる科目であり、今後展開される各看護学の土台となる。							
授業の概要							
健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を修得するため、代表的な看護理論のメタパラダイムや理論内容を理解し、看護の本質を考える基礎的能力を養う。1学年前期の「看護学の基礎」を踏まえ、看護理論家の理論構築の過程など理論学習に必要な概念や理論内容を学習し、理論と看護実践との関わりを学習する							
到達目標							

1. 理論とは何かについて説明できる
2. 看護理論の歴史的変遷と発展の過程を述べることができる
3. 理論構築の過程と代表的な看護理論の特徴を説明できる
4. 代表的な理論家の書籍を活用し、看護理論と看護実践の関連と活用について自らの考えを述べることができる

授業の方法

1. 講義形式: パワーポイントと配布資料を用いる
2. グループディスカッション: 課題内容をもとにグループディスカッションを行う(全3回)
3. プレゼンテーション: グループディスカッションした内容をもとに資料を作成しプレゼンテーションを行う(授業2回とGoogle Classroom活用)
4. Google Classroomを用いて事前課題等を提示する
5. 課題学習と振り返りには、各自のノート、Google Classroom、Forms等を用いる

ICT活用

Google Classroomによる課題提示、課題提出、課題内容の確認、プレゼンテーション、フィードバックを行う
質問・疑問については、Forms等を活用する
グループワークでは、インターネットを活用する

実務経験のある教員の教育内容

看護師としての病院勤務経験と大学での教育経験をもとに、看護理論の看護実践への適応について事例を提示しながら教授する

課題に対するフィードバックの方法

授業に関する疑問・質問についてはGoogle Classroomまたは、次回の講義の際に説明をする
発表に向けた準備および発表時における助言を行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【講義1】 理論の定義 理論の種類 看護理論の実践への応用	教科書1. p2-13を読みまとめる。わからない用語などは調べノートに整理する(90分)	理論のクリティークの要素について具体的に調べノートにまとめる(90分)
担当教員			
第2回	【講義2】 看護理論の歴史的変遷 看護理論構築過程 主たる看護理論の特徴	教科書1. p14-17を読みまとめる。わからない用語などは調べノートにまとめる(90分)	課題レポート① 代表的な理論家の理論をレポートする(90分)
担当教員			
第3回	【グループディスカッション1】 F.ナイチンゲールまたはV.ヘンダーソンについて、理論家の背景、主要概念の定義、看護実践における活用についてグループワークをする	看護の主要概念について、「看護学の基礎」で学習した内容を再確認する。理論家の背景について調べる(90分)	F.ナイチンゲールおよびV.ヘンダーソンの主要概念についてノートにまとめる(90分)
担当教員			

第4回	【グループディスカッション2】 F. ナイチンゲールまたはV. ヘンダーソンについて、理論家の背景、主要概念の定義、看護実践における活用についてグループワークをする	各自が担当した教科書2または3の各章を読みノートにまとめる 各自が担当した理論の内容について文献やインターネットを用いて調べ整理する(90分)	各自が担当した理論の内容について、グループワークを通じて出た疑問点などを文献やインターネットを用いて調べる(90分)
担当教員			
第5回	【グループディスカッション3】 F. ナイチンゲールまたはV. ヘンダーソンについて、理論家の背景、主要概念の定義、看護実践における活用についてグループワークをする プレゼンテーション資料を作成する	各自が担当した理論の内容について文献やインターネットを用いて調べる(90分)	グループディスカッションでまとめた内容を確認し、疑問点などを調べる 発表に向けた準備をする(90分)
担当教員			
第6回	【プレゼンテーション1】 F. ナイチンゲールまたはV. ヘンダーソンについて、理論家の背景、主要概念の定義、看護実践における活用について発表をする ワークシート①	パワーポイントによるプレゼンテーションの準備をする Google Classroomに発表資料をアップする(90分)	各グループの発表内容についてまとめる(90分)
担当教員			

第7回	【プレゼンテーション2】 F.ナイチンゲールまたはV.ヘンダーソンについて、理論家の背景、主要概念の定義、看護実践における活用について発表をする ワークシート②	パワーポイントによるプレゼンテーションの準備をする 各グループの発表資料を読み疑問点を調べる（90分）	各グループの発表内容についてまとめる(90分)
担当教員			
第8回	【講義3・確認テスト】 発表の総評とまとめ 確認テスト	これまでの講義資料やプレゼンテーション資料などに記載されている内容の復習をする(90分)	課題レポート② 看護理論の実践への応用についてレポートする(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	25% 確認テスト 10% GW評価:グループワークへの参加・貢献度(自己評価と他者評価を実施する) 20% 課題提出状況とその内容充実度(事前学習・事後学習内容含) 20% プレゼンテーション:ワークシートによる評価を活用する 25% 課題レポート
その他	0	
教科書		
1. 筒井真優美(2019). 看護理論 看護理論21の理解と実践への応用, 改定第3版. 南江堂. 2. フローレンス・ナイチンゲール, 小玉香津子, 尾田葉子訳(2019). 看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護. 日本看護協会出版会. 3. ヴァージニア・ヘンダーソン, 湯横ます・小玉香津子訳(2016). 看護の基本となるもの. 日本看護協会出版会.		
参考文献		
授業の中で適宜参考文献を紹介する		
履修条件・留意事項等		

学習は主体的に行う
全授業時間数の3分の2以上の出席をもって評価対象とする
評価対象物において代筆や盗用・カンニングなどの不正行為があった場合は、D判定となる場合がある
欠席をした場合は、必ず欠席届を提出する

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 成人看護学					
科目名		成人看護学の基礎				ナンバリング	3500
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	尾形 裕子						
授業の位置づけ							
成人看護学は成人看護学の基礎、展開Ⅰ～Ⅲ、臨地実習の科目で構成される。成人看護学の基礎は、成人期にある人々の特徴を理解し、健康問題とその看護についての概要を学ぶ。「生涯発達論」「医学概論」「看護学の基礎」と連携している。本科目は、成人看護学の展開Ⅰ～Ⅲ、臨地実習へと繋がり、成人看護学全体の基盤となる科目である。DP「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。							
授業の概要							
成人期の対象を、変動する社会状況に関わりながら社会生活を営む生活者として捉え、成人各期にある人の身体的・精神的・社会的な特徴と健康問題の概要について学ぶ。また、成人各期の発達段階に応じた、健康の保持・増進・疾病予防の方法と看護の役割を学ぶ。							
到達目標							

- 1.成人看護学の対象である成人を、心身の特徴と変化、ライフサイクル、社会との相互作用からその特徴を述べることができる
- 2.成人をとりまく保健・医療・福祉の動向を述べることができる
- 3.成人期にある人の健康について健康状態、保健・医療・福祉政策、職業・労働の観点から述べることができる
- 4.成人看護を充実させる実践的環境についてその特徴を述べることができる
- 5.成人看護学に有効な理論の概略と、対象者の状況に応じた理論を用いて看護について論じることができる

授業の方法

パワーポイントと配信した講義資料を用いて講義形式で進める
課題、レポート、理解度確認テストを行う
コメントシートを活用して個別に授業の振り返りを行い、その内容をクラスで共有する

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

看護師として勤務した経験を活かして、成人期の人への基本的アプローチと健康状態に応じた看護について講義を行う

課題に対するフィードバックの方法

事前課題、理解度確認テストの回答と解説は講義の中でフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 成人看護学の特性について I .成人期にある人の理解 1.成人とは 2.成人の心身と特徴と変化 3.ライフサイクルからみた成人期の特徴と発達課題 4.社会との相互作用からみた成人期の特徴	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法などを確認する 前期の講義内容から、医療の動向と看護の特徴を復習する(90分)	第1回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員			
第2回	I .成人期にある人の理解 5.成人期にある人の健康	成人期にある人の健康について教科書を読み知識を整理する(90分)	第2回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員			
第3回	II .成人看護を充実させる実践的環境 1.成人看護における倫理と看護者の役割 2.専門職間の連携と協働 3.医療安全	成人看護を充実させる実践的環境について教科書を読み知識を整理する(90分)	第3回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する 第1～3回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員			

第4回	理解度確認テスト1 Ⅲ.健康状態に応じた看護援助 1.ヘルスプロモーション1	ヘルスプロモーションについて 教科書を読み知識を整理する(90分)	第4回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員			
第5回	Ⅲ.健康状態に応じた看護援助 1.ヘルスプロモーション2	ヘルスプロモーションについて 教科書を読み知識を整理する(90分)	第5回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員			
第6回	Ⅲ.健康状態に応じた看護援助 2.急性期・回復期の看護	急性期・回復期の看護について教科書を読み知識を整理する(90分)	第6回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する 第4～6回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員			

第7回	理解度確認テスト2 Ⅲ.健康状態に応じた看護援助 3.慢性期の看護	慢性期の看護について教科書 を読み知識を整理する(90分)	第7回目の学習内容を教科書・ 講義資料を用いて復習する(90 分)
担当教員			
第8回	Ⅲ.健康状態に応じた看護援助 4.ターミナル期の看護	ターミナル期の看護について教 科書を読み知識を整理する(90 分)	第8回目の学習内容を教科書・ 講義資料を用いて復習する(90 分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	理解度確認テスト・課題・レポート
その他	0	なし
教科書		
成人看護学 成人看護学概論 改定第4版、林直子 鈴木久美 酒井郁子 梅田 恵(編集)、南江堂		
参考文献		
講義の中で随時紹介する		
履修条件・留意事項等		

課題・レポートの提出遅延、未提出は減点する

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 成人看護学					
科目名		成人看護学の展開 I				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介						

授業の位置づけ

成人看護学は成人看護学の基礎、展開Ⅰ～Ⅲ、臨地実習の科目で構成される。成人看護学の展開Ⅰは成人期にある人と家族を対象に慢性期疾患とがん疾患に焦点をあてた看護に関連する理論と援助を学ぶ科目であり、「成人看護学の基礎」を基盤として「看護病態治療学Ⅰ・Ⅱ」や「保健医療福祉行政論」「チーム医療概論」などの科目と連携し「成人看護学の展開Ⅲ」「成人看護学実習」に繋がる。DP「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

成人期の対象の特徴と健康問題、看護援助について学ぶ。健康状態による看護の特徴では慢性期に、疾病ではがん疾患に焦点をあてて看護に関連する理論と援助を学ぶ。慢性・不可逆的健康課題を有する人・家族が、療養生活を継続できるようセルフケア能力を高め、その人にとって最適な健康状態にできるような援助を学ぶ。がんの特殊性とがん罹患により脅かされる人々の命および生活について理解を深め、がんの病期、化学療法・放射線療法・緩和ケアなどの治療に応じた援助について学ぶ。

到達目標

- 1.慢性期看護及び慢性疾患やその治療の特徴を述べることができる
- 2.慢性期にある人々の身体的、心理的、社会的特徴を述べることができる
- 3.慢性疾患をもつ人々とその家族に対する看護活動と、看護師の役割について考え論じることができる
- 4.がんの疫学をもとに、がんを取り巻く医療・看護の動向を述べることができる
- 5.がん治療に対する看護、がん医療における看護師の役割を説明できる

授業の方法

パワーポイントと配信した講義資料を用いて講義形式で進める
事例の援助についてグループワークとグループ発表を行う
課題、レポート、理解度確認テストを行う
コメントシートを活用して個別に授業の振り返りを行い、その内容をクラスで共有する

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

慢性疾患及びがん疾患患者の治療を行う病院において看護師として勤務した経験を活かして、臨床に基づいた講義を行う

課題に対するフィードバックの方法

事前課題、理解度確認テストの回答と解説は授業の中でフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	慢性期看護の特徴の理解 慢性疾患及び治療の特徴の理解	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法などを確認する 「成人看護学の基礎」の講義内容から、医療の動向と経過別看護の特徴を復習する(90分)	慢性期看護の特徴、慢性疾患及び治療の特徴について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第2回	慢性呼吸不全患者への看護 1. 慢性呼吸不全患者の身体的、心理・社会的特徴 2. 慢性呼吸不全患者および家族への援助	慢性呼吸不全の患者および家族への援助について教科書を読み知識を整理する(90分)	慢性呼吸不全の患者および家族への援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第3回	慢性呼吸不全患者への看護 3. 治療・療養行動にかかわる理論: 病みの軌跡 4. 事例の援助の理解	病みの軌跡について教科書を読み知識を整理する(90分)	慢性呼吸不全の患者および家族への援助と病みの軌跡について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	証本 常子		

第4回	高血圧患者への看護 1. 高血圧患者の身体的、心理・社会的特徴 2. 高血圧患者および家族への援助	血圧異常と評価及び治療、高血圧の患者および家族への援助について教科書を読み知識を整理する(90分)	血圧異常と評価及び治療、高血圧の患者および家族への援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	高橋 洋介		
第5回	高血圧患者への看護 3. 治療・療養行動にかかわる理論:トランスセオレティカルモデル 4. 事例の援助の理解	トランスセオレティカルモデルについて教科書を読み知識を整理する(90分)	血圧異常と評価及び治療、高血圧の患者および家族への援助とトランスセオレティカルモデルについて教科書・講義資料を用いて復習する(90分) 第1～5回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員	高橋 洋介		
第6回	理解度確認テスト1 糖尿病患者への看護 1. 糖尿病患者の身体的、心理・社会的特徴	糖尿病の疾病の成り立ちと治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	糖尿病の疾病の成り立ちと治療について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	桺本 常子		

第7回	糖尿病患者への看護 2. 糖尿病患者及び家族への援助 3. 事例の解釈	糖尿病患者及び家族への援助について教科書を読み知識を整理する(90分)	糖尿病患者及び家族への援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第8回	糖尿病患者への看護 4. 治療・療養行動にかかわる理論:セルフケア不足理論 5. 事例の援助の理解	セルフケア不足理論について教科書を読み知識を整理する(90分)	事例の援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第9回	慢性腎臓病患者への看護 1. 慢性腎臓病の患者の身体的、心理・社会的特徴	慢性腎臓病の疾病の成り立ちと治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	慢性腎臓病の疾病の成り立ちと治療について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		

第10回	慢性腎臓病患者への看護 2. 慢性腎臓病患者及び家族への援助 3. 事例の解釈	慢性腎臓病患者及び家族への援助について教科書を読み知識を整理する(90分)	慢性腎臓病患者及び家族への援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第11回	慢性腎臓病患者への看護 4. 治療・療養行動にかかわる理論:エンパワメント 5. 事例の援助の理解	エンパワメントについて教科書を読み知識を整理する(90分)	事例の援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第12回	がんに罹患した人とその家族への看護 1.がん看護学総論	がん医療の現在と看護、がんの病態と臨床経過について教科書を読み知識を整理する(90分)	がん医療の現在と看護、がんの病態と臨床経過について教科書・講義資料を用いて復習する第6～12回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員	尾形 裕子		

第13回	理解度確認テスト2 がんに罹患した人とその家族への看護 2.がん薬物療法と看護	がん薬物療法の看護について 教科書を読み知識を整理する(90分)	がん薬物療法の看護について 教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第14回	がんに罹患した人とその家族への看護 3.がん放射線療法と看護 がん放射線療法と看護の実際に関するゲストスピーカーの講話	がん放射線療法の看護について 教科書を読み知識を整理する(90分)	がん放射線療法の看護について 教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第15回	がんに罹患した人とその家族への看護 4.がん患者の療養支援 がん患者の療養支援の実際に関するゲストスピーカーの講話	がん患者の療養支援について 教科書を読み知識を整理する(90分)	がん患者の療養支援について 教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	理解度確認テスト・課題・レポート
その他	0	なし
教科書		
成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える 改定第4版 南江堂 病気がみえるvol.2循環器 第5版 メディックメディア vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第5版 メディックメディア vol.8腎・泌尿器 第4版 メディックメディア		
参考文献		

本科目の単位修得が無ければ、成人看護学実習の履修は不可
課題・レポートの提出遅延、未提出は減点する

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 成人看護学					
科目名		成人看護学の展開Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介						
授業の位置づけ							
成人看護学は成人看護学の基礎、展開Ⅰ～Ⅲ、臨地実習の科目で構成される。成人看護学の展開Ⅱは成人期にある人と家族を対象に急性疾患と手術療法に焦点をあてた看護に関連する理論と援助を学ぶ科目であり、「看護病態治療学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ」や「保健医療福祉行政論」「チーム医療概論」などの科目と連携し、「成人看護学の基礎」を基盤として「成人看護学の展開Ⅲ」「成人看護学実習」に繋がる。DP「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。							

- 1.急性な状態にある患者とその家族を理解するために必要な概念や理論の特徴を述べることができる
- 2.急性な状態にある患者とその家族の苦痛・不快感覚の緩和と生活支援および情緒的支援のための看護活動を述べることができる
- 3.救急蘇生法の手順や留意点を述べることができる
- 4.周術期にある患者の手術による身体的、心理的特徴を述べることができる
- 5.術期の経過に応じた目標と看護の役割、周術期に特徴的な援助を説明することができる

授業の方法

パワーポイントと配信した講義資料を用いて講義形式で進める
課題、レポート、理解度確認テストを行う
コメントシートを活用して個別に授業の振り返りを行い、その内容をクラスで共有する

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

急性疾患及び手術を受ける患者の治療を行う病院において看護師として勤務した経験を活かして、臨床に基づいた講義を行う

課題に対するフィードバックの方法

事前課題、理解度確認テストの回答と解説は授業の中でフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	急性の状態にある患者と家族を理解するための理論 危機理論、ストレスコーピング、モニタリング、痛み、生体侵襲理論	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法などを確認する 痛み、生体侵襲理論、危機理論、ストレスコーピングについて教科書を読み知識を整理する(90分)	各理論の特徴と看護への適用について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第2回	急性の状態にある患者の主要病態の特徴とケア 1.急性の呼吸機能障害のある人への看護	呼吸器の構造と機能、気管支喘息の病態及び症状、検査・評価、治療、症状について教科書を読み知識を整理する(90分)	急性の呼吸機能障害のある人の観察と援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第3回	急性の状態にある患者の主要病態の特徴とケア 2.急性の循環機能障害のある人への看護	循環器の構造と機能、虚血性心疾患の病態及び症状、検査・評価、治療、症状について教科書を読み知識を整理する(90分)	急性の循環機能障害のある人の観察と援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		

第4回	急性の状態にある患者の主要病態の特徴とケア 3.急性の脳・神経機能障害のある人への看護の実際に関するゲストスピーカーの講話	脳・神経の構造と機能、脳梗塞の病態及び症状、検査・評価、治療、症状について教科書を読み知識を整理する(90分)	急性の脳・神経機能障害のある人の観察と援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第5回	急性の状態にある患者の主要病態の特徴とケア 4.急性の栄養摂取・消化機能障害のある人への看護	消化器の構造と機能、肝炎の病態及び症状、検査・評価、治療、症状について教科書を読み知識を整理する(90分)	急性の肝炎のある人の観察と援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第6回	急性の状態にある患者の主要病態の特徴とケア 5.造血幹細胞移植と看護に関するゲストスピーカーの講話	急性白血病の病態及び症状、検査・評価、治療、症状について講義資料を読み知識を整理する(90分)	造血幹細胞移植を受ける人の援助について講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	証本 常子		

第7回	クリティカルケア 1.一次救命処置の理解 心肺蘇生法	一次救命処置に関して教科書を読み知識を整理する。ナーシングスキルの心肺蘇生法とAEDを視聴する(90分)	救急対応及び救急時に必要な処置の実施で留意点について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	高橋 洋介		
第8回	クリティカルケア 2.二次救命処置の理解 救急対応及び救急時に必要な処置	二次救命処置に関して教科書を読み知識を整理する。ナーシングスキルの二次救命処置に関する技術を視聴する(90分)	救急対応及び救急時に必要な処置の実施で留意点について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	高橋 洋介		
第9回	クリティカルケア 3.呼吸・循環のケア	呼吸・循環ケアについて教科書を読み知識を整理する(90分)	呼吸・循環ケアについて教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	高橋 洋介		

第10回	救急看護の特徴と実際 救急看護活動に関するゲストスピーカーの講話	救急医療の動向や歴史と関連 法規に関して学んだ内容を整理 する(90分)	救急医療の施設の特徴や看護 活動の実際について教科書・講 義資料を用いて復習する 第1～9回目の講義内容を復習 し、理解度確認テストを受ける準 備をする(90分)
担当教員	高橋 洋介		
第11回	理解度確認テスト1 周術期看護の特徴 1.周術期の看護目標と看護の役割 2.術前の看護	術前処置、術前オリエンテーシ ョン、治療の意思決定、術前の不 安に対する援助に関して教科書 を読み知識を整理する(90分)	術前の看護の役割について教 科書・講義資料を用いて復習す る(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第12回	周術期看護の特徴 3.手術中の看護の実際 4.術直後の看護	術前訪問の意義、手術室での 処置や医療チームの役割分担 について教科書を読み知識を 整理する(90分)	術中の看護の役割について教 科書・講義資料を用いて復習す る(90分)
担当教員	古沢 幸子		

第13回	周術期看護の特徴 5.術後の看護	術後の観察の内容、術後疼痛のマネジメント、呼吸・循環の援助、早期離床について教科書を読み知識を整理する(90分)	術後の看護の役割について教科書・講義資料を用いて復習する 第11～13回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第14回	周術期看護の特徴と実際 術後の機能障害を抱えて生活する人への看護の実際に関するゲストスピーカーの講話	術後の機能障害とその看護介入について教科書を読み知識を整理する (90分)	周術期看護について本日の講義内容を、教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第15回	理解度確認テスト2 周術期看護の特徴 6.術後の機能障害を抱えて生活する人への看護	術後の機能障害とその看護介入について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)	術後の機能障害とその看護介入について15回目の講義資料と教科書を読み、知識を整理する(90分)
担当教員	古沢 幸子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	理解度確認テスト・課題・レポート
その他	0	なし
教科書		
成人看護学 急性期看護I 概論・周手術期看護改訂第4版 南江堂 成人看護学 急性期看護II クリティカルケア改訂第4版 南江堂 病気がみえるvol.1消化器 第7版 メディックメディア 病気がみえるvol.2循環器 第5版 メディックメディア 病気がみえるvol.7脳・神経 第2版 メディックメディア		
参考文献		

講義の中で随時紹介する

履修条件・留意事項等

本科目の単位修得が無ければ、成人看護学実習の履修は不可
課題・レポートの提出遅延、未提出は減点する

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 成人看護学					
科目名		成人看護学の展開Ⅲ(1組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介						

授業の位置づけ

成人看護学は成人看護学の基礎、展開Ⅰ～Ⅲ、臨地実習の科目で構成されている。「成人看護学の基礎」では、成人期に特徴的な健康問題と看護を学び、その基礎の学びを基盤として「成人看護学の展開Ⅰ・Ⅱ」では経過別に疾病や治療が対象者に及ぼす影響とそれに応じた看護を学んだ。これらの科目に引き続き、この科目では成人期にあり入院治療を必要とする事例に対する看護過程を展開することにより、既習の知識・技術・態度の統合を図り、「成人看護学実習」「看護研究Ⅱ」に繋がる科目である。「病態・治療学Ⅰ・Ⅲ」「薬理学」「臨床検査学」などの疾病・治療に関する科目と連携する。DP「看護過程の展開や臨床判断に必要な問題探求能力・問題解決能力を有している。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

成人期にある人が疾病や治療の影響により、治療・処置に関するセルフケア行動の獲得や生活の再構築が必要となる場面を設定し、看護過程を展開する。また、急性の健康障害及び救命を目的として診療・看護上の問題を解決する技能および医療機器活用のなかで患者の安全性を考慮した対応を習得する。

到達目標

- 1.事例に対して経過別看護の特性に応じた看護過程の展開ができる
- 2.ケア場面に応じた行動計画を作成し、教員の助言を受けながら模擬患者に適切なケアを行うことができる
- 3.グループワークで事例の看護過程を討議し、看護ケアの実施・評価を共有できる
- 4.学生としての役割・責務を果たし、学習への主体性を有した自律的な行動ができる

授業の方法

看護過程の展開・技術演習の要点については、パワーポイントと配布印刷物を用いて説明する
 指定された事例のケアに必要な技術演習を行い、模擬患者にケアを提供しながら看護過程を展開する
 看護過程の展開とケアの実施は、教員の指導を受けながらグループワークを中心に行う
 グループでの学びと自己学習により、成人期・慢性期看護・周術期看護の特徴に応じた看護過程を各自で展開する

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

総合病院で看護を実践した経験のある教員が臨床に基づいて指導にあたる

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するコメントを返す
 課題の解説は授業の中でフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション グループと担当者の発表 事例紹介 看護過程の復習 病態アセスメント、薬剤アセスメント	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法を確認する 指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第2回	周術期の看護過程 援助①術後観察;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第3回	アセスメントの視点	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第4回	援助①術後の観察;行動計画の作成 術後観察、呼吸・循環を整える看護ケア技術練習	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第5回	援助①術後観察;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第6回	援助①術後の観察	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第7回	アセスメントの作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第8回	全体像・問題リスト・看護計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第9回	援助②退院指導;行動計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第10回	援助②退院指導;練習	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第11回	全体像・問題リスト・看護計画の検討 援助②退院指導;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第12回	援助②退院指導;実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第13回	理解度確認テスト1 周術期 看護過程の解説	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第14回	事例紹介 病態アセスメント、薬剤アセスメント	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第15回	アセスメントの視点(クラスター1.2)	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第16回	援助③入院時の問診、フィジカルアセスメント;実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第17回	アセスメントの視点(クラスター3～6)援助③ 入院時の問診、フィジカルアセスメント;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第18回	アセスメントの視点(クラスター7～11) 援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第19回	援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;練習 行動計画の修正	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第20回	援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;練習 行動計画の修正	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第21回	全体像・問題リスト・看護計画の作成 援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;行動計画の修正	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第22回	援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第23回	アセスメントから全体像・問題リスト・看護計画の検討	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第24回	援助⑤退院指導;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第25回	援助⑤退院指導;行動計画の作成、練習	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第26回	援助⑤退院指導;行動計画の作成、練習	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第27回	援助⑤退院指導;行動計画の修正	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第28回	援助⑤退院指導;実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第29回	看護計画の実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第30回	理解度確認テスト2 看護過程の解説	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事例の看護過程と課題の提出物の内容・提出状況、演習・グループワークへの参加態度
その他	0	なし
教科書		
成人看護学の基礎、成人看護学の展開Ⅰ・Ⅱ、看護病態治療学Ⅰ・Ⅲで使用した教科書を用いる		
参考文献		

ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版 ノーヴェルヒロカワ
 NANDA- I 看護診断定義と分類2024-2026 原書第13版 医学書院
 病気がみえる vol.3糖尿病・代謝・内分泌 第5版 メディックメディア
 病気がみえる vol.1消化器 第6版 メディックメディア

履修条件・留意事項等

本科目の単位修得が無ければ、成人看護学実習の履修は不可
 課題記録物の遅延・未提出は減点する

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 成人看護学					
科目名		成人看護学の展開Ⅲ(2組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介						

授業の位置づけ

成人看護学は成人看護学の基礎、展開Ⅰ～Ⅲ、臨地実習の科目で構成されている。「成人看護学の基礎」では、成人期に特徴的な健康問題と看護を学び、その基礎の学びを基盤として「成人看護学の展開Ⅰ・Ⅱ」では経過別に疾病や治療が対象者に及ぼす影響とそれに応じた看護を学んだ。これらの科目に引き続き、この科目では成人期にあり入院治療を必要とする事例に対する看護過程を展開することにより、既習の知識・技術・態度の統合を図り、「成人看護学実習」「看護研究Ⅱ」に繋がる科目である。「病態・治療学Ⅰ・Ⅲ」「薬理学」「臨床検査学」などの疾病・治療に関する科目と連携する。DP「看護過程の展開や臨床判断に必要な問題探求能力・問題解決能力を有している。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

成人期にある人が疾病や治療の影響により、治療・処置に関するセルフケア行動の獲得や生活の再構築が必要となる場面を設定し、看護過程を展開する。また、急性の健康障害及び救命を目的として診療・看護上の問題を解決する技能および医療機器活用のなかで患者の安全性を考慮した対応を習得する。

到達目標

- 1.事例に対して経過別看護の特性に応じた看護過程の展開ができる
- 2.ケア場面に応じた行動計画を作成し、教員の助言を受けながら模擬患者に適切なケアを行うことができる
- 3.グループワークで事例の看護過程を討議し、看護ケアの実施・評価を共有できる
- 4.学生としての役割・責務を果たし、学習への主体性を有した自律的な行動ができる

授業の方法

看護過程の展開・技術演習の要点については、パワーポイントと配布印刷物を用いて説明する
 指定された事例のケアに必要な技術演習を行い、模擬患者にケアを提供しながら看護過程を展開する
 看護過程の展開とケアの実施は、教員の指導を受けながらグループワークを中心に行う
 グループでの学びと自己学習により、成人期・慢性期看護・周術期看護の特徴に応じた看護過程を各自で展開する

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

総合病院で看護を実践した経験のある教員が臨床に基づいて指導にあたる

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するコメントを返す
 課題の解説は授業の中でフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション グループと担当者の発表 事例紹介 看護過程の復習 病態アセスメント、薬剤アセスメント	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法を確認する 指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第2回	周術期の看護過程 援助①術後観察;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第3回	アセスメントの視点	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第4回	援助①術後の観察;行動計画の作成 術後観察、呼吸・循環を整える看護ケア技術練習	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第5回	援助①術後観察;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第6回	援助①術後の観察	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第7回	アセスメントの作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第8回	全体像・問題リスト・看護計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第9回	援助②退院指導;行動計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第10回	援助②退院指導;練習	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第11回	全体像・問題リスト・看護計画の検討 援助②退院指導;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第12回	援助②退院指導;実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第13回	理解度確認テスト1 周術期 看護過程の解説	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第14回	事例紹介 病態アセスメント、薬剤アセスメント	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第15回	アセスメントの視点(クラスター1.2)	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う (90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第16回	援助③入院時の問診、フィジカルアセスメント;実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第17回	アセスメントの視点(クラスター3～6)援助③ 入院時の問診、フィジカルアセスメント;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第18回	アセスメントの視点(クラスター7～11) 援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第19回	援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;練習 行動計画の修正	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第20回	援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;練習 行動計画の修正	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第21回	全体像・問題リスト・看護計画の作成 援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;行動計画の修正	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第22回	援助④フィジカルアセスメント、セルフケア指導;実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第23回	アセスメントから全体像・問題リスト・看護計画の検討	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第24回	援助⑤退院指導;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第25回	援助⑤退院指導;行動計画の作成、練習	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第26回	援助⑤退院指導;行動計画の作成、練習	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第27回	援助⑤退院指導;行動計画の修正	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第28回	援助⑤退院指導;実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第29回	看護計画の実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第30回	理解度確認テスト2 看護過程の解説	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事例の看護過程と課題の提出物の内容・提出状況、演習・グループワークへの参加態度
その他	0	なし
教科書		
成人看護学の基礎、成人看護学の展開Ⅰ・Ⅱ、看護病態治療学Ⅰ・Ⅲで使用した教科書を用いる		
参考文献		

ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版 ノーヴェルヒロカワ
 NANDA- I 看護診断定義と分類2024-2026 原書第13版 医学書院
 病気がみえる vol.3糖尿病・代謝・内分泌 第5版 メディックメディア
 病気がみえる vol.1消化器 第6版 メディックメディア

履修条件・留意事項等

本科目の単位修得が無ければ、成人看護学実習の履修は不可
 課題記録物の遅延・未提出は減点する

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 老年看護学					
科目名		老年看護学の基礎				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高岡 哲子						

授業の位置づけ

本科目は、老年看護学に位置づけられ、ディプロマポリシーの「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、看護的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有した人材」につながるため、老年看護学を学ぶ上で必要な基礎的知識を修得する。本科目は「高齢者の特徴と老年者を取り巻く環境」と「老年看護学における哲学的基盤」によって構成される。「生涯発達論」と「保健医療福祉行政論」での学習を参考にし、本科目を学び、これに積み重ねる形で「老年看護学の展開Ⅰ・Ⅱ」によって具体的な支援を学び、「老年看護学実習」につなげる。

授業の概要

本科目は、人生100年時代を支えるために老年看護や老年期を生きる高齢者を理解し、生活を整えるための援助実践に必要な基礎知識を習得する。学習内容は、高齢者の健康状態やその変化に応じた看護に必要な知識と老年看護の成り立ちと理論、高齢者の特徴、地域包括ケアシステムや高齢者のニーズをかなえるための多職種連携実践を含めた高齢者を取り巻く環境、さらに高齢者のQOLやもてる力と、生活を整えるための援助を考える。

到達目標

- ・高齢者の特徴が説明できる。
 - ・高齢者を取り巻く環境が説明できる。
 - ・老年看護の特徴と老年看護学における哲学的基盤が説明できる。
- ＊各講義の目標は、学習内容中に示す。

授業の方法

授業の方法は、講義形式と学生同士のディスカッションを活用して行う。教材は、教科書と担当教員が作成した資料である。本科目は、理解度を確認するための小テスト7回と個人課題2回の提出によって評価する。

ICT活用

Google classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

総合的な病院において看護師として約7年間勤務した経験の中で、高齢者を対象にケアを行った経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

本授業では提出された課題に対し、共通フィードバックを中心に実施し、全体の理解を深める。具体的には、授業内で優れた回答やよくある誤解を共有し、解説を行うことで全体の学習効果を高める。また、個別のフィードバックは、単位取得が危うい場合や、課題の理解が大きくずれている場合に実施する。該当する学生には、具体的な改善点を提示し、学習の方向性を修正できるよう支援する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス(講義・GW) 内容:老年看護学における老年看護学の基礎の位置づけとシラバスの説明 行動目標:ガイダンス内容を理解し、自らが学習すべき内容と学習課題が説明できる。	シラバスを熟読する。生涯発達論の老年期を復習してノートにまとめる(90分)。	学習すべき内容と現時点での自らの看護観をまとめる(90分)。
担当教員			
第2回	老いるということ、老いを生きるということ(講義) 内容:「老いる」こと、高齢者の定義、発達と成熟 行動目標:加齢と老化・加齢に伴う身体的、心理的、社会的側面の変化、発達課題などにおける高齢者の特徴が説明できる。 ①小テスト	教科書①第1章を熟読する(90分)。	高齢者の特徴をまとめる(90分)。
担当教員			
第3回	超高齢社会と社会保障(講義) 内容:統計的輪郭からみた高齢者の特徴、高齢社会における保健医療福祉の動向 行動目標:統計的な高齢者の特徴と介護保険制度の仕組みが説明できる。 ②小テスト	教科書①第2章p24～53を熟読する(90分)。	介護保険申請のプロセスをまとめる(90分)。
担当教員			

第4回	超高齢社会と社会保障(講義) 内容:高齢者の権利擁護 行動目標:高齢者の権利擁護が説明できる。 ③小テスト	教科書①第2章p54～69を熟読する(90分)。	高齢者虐待と権利擁護の概要をまとめる(90分)。
担当教員			
第5回	老年看護のなりたちⅠ(講義) 内容:老年看護学教育の発展と老年看護の定義と役割 行動目標:老年看護学の定義と役割が説明できる。 ④小テスト	教科書①第3章p70～77を熟読する(90分)。	老年看護の定義と役割をまとめる(90分)。
担当教員			
第6回	老年看護のなりたちⅡ(講義) 内容:老年看護における理論・概念、責務 行動目標:老年看護における理論・概念、責務が説明できる。 ⑤小テスト	教科書①第3章p78～83を熟読する(90分)。	老年看護における理論・概念と責務をまとめる(90分)。
担当教員			

第7回	生活・療養の場における看護(講義) 内容:高齢者とヘルスプロモーション・保健医療福祉施設および居住施設における看護、治療介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 行動目標:グループホームの特徴が説明できる。 ⑥小テスト	教科書①第9章を熟読する(90分)。	地域密着型サービスをまとめる(90分)。
担当教員			
第8回	高齢者のリスクマネジメント(講義) 内容:高齢者と医療安全、救命救急と災害 行動目標:高齢者特有のリスク要因や救急、災害時の看護師の役割が説明できる。 ⑦小テスト	教科書①第10章を熟読する(90分)。	災害フェーズと高齢者支援のポイントをまとめる(90分)。
担当教員			
第9回	確認テストと前半講義のまとめ(講義) 行動目標:前半講義の理解度の確認ができる。	2回から8回の学習内容をまとめる(90分)。	理解が不足している学習内容をノートにまとめる(90分)。
担当教員			

第10回	ICF(講義・GW) 内容:ICFモデルの目的、実践の意義 行動目標:ICFの概要が説明できる。 GW:ICFモデルの特徴を考える。	教科書②を熟読する(90分)。	課題①:配布された事例を熟読してICF整理シートを作成する(90分)。
担当教員			
第11回	ICF(GW) GW:事前課題を基にICF整理シートを作成する。 行動目標:ICF整理シートを完成することができる。 課題①:事前学習を講義開始時に提出する。GWで完成させたICF整理シートを提出する。	課題①:配布された事例を熟読してICF整理シートを作成する(90分)。	教科書③を熟読する(90分)。
担当教員			
第12回	生活行動モデル(講義・GW) 内容:生活行動モデルの概要 行動目標:生活行動モデルの特徴を説明できる。 GW:生活行動モデルの特徴を考える。	教科書③iv～xiを熟読する(90分)。	課題②教科書③piv～vを800字以内でまとめる(90分)。
担当教員			

第13回	生活行動モデル(GW) GW:高齢者のもてる力を具体的に考える。 行動目標:高齢者の持てる力を具体的に説明することができる。 課題②提出	課題②教科書③piv～vを800字以内でまとめる(90分)。	高齢者のもてる力を再確認する(90分)。
担当教員			
第14回	思考過程(講義・GW) 内容:高齢者を支援する際の思考過程の特徴と実際 行動目標:高齢者を支援する際の臨床判断の特徴が説明できる。 GW:事前学習を基に、資料を完成させる。	事前配布資料を実施する(90分)。	事後学習資料を実施する(90分)。
担当教員			
第15回	全講義のふり返し 内容:講義で学習したすべての内容を振り返る。 行動目標:本講義の学習の振り返りができる。	本講義のプリントやノートを見直して整理する(90分)。	今までの学習成果をいつでも見返せるように整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト:7回×10点=70点 課題①:15点 課題②:15点 課題③:20点
その他	0	
教科書		
① 北川公子ほか/系統看護学講座老年看護学/医学書院 ② 上田敏ほか/ICFの理解と活用 /きょうされん ③ 山田律子ほか/生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図/医学書院		
参考文献		

必要時講義中に提示する。

履修条件・留意事項等

私語、必要時以外の携帯の使用を禁止する。
 学習は主体的に行う。
 提出物と小テストは定期試験と同等に扱う。
 欠席した場合は、必ず欠席届を提出する。
 遅刻早退する、もしくはした場合は、必ず、教員へ申し出る。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 老年看護学					
科目名		老年看護学の展開 I				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	初見 温子						
授業の位置づけ							
本科目は、看護学科のディプロマポリシー「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している(知識・技能)」と特に関係のある科目である。また、「看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探求能力・問題解決能力を有している(思考・判断・表現)」とも関係のある科目である。「看護過程論」で学んだ看護的思考や「老年看護学の基礎」で学んだ高齢者理解を基に、理論を用いて更に高齢者理解を深め、高齢者に対応した看護を実践する能力を養う「老年看護学の展開Ⅱ」「老年看護学実習」の基礎となる。							

1. 高齢者に特徴的な加齢に伴う症状や罹患しやすい病気と、生活を営むために必要な支援を説明できる(知識・技能)。
2. 高齢者理解に生活行動モデルの理論を適用することができる(思考・判断・表現)。
3. もてる力を活かした高齢者理解と支援について、グループワークに参加し、討議することができる(関心・意欲・態度)。

授業の方法

教科書と視聴覚教材、教員が作成したパワーポイント、ハンドアウト資料を用いた講義形式で授業をすすめる。
 毎回授業の最後にコメントシート(GoogleForms)で質問や意見を出し合い、次回の授業導入に使用する。
 グループワークとその成果の発表を行う(全12回)。
 理解度を確認するための確認テストを2回、思考を確認するための課題レポート提出を2回実施する。

ICT活用

授業中の教員の発問への回答にGoogle Formsを活用し、双方向授業を取り入れる。
 授業資料をGoogle Classroomにアップし、予習復習に活用できるようにする。
 課題の提示および提出にGoogle Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

心臓血管外科・循環器内科病棟で5年、訪問看護ステーションで5年、看護師としての実務経験を有する。急性期医療と生活の場、両方の高齢者看護経験を活かし、事例を基にした教材を多く取り入れ、老年看護のイメージ化を助けながら教授する。

課題に対するフィードバックの方法

確認テスト終了後、解答の解説を行う。
 確認テスト採点后、学生の傾向を分析し、苦手箇所や間違いやすい問題についてクラス全体に周知する。
 課題は必要時コメントを記載し返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス(講義) 内容:老年看護学における「老年看護学の展開Ⅰ」の位置づけとシラバスの確認。「老年看護学の基礎」で学習した内容を振り返り、本授業とつなげる。 行動目標:「老年看護学の基礎」で学んだ内容と本授業とのつながりが説明できる。本授業で自らが学習すべき内容と学習課題が説明できる。	シラバスを熟読する(30分)。 「老年看護学の基礎」の内容を復習する(60分)。	本日の講義の学びをまとめ行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第2回	高齢者の生活を整える看護1【睡眠・休息】(講義・GW) 内容:高齢者の睡眠・休息の特徴と情報収集の視点、睡眠障害の特徴と必要な支援 行動目標:高齢者の睡眠・休息に関連した特徴と、必要な支援について説明できる。 高齢者の生活を整える看護2【覚醒・活動】(講義) 内容:高齢者の覚醒・活動の特徴と情報収集の視点、活動に影響する機能障害の特徴と必要な支援(転倒予防の視点) 行動目標:高齢者の覚醒・活動の特徴と必要な支援を説明できる。転倒予防の支援について説明できる。	教科書2「睡眠・休息」「睡眠障害」「覚醒・活動」「転倒」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第3回	高齢者の生活を整える看護3【食事】(講義・GW) 内容:高齢者の食事の特徴と情報収集の視点、摂食嚥下障害や低栄養、脱水の特徴と必要な支援 行動目標:高齢者の食事に関連した特徴と、必要な支援を説明できる。	教科書2「食事」「摂食・嚥下障害」「低栄養」「脱水」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			

第4回	高齢者の生活を整える看護4【排泄】(講義・GW) 内容:高齢者の排泄の特徴と情報収集の視点、排泄障害の特徴と必要な支援 行動目標:高齢者の排泄に関連した特徴と、必要な支援を説明できる。	教科書2「排泄」「排泄機能障害」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第5回	高齢者の生活を整える看護5【身じたく】(講義・GW) 高齢者の身じたくの特徴と情報収集の視点、皮膚掻痒症や褥瘡への支援を含む必要な支援 行動目標:高齢者の身じたくに関連した特徴と、必要な支援を説明できる。	教科書2「身じたく」「老人性皮膚掻痒症」「褥瘡」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第6回	高齢者の生活を整える看護6【コミュニケーション】(講義) 内容:高齢者のコミュニケーションの特徴と情報収集の視点、感覚機能障害と言語障害の特徴と必要な支援 行動目標:高齢者のコミュニケーションに関連した特徴と、必要な支援について説明できる。 確認テスト①	教科書2「コミュニケーション」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			

第7回	加齢に伴う症状・機能障害別の看護1【高齢者に多く見られる症状】(講義・GW) 内容:確認テスト①の解説、高齢者に多く見られる痛み、しびれ、浮腫の症状の発生機序や特徴、看護 行動目標:高齢者の症状に関するデータを探索する方法を説明できる。高齢者に多く見られる症状の特徴と支援について説明できる。 加齢に伴う症状・機能障害の看護2【フレイル(サルコペニア・廃用性症候群)】(講義) 内容:フレイルとは、症状、看護 行動目標:フレイルとサルコペニア、廃用症候群について説明できる。必要な支援について説明できる。	教科書2「浮腫」「痛み・しびれ」「フレイル」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第8回	健康逸脱からの回復1【認知症①】(講義・GW) 内容:認知症の分類(病態・診断・症状・治療)と看護(PCC、ユマニチュード)、せん妄・抑うつの特徴と看護 行動目標:認知症の種類とその特徴、それぞれに対する看護について説明できる。認知症とせん妄、抑うつの違いについて説明できる。	教科書1・2「認知症」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第9回	健康逸脱からの回復2【認知症②】(GW) 内容:「認知症当事者の語り(Dipex Japan)」を視聴し、グループワークを実施、発表する。 行動目標:認知症の人の症状の実際と気持ちについて、豊かな人間性を備えた視点で考えることができる。学びを共有し、自らの考えを広げることができる。	第8回の講義内容を復習し、認知症に関する知識を確認する(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			

第10回	健康逸脱からの回復3【認知症③】(講義) 内容: ゲストスピーカー(認知症初期集中支援チーム)から認知症の方に対する支援について講義を受ける。(オレンジカード) 行動目標: 認知症の人に対して望ましい支援のあり方を、多職種連携の視点もふまえ、行動レベルで説明することができる。 ゲストスピーカーに社会性を備えた態度で対応することができる。 課題①レポート「認知症の人の看護」	教科書1・2「認知症」を再度熟読し、支援の方法の疑問点を明らかにする(60分)。	第8回、第9回、第10回の講義、グループワークの内容をふまえて、自身の考える認知症の人の看護についてまとめる。課題①のレポートを作成し提出する(120分)。
担当教員			
第11回	健康逸脱からの回復4【パーキンソン病】【骨折】【誤嚥性肺炎】(講義・GW) 内容: パーキンソン病、骨粗鬆症・骨折、誤嚥性肺炎の病態・症状・治療と看護 行動目標: 高齢者の疾患に関するデータを探索する方法を説明できる。各疾患の特徴を述べ、多職種連携の視点を含めた看護の方向性を説明できる。	教科書2「パーキンソン病・パーキンソン症候群」「大腿骨近位部骨折」「肺炎(誤嚥性肺炎)」、教科書1「骨折」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第12回	健康逸脱からの回復5【治療を必要とする高齢者の看護と退院支援】(講義・GW) 内容: 高齢者がうけることの多い検査、治療(薬物・手術などの入院治療を含む)を受ける高齢者の特徴と看護、退院調整・地域での生活を継続するための支援 行動目標: 高齢者の検査、治療上の特徴を述べ、多職種連携の視点を含めた看護の方向性を説明できる。	教科書1p318-344を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			

第13回	終末期を支える看護(講義・個人ワーク) 内容:日本や諸外国のエンドオブライフケアの変遷と特徴、人生の最終段階における意思決定支援や看取り支援、行動目標:エンドオブライフケア、意思決定や看取り支援について説明することができる。自らの死生観について考えることができる。 確認テスト②実施	教科書1「エンドオブライフケア」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第14回	老年看護学における看護過程の活用(講義・GW) 内容:思考過程のプロセス、老年看護学における看護過程活用の実際。課題②として情報整理演習を実施する。事例は、Excelで作成した模擬電子カルテ情報を用いて展開する *課題②で使用する模擬電子カルテ情報を配信し、課題の取り組み方について説明するため、学生は各自PCを持参すること。 行動目標:紙上事例での老年看護学の看護過程を展開するための準備ができる。 課題②で求められていることについて理解し、情報整理にとりかかることができる。	「老年看護学の基礎」の思考過程、生活行動モデルの部分について復習する(90分)。	各自で事例を熟読した上で情報整理を行い、課題②を作成、提出する(90分)。
担当教員			
第15回	生活行動モデルに基づく高齢者理解(GW) 内容:本授業の成果として、事例を基に生活行動モデルに沿った情報整理を実施する。 課題②:事前学習を講義開始時までにデータをclassroomに提出する。1部プリントアウトして持参し、GWによって得た気づきや視点を追加し、講義後に再度提出する。 行動目標:事前に各自で作成した情報シートを基にグループワークを実施し、高齢者理解の視点を広げることができる。 。まとめ(講義) 内容:本授業のまとめ 行動目標:授業全体を通して、修得すべきであった内容と自己の学習課題がわかる。	各自で事例を熟読した上で情報整理を行い、課題②を作成する(90分)。	本講義の資料を見直し、整理する。自己の学習課題をまとめる(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト 25点×2回 課題① 20点 課題② 30点
その他	0	
教科書		
1.北川公子ほか/老年看護学(医学書院) 2.山田律子ほか/生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図(医学書院)		
参考文献		

必要時講義中に提示する。

履修条件・留意事項等

授業中の私語の禁止。指定した時以外のスマートフォンの使用禁止。
やむを得ず欠席する場合には、欠席届を提出すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 老年看護学					
科目名		老年看護学の展開Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	辻 幸美、初見 温子						

授業の位置づけ

本科目は、看護学科のDP「看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探究能力・問題解決能力を有している(思考・判断・表現)」を達成するための老年看護領域に帰属する科目である。「老年看護学の基礎」と「老年看護学の展開Ⅰ」を基盤として具体的な支援を学び、「老年看護学実習」の履修に向けて、老年看護学を实践する方法論をシミュレーションする。

授業の概要

本科目は、老年看護の対象である高齢者の特徴をふまえ、生活機能からみた適切な看護展開ができるように学習する。学習内容は、事例に基づいた看護計画の立案と実施・評価である。この際、高齢者の健康障害や生活障害の多様性、個人差を的確にアセスメントし、個別的な支援が行えるように学習する。

到達目標

老年看護の対象である高齢者の特徴をふまえ、生活機能からみた適切な看護展開が実践できる。 目標： 1. 老化による身体症状や病気を持ちながらも高齢者自身が望む生活にできるだけ近づけられる看護計画が立案できる。 2. 事例の生活の一場面から支援を判断し、実践できる(シミュレーション)。 3. 実践した看護の評価ができる。

授業の方法

講義とカンファレンスや実技実践を含む演習を行う。講義ではパワーポイントと配布印刷物、既習の老年看護学領域のテキスト等を用いてすすめる。カンファレンスではグループディスカッションを行う。理解度を確認するために、課題を3回実施する。

ICT活用

Classroomの活用

実務経験のある教員の教育内容

脳神経外科系病院での22年間の勤務経験を活用して看護過程の展開を教授する。 様々な病期にある高齢者を看護してきた経験を活かし、教授する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題にはコメントし、返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 学習内容: 1.本科目の位置づけとシラバスを確認する。 2.老年看護学の哲学的基盤と目標志向型思考に基づいていることを学習する。 行動目標: 1.ガイダンス内容を理解し、自らが学習すべき内容と学習課題を明確にする。 2.老年看護学の目標志向型思考を説明できる。 紙上事例配布	老年看護学の基礎、老年看護学の展開Ⅰの講義資料を整理して復習する。(90分)	・シラバスに沿って自身の学習計画を立案する。 ・問題解決型思考と目標志向型思考の違いをまとめる。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第2回	高齢者を対象とした看護過程の展開方法 学習内容:老年看護学の哲学的基盤と目標志向型思考に基づいた看護過程の展開方法を学習する。 行動目標:アセスメントから全体像を描き看護計画立案・実施・評価までのプロセスが説明できる。	配布された事例を熟読し、情報を整理する。(90分)	配布された事例の情報の中で、看護に必要な情報を整理する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第3回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:紙上事例の看護計画立案に必要な情報とは 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な情報の取捨選択ができる。 ・看護に必要な情報を説明できる。	配布された事例の情報を整理し、カンファレンスのため自身の意見をまとめる。(90分)	他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第4回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<睡眠・休息と覚醒・活動> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の活動と休息の説明ができる。	講義内容と自己学習内容を踏まえて睡眠・休息と覚醒・活動について、自分の意見をまとめる。(90分)	他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第5回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<食事> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の食事と排泄の説明ができる。	講義内容と自己学習内容を踏まえて食事について、自分の意見をまとめる。(90分)	他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第6回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<排泄> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の食事と排泄の説明ができる。	講義内容と自己学習内容を踏まえて排泄について、自分の意見をまとめる。(90分)	他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第7回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の 対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<身じたく> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な 情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の身じたくとコミュニケーションの説明ができる。	講義内容と自己学習内容を踏まえて身じたくについて、自 分の意見をまとめる。(90分)	他者の意見を聞き、準備学習で 記載したアセスメントとの比較か ら見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の 対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<コミュニケーション> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な 情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の身じたくとコミュニケーションの説明ができる。 課題①は「紙上事例のアセスメント」で次の講義開始前 に提出	講義内容と自己学習内容を踏まえてコミュニケーションに ついて、自分の意見をまとめる。 (90分)	他者の意見を聞き、準備学習で 記載したアセスメントとの比較か ら見直し、修正する。課題①「紙 上事例のアセスメント」作成(180 分)
担当教員	辻 幸美		
第9回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の 対象理解を深める。 テーマ:紙上事例の病態・生活機能関連図(全体像) 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、全体像を描く ことができる。 ・全体像を説明できる。 課題①提出(手元に自分の分をコピーしておく)	配布された事例の全体像を記 載し、カンファレンスのため自身 の意見をまとめる。(90分)	準備学習で記載した全体像を 見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第10回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:紙上事例の看護計画実施に必要な行動計画の目標と援助内容とは 行動目標: ・支援に必要な項目の抽出ができ、行動計画を立案できる。	配布された事例の行動計画を記載し、カンファレンスのため自身の意見をまとめる。(90分)	準備学習で記載した看護の方向性と援助内容を見直し、行動計画を修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第11回	演習オリエンテーション 学習内容:演習のオリエンテーションを受ける。 行動目標: ・演習の流れが分かり、自身がどのように動いたら良いか説明できる。 課題②は「全体像と看護計画」次回の講義修了後に提出	今までの講義のまとめと課題②作成(180分)	演習ができるよう、イメージトレーニングをする。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第12回	各グループで看護計画の実施(実技演習:実習室) 学習内容:各自で立案した行動計画を基に場面に合った支援を実施する。 行動目標:患者に合った支援が提供できる。 課題②提出	立案した計画をシミュレーションする。(90分)	演習のイメージトレーニングをする。(90分)
担当教員	辻 幸美、初見 温子		

第13回	各グループで看護計画の実施(実技演習:実習室) 学習内容:各自で立案した行動計画を基に場面に合った支援を実施する。 行動目標:患者に合った支援が提供できる。	立案した計画をシミュレーションする。(90分)	今までの知識を確認する。 課題③を行う。(90分)
担当教員	辻 幸美、初見 温子		
第14回	看護計画の評価 学習内容:実施した支援により患者の反応を読み取り、看護計画の評価方法を学習する。 行動目標:実施した支援に対する患者の反応で評価することができる。	各自で実施した支援で患者がどのように反応したのかをまとめておく。(90分)	今までの知識を確認する。 課題③を行う。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第15回	本講義のまとめ 学習内容:老年看護学における看護過程の展開方法を確認する。 行動目標:今まで受けた講義の内容を確認し、各自で学習の振り返りができる。 課題③提出	今までの講義のまとめで不明な点を見出す。課題③作成(90分)	今までの講義をまとめ、振り返り実習の準備に活かす。(90分)
担当教員	辻 幸美		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題①40点(アセスメント) 課題②30点(全体像と看護計画) 課題③30点(行動計画と看護計画の評価)
その他	0	なし
教科書		
北川公子ほか/老年看護学(医学書院) 山田律子ほか/生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第4版(医学書院) 上田敏ほか/ICFの理解と活用(きょうされん)		
参考文献		

講義中に紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・講義中は教室内で学習してください。
- ・私語・スマホの使用は禁止です。
- ・時間厳守
- ・不正は認めません。提出物の類似、代筆など疑わしい場合は全て不正とみなします。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 小児看護学					
科目名		小児看護学の基礎				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐藤 洋子						

授業の位置づけ

本科目は看護学の理論や科学的根拠に基づき、ディプロマポリシー「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。」「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任感を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる」人材の育成に関係し、小児とその家族の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得するための科目として位置づけられる。「小児看護の展開Ⅰ」「小児看護の展開Ⅱ」「小児看護学実習」の基礎となる科目である。また、「看護病態治療学Ⅱ」と関連する科目である

授業の概要

小児の健康状態やその変化に応じた看護に必要な知識を習得するために、小児を取り巻く家族や社会の現状を理解しながら、発達段階別に形態的、機能的、心理的、社会的な成長と発達を学ぶ。さらに小児の基本的な人権と小児看護倫理から小児の利益にかなう看護とは何か、小児看護の理念と責務について共に考えていく。また、小児の発達に応じた日常生活の世話やQOL、子どもの健康の保持増進、疾病の予防から小児看護の役割・機能を学ぶ。

到達目標

1. 小児の成長・発達の特徴について説明できる。
2. 子どもの権利について説明ができ、権利を擁護する看護援助について説明できる。
3. 母子保健の動向と母子の健康を支える社会資源、制度について説明できる。
4. 発達段階によって生じやすい小児期特有の健康問題の特徴と必要な看護について説明できる。
5. 特別な状況にある小児や家族、社会の特徴を理解し、必要な看護について説明できる。
6. 成人移行期における治療継続や自分らしい生活実現のための看護を説明できる。
7. 小児と家族を対象とした小児看護の役割について説明できる。

授業の方法

授業方法はパワーポイント、視聴覚教材(DVD)を用いた講義形式とする。理解を深めるため確認試験を実施する。第15回では小児看護の専門性について、ゲストスピーカーによる小児看護専門看護師の実践について紹介する。

ICT活用

Google Classroomを活用して、レポート提出や準備学習・事後学習を行い、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

本講義は小児看護の豊富な実務経験がある教員が授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回の講義の質問アンケートなどへの回答、確認試験後のコメントを通じてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	コースガイダンス、シラバスに基づく科目の説明 小児看護の特徴と理念 1. 小児看護の対象 2. 小児看護の目標と役割 3. 子どもの健康	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト:第Ⅰ章 pp.3-8,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員			
第2回	小児と家族の諸統計 1. わが国の人口構造 2. 出生と家族 3. 子どもの死亡	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト:第Ⅱ章 pp.23-29,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員			
第3回	子どもと家族を取り巻く社会 1. 子どもの権利・こども基本法 2. 児童福祉法・児童虐待防止法 3. 母子保健法	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト:第Ⅰ章 pp.9-21,他、第 Ⅱ章 pp.30-40,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員			

第4回	小児看護に関する理論 1. アタッチメント理論、2. 認知発達理論 3. 自我発達理論、4. セルフケア理論 等	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト: 第Ⅲ章 pp.79-85,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員			
第5回	小児の成長と発達-1 1. 成長・発達の原則とその影響因子 2. 身体的な成長発達	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト: 第Ⅲ章 pp.65-85,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員			
第6回	小児の成長と発達-2 1. 心理的・社会的な成長発達 2. 成長発達の評価法	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト: 第Ⅲ章 pp.79-95,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員			

第7回	※確認試験1 前半のまとめ 小児の生活習慣の自立とその看護-1 1. 子どもの生活習慣と自立支援	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト: 第Ⅲ章 pp.65-143,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員			
第8回	小児の生活習慣の自立とその看護-2 1. 食行動の自立と支援 2. 排泄行動の自立と支援	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト: 第Ⅲ章 pp.65-143,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員			
第9回	小児の生活習慣の自立とその看護-3 1. 睡眠の発達と支援 2. 清潔行動の発達と支援	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト: 第Ⅲ章 pp.65-143,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員			

第10回	小児の生活習慣の自立とその看護-4 1. 思春期の特性と生活支援	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(60分間程度) テキスト: 第Ⅲ章 pp.144-157,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員			
第11回	子どものヘルスプロモーション	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト: 第Ⅱ章 pp.36-63,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員			
第12回	子どもの特性と事故 1. 子どもの病気への反応 2. 応急措置、救急蘇生法	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト: 第Ⅳ章 pp.226-280,他 、第Ⅹ章 pp.481-498,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員			

第13回	子どもと家族の健康問題に対する在宅での看護 (guest speaker) 1. 小児に対する外来看護・在宅看護 2. 障害を有する小児と家族に対する支援	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度) テキスト:第Ⅴ章 pp.195-223, テキストⅡ:第Ⅱ章 pp.15-21,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員			
第14回	※確認試験2 まとめ	これまでの講義内容について確認・学習する。	確認試験で理解が不足していた部分を振り返り、自己学習をする(90分)講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員			
第15回	小児看護領域の専門性と活動 (guest speaker) 1. 小児看護専門看護師の役割	小児看護領域の専門看護師・認定看護師に関して、webなどを利用して該当部分を予習する(90分間程度) 日本看護協会HP参照	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義内での確認試験2回(50点×2回)
その他	0	
教科書		
二宮啓子,今野美紀編集/看護学テキストNICE 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論・小児看護技術/ 南江堂/2022年		
参考文献		

参考文献等は講義内で提示する。

履修条件・留意事項等

講義中は能動的な学修姿勢で臨むこと。
他学生の学びを妨げる行為は慎むこと。
講義中の私語は厳禁。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 小児看護学					
科目名		小児看護学の展開Ⅰ(1組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	横山 佳世、菅原 美保						

授業の位置づけ

本科目は看護学科のディプロマポリシー「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している」と特に関係がある。また「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる」「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任感を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる」ことにも関係する科目である。

「小児看護学の基礎」「看護病態治療学Ⅱ」をふまえ「小児看護学の展開Ⅱ」へつなぐ科目として位置づけられる。

授業の概要

子どもの健康状態やその変化に応じた看護に必要な知識を習得するために、子どもと家族に起こりやすい状況と、様々な状況における子どもと家族の生活について学び、健康問題・入院が子どもと家族に与える影響を理解する。さらに子どもによくみられる症状、および急性・慢性的経過をたどる子どもと家族の看護について学ぶ。

到達目標

1. 子どもの発達段階の特徴、および小児看護のケア理念について学び、健康問題をもつ子どもと家族に対する看護援助の基本について考察し、説明できる 2. 子どもによくみられる症状の機序を理解した上で、必要な看護援助について説明できる 3. 小児看護における基本的な援助技術の特徴を理解し、演習を通して実践できる

授業の方法

健康問題をもつ子どもと家族に対する看護援助についてははパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材などを用いて説明する。演習は課題と動画教材により基本的な小児看護援助技術を習得する。ブレパレーション演習ではシミュレーション学習を通して体験的に学修する。

ICT活用

双方型授業 (Google formを利用したクイズ、レスポンスカード)
 自主学習支援 (e-ラーニング「ナーシング・スキル」の活用、Google classroomを利用したレポート・課題提出、資料提供、予習課題の提示)

実務経験のある教員の教育内容

NICUや小児病棟、外来で看護師として勤務した経験のある教員が指導を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見には、講義内で回答する。予習・復習に必要な資料などは適宜Google Classroomにアップロードする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイドンス(横山) 小児看護の基本的な症状と行動(横山) 1. 子どもによくみられる症状・行動と看護(不機嫌、啼泣、痛み) * 演習(身体計測・抱っこ)のオリエンテーション * 演習課題①提示	教科書(小児看護学Ⅰ)p226-241を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第2回	小児看護の基本的な援助技術演習 1. 身体計測 2. 抱っこ 3. 清潔ケア * 演習課題①の解説	小児看護学の基礎の復習(発達評価)を行うこと。 教科書(小児看護学Ⅰ)身体計測p314-328、抱っこ・移動p470-471、清潔ケアp442-454、ナースング・スキルで事前に該当部分を予習する(90分程度)	演習内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。演習後レポートに取り組むこと(90分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第3回	急性期にある子どもと家族の看護ー1(菅原) 1. 急性期の特徴 2. 子どもと家族の看護 3. 疾患をもった子どもの看護(気管支喘息) 4. 子どもによくみられる症状・行動と看護(発熱、呼吸困難)	教科書(小児看護学Ⅰ)発熱p237-241、呼吸困難p267-272、(小児看護学Ⅱ)気管支喘息のある子どもと家族の看護p258-272で事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第4回	急性期にある子どもと家族の看護ー2(横山) 1. 急性期の特徴 2. 子どもと家族の看護 3. 疾患をもった子どもの看護(急性胃腸炎) 4. 子どもによくみられる症状・行動と看護(脱水、嘔吐、下痢)	教科書(小児看護学Ⅰ)脱水・嘔吐・下痢p242-259、(小児看護学Ⅱ)急性胃腸炎にかかっている子どもと家族の看護p217-225で事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第5回	周手術期にある子どもと家族の看護(横山) 1. 周手術期の特徴 2. 子どもと家族の看護 3. 疾患をもった子どもの看護(扁桃肥大) *確認テスト①	教科書(小児看護学Ⅱ)手術を受ける子どもと家族の看護p48-55、扁桃肥大のある子どもと家族の看護p349-359で事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第6回	慢性期にある子どもと家族の看護-1(横山) 1. 慢性期の特徴 2. 子どもと家族の看護 3. 疾患をもった子どもの看護(ネフローゼ症候群)	教科書(小児看護学Ⅱ)成人期に移行する慢性疾患をもつ子どもと家族の看護p96-101、ネフローゼ症候群のある子どもと家族の看護p273-282で事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第7回	慢性期にある子どもと家族の看護-2(横山) 1. 疾患をもった子どもの看護(Ⅰ型糖尿病) 2. 疾患をもった子どもの看護(ファロー四徴症)	教科書(小児看護学Ⅱ)1型糖尿病のある子どもと家族の看護p426-437、先天性心疾患のある子どもと家族の看護p133-146で事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第8回	児童虐待・災害を受けた子どもと家族の看護(横山) 1. 子どもの虐待とは 2. 子どもと親に求められるケア 3. 災害時の子どもと家族の看護 * 演習課題②提示 * 確認テスト②	教科書(小児看護学Ⅰ)児童虐待・災害を受けた子どもと家族への支援p211-224、(小児看護学Ⅱ)虐待を受けた子どもと家族の看護p339-348で事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第9回	神経発達症群の子どもと家族の看護(特別講師:外部講師) 1. 発達障害の子どもと家族の体験 2. 発達障害の子どもと家族への医療と看護	教科書(小児看護学Ⅰ)発達障害・心の問題を抱える子どもと家族への支援p201-210、(小児看護学Ⅱ)発達障害のある子どもと家族の看護p393-403で事前に該当部分を予習する(60分程度)	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第10回	検査・処置を受ける子どもの看護-1(菅原) 1. 子どもにとっての検査・処置体験 2. プレパレーション	教科書(小児看護学Ⅰ)プレパレーションp329-340、(小児看護学Ⅱ)検査・処置を受ける子どもと家族の看護p22-21で事前に該当部分を予習する(60分程度)	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第11回	検査・処置を受ける子どもの看護-2(菅原) 1. 子どもにとっての検査・処置体験 2. 演習事例紹介 3. グループワーク	教科書(小児看護学Ⅰ)プレパレーションp329-340、(小児看護学Ⅱ)検査・処置を受ける子どもと家族の看護p22-21で事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度) グループワークのまとめをGoogle formで提出する
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第12回	検査・処置を受ける子どもの看護【演習】 1. 事例に基づくプレパレーションの計画	教科書、ナーシング・スキルなどで、事前に該当部分を予習する(12回・13回と合わせて120分程度)	演習内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。演習後レポートに取り組むこと(12回・13回と合わせて90分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第13回	検査・処置を受ける子どもの看護【演習】 1. 事例に基づくプレパレーションの実施と評価	教科書、ナースィング・スキルなどで、事前に該当部分を予習する(12回・13回と合わせて120分程度)	演習内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。演習後レポートに取り組むこと(12回・13回と合わせて90分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第14回	子どもと家族へのエンド・オブ・ライフケア(横山) 1. 終末期の特徴 2. 子どもと家族の看護	教科書(小児看護学Ⅱ)終末期にある子どもと家族の看護p102-108で事前に該当部分を予習する(60分程度)	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第15回	小児看護学の展開Ⅰのまとめと解説 ＊確認テスト③	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト3回(55%) 演習課題①、演習課題②(20%) 演習および演習後レポート(25%) 評価対象物に不正行為が認められた場合は単位習得を認めない。また、提出期限後の課題提出は減点となり、期限1週間を過ぎた場合は得点を認めない。
その他	0	
教科書		
看護学テキストNiCE 小児看護学Ⅰ改訂第4版/今野美紀,二宮啓子/ 南江堂 看護学テキストNiCE 小児看護学Ⅱ改訂第4版/今野美紀,二宮啓子/ 南江堂 ナースিং グラフィカ小児看護学(3)小児の疾患と看護第3版/中村友彦他編/メディカ出版 小児看護技術アドバンス新訂第2版/山元恵子監修/インターメディカ		
参考文献		

病気がみえる vol.15 小児科/医療情報科学研究所編/ メディックメディア
他、講義内で提示する。

履修条件・留意事項等

講義中は能動的な学修姿勢で臨むこと。他学生の学びを妨げる行為は慎むこと。
講義中の私語は厳禁である。
講義および演習の日程については変則的となるため、必ずGoogle classroomを確認すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 小児看護学					
科目名		小児看護学の展開 I (2組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	横山 佳世、菅原 美保						
授業の位置づけ							
本科目は看護学科のディプロマポリシー「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している」と特に関係がある。また「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる」「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任感を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる」ことにも関係する科目である。 「小児看護学の基礎」「看護病態治療学Ⅱ」をふまえ「小児看護学の展開Ⅱ」へつなぐ科目として位置づけられる。							
授業の概要							
子どもの健康状態やその変化に応じた看護に必要な知識を習得するために、子どもと家族に起こりやすい状況と、様々な状況における子どもと家族の生活について学び、健康問題・入院が子どもと家族に与える影響を理解する。さらに子どもによくみられる症状、および急性・慢性的経過をたどる子どもと家族の看護について学ぶ。							
到達目標							

1. 子どもの発達段階の特徴、および小児看護のケア理念について学び、健康問題をもつ子どもと家族に対する看護援助の基本について考察し、説明できる 2. 子どもによくみられる症状の機序を理解した上で、必要な看護援助について説明できる 3. 小児看護における基本的な援助技術の特徴を理解し、演習を通して実践できる

授業の方法

健康問題をもつ子どもと家族に対する看護援助についてははパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材などを用いて説明する。演習は課題と動画教材により基本的な小児看護援助技術を習得する。プレパレーション演習ではシミュレーション学習を通して体験的に学修する

ICT活用

双方型授業 (Google formを利用したクイズ、レスポンスカード)
 自主学習支援 (e-ラーニング「ナースিং・スキル」の活用、Google classroomを利用したレポート・課題提出、資料提供、予習課題の提示)

実務経験のある教員の教育内容

NICUや小児病棟、外来で看護師として勤務した経験のある教員が指導を担当する

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見には、講義内で回答する。予習・復習に必要な資料などは適宜Google Classroomにアップロードする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス(横山) 小児看護の基本的な症状と行動(横山) 1. 子どもによくみられる症状・行動と看護(不機嫌、啼泣、痛み) * 演習(身体計測・抱っこ)のオリエンテーション * 演習課題①提示	教科書(小児看護学Ⅰ)p226-241を予習する(60分程度)	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第2回	小児看護の基本的な援助技術演習 1. 身体計測 2. 抱っこ 3. 清潔ケア * 演習課題①の解説	小児看護学の基礎の復習(発達評価)を行うこと。 教科書(小児看護学Ⅰ)身体計測p314-328、抱っこ・移動p470-471、清潔ケアp442-454、ナースング・スキルで事前に該当部分を予習する(90分程度)	演習内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。演習後レポートに取り組むこと(90分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第3回	急性期にある子どもと家族の看護ー1(菅原) 1. 急性期の特徴 2. 子どもと家族の看護 3. 疾患をもった子どもの看護(気管支喘息) 4. 子どもによくみられる症状・行動と看護(発熱、呼吸困難)	教科書(小児看護学Ⅰ)発熱p237-241、呼吸困難p267-272、(小児看護学Ⅱ)気管支喘息のある子どもと家族の看護p258-272で事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第4回	急性期にある子どもと家族の看護ー2(横山) 1. 急性期の特徴 2. 子どもと家族の看護 3. 疾患をもった子どもの看護(急性胃腸炎) 4. 子どもによくみられる症状・行動と看護(脱水、嘔吐、下痢)	教科書(小児看護学Ⅰ)脱水・嘔吐・下痢p242-259、(小児看護学Ⅱ)急性胃腸炎にかかっている子どもと家族の看護p217-225で事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第5回	周手術期にある子どもと家族の看護(横山) 1. 周手術期の特徴 2. 子どもと家族の看護 3. 疾患をもった子どもの看護(扁桃肥大) ＊確認テスト①	教科書(小児看護学Ⅱ)手術を受ける子どもと家族の看護p48-55、扁桃肥大のある子どもと家族の看護p349-359で事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第6回	慢性期にある子どもと家族の看護-1(横山) 1. 慢性期の特徴 2. 子どもと家族の看護 3. 疾患をもった子どもの看護(ネフローゼ症候群)	教科書(小児看護学Ⅱ)成人期に移行する慢性疾患をもつ子どもと家族の看護p96-101、ネフローゼ症候群のある子どもと家族の看護p273-282で事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第7回	慢性期にある子どもと家族の看護-2(横山) 1. 疾患をもった子どもの看護(Ⅰ型糖尿病) 2. 疾患をもった子どもの看護(ファロー四徴症)	教科書(小児看護学Ⅱ)1型糖尿病のある子どもと家族の看護p426-437、先天性心疾患のある子どもと家族の看護p133-146で事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第8回	児童虐待・災害を受けた子どもと家族の看護(横山) 1. 子どもの虐待とは 2. 子どもと親に求められるケア 3. 災害時の子どもと家族の看護 * 演習課題②提示 * 確認テスト②	教科書(小児看護学Ⅰ)児童虐待・災害を受けた子どもと家族への支援p211-224、(小児看護学Ⅱ)虐待を受けた子どもと家族の看護p339-348で事前に該当部分を予習する(60分程度)	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第9回	神経発達症群の子どもと家族の看護(特別講師:外部講師) 1. 発達障害の子どもと家族の体験 2. 発達障害の子どもと家族への医療と看護	教科書(小児看護学Ⅰ)発達障害・心の問題を抱える子どもと家族への支援p201-210、(小児看護学Ⅱ)発達障害のある子どもと家族の看護p393-403で事前に該当部分を予習する(60分程度)	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第10回	検査・処置を受ける子どもの看護-1(菅原) 1. 子どもにとっての検査・処置体験 2. プレパレーション	教科書(小児看護学Ⅰ)プレパレーションp329-340、(小児看護学Ⅱ)検査・処置を受ける子どもと家族の看護p22-21で事前に該当部分を予習する(60分程度)	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第11回	検査・処置を受ける子どもの看護-2(菅原) 1. 子どもにとっての検査・処置体験 2. 演習事例紹介 3. グループワーク	教科書(小児看護学Ⅰ)プレパレーションp329-340、(小児看護学Ⅱ)検査・処置を受ける子どもと家族の看護p22-21で事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度) グループワークのまとめをGoogle formで提出する
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第12回	検査・処置を受ける子どもの看護【演習】 1. 事例に基づくプレパレーションの計画	教科書、ナースング・スキルなどで、事前に該当部分を予習する(12回・13回と合わせて120分程度)	演習内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。演習後レポートに取り組むこと(12回・13回と合わせて90分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第13回	検査・処置を受ける子どもの看護【演習】 1. 事例に基づくプレパレーションの実施と評価	教科書、ナースィング・スキルなどで、事前に該当部分を予習する(12回・13回と合わせて120分程度)	演習内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。演習後レポートに取り組むこと(12回・13回と合わせて90分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第14回	子どもと家族へのエンド・オブ・ライフケア(横山) 1. 終末期の特徴 2. 子どもと家族の看護	教科書(小児看護学Ⅱ)終末期にある子どもと家族の看護p102-108で事前に該当部分を予習する(60分程度)	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第15回	小児看護学の展開Ⅰのまとめと解説 ＊確認テスト③	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト3回(55%) 演習課題①、演習課題②(20%) 演習および演習後レポート(25%) 評価対象物に不正行為が認められた場合は単位習得を認めない。また、提出期限後の課題提出は減点となり、期限1週間を過ぎた場合は得点を認めない。
その他	0	
教科書		
看護学テキストNiCE 小児看護学Ⅰ改訂第4版/今野美紀,二宮啓子/ 南江堂 看護学テキストNiCE 小児看護学Ⅱ改訂第4版/今野美紀,二宮啓子/ 南江堂 ナースングラフィカ小児看護学(3)小児の疾患と看護第3版/中村友彦他編/メディカ出版 小児看護技術アドバンス新訂第2版/山元恵子監修/インターメディカ		
参考文献		

病気がみえる vol.15 小児科/医療情報科学研究所編/ メディックメディア
他、講義内で提示する。

履修条件・留意事項等

講義中は能動的な学修姿勢で臨むこと。他学生の学びを妨げる行為は慎むこと。
講義中の私語は厳禁である。
講義および演習の日程については変則的となるため、必ずGoogle classroomを確認すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 小児看護学					
科目名		小児看護学の展開Ⅱ(1組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世						

授業の位置づけ

本科目は看護学科のディプロマポリシー「看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探求能力・問題解決能力を有している」と特に関係し、「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している」「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができ」と関係する。看護学の理論や科学的根拠に基づき、子どもと家族の健康課題を解決するための柔軟な思考力と判断力を養い、また援助を実践することで、主体的に学修を継続し、自己成長につなげる意欲を養うための科目として位置づけられる。「小児看護学の基礎」「看護病態治療学Ⅱ」「小児看護学の展開Ⅰ」と連続性があり「小児看護学実習」につながる科目である。

授業の概要

小児看護における基本的なコミュニケーションや診療に伴う援助技術を学ぶ。さらに子どもと家族を対象とした看護過程の展開に必要な基本的な能力を養うため、紙上事例を用い、小児の健康問題・障害により生じる影響をふまえながら、小児と家族に対する看護過程の展開を、発達段階、病時期別に学修する。

到達目標

1. 子どもの成長発達段階の特徴を考慮した子どもに特有な小児看護技術の原理・原則と根拠を説明でき、実施できる
2. 事例に対して子どもの成長・発達と健康上の問題を統合し、看護過程の展開ができる
3. 子どもの発達段階や個別性に適した方法で、演習を通して看護援助を实践できる

授業の方法

看護過程の展開・技術演習の要点については、パワーポイントと配布印刷物、DVD教材を用いて説明する。
フィジカルアセスメント演習を通して、発達段階の特徴を考慮した小児看護技術とアセスメント方法について体験的に学ぶ。
紙上事例に対してグループワークでの学びと自己学習により、小児看護の特徴に応じた看護過程を各自で展開する。

ICT活用

自主学習支援(eラーニング「ナースング・スキル」の活用、Google classroomを利用したレポート・課題提出、資料提供、予習課題の提示)

実務経験のある教員の教育内容

NICUや小児病棟、外来で看護師として勤務した経験のある教員が指導を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については、講義の中で解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス(横山) 演習課題①(フィジカルアセスメント)提示 小児看護に必要な看護技術-1 1. 小児のフィジカルアセスメント	教科書(小児看護学Ⅰ)小児看護技術のコミュニケーション・健康歴の聴取・全身状態の把握・バイタルサイン・プレパレーションp283-340を予習する(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分) ※演習課題①(フィジカルアセスメント)に取り組む
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第2回	小児看護に必要な看護技術-2(横山) 1. フィジカルアセスメント演習課題解説 2. 演習オリエンテーション	第1回の講義内容の復習、および教科書(小児看護学Ⅰ)小児看護技術のコミュニケーション・健康歴の聴取・全身状態の把握・バイタルサイン・プレパレーションp283-340、ナースングスキルで事前に該当部分を予復習する(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習する。演習課題の回答内容を確認し、修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第3回	小児看護に必要な看護技術-3 川崎病のフィジカルアセスメント 1. バイタルサイン測定(体温、心拍、呼吸) 2. 川崎病主症状の観察 【第3回、第4回は同日に2講続けて行う】	第1・2回の講義・演習内容の復習を行う(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第4回	小児看護に必要な看護技術-4 川崎病のフィジカルアセスメント 1. バイタルサイン測定(体温、心拍、呼吸) 2. 川崎病主症状の観察 【第3回、第4回は同日に2講続けて行う】	第1・2回の講義・演習内容の復習を行う(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする。演習後リフレクションシートに学びをまとめる(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第5回	事例に基づく看護過程の展開-1(横山) 1. 小児の看護過程の特徴 2. 川崎病:病態理解	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開Ⅰ(川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194で事前に該当部分を予習すること(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第6回	事例に基づく看護過程の展開-2(菅原) 1. 川崎病の事例紹介 DVD視聴 2. 情報の整理	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開Ⅰ(川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194、教科書(小児看護過程)第1～2章p1-37で事前に該当部分を予習する(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第7回	事例に基づく看護過程の展開-3(横山) 1. 川崎病:急性期解説 確認テスト①	教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194で事前に該当部分を予習すること(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第8回	小児看護過程の特徴(回復期) 川崎病:回復期 DVD視聴 看護過程演習課題提示	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開Ⅰ(川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194で事前に該当部分を予習すること(60分)	事例のアセスメントの情報整理、アセスメント、看護問題の抽出を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第9回	事例に基づく看護過程の展開-5 1. 第8回で紹介した事例を基に、グループワークを実施し、看護計画や看護問題の焦点化を学習する	事例のアセスメントの情報整理、アセスメント、看護問題の抽出、看護問題の焦点化を行う(90分)	情報整理、アセスメント、看護問題の抽出、看護問題の修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第10回	事例に基づく看護過程の展開-6(菅原) 1. 川崎病看護過程解説 2. 看護計画の実施と評価	事例の看護過程を完成させる (90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする。提出した看護過程課題を修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第11回	事例に基づく看護援助の展開-1(菅原) 1. 演習オリエンテーション 2. 事例紹介 3. 看護計画の立案 確認テスト②	小児看護学の展開Ⅰ(プレパレーション演習)の復習を行う。教科書などで事前に該当部分を予習する(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする。演習に向けて小児看護技術の復習および自己練習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第12回	事例に基づく看護援助の展開-2 1. グループワーク内容のシミュレーション演習 【第12回、第13回は同日に2講続けて行う】	小児看護学の展開Ⅰ、展開Ⅱで使用した講義資料・演習課題・教科書などで事前に該当部分を予習する(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第13回	事例に基づく看護援助の展開-3 1. グループワーク内容のシミュレーション演習 【第12回、第13回は同日に2講続けて行う】	小児看護学の展開Ⅰ、展開Ⅱ で使用した講義資料・演習課題 ・教科書などで事前に該当部分 を予習する(90分)	小児看護学の展開Ⅰ、展開Ⅱ で使用した講義資料・演習課題 ・教科書などで事前に該当部分 を予習する(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第14回	事例に基づく看護援助の展開-4、事例に基づく看護過程 の展開-7(菅原) 1. 看護計画の実施と評価の視点	小児看護学の展開Ⅰ、展開Ⅱ で使用した講義資料・演習課題 ・教科書などで事前に該当部分 を予習する(90分)	演習内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする。提出した 演習後課題の修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第15回	講義内容に関する確認(横山) 1. 小児看護学の展開Ⅱのまとめ、解説 確認テスト③	これまでの講義・演習内容の復 習を行う(90分)	確認テストで理解不足を振り返り 、自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト① 5% 確認テスト② 5% フィジカルアセスメント演習課題 10% フィジカルアセスメント演習 5% 看護過程① 5% 看護過程② 15% シミュレーション演習 5% シミュレーションレポート 10% 確認テスト③ 40% 評価対象物に不正行為が認められた場合は単位習得を認めない。また、提出期限後の課題提出は減点となり、期限1週間を過ぎた場合は得点を認めない。
その他	0	
教科書		
看護学テキストNiCE 小児看護学Ⅰ,Ⅱ改訂第4版/二宮啓子,今野美紀/ 南江堂 発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程第2版/荃津智子編/医歯薬出版 写真でわかる小児看護技術アドバンス新訂第2版/山元恵子監修/インターメディカ		
参考文献		

発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図第4版／浅野みどり他／医学書院
他は講義内で提示する。

履修条件・留意事項等

講義中は他学生の学びを妨げるような行為は慎むこと。
評価対象物に不正行為が認められた場合はD判定となる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 小児看護学					
科目名		小児看護学の展開Ⅱ(2組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世						
授業の位置づけ							
本科目は看護学科のディプロマポリシー「看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探求能力・問題解決能力を有している」と特に関係し、「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している」「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができ」と関係する。看護学の理論や科学的根拠に基づき、子どもと家族の健康課題を解決するための柔軟な思考力と判断力を養い、また援助を実践することで、主体的に学修を継続し、自己成長につなげる意欲を養うための科目として位置づけられる。「小児看護学の基礎」「看護病態治療学Ⅱ」「小児看護学の展開Ⅰ」と連続性があり「小児看護学実習」につながる科目である。							
授業の概要							
小児看護における基本的なコミュニケーションや診療に伴う援助技術を学ぶ。さらに子どもと家族を対象とした看護過程の展開に必要な基本的な能力を養うため、紙上事例を用い、小児の健康問題・障害により生じる影響をふまえながら、小児と家族に対する看護過程の展開を、発達段階、病時期別に学修する。							
到達目標							

1. 子どもの成長発達段階の特徴を考慮した子どもに特有な小児看護技術の原理・原則と根拠を説明でき、実施できる
2. 事例に対して子どもの成長・発達と健康上の問題を統合し、看護過程の展開ができる
3. 子どもの発達段階や個別性に適した方法で、演習を通して看護援助を実践できる

授業の方法

看護過程の展開・技術演習の要点については、パワーポイントと配布印刷物、DVD教材を用いて説明する。
フィジカルアセスメント演習を通して、発達段階の特徴を考慮した小児看護技術とアセスメント方法について体験的に学ぶ。
紙上事例に対してグループワークでの学びと自己学習により、小児看護の特徴に応じた看護過程を各自で展開する。

ICT活用

自主学習支援(e-ラーニング「ナースিং・スキル」の活用、Google classroomを利用したレポート・課題提出、資料提供、予習課題の提示)

実務経験のある教員の教育内容

NICUや小児病棟、外来で看護師として勤務した経験のある教員が指導を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については、講義の中で解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス(横山) 演習課題①(フィジカルアセスメント)提示 小児看護に必要な看護技術-1 1. 小児のフィジカルアセスメント	教科書(小児看護学Ⅰ)小児看護技術のコミュニケーション・健康歴の聴取・全身状態の把握・バイタルサイン・プレパレーションp283-340を予習する(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分) ※演習課題①(フィジカルアセスメント)に取り組む
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第2回	小児看護に必要な看護技術-2(横山) 1. フィジカルアセスメント演習課題解説 2. 演習オリエンテーション	第1回の講義内容の復習、および教科書(小児看護学Ⅰ)小児看護技術のコミュニケーション・健康歴の聴取・全身状態の把握・バイタルサイン・プレパレーションp283-340、ナースングスキルで事前に該当部分を予復習する(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習する。演習課題の回答内容を確認し、修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第3回	小児看護に必要な看護技術-3 川崎病のフィジカルアセスメント 1. バイタルサイン測定(体温、心拍、呼吸) 2. 川崎病主症状の観察 【第3回、第4回は同日に2講続けて行う】	第1・2回の講義・演習内容の復習を行う(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第4回	小児看護に必要な看護技術-4 川崎病のフィジカルアセスメント 1. バイタルサイン測定(体温、心拍、呼吸) 2. 川崎病主症状の観察 【第3回、第4回は同日に2講続けて行う】	第1・2回の講義・演習内容の復習を行う(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする。演習後リフレクションシートに学びをまとめる(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第5回	事例に基づく看護過程の展開-1(横山) 1. 小児の看護過程の特徴 2. 川崎病:病態理解	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開Ⅰ(川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194で事前に該当部分を予習すること(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第6回	事例に基づく看護過程の展開-2(菅原) 1. 川崎病の事例紹介 DVD視聴 2. 情報の整理	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開Ⅰ(川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194、教科書(小児看護過程)第1～2章p1-37で事前に該当部分を予習する(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第7回	事例に基づく看護過程の展開-3(横山) 1. 川崎病:急性期解説 確認テスト①	教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194で事前に該当部分を予習すること(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第8回	事例に基づく看護過程の展開-4(菅原・横山) 小児看護過程の特徴(回復期) 川崎病:回復期 DVD視聴 看護過程演習課題提示	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開Ⅰ(川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194で事前に該当部分を予習すること(60分)	事例のアセスメントの情報整理、アセスメント、看護問題の抽出を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第9回	事例に基づく看護過程の展開-5 1. 第8回で紹介した事例を基に、グループワークを実施し、看護計画や看護問題の焦点化を学習する	事例のアセスメントの情報整理、アセスメント、看護問題の抽出、看護問題の焦点化を行う(90分)	情報整理、アセスメント、看護問題の抽出、看護問題の修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第10回	事例に基づく看護過程の展開-6(菅原) 1. 川崎病看護過程解説 2. 看護計画の実施と評価	事例の看護過程を完成させる (90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする。提出した看護過程課題を修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第11回	事例に基づく看護援助の展開-1(菅原) 1. 演習オリエンテーション 2. 事例紹介 3. 看護計画の立案 確認テスト②	小児看護学の展開Ⅰ(プレパレーション演習)の復習を行う。教科書などで事前に該当部分を予習する(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする。演習に向けて小児看護技術の復習および自己練習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第12回	事例に基づく看護援助の展開-2 1. グループワーク内容のシミュレーション演習 【第12回、第13回は同日に2講続けて行う】	小児看護学の展開Ⅰ、展開Ⅱで使用した講義資料・演習課題・教科書などで事前に該当部分を予習する(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第13回	事例に基づく看護援助の展開-3 1. グループワーク内容のシミュレーション演習 【第12回、第13回は同日に2講続けて行う】	小児看護学の展開Ⅰ、展開Ⅱ で使用した講義資料・演習課題 ・教科書などで事前に該当部分 を予習する(90分)	演習内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする。演習後レ ポートに取り組む(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第14回	事例に基づく看護援助の展開-4、事例に基づく看護過程 の展開-7(菅原) 1. 看護計画の実施と評価の視点	小児看護学の展開Ⅰ、展開Ⅱ で使用した講義資料・演習課題 ・教科書などで事前に該当部分 を予習する(90分)	演習内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする。提出した 演習後課題の修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第15回	講義内容に関する確認(横山) 1. 小児看護学の展開Ⅱのまとめ、解説 確認テスト③	これまでの講義・演習内容の復 習を行う(90分)	確認テストで理解不足を振り返り 、自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト① 5% 確認テスト② 5% フィジカルアセスメント演習課題 10% フィジカルアセスメント演習 5% 看護過程① 5% 看護過程② 15% シミュレーション演習 5% シミュレーションレポート 10% 確認テスト③ 40% 評価対象物に不正行為が認められた場合は単位習得を認めない。また、提出期限後の課題提出は減点となり、期限1週間を過ぎた場合は得点を認めない。
その他	0	
教科書		
看護学テキストNiCE 小児看護学Ⅰ,Ⅱ改訂第4版/二宮啓子,今野美紀/ 南江堂 発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程第2版/荃津智子編/医歯薬出版 写真でわかる小児看護技術アドバンス新訂第2版/山元恵子監修/インターメディカ		
参考文献		

発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図第4版／浅野みどり他／医学書院
他は講義内で提示する。

履修条件・留意事項等

講義中は他学生の学びを妨げるような行為は慎むこと。
評価対象物に不正行為が認められた場合はD判定となる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 母性看護学					
科目名		母性看護学の基礎				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小堀 ゆかり						
授業の位置づけ							
本学科のDP、「健康状態や その変化に応じた看護に必要となる科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している」に関連した母性看護学領域の科目である。 母性看護学の対象である「女性」を理解し、女性の周産期および各ライフサイクルにおける心身の変化、取り巻く社会・環境について学習する科目であり、「母性看護学の展開Ⅰ」「母性看護学の展開Ⅱ」「母性看護学実習」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
女性のライフサイクル全般を通して母性とは何かを理解し、個、家族、集団の視点から、その特徴を学ぶ。また、女性のライフステージ各期の身体的、心理社会的特徴と健康促進の支援から子孫創造への役割と母子保健統計や政策に関してマクロな視点から学習する。母性看護で活用されている理論や概念を中心に展開する。							
到達目標							

1. 母性看護の概念、母性看護の意義・役割がわかる。
2. 母性意識の発達過程、母親役割行動の取得過程がわかる。
3. 母性看護の変遷、統計、制度などから、母子保健をマクロ的な視点から捉えることができる。
4. 親子・家族関係の形成過程及び家族の役割についてわかる。
5. 女性のライフサイクル各期における健康状態の特徴と看護について説明できる。

授業の方法

パワーポイントとハンドアウトを用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テスト、およびミニレポートを作成してもらう。

ICT活用

講義資料の提示、課題の提出とフィードバックは、一部Google classroomを活用して行う。

実務経験のある教員の教育内容

助産師としての臨床経験、知識を活かし講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、レポートのコメントを講義内、若しくはGoogle classroomを活用して返します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 母性看護学の概念 ・母性とは ・母性看護学とは	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第2回	母性看護学の基盤となる理論と概念 ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ・セクシュアリティ ・アタッチメント	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第3回	根拠に基づく母性看護の実践 ・根拠に基づく実践とは ・エビデンスの必要性	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			

第4回	性をとりまく社会と現状 ・社会的・心理的特性からみた性 ・統計からみる性をとりまく社会の現状	教科書の該当箇所を目を通しておくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第5回	母子保健統計の理解 ・日本の人口、出生に関する概観 ・日本の母子保健水準と統計値 ・諸外国における母子保健統計と日本の比較 ・少子化の背景	教科書の該当箇所を目を通しておくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第6回	母子にかかわる法律 ・母子にかかわる法律 ・母子保健施策・事業 ・母子保健にかかわる課題と政策	教科書の該当箇所を目を通しておくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			

第7回	周産期医療体制 ・周産期医療体制の改善が必要となった背景 ・周産期医療体制 ・日本の周産期医療の課題	教科書の該当箇所を目を通しておくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第8回	性と生殖をめぐると倫理的課題 ・性と生殖をめぐると倫理的課題とは ・ARTをめぐると倫理的課題 ・専門職に求められる倫理性	教科書の該当箇所を目を通しておくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第9回	国際化のなかでの母性看護の役割 ・異なる文化的背景をもつ女性への看護 ・母子保健委における国際協力	教科書の該当箇所を目を通しておくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			

第10回	これまでの講義まとめ ・知識確認テスト	教科書の該当箇所を目を通しておくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第11回	女性のライフサイクルと健康支援 ・女性のライフサイクルの全体像 ・思春期の女性の特徴 ・思春期女性の健康問題と看護 ・レポート課題提示	教科書の該当箇所を目を通しておくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、理解を深めておくこと。講義内容を振り返り、提示された課題レポートを作成すること。(90分)
担当教員			
第12回	女性のライフサイクルと健康支援 ・成熟期女性の特徴 ・成熟期の女性の健康問題と看護	教科書の該当箇所を目を通しておくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			

第13回	女性のライフサイクルと健康支援 ・更年期の女性の特徴 ・更年期の女性の健康問題と看護	教科書の該当箇所に目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第14回	女性のライフサイクルと健康支援 ・老年期の女性の特徴 ・老年期の女性の健康問題	教科書の該当箇所に目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第15回	これまでの講義内容まとめ ・知識確認テスト	教科書の該当箇所に目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	2回の小テスト(90%)、レポート課題(10%)
その他	0	
教科書		
有森直子(編著):母性看護学Ⅰ 概論 第2版【電子版】医歯薬出版株式会社		
参考文献		

講義内で適宜提示する。

履修条件・留意事項等

レポート課題、小テストにより総合的に評価する。

備考欄

- ・講義開始前に必ず電子版テキストをダウンロードして講義に臨むこと。
- ・無断欠席は厳禁。事前に連絡すること。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 母性看護学					
科目名		母性看護学の展開 I				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江						

授業の位置づけ

本学科のDPである、「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」と関連した母性看護学領域の科目である。

授業の概要

妊娠期・分娩期・産褥期の経過と胎児・新生児期の生理的特性および看護について学ぶ。さらに、妊娠・出産と子育てをとりまく家族の変化と看護について理解する。また、周産期看護と周産期の異常を持つ妊産褥婦のケアについて学習する。

到達目標

1. 妊娠や育児を取り巻く現状について理解し、その看護について説明できる。
2. 妊婦および胎児の生理的变化と適応、および妊婦、家族の心理的变化について説明できる。
3. 妊婦の健康管理、セルフケアへの看護について説明できる。
4. 妊婦の基本的なヘルスアセスメントが実践できる。
5. 妊娠期の異常とその看護について説明できる。
6. 分娩期、産褥期、新生児期にある母子とその家族の看護援助を行うために必要な基本的知識を説明できる。
7. 分娩期、産褥期、新生児期にある母子とその家族の身体的・心理的・社会的特性を述べることができる。
8. 分娩期、産褥期、新生児期に必要な看護の特性と方法を述べることができる。
9. 分娩期、産褥期、新生児期における主な異常とその看護援助の要点を挙げるができる。

授業の方法

パワーポイントとハンドアウトを用いた講義形式ですすめる。
適宜、視聴覚メディア(オンライン資料、DVD、動画教材等)と教育教材などを活用する。
* 多賀: 毎回、講義のなかでミニッツペーパー(学びの振り返り、思ったこと、質問等を記述したもの)を使用し、理解度の確認等を行う。

ICT活用

- ・授業の参考動画や資料は、Google Classroomにアップし予習・復習に活用できるようにする。
- ・課題の提出とフィードバックは、Google Classroomを活用して行う。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当教員は全員助産師である。助産師として、産科や周産期母子医療センター、NICUなどに10年前後勤務した経験があり、臨床現場における周産期ケアと看護の実際について豊富な知識を有している。この臨床経験を活かし、周産期の母子とその家族の看護や子育て支援、周産期のグリーフケアについて具体的で実践的な内容を教授する。

課題に対するフィードバックの方法

講義内、およびGoogleClassroomにてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス マタニティサイクルとは 【周産期における看護】 ・周産期の特性と看護の対象者および看護の特性について学ぶ。また、周産期看護に携わる職種と連携について理解する。 ・妊婦の身体的・心理的・社会的特性と変化	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第2回	【妊婦と胎児のヘルスアセスメント】 妊娠の診断方法と分娩予定日の算出方法、妊婦健康診査の必要性と方法について学ぶ。 妊娠各期の妊婦と胎児のヘルスアセスメントの視点と方法について学ぶ。 ・胎児心音聴取 ・胎児心拍モニタリング ・羊水検査 ・母体の感染症	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第3回	【妊娠に伴う生理的变化とマイナートラブル】 妊娠各期のマイナートラブルの主な症状と特徴、原因・誘因について理解し、援助と保健指導について学ぶ。 ・全身、および生殖器の変化 ・妊婦の日常生活への援助	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		

第4回	【妊娠期における親役割獲得過程と援助】 妊婦と家族の看護について学ぶ。親になるための準備教育の内容と方法、および親役割獲得のための家族の援助について学ぶ。 【妊娠期の異常と看護①】 ハイリスク妊娠と看護について学ぶ。妊娠疾患、妊娠期の感染症、妊娠経過の異常、妊娠持続期間の異常、多胎妊娠、胎位の異常、胎児付属物の異常と観察の視点および看護について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第5回	【妊娠期の異常と看護②】 ハイリスク妊婦と心理・社会的問題について理解し、近年の妊婦の特性とハイリスク妊婦の看護を学ぶ。高年初産婦、若年妊婦、未受診妊婦、出生前診断を受けた妊婦とその家族の看護について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第6回	【分娩期の看護①】 分娩期の経過と看護について学ぶ。分娩の3要素、分娩室の環境、分娩時の産婦と家族の心理について理解し、分娩各期のアセスメントと援助について学ぶ。	分娩期の看護に関する教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		

第7回	【分娩期の看護②】 分娩期の正常からの逸脱と看護、産科処置と手術の看護について学ぶ。 分娩3要素に関する異常と周産期の異常出血、遷延分娩と看護援助について学ぶ。	分娩期の正常からの逸脱と看護に関する教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第8回	【知識確認テスト(妊娠期・分娩期)】 【産褥期の看護①】 産褥期の身体的、心理的、社会的変化について学ぶ。また、褥婦の全身状態と生殖器の復古状態のアセスメントと看護について学ぶ。	第1回から第7回までのハンドアウトを読み直し、理解が浅い部分は教科書の関連する項目を読んで理解を深めておくこと。また、産褥期の看護に関する教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第9回	【産褥期の看護②】 母乳育児に関するアセスメントと看護について学ぶ。また、産褥期の親になっていく過程について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		

第10回	【産褥期の健康課題と看護】 子宮復古不全、貧血、産褥期の発熱、乳腺炎、産後の精神障害と看護について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第11回	【帝王切開術と看護】 帝王切開術を受ける産婦の看護と手術後の褥婦の看護について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第12回	【新生児期の看護①】 新生児の看護の視点と新生児の機能、生理的特徴とアセスメントの視点について学ぶ。	新生児期の看護に関する教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		

第13回	【新生児期の看護②】 新生児の子宮外適応、発達状況のアセスメントと援助について学ぶ。 新生児のヘルスアセスメントの視点と援助、新生児黄疸と看護について学ぶ。	新生児期の看護に関する教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第14回	【新生児期の看護③】 新生児期の健康問題(新生児仮死、分娩外傷、感染症、呼吸障害など)と看護、ハイリスク新生児と看護について学ぶ。	新生児期の看護に関する教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第15回	【知識確認テスト(産褥期・新生児期)】 生まれた子どもに先天異常がある家族の援助、子どもを亡くした家族の援助について学ぶ。(多賀)	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。8回から第14回までのハンドアウトを読み直し、理解が浅い部分は教科書の関連する項目を読んで理解を深めておく。(120分)	知識確認テストとこれまでの学習内容について復習すること(90分)。
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	2回の小テストにより評価する。
その他	0	
教科書		
有森直子(編著): 母性看護学Ⅱ 第2版【電子版】医歯薬出版株式会社		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

備考欄

- ・講義開始前に必ず電子版テキストをダウンロードしておくこと。
- ・無断欠席は厳禁。事前に連絡すること。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 母性看護学					
科目名		母性看護学の展開Ⅱ(1組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	多賀 昌江						
授業の位置づけ							
本学科のDP「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を固め、看護師としての実践能力を有している」、「看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探求力・問題解決能力を有している」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる」と関連した科目である。妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に必要な看護実践能力を身に付けるため、「母性看護学の基礎」、「母性看護学の展開Ⅰ」を基盤とし、「母性看護学実習」に必要な能力や援助技術を修得する。							
授業の概要							
母性看護学の展開Ⅰの基本的知識を基に、看護技術演習を通して、周産期にある母児とその家族が安全・安楽に過ごすことが出来るためのケアに必要な技術、態度を修得する。また、産後の母児をとりまく家族のケアと特性について学習する。母性看護過程の展開の方法について事例を通して学ぶ。							
到達目標							

1. 妊婦と胎児の健康状態を判断し、必要な看護を述べることができる。
2. 産婦が安全・安楽に過ごすための看護を述べることができる。
3. 褥婦と新生児の健康状態を判断し、生理的特徴とその変化をふまえた看護を実践することができる。
4. 看護過程を展開し、周産期における母子の経時的な変化のアセスメントおよび看護計画の立案ができる。

授業の方法

1. 講義では、パワーポイントとハンドアウトを用いて説明する。
2. 演習では、事前学習を行った上で看護技術を実践する。
3. 演習後は理解度を確認するために事後課題を課す。
4. グループワークを行う。

ICT活用

課題の提出とフィードバックは、一部Google classroomを活用して行う。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当教員は助産師として、産科や周産期母子医療センター、NICUなどに10年前後勤務した経験があり、臨床現場での具体的なケアと看護の実際について豊富な知識を有している。この臨床経験を活かして、母性看護技術と看護過程の演習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

母性看護技術演習時に実施した看護技術を振り返り、課題の明確化を図る。また、看護過程課題のフィードバックとして、コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	コースオリエンテーション ウェルネス看護過程に基づいた看護過程 ウェルネス看護診断に基づいた看護過程の展開方法を学習する。 妊娠期・分娩期の看護過程 妊娠期・分娩期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p.2-34を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.33-104、p.153-189を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第2回	産褥期の看護過程① 産褥期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p.61-81を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.261-317を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第3回	産褥期の看護過程② 産褥期における看護診断と看護計画の立案について学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p82-114を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.261-288を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		

第4回	退院時の看護と子育てにかかわる看護 産後の母子の退院に向けた看護と退院時の看護、子育て支援と課題について学習する。	母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.289-317をよく読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第5回	新生児期の看護過程① 新生児期の子宮外生活適応に関するアセスメントの方法を学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p.125-137を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.370-412を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第6回	新生児期の看護過程② 新生児期の発達状況に関するアセスメントの方法を学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p.125-137を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.413-419を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		

第7回	妊娠期・分娩期の看護技術演習 妊婦の身体的側面と胎児の健康状態を査定するために必要な看護技術を学習する。産婦が安楽に過ごすために必要な看護技術を学習する。	母性・小児看護ゼンブガイド p.71-77をよく読んでおくこと。看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第8回	産後の母児の看護技術① 褥婦の健康状態を判断し、出産後の全身の回復や子宮復古および乳汁分泌促進に関する看護ケアについて学習する。	母性・小児看護ゼンブガイド p.78-89をよく読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第9回	産褥期の看護技術演習① 産褥期の身体的変化を査定するために、退行性変化の観察方法を学習する。また、育児技術について学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		

第10回	産褥期の看護技術演習② 産褥期の身体的変化を査定するために、進行性変化の観察方法を学習する。また、授乳方法について学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第11回	新生児期の看護技術演習① 新生児の身体的変化を査定するために、バイタルサインズの測定および黄疸測定の方法を学習する。	母性・小児看護ゼンブガイド p.81-83をよく読んでおくこと。看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第12回	新生児期の看護技術演習② 新生児の身体的変化を査定するために、全身観察の方法を学習する。	母性・小児看護ゼンブガイド p.81-83をよく読んでおくこと。看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		

第13回	産後の母児の看護技術② 母性看護学実習をシミュレーションし、行動計画の立案方法と母児に関連させた観察事項の報告方法について学習する。	事前課題を完成させておくこと。(90分)	演習で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第14回	看護過程フィードバック 看護過程のフィードバックを行い、自己課題を明らかにする。	講義で使用した教科書や資料を見直すこと。(90分)	フィードバックをもとに返却された看護過程課題を修正すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第15回	確認テスト 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護技術とアセスメントに関する確認テストを実施する。	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護技術とアセスメントに関して復習すること。(90分)	これまでの学習内容について復習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	看護過程課題 50% 事前課題・事後課題 20% 確認テスト 30%
その他	0	
教科書		
1)ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程第4版 太田操編著 医歯薬出版株式会社 電子版 2)母性・小児看護ぜんぶガイド 第2版 古川亮子編 照林社 3)母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 大平光子編 南江堂		
参考文献		

1)Nursing Skills ELSEVIER
2)母性看護 第2版(パーフェクト臨床実習ガイド) 堀内成子 照林社

履修条件・留意事項等

評価対象の課題に関して、不正行為が認められた場合はD判定になることがある。ハンドアウトはオンラインにて事前に配信する。必要時各自印刷して講義に持参すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 母性看護学					
科目名		母性看護学の展開Ⅱ(2組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	多賀 昌江						
授業の位置づけ							
本学科のDP「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を固め、看護師としての実践能力を有している」、「看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探求力・問題解決能力を有している」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる」と関連した科目である。妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に必要な看護実践能力を身に付けるため、「母性看護学の基礎」、「母性看護学の展開Ⅰ」を基盤とし、「母性看護学実習」に必要な能力や援助技術を修得する。							
授業の概要							
母性看護学の展開Ⅰの基本的知識を基に、看護技術演習を通して、周産期にある母児とその家族が安全・安楽に過ごすことが出来るためのケアに必要な技術、態度を修得する。また、産後の母児をとりまく家族のケアと特性について学習する。母性看護過程の展開の方法について事例を通して学ぶ。							
到達目標							

1. 妊婦と胎児の健康状態を判断し、必要な看護を述べることができる。
2. 産婦が安全・安楽に過ごすための看護を述べることができる。
3. 褥婦と新生児の健康状態を判断し、生理的特徴とその変化をふまえた看護を実践することができる。
4. 看護過程を展開し、周産期における母子の経時的な変化のアセスメントおよび看護計画の立案ができる。

授業の方法

1. 講義では、パワーポイントとハンドアウトを用いて説明する。
2. 演習では、事前学習を行った上で看護技術を実践する。
3. 演習後は理解度を確認するために事後課題を課す。
4. グループワークを行う。

ICT活用

課題の提出とフィードバックは、一部Google classroomを活用して行う。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当教員は助産師として、産科や周産期母子医療センター、NICUなどに10年前後勤務した経験があり、臨床現場での具体的なケアと看護の実際について豊富な知識を有している。この臨床経験を活かして、母性看護技術と看護過程の演習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

母性看護技術演習時に実施した看護技術を振り返り、課題の明確化を図る。また、看護過程課題のフィードバックとして、コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	コースオリエンテーション ウェルネス看護過程に基づいた看護過程 ウェルネス看護診断に基づいた看護過程の展開方法を学習する。 妊娠期・分娩期の看護過程 妊娠期・分娩期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p.2-34を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.33-104、p.153-189を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第2回	産褥期の看護過程① 産褥期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p.61-81を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.261-317を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第3回	産褥期の看護過程② 産褥期における看護診断と看護計画の立案について学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p82-114を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.261-288を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		

第4回	退院時の看護と子育てにかかわる看護 産後の母子の退院に向けた看護と退院時の看護、子育て支援と課題について学習する。	母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.289-317をよく読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第5回	新生児期の看護過程① 新生児期の子宮外生活適応に関するアセスメントの方法を学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p.125-137を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.370-412を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第6回	新生児期の看護過程② 新生児期の発達状況に関するアセスメントの方法を学習する。	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程p.125-137を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.413-419を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		

第7回	妊娠期・分娩期の看護技術演習 妊婦の身体的側面と胎児の健康状態を査定するために必要な看護技術を学習する。産婦が安楽に過ごすために必要な看護技術を学習する。	母性・小児看護ゼンブガイド p.71-77をよく読んでおくこと。看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第8回	産後の母児の看護技術① 褥婦の健康状態を判断し、出産後の全身の回復や子宮復古および乳汁分泌促進に関する看護ケアについて学習する。	母性・小児看護ゼンブガイド p.78-89をよく読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第9回	産褥期の看護技術演習① 産褥期の身体的変化を査定するために、退行性変化の観察方法を学習する。また、育児技術について学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		

第10回	産褥期の看護技術演習② 産褥期の身体的変化を査定するために、進行性変化の観察方法を学習する。また、授乳方法について学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第11回	新生児期の看護技術演習① 新生児の身体的変化を査定するために、バイタルサインズの測定および黄疸測定の方法を学習する。	母性・小児看護ゼンブガイド p.81-83をよく読んでおくこと。看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第12回	新生児期の看護技術演習② 新生児の身体的変化を査定するために、全身観察の方法を学習する。	母性・小児看護ゼンブガイド p.81-83をよく読んでおくこと。看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		

第13回	産後の母児の看護技術② 母性看護学実習をシミュレーションし、行動計画の立案方法と母児に関連させた観察事項の報告方法について学習する。	事前課題を完成させておくこと。(90分)	演習で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第14回	看護過程フィードバック 看護過程のフィードバックを行い、自己課題を明らかにする。	講義で使用した教科書や資料を見直すこと。(90分)	フィードバックをもとに返却された看護過程課題を修正すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
第15回	確認テスト 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護技術とアセスメントに関する確認テストを実施する。	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護技術とアセスメントに関して復習すること。(90分)	これまでの学習内容について復習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	看護過程課題 50% 事前課題・事後課題 20% 確認テスト 30%
その他	0	
教科書		
1)ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程第4版 太田操編著 医歯薬出版株式会社 電子版 2)母性・小児看護ぜんぶガイド 第3版 古川亮子編 照林社 3)母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 大平光子編 南江堂		
参考文献		

1)Nursing Skills ELSEVIER
2)母性看護 第2版(パーフェクト臨床実習ガイド) 堀内成子 照林社

履修条件・留意事項等

評価対象の課題に関して、不正行為が認められた場合はD判定になることがある。ハンドアウトはオンラインにて事前に配信する。必要時各自印刷して講義に持参すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 精神看護学					
科目名		精神看護学の基礎				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	井上 仁美						

授業の位置づけ

本科目は、DPの「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している」に特に関連し、「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる」「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任感を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる」に関連した科目である。

4年次の展開Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目である。

また、1年次のメンタルヘルス、心理学概論を基礎とし、同時期に開講される看護病態治療学Ⅳと関連する科目である。

授業の概要

精神看護の基本概念となる精神の健康の概念、心の機能と発達、危機や災害時における精神の健康とマネジメント、ストレスへの対処と疾病予防、精神保健の歴史的変遷や法律、精神看護の倫理、精神保健行政、精神保健医療の場で行われる集団活動および精神看護の現状と課題を学ぶ。

到達目標

1. 精神保健看護学を学んでいく上で基本的な知識について説明できる。
2. 精神保健看護に関連する現代社会における課題を、その要因や問題の様相、精神保健看護の側面から説明できる。
3. 自己や他者のメンタルヘルスについての理解を深め、自分自身のメンタルヘルスをコントロールする方法を説明できる

授業の方法

授業ではテキストや配布するレジュメを用いてパワーポイントで説明する。また、自分の考えを課題レポートとして提出する。学んだ知識の定着を促進するため毎回、確認テストを実施する。準備学習または事後学習について自己学習ノートを作成し、Google Classroom(以下、GC)に提出することで、自己学習支援を行う。

ICT活用

学んだ知識の定着を促進するため、学習した内容について各学生がノートを作成し、GCに提出する。レポート課題等についてもGCに提出する。

実務経験のある教員の教育内容

本科目は精神保健看護で看護師として実務経験のある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

GCで提出された課題や授業時間中に行う確認テストは授業時間中またはGCでフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 精神看護学の基本的な考え方 こころの健康・不健康の概念や精神障がい定義をふまえながら、精神看護学の基本的考え方や心構えを学ぶ。 また、精神障害を説明するさまざまなモデル(考え方)と精神障害のとらえ方を学習する。	テキストをよく読んでおく(90分)。	次回の講義より、精神看護学まとめノートから出題する確認テストを行うため、精神看護学まとめノートで学習する。自己学習ノートを作成し提出する。(90分)。
担当教員			
第2回	心のはたらきと精神の健康・障害【確認テスト①;1回目の内容】 人格、気質、自我、感情、認知など人間の心のはたらきについて学ぶ。 さまざまなストレスに対処するシステムとしての防衛機制と、ライフサイクル各期における発達課題など人格の発達に関する代表的な理論について学習する。 発達段階における小児期逆境体験の影響とトラウマインフォームドケア(TIC)について学習する。	『こころの健康がみえる』の該当箇所を読み学習する。(90分)。	精神看護学まとめノートから出題する確認テストを行うため、精神看護学まとめノートで学習する。自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第3回	脳の構造と認知機能【確認テスト②;2回目の内容】 脳の構造と認知機能、認知機能の神経基盤について学習する。 脳の学習をとおして、薬物療法の基本を学習する。	『こころの健康がみえる』の該当箇所を読み学習する。(90分)。	精神看護学まとめノートから出題する確認テストを行うため、精神看護学まとめノートで学習する。自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			

第4回	心の危機とストレス【確認テスト③;3回目の内容】 生体システムとしてのストレス反応と恒常性の維持、睡眠(サーカディアンリズム)との関連性について学習する。 ストレスへの対処行動と危機理論、カプランの予防概念を理解できる。 生きる力と強さに着目したレジリエンス、リカバリ、ストレングスなどの概念について学習する。 がんの受容過程における理論や悲嘆のプロセスについて学習する。	『こころの健康がみえる』の該当箇所を読み学習する。(90分)。	精神看護学まとめノートから出題する確認テストを行うため、精神看護学まとめノートで学習する。自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第5回	家族におけるメンタルヘルス【確認テスト④;4回目の内容】 システムとしての家族と家族病理について学習する。 家庭内暴力や児童虐待などの事例から、high EE・lowEE家族や家族ホメオスタシス、共依存、世代間連鎖などの概念を学習し、家族はケアが必要なクライアントであることを学習する。 ドメスティックバイオレンスにおける加害者と被害者の心理状態と関係性について学習する。	『こころの健康がみえる』の該当箇所を読み学習する。(90分)。	精神看護学まとめノートから出題する確認テストを行うため、精神看護学まとめノートで学習する。自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第6回	職場・学校等におけるメンタルヘルス【確認テスト⑤;5回目の内容】 職場や学校における精神関連問題について理解するとともに、ハラスメントやいじめが精神健康に与える影響とその支援について学習する。また、LGBTQなどの性の多様性、ひきこもり問題などについて学習する。	『こころの健康がみえる』の該当箇所を読み学習する。(90分)。	精神看護学まとめノートから出題する確認テストを行うため、精神看護学まとめノートで学習する。自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			

第7回	嗜癮の問題【確認テスト⑥;6回目の内容】 嗜癮の問題が心身および日常生活や家族に及ぼす影響について学習するとともに嗜癮問題から回復するための支援の方法を学ぶ。	『こころの健康がみえる』の該当箇所を読み学習する。(90分)。	精神看護学まとめノートから出題する確認テストを行うため、精神看護学まとめノートで学習する。自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第8回	精神障害と治療・看護の歴史【確認テスト⑦;7回目の内容】 精神疾患・障害とその治療・看護の歴史的経緯を学習する。 特に、日本における精神医学・治療の歴史的経緯と地域・文化との結びつきを学び、社会的視点から精神障がいについて学習する。 優生保護法など、過去の歴史から現在まで続いている課題について学習し、その問題点について学ぶ。	『こころの健康がみえる』の該当箇所を読み学習する。(90分)。	精神看護学まとめノートから出題する確認テストを行うため、精神看護学まとめノートで学習する。自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第9回	精神障害と法制度【確認テスト⑧;8回目の内容】 精神障がいをもつ人々を対象とする法律の目的と位置づけおよび法制度の変遷について学習する。精神科における入院制度と医療観察法についての問題や人権擁護と生活支援の点からの課題について学習する。	『こころの健康がみえる』の該当箇所を読み学習する。(90分)。	精神看護学まとめノートから出題する確認テストを行うため、精神看護学まとめノートで学習する。自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			

第10回	精神障害をもつ人の地域生活支援【確認テスト⑨;9回目の内容】 精神障害をもつ人の地域での生活と制度について学ぶとともに、地域生活を支えるさまざまなサービスとその基盤となる考え方を学習する。特に、今後は地域包括ケアシステムのなかに精神看護が位置づけられることを学習する。災害時の心のケアについて学習する。	『こころの健康がみえる』の該当箇所を読み学習する。(90分)。	精神看護学まとめノートから出題する確認テストを行うため、精神看護学まとめノートで学習する。自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第11回	身体疾患と精神看護【確認テスト⑩;10回目の内容】 脳とからだの関係、身体疾患と精神症状の関係性について学習する。リエゾン精神看護の役割と仕事について学習する。 がん、産後うつなど、ストレスや生活環境による精神障害について学習する。	『こころの健康がみえる』の該当箇所を読み学習する。(90分)。	精神看護学まとめノートから出題する確認テストを行うため、精神看護学まとめノートで学習する。自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第12回	集団力動論【確認テスト⑪;11回目の内容】 集団力動(グループダイナミクス)の歴史的発展段階を学ぶ。 グループを活用した実践について学習する。 社会生活技能訓練(SST)や当事者によるセルフヘルプグループ、ピアサポート、当事者研究などについて学び、集団療法の治療的意義について学習する。	『こころの健康がみえる』の該当箇所を読み学習する。(90分)。	精神看護学まとめノートから出題する確認テストを行うため、精神看護学まとめノートで学習する。自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			

第13回	看護職のメンタルヘルス【確認テスト⑫;12回目の内容】 対人関係職が体験する感情労働とメンタルヘルスへの影響について学習する。新人看護師の職場不適応、燃え尽き症候群、うつ、暴力などの問題についての対処とストレスマネジメントの方法を学習する。	『こころの健康がみえる』の該当箇所を読み学習する。(90分)。	精神看護学まとめノートから出題する確認テストを行うため、精神看護学まとめノートで学習する。自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第14回	援助的人間関係を築く【確認テスト⑬;13回目の内容】 ケアの原則を理解するとともに患者－看護師関係における治療的援助関係の発展段階とそのコミュニケーションの技法を学習する。	『こころの健康がみえる』の該当箇所を読み学習する。(90分)。	精神看護学まとめノートから出題する確認テストを行うため、精神看護学まとめノートで学習する。自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第15回	精神科看護における倫理【確認テスト⑭;14回目の内容】 「精神科看護倫理綱領」や倫理基準について理解するとともに精神看護実践における倫理的課題と求められる倫理について学習する。アドボカシー、自己決定、エンパワメントなどの概念について学習する。	『こころの健康がみえる』の該当箇所を読み学習する。(90分)。	レポート課題を作成する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・確認テスト70% 5点×14回 講義開始時に実施する（持ち込みすべて不可） ・レポート課題の提出30% 10点×3回【具体的な課題と提出期限はそのつど提示する】 ※レポートは引用文献・参考文献を必ず明記すること。 ・毎回、その回の内容を学習した自己学習ノートを作成し提出した場合は、内容と量により1～3点／回を加点する(GCに提出すること)。
その他	0	
教科書		
こころの健康がみえる 第1版 メディックメディア 精神看護学まとめノート メデカルフレンド社		
参考文献		

適宜、GCに提示する。

履修条件・留意事項等

私語は厳禁とします。私語をしている学生には直接注意します。遅刻・欠席をすると確認テストが受けられず、その回のテストが0点となりますので、欠席・遅刻をしないようにしてください。遅刻は20分を超えると欠席になります。また、遅刻は3回で1回の欠席となりますので注意してください。途中退室して15分以上経過しても入室しない場合は「早退」とみなすことがあります。体調不良時を除き、退席しないようにしてください。60点に満たない場合はDH判定となり、再試の対象となります。

備考欄

レポートやテスト時に不正行為があった場合は、単位を認定しない。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 精神看護学					
科目名		精神看護学の展開 I				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子						
授業の位置づけ							
精神看護学の理論や疾患の科学的根拠に基づき、精神障害をもちながらも健康的な生活が送れるよう支援するための基礎的知識を学習するための科目である。 DPの「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。」と特に関連し、「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」に関連した科目である。 「メンタルヘルス」「薬理学」「心理学概論」「精神看護学の基礎」「看護病態治療学Ⅳ」が基盤となり、これらの知識を発展的に活用して精神科疾患と看護を考え、「精神看護学実習」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
精神看護の対象となる主な疾患・障害の特徴と看護について、症状/検査/薬物療法などを体系的に学習する。それぞれの精神障害の原因、回復過程と援助方法について、生物・心理・社会的側面から学ぶ。また、症状や薬物療法などによる生活のしづらさについて理解したうえで、支援のあり方を考える講義を行う。地域で生活する当事者の話を聴くことで、地域生活において必要な看護の役割や支援方法について学習する。 。							
到達目標							

- 1.精神障がいをもつ人の状態のとらえ方とさまざまな精神症状について説明することができる。
- 2.それぞれの精神障害を生物・心理・社会的側面から説明することができる。
- 3.症状や薬物療法などによる生活のしづらさについて理解したうえで、支援のあり方を述べることができる。

授業の方法

統合失調症、うつ病、双極性障害、アルコール依存症などの精神疾患について、講義形式でレジュメおよびテキストを用いて講義する。知識の定着をはかるために、ほぼ毎回の講義の最初に前回の講義内容について「確認テスト」を実施する。統合失調症やアルコール依存症などの当事者または家族の方をゲストスピーカーとして体験談を聞く。地域での支援については保健師の方をゲストスピーカーとして来ていただき、実際の支援と保健師の役割について学ぶ。学生はゲストスピーカーの話を聞いたのちに、自分が感じた思いや支援のあり方について整理し、レポートにまとめ提出する。

ICT活用

指定したレポート課題等はGoogle Classroom(以下、GC)に提出する。
準備学習・事後学習および課題はGCに提示するため、確認して学習を進める。

実務経験のある教員の教育内容

本科目は精神保健医療の分野で看護師として実務経験のある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

事後課題および授業時間内に実施する確認テストについては、講義時間内またはGCでフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	〃精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅰ－1 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害① 統合失調症の発症の原因、状態および回復過程とその治療について学ぶ。	『こころの健康がみえる 第1版』をよく読んで重要なところに下線を引く。 『精神看護学まとめノート』からテスト問題を出題するため該当箇所について学習する(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員	藤村 恵理子		
第2回	〃精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅰ－2 【授業開始時に確認テスト①;第1回目内容】 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害② 統合失調症の事例をとおして、状態の経過にあわせた看護の方法を学習する。	『こころの健康がみえる 第1版』をよく読んで重要なところに下線を引く。 『精神看護学まとめノート』からテスト問題を出題するため該当箇所について学習する(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員	藤村 恵理子		
第3回	〃精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅱ－1 【授業開始時に確認テスト②;第2回目内容】 気分＜感情＞障害;うつ病①、双極性障害① 気分障害であるうつ病の発症の原因および回復過程とその治療を学習する。	『こころの健康がみえる 第1版』をよく読んで重要なところに下線を引く。 『精神看護学まとめノート』からテスト問題を出題するため該当箇所について学習する(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員	藤村 恵理子		

第4回	“精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅱ-2 【授業開始時に確認テスト③;第3回目の内容】 気分＜感情＞障害;うつ病②、双極性障害② 気分障害であるうつ病の事例をとおして、状態の経過にあわせた看護の方法を学習する。	『こころの健康がみえる 第1版』をよく読んで重要なところに下線を引く。 『精神看護学まとめノート』からテスト問題を出題するため該当箇所について学習する(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員	藤村 恵理子		
第5回	“精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅲ-1;精神作用物質による精神・行動の障害:アルコール、薬物等の依存症①【授業開始時に確認テスト④;第4回目の内容】 アルコールや薬物等の依存症の病態、治療、回復過程を理解するとともに、回復過程や状態に応じた看護を学習する。	『こころの健康がみえる 第1版』をよく読んで重要なところに下線を引く。 『精神看護学まとめノート』からテスト問題を出題するため該当箇所について学習する(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員	藤村 恵理子		
第6回	“精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅲ-2;精神作用物質による精神・行動の障害:アルコール、薬物等の依存症 ②【授業開始時に確認テスト⑤;第5回目の内容】 アルコールや薬物等の依存症の事例を通して、回復過程や状態に応じた看護を学習する。	『こころの健康がみえる 第1版』をよく読んで重要なところに下線を引く。 『精神看護学まとめノート』からテスト問題を出題するため該当箇所について学習する(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員	藤村 恵理子		

第7回	〃精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅳ;不安障害、強迫性障害、PTSD、解離性障害 【授業開始時に確認テスト⑥;第6回目の内容】 不安障害、強迫性障害、PTSD、解離性障害の発症の原因、状態、治療、回復過程を理解するとともに、回復過程や状態に応じた看護を学習する。	『こころの健康がみえる 第1版』をよく読んで重要なところに下線を引く。 『精神看護学まとめノート』からテスト問題を出題するため該当箇所について学習する(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員	藤村 恵理子		
第8回	〃精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅴ;摂食障害 【授業開始時に確認テスト⑦;第7回目の内容】 摂食障害の病態と治療を理解し、事例をとおして経過に応じた看護を学習する。	『こころの健康がみえる 第1版』をよく読んで重要なところに下線を引く。 『精神看護学まとめノート』からテスト問題を出題するため該当箇所について学習する(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第9回	〃精神の健康上に問題をもつ人への看護Ⅵ;パーソナリティ障害 【授業開始時に確認テスト⑧;第8回目の内容】 パーソナリティ障害の分類、とくに境界性パーソナリティ障害の病態および治療を理解するとともに、境界性パーソナリティ障害を抱える人への看護を学習する。	『こころの健康がみえる 第1版』をよく読んで重要なところに下線を引く。 『精神看護学まとめノート』からテスト問題を出題するため該当箇所について学習する(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員	井上 仁美		

第10回	〃精神の健康上に問題をもつ人への看護Ⅶ;発達障害、高次脳機能障害 【授業開始時に確認テスト⑨;第9回目の内容】 発達障害の定義、その行動障害、生活のしづらさについて理解し、適切な対応・対処について学習する。	『こころの健康がみえる 第1版』をよく読んで重要なところに下線を引く。 『精神看護学まとめノート』からテスト問題を出題するため該当箇所について学習する(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第11回	〃精神の健康上に問題をもつ人への看護Ⅷ;知的障害、てんかん 【授業開始時に確認テスト⑩;第10回目の内容】 知的障害、強度行動障害、てんかん、場面緘黙について学習する。 ※講義後に総合テスト(15点分)を行う(持ち込み可;テキスト、これまで配布したレジュメを持参すること)	『こころの健康がみえる 第1版』をよく読んで重要なところに下線を引く。 『精神看護学まとめノート』からテスト問題を出題するため該当箇所について学習する(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第12回	〃精神障害を持つ人の地域における生活への支援①～地域生活の再構築と社会参加～ 【授業開始時に確認テスト⑪;第11回目の内容】 地域包括ケアシステムが求められる背景、障害者の生活を支える地域での社会資源を学習する。【講義終了後に、総合テスト(これまでのすべての内容;15点)を実施する】	『こころの健康がみえる 第1版』をよく読んで重要なところに下線を引く。 『精神看護学まとめノート』からテスト問題を出題するため該当箇所について学習する。総合テストを行うため、これまでの講義内容の復習を行う(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員	井上 仁美		

第13回	〃当事者体験を聴く①(ゲストスピーカーによる講義;こりかプロダクション(多機能型事業所、B型、移行、就労定着、の方々) ＜終了後、レポート①＞ 様々な精神障害をもち地域で生活する当事者の体験を聴き、回復を支える看護を考えることができる。 地域で生活する精神障害者を支える社会資源と専門職の役割機能を理解することができる。	GCにUPされた資料を読む(90分)。	指定されたテーマでレポートを作成し提出する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第14回	〃当事者体験を聴く②(ゲストスピーカーAlcoholics Anonymous;AAの方々) ＜終了後、レポート提出②＞ AAの方をお迎えし、AAの活動についての説明、メンバーの方の体験談を聴き当事者自身の思いや生きづらさについて学ぶ。	GCにUPされた資料を読む(90分)。	指定されたテーマでレポートを作成し提出する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第15回	精神障害をもつ人の地域における生活への支援② ゲストスピーカーによる講義(保健師) ＜終了後、レポート提出③＞ ～精神障害をもつ人の地域生活支援の実際と精神障害をもつ人をケアする家族への支援～ 多職種連携・地域資源の活用による当事者・家族支援の実際を知り、看護職の役割を学ぶ。 ＊内容に変更がある場合があるが、地域での支援に関連した内容とする	テキストをよく読んで該当するところに下線を引く(90分)。	指定されたテーマでレポートを作成し提出する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業開始時に行う確認テスト(5点満点)11回<計55点>とレポート3回(10点満点)<計30点>、最後の第15回目に総合テスト(15点満点)の計100点で評価する。レポート課題はゲストスピーカーによる講義のあとに、テーマを設定しレポートを課す。GCに自己学習(ノートに手書きで記載すること)を提出した場合は、指定された期限内に提出することで1～3点の加点をする。 テストは、『精神看護学まとめノート メディカルフレンド社』から出題する。すべてのテストは持ち込み不可とし、スマホやパソコンの使用は認めない。不正行為および不正行為に類似する行為は厳に禁止する。不正行為が発見された場合は0点となり単位を認めない。欠席または公欠、遅刻した場合は、その回の確認テストが受けられないため配点がないが、自己学習を提出することで加点されるため、なるべく提出すること。
その他	0	
教科書		
精神看護学まとめノート メディカルフレンド社 こころの健康がみえる 第1版 メディックメディア 薬がみえるVol.1 第2版 メディックメディア(同時に開講される「看護病態治療学Ⅳ」で同じテキストを使用するため重複して購入しないようにすること)		
参考文献		

適宜、提示する

履修条件・留意事項等

〃本科目は精神看護学実習の履修要件である。グループワーク以外での私語は厳禁とする。
 確認テストがある授業に欠席・遅刻してテストを受けられなかったときは、そのテストは0点となる。特に遅刻しないこと。
 3タームに2講続きの講義を行うため、1日休むと2講とも欠席となり単位認定するための出席日数に不足が生じる可能性があるため、欠席・遅刻はしないこと。
 レポートの未提出、GCに提示している課題を期日まで回答せず提出していない場合もその課題の配点は0点となる。
 遅刻20分以上は欠席とし、遅刻3回で1回の欠席とする(看護学科申し合わせ事項)。
 計15回のうち、3分の1以上の欠席で単位認定はしない可能性があるため、注意すること。
 後半の講義で、当事者の方などをゲストスピーカーとしてお呼びし講義していただく予定(計3回)であるが、
 ゲストスピーカーの来校の都合上、講義回の順番および日程が変更になることがある。
 講義の変更については、決まり次第お知らせする。

備考欄

講義に関する連絡は基本的には講義時間内に行うが、GCをとおして行うことが多いため、適宜、GCのストリームを確認すること。
 休補講対応を行うことがあるため、講義の日程については決まり次第連絡するが、日程と教室を間違えないようしてください。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 精神看護学					
科目名		精神看護学の展開Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	井上 仁美						

授業の位置づけ

DPの「看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探求能力・問題解決能力を有している。」と特に関連する科目である。また、「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる。」「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と関連した科目である。
精神看護学の基礎、看護病態治療学Ⅳ、精神看護学の展開Ⅰを習得したあとの演習科目である。また4年次の精神看護学実習の履修要件である。

授業の概要

学習した精神看護学関連の諸知識を統合して対象者を多角的に理解するために、事例を用いてアセスメントから看護計画立案までを学習する。また、セルフケアレベルに応じた看護実践の方法を学ぶ。プロセスレコードの作成をとおして看護場面を振り返り、自己理解・他者理解を深めながら対象者－看護師関係の基礎づくりと発展段階について学ぶ。

到達目標

1. 精神障害をもつ人のセルフケアを高めるための援助方法について説明することができる。
2. さまざまな精神障害をもつ対象者【事例】のアセスメントから看護計画までを立案することができる。
3. 看護場面の再構成をとおして自己理解・他者理解の方法と対象者との信頼関係の基礎づくりおよび発展段階について説明することができる。

授業の方法

第1回から8回までは講義形式で行う。第9回からは事例を用いた看護過程の展開を指定された様式を用いてグループワークを行いながら実施し、事例ごとに発表する。

ICT活用

提出物および準備学習・事後学習の課題については指定された提出先 (Google Classroom; 以下GC) に提出し自主学習を支援する。

実務経験のある教員の教育内容

本科目は精神保健福祉の分野において看護師の実務経験がある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題や確認テストについては講義時間中またはGCにフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業開始のガイダンス;授業の位置づけ、概要、目標、方法 精神科における主な治療と看護 精神疾患に用いられる向精神薬および抗精神薬の作用と有害反応、日常生活に薬物療法がどのような影響を及ぼしているかについて理解するとともに、その看護について学習する。 精神科における治療法の一つである電気けいれん療法、リハビリテーション療法、精神療法と看護について学ぶ。	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P. 151～190をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する。 次回の講義初めに、精神看護学まとめノートから出題しテストを行うため復習する(90分)。
担当教員			
第2回	精神科病院における安全管理<セーフティマネジメント>と倫理的配慮 講義のはじめに【確認テスト①;第1回講義の内容(5点)】 精神科病院の療養環境について学び、単科精神科病院と総合病院の精神科病棟の役割と機能についての違いを学習する 精神保健福祉法のもとに行われている行動制限、隔離、身体的抑制を行う際の根拠と倫理的配慮、看護について学習する 身体合併症の予防、多飲水・水中毒、自傷他害行為、自殺など精神科病院におけるリスクと安全管理について学習する	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P. 257～274をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する。 次回の講義初めに、精神看護学まとめノートから出題しテストを行うため復習する(90分)
担当教員			
第3回	入院生活での身の回りの生活を整える援助 ～個人衛生、活動と休息のバランスの維持、金銭・私物管理～【確認テスト②;第2回講義の内容(5点)】 精神科病院に入院している患者の生活の実際を学び、清潔、活動、金銭および私物管理などについて、具体的な援助の方法について学習する 入院前の生活から入院中、退院後の生活の一連の過程をとおり、患者が自立・自律した生活を送るための支援の方法を学習する	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.120～143、155～164をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。次回の講義初めに、精神看護学まとめノートから出題しテストを行うため復習する(90分)
担当教員			

第4回	精神科における症状マネジメント ～幻覚・妄想、無為・自閉、不安、拒否がある患者への対処～【確認テスト③;第3回講義の内容(5点)】 精神科でよくみられる症状へのアセスメントと対処法、看護介入について学習する。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.165～223をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。次回の講義初めに、精神看護学まとめノートから出題しテストを行うため復習する(90分)
担当教員			
第5回	看護場面の再構成と援助関係の構築【確認テスト④;第4回講義の内容(5点)】 対象者とのかかわり方を学んだうえで、患者－看護師関係をアセスメントし、振り返るためのプロセスレコードの方法について学習し記載する。 信頼関係の基礎づくりと患者－看護師関係の発展段階について学習する。	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P. 194～223をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	プロセスレコードを作成し、期限までにGCに提出する【10点】。次回の講義時に確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員			
第6回	セルフケア理論の概要【確認テスト⑤;第5回講義の内容(5点)】 精神看護学で用いられる看護理論を学ぶ。 オレム・アンダーウッドのセルフケア理論について学習する。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.19～31、98～164をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。次回の講義初めに、精神看護学まとめノートから出題しテストを行うため復習する(90分)
担当教員			

第7回	オレム・アンダーウッドのセルフケア理論による看護過程の実際;アセスメント、看護計画の立案【確認テスト⑥;第6回講義の内容(5点)】 統合失調症の事例をとおして、オレム・アンダーウッドのセルフケア理論による看護過程の実際を学び、アセスメントと看護計画の立案の方法を学習する。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.98～164をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自己学習ノートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第8回	看護過程の展開<グループワーク①> 事例展開を行う 看護過程を展開する4つの事例(統合失調症、うつ病、双極性障害、アルコール依存症)について各事例の生活歴等の背景や症状を説明することができる。 ※事例の疾患は変更する場合がある	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 の事例展開の箇所を読む(90分)。	自分のグループが展開する事例の情報を様式①から③まで記載する(90分)。
担当教員			
第9回	看護過程の展開<グループワーク②> 事例ごとにグループに分かれて進める。	自分のグループが展開する事例について様式④アセスメントから⑤看護計画の立案まで作成する(90分)。	グループでの課題を進める(90分)。
担当教員			

第10回	看護過程の展開＜グループワーク③＞ 事例ごとにグループに分かれて進める。	グループでの課題を進める(90分)。	グループでの課題を進める(90分)。
担当教員			
第11回	看護過程の展開＜グループワーク④＞ 事例ごとにグループに分かれて進める。	グループでの課題を進める(90分)。次回から事例展開の発表を行うため、プレゼンテーションができるように準備する。	グループでの課題を進める(90分)。
担当教員			
第12回	看護過程の発表① 統合失調症の事例 統合失調症の事例を担当したグループの発表を聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	統合失調症について復習する。 事例についてよく読んでおく(90分)。	発表されたグループの統合失調症の事例展開(様式①から⑤)について復習する(90分)。
担当教員			

第13回	看護過程の発表② うつ病の事例 うつ病の事例を担当したグループの発表を聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	うつ病の復習をする。事例をよく読んでおく。 発表するグループはプレゼンテーションができるよう準備する(90分)。	プレゼンテーションされた様式①から⑤について復習する(90分)。
担当教員			
第14回	看護過程の発表③ 双極性障害の事例 アルコール依存症の事例を担当したグループの発表を聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	双極性障害について復習する。 事例をよく読んでおく。 発表するグループはプレゼンテーションができるよう準備する(90分)。	プレゼンテーションされた様式①から⑤について復習する(90分)。
担当教員			
第15回	看護過程の発表④ アルコール依存症の事例 アルコール依存症の事例を担当したグループの発表を聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	アルコール依存症について復習する。事例をよく読んでおく。 発表するグループはプレゼンテーションができるよう準備する(90分)。	レポート課題を提示するので、作成して提出する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・確認テスト30% 5点×6回 ※確認テストは欠席・遅刻すると受けることができず0点となるため注意すること ・テストは『精神看護学まとめノート』から出題するが、持ち込みはすべて不可とする。 ・プロセスレコードの提出10% 10点×1回 ・レポート課題の提出10% 10点×1回 ※具体的な課題と提出方法は講義時間内またはGCで提示する ・グループワークの成果内容および発表、50% 50点 <評価基準は授業内で提示する> ※提出された事例展開の内容によって、評価が高い3つのグループが発表する(各3グループ)。 - 発表時に欠席した学生には加点しない(感染症など正当な理由であった場合を除く)。 * 自己学習ノートを手書きで作成し提出することで、内容と量で評価し、1回につき1～3点を加点する。
その他	0	
教科書		
新体系 看護学全書 精神看護学①精神看護学概論／精神保健 第5版 メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 第5版 メヂカルフレンド社 精神看護学まとめノート メヂカルフレンド社		
参考文献		

適宜、資料を配布する。参考文献はGCに提示する。

履修条件・留意事項等

本科目は4年次の精神看護学実習履修要件です。看護過程は実習と同じ様式を用いるので、しっかりと理解して1年後の実習に活用できるように積極的に学習してください。実習前には看護過程の書き方等の説明は行わないので、準備学習・事後学習を行い、よく理解し記述ができるようにすることが必須です。

2ターム内に計15回の講義をするため、1週間に2回程度の講義を行うことから1日欠席した場合は2回の欠席となるため注意すること。教員が実習中のため、休補講対応をすることがあるため、日程と教室を確認して間違わないように出席すること。事例展開の発表は時間の都合上、すべてのグループは発表できないが、発表するグループには加点をする。発表グループは教員が決定する。

発表したグループには加点するが、グループでの活動及び成果物に参加・貢献していないと他の学生より指摘があり、そのような事実が判明した学生や正当な理由なく発表時に欠席した学生は減点対象とするため注意すること。

グループ内で担当を決める場合でも、全体像の整合性についてグループで協議してから提出すること。様式によってボリュームに差がありすぎたり内容に矛盾がないようにすることが望ましい。看護過程の展開の内容に全体の整合性がなく一貫した内容になっていないことがあるため、提出前に必ず全体の内容が矛盾していないかをグループ内で確認すること。一貫性がない場合は発表グループには選ばれない事例であっても、きちんと「人」として尊重し「さん」をつけるなど、呼び名等に配慮すること。

総合点で60点に満たない場合はDHの対象となる。

備考欄

講義の開始時に確認テストがある場合は、遅刻すると確認テストは受けられないことがあるので注意する。

事例による看護過程の展開についての課題が時間内に終了しない場合は、時間外に各グループで進める必要がある。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 地域・在宅看護論					
科目名		在宅看護学の基礎				ナンバリング	3610
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	鹿内 あずさ						

授業の位置づけ

本学のディプロマポリシー「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有した人材(知識・技能)」と関連し、人々の地域での暮らしの多様性や暮らしを守る保健行政システムの概要を理解し、地域看護・在宅看護の基本を学ぶ科目である。地域看護学の基礎・在宅看護学の展開Ⅰ・在宅看護学の展開Ⅱ・家族看護学・地域包括ケアシステム論の科目と関連し、地域・在宅看護論実習等の専門科目の基礎となる。看護学の理論や科学的根拠に基づき、人々の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得する科目である。

授業の概要

在宅療養者を対象とした健康状態やその変化に応じた看護に必要な知識を習得するために、看護実践の場としての在宅看護における看護の歴史、概念、目的、役割、制度を学び、在宅における対象者と家族の健康状態や生活環境の捉え方を理解する。生活者としての対象者と家族に対する日常生活援助や医療的ケアにおける援助の視点を理解し、保健医療福祉の専門職との連携をもとに実践される在宅看護の基礎を学ぶ。

到達目標

1. 人々の暮らしとその多様性について考えることができる。
2. 在宅看護の概念と歴史の変遷、在宅ケアシステムについて理解できる。
3. 在宅看護の対象者と家族への看護活動、および、在宅看護の特徴について理解できる。
4. 在宅療養を支えるケアチームを構成している専門職と連携について理解できる。
5. 在宅看護における対象者(本人と家族)への権利擁護について理解できる。
6. 在宅看護における倫理的課題について理解できる。
7. 在宅看護における意思決定支援について理解できる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物、及び、視聴覚教材を用いて講義形式で進める。
理解度を確認するために毎回の講義において課題を示し、学生自身が学んだ内容について記述する。
毎回の講義で、学生が記述したコメントシートを活用し、授業の振り返りや感じた内容、要望、疑問の解決を図る。

ICT活用

Google classroomを活用し、加えて、在宅看護の実際の場面を視聴覚教材を用いて学習します。

実務経験のある教員の教育内容

看護師・保健師の国家資格を有し、および、訪問看護師、ケアマネジャー、地域看護専門看護師としての活動経験を活かした講義内容とし、在宅看護の理解につなげます。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義中に質問・意見への返答を行い、学びの共有ができるようなフィードバックを行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. 人々の暮らしとは / 多文化(異文化)を理解するとは 【課題1の提示】	シラバスを読み、授業スケジュールを確認する。テキストの該当部分を読む(60分)	講義資料、テキストの内容を復習する(60分)
担当教員			
第2回	2. 人々の暮らしの基盤としての地域	前回の講義資料、テキストの該当部分を読む(60分)	講義資料、テキストの内容を復習する(60分)
担当教員			
第3回	3. 日本における在宅看護の変遷と歴史	前回までの講義資料、テキストの該当部分を読む(60分)	講義資料、テキストの内容を復習する(60分)
担当教員			

第4回	4. 在宅看護の目的と対象 DVDの視聴と学びの共有 【課題1提出】	前回までの講義資料、テキスト の該当部分を読む(90分)。	講義資料、テキストの内容を復 習する(90分)。
担当教員			
第5回	5. 在宅療養者と家族の理解 DVDの視聴と学びの共有	前回までの講義資料、テキスト の該当部分を読む(60分)。	講義資料、テキストの内容を復 習する(90分)
担当教員			
第6回	6. 地域における暮らしを支える看護(1) 1) 暮らしの環境を整える看護 2) 広がる看護の対象と提供方法 DVDの視聴と学びの共有	前回までの講義資料、テキスト の該当部分を読む(90分)	講義資料、テキストの内容を復 習する(90分)
担当教員			

第7回	7.地域における暮らしを支える看護(2) 1) 地域における家族への看護 2) 地域におけるライフステージに応じた看護 DVDの視聴と学びの共有	前回までの講義資料、テキスト の該当部分を読む(90分)	講義資料、テキストの内容を復 習する(90分)
担当教員			
第8回	8. 地域包括ケアシステムと地域共生社会 DVDの視聴と学びの共有	前回までの講義資料、テキスト の該当部分を読む(90分)	講義資料、テキストの内容を復 習する(90分)
担当教員			
第9回	9. 在宅看護のしくみ(1) 訪問看護制度 DVD:訪問看護のしくみ 【課題②の提示】 <確認テスト①>	前回までの講義資料、テキスト の該当部分を読む(90分)	講義資料、テキストの内容を復 習する(90分)
担当教員			

第10回	10. 在宅看護のしくみ(2) 介護保険制度 ＜確認テスト①のフィードバック＞ 【課題2の提示】	前回までの講義資料、テキスト の該当部分を読む(90分)	講義資料、テキストの内容を復 習する(90分)
担当教員			
第11回	11. 在宅看護のしくみ(3) 地域保健にかかわる制度 高齢者にかかわる制度	前回までの講義資料、テキスト の該当部分を読む(90分)	講義資料、テキストの内容を復 習する(90分)
担当教員			
第12回	12. 在宅看護の展開方法(在宅看護過程) DVD(訪問看護の実際)の視聴と学びの共有 【課題②の提出】	前回までの講義資料、テキスト の該当部分を読む(90分)	講義資料、テキストの内容を復 習する(90分)
担当教員			

第13回	13. 看護の継続性とケアマネジメント DVD:療養を支える在宅ケアチーム 【課題2提出】 <確認テスト2>	前回までの講義資料、テキスト の該当部分を読む(90分)	講義資料、テキストの内容を復 習する(90分)
担当教員			
第14回	14. 在宅看護における倫理 DVDの視聴と学びの共有 <確認テスト2のフィードバック> 【課題③の提示】	前回までの講義資料、テキスト の該当部分を読む(90分)	講義資料、テキストの内容を復 習する(90分)
担当教員			
第15回	15. 在宅看護における意思決定支援 人生の最終段階を支える医療事前指示書 まとめ 【課題③の提出】	前回までの講義資料、テキスト の該当部分を読む(90分)	講義資料、テキストの内容を復 習する(120分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への参加態度・コメントシート(30%)、課題①②③(各10%:計30%)により評価する。
その他	40	確認テスト(2回:計40%)により評価する。
教科書		
在宅看護学講座 第2版 スーディK和代監修 ナカニシヤ出版 2019		
参考文献		

講義内で紹介する。

履修条件・留意事項等

在宅療養に関心を持ち、学びを深めること。評価物に不正があった場合、D判定となることがある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 地域・在宅看護論					
科目名		地域看護学の基礎				ナンバリング	3620
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	鹿内 あずさ						

授業の位置づけ

本学のディプロマポリシー「健康状態やその変化に応じた看護について必要となる科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有した人材(知識・技能)」に関連し、日本における現状の保健行政を理解し、地域看護の基本を学ぶ科目である。在宅看護学の基礎・在宅看護学の展開Ⅰ・地域包括ケアシステム論・家族看護学・在宅看護学の展開Ⅱの科目と関連し、在宅看護学実習等の専門科目の基礎となる。看護学の理論や科学的根拠に基づき、人々の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得する科目である。

授業の概要

地域に暮らす住民を対象とした健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、保健行政の基本的知識をもとに、地域で生活するすべての人々の健康が向上するために地域で展開される看護(行政看護・産業看護・学校看護・訪問看護)を理解する。地域看護の対象である個人・家族・集団に対して、社会の変化に伴う健康への影響を捉えた健康の保持・増進と疾病予防のための援助(健康診査・健康相談・健康教育)、地域を基盤とした健康課題の組織的な解決方法を学ぶ。

到達目標

1. 地域看護の定義、対象、機能の特徴、歴史的変遷を理解できる
2. 地域看護の対象の特性を理解できる
3. 保健師をはじめとする地域の看護職の基本的特性と専門能力を理解できる
4. 地域看護の実践と技術の特徴について理解できる
 - 1) 個人・家族・グループへの支援技術
 - 2) 組織への支援技術
 - 3) 地域全体への支援技術
5. 地域看護の倫理的原則を理解できる

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物、及び、視聴覚教材を用いて講義形式で進める。
理解度を確保するために毎回の講義において課題を示し、学生自身が学んだ内容について記述する。
毎回の講義で、学生が記述したコメントシートを活用し、授業の振り返り、疑問の解決を図る。

ICT活用

Google classroomを活用し、加えて、視聴覚教材を用いて、地域看護活動の実践を学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

看護師・保健師の国家資格を有し、訪問看護師としての実践経験や地域看護専門看護師としての実践経験を講義に活用する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義中質問・意見に対する返答を行い、毎回の学びのコメントシートから学びの共有ができるようフィードバックを行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. 地域看護とは 1) 健康な生活 2) 地域看護の目的 3) 地域看護の定義と機能 4) 保健師助産師看護師法 5) 保健師の就業状況	シラバス、1年前期に学習した在宅看護学の基礎の講義資料を読む(60分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
第2回	2. 地域看護を支える理念 1) ノーマライゼーション 2) 基本的人権 3) アドボカシーと権利擁護 4) 自立支援と自己決定 5) プラマリ・ヘルスケア 6) ヘルスプロモーション DVD:ヘルスプロモーションの実現に向けて	前回の講義資料を読む(60分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
第3回	3. 地域看護の歴史 1) 日本の地域看護の歴史 2) 保健師資格 3) 地域看護教育の歴史	前回の講義資料を読む(60分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			

第4回	確認テスト①とフィードバック 4. 地域看護の対象 1) 地域で生活する人々の健康に関連する要因 〔社会的要因、環境要因〕 2) 地域看護活動の対象 〔コミュニティ、システムとしての地域社会〕 DVD:地域看護活動	前回の講義資料を読む(60分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
第5回	5. 地域看護の実践と技術 1) 保健師の活動の特性 2) 基本的な実践プロセス 3) 個人・家族・グループを支援する技術 DVD:健康相談	前回の講義資料を読む(60分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
第6回	確認テスト①のフィードバック 6. 地域看護の実践と技術(1) 1) 人々(集団)への支援技術 〔健康診査、健康相談、健康教育〕 DVD:健康教育	前回の講義資料を読む(60分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			

第7回	確認テスト② / 【課題の提示】 7. 地域看護の実践と技術(2) 1) 地域を構成する組織への支援 〔支援の目的と特徴〕 2) 地域住民との協働による地域づくり 3) 地域全体への看護技術 〔地域アセスメントの目的、地域の健康課題の 明確化、計画、実施、評価〕 4) 地域アセスメントに用いる理論・モデル DVD: 地域アセスメント	前回の講義資料を読む(60分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
第8回	確認テスト②のフィードバック 【課題レポート提出】 8. 地域看護における倫理 1) 看護者の倫理綱領 2) 地域看護の倫理的実践における原則 〔人権、アドボカシー、アカウンタビリ ティ、他職種との協働、公正、守秘義 務、専門職としての研鑽〕 3) 保健師の基本的能力と専門能力	前回の講義資料を読む(60分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	40	課題(20点)、参加状況・態度・毎回のコメントシートの記載内容(20点)を評価する。
その他	60	確認テスト(60点:2回 各30点)にて評価する。
教科書		
なし。		
参考文献		
講義内で紹介する。		
履修条件・留意事項等		

地域保健に関心をもって学ぶこと。評価物に不正行為が認められた場合はD判定となることがある

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 地域・在宅看護論					
科目名		在宅看護学の展開 I				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	小橋 拓真、鹿内 あずさ						
授業の位置づけ							
本学科のDPである「看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探求能力・問題解決能力を有している。」「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。」「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任感を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。」に関連した科目である。在宅看護学の基礎で学んだ内容(在宅看護の目的、役割、制度、及び、在宅における対象者と家族の健康状態や生活環境の捉え方、保健医療福祉の専門職との連携)を基盤に、事例をもとに在宅看護過程の基礎を学ぶ科目である。在宅看護学の基礎での学びをもとに、在宅看護過程を展開することは、在宅看護技術を学ぶ在宅看護学の展開Ⅱにつながり、地域・在宅看護論実習における基礎となる。							
授業の概要							
地域で過ごす対象の看護過程の展開に必要な基本的な能力を養うため、住み慣れた地域において、様々な健康レベルにある対象者(在宅療養者、家族等)が主体的に生活を送り、QOLの向上に必要な看護援助、及び、人生の最終段階における看護を理解する。在宅という場の特徴、日常生活行動に対する援助(環境調整・食事・排泄・活動と休息・清潔・衣生活・安全と安楽)、及び、在宅療養者と家族の意思を尊重した看護を学ぶ。							
到達目標							

1. 在宅療養者,及び,家族に対する看護展開の基礎を理解することができる
- 1) 在宅療養者, 及び, 家族の健康状態と日常生活についてアセスメントできる.
- 2) 在宅療養者, 及び, 家族の健康維持向上やセルフケア向上を目指した看護援助について考えることができる.
- 3) 在宅療養者, 及び, 家族のニーズを叶えるために必要な制度や社会資源について, 事例の看護過程の展開を通して, 考えることができる.
2. 事例の看護過程の展開を通して,倫理的配慮について考えることができる.
3. 在宅看護における緊急時, 及び, 災害時の対応, リスクマネジメントについて考察できる.

授業の方法

PowerPointと配布印刷物・視聴覚教材(DVD)を用いた講義形式とグループ演習で進める. 事例を用いて在宅看護過程に取り組む. 在宅看護過程では, 自己学習, グループディスカッション, グループ発表を行う. 講義後, 学生は振り返りシートに学んだことや感じたことなどを記述し提出する. 次回の授業の際に共有された内容をもとに学びを深める.

ICT活用

なし.

実務経験のある教員の教育内容

- ・脳神経外科, 及び, 精神科特殊疾患病棟に計5年間の勤務経験を活かして講義を行う(小橋).
- ・腎センターのICU病棟, 整形外科・内科病棟に計5年間の勤務経験, 及び, 訪問看護ステーションにおける計5年間の経験を活かして講義を行う(鹿内).

課題に対するフィードバックの方法

講義ごとに提出した振り返りシートをもとに, フィードバックし, 学びを共有し, 自己学習に活かせるようにする.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. 在宅看護とは【講義】(鹿内) 1) 在宅看護の目的と理念 2) 在宅看護が展開される場の特性 3) 在宅看護における信頼関係を構築するためのコミュニケーション	○教科書の関連する内容を読む ○在宅看護学概論を復習する(45分)	講義資料, 教科書の内容を復習する(45分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第2回	2. 在宅療養者を支える諸制度【講義】(小橋) 1) 訪問看護制度について 2) 介護保険制度について 3) 医療保険制度について	○教科書の関連する内容を読む (45分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する. (45分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第3回	<確認テスト①:第1回～第2回> 3. 在宅看護過程【講義】(小橋) 1) 在宅看護過程の特徴 2) 在宅における看護支援を支えるICF(国際生活機能分類)の考え方	○教科書の関連する内容を読む (45分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する. (45分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第4回	<確認テスト①のフィードバック> 4. 在宅看護過程の展開【講義】(小橋) 1) 情報収集 2) アセスメント(4側面) 3) 全体像 4) 看護計画	○教科書の関連する内容を読む (45分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する. (60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第5回	5-1在宅看護過程(事例1)【演習】(小橋・鹿内) 事例1(難病療養者と家族):4側面それぞれにアセスメントの視点ごとに情報を整理する(グループ学習).	○在宅看護過程の基本的な考え方(第3～5回)の講義資料を確認する (30分)	○演習で進めた看護過程について, 加筆修正を進める. (90分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第6回	5-2在宅看護過程(事例1)【演習】(小橋・鹿内) 事例1(難病療養者と家族):アセスメントの視点ごとに整理した情報を関連づけて, 解釈分析を行う. 解釈分析の結果, 療養上の課題, 援助内容を記述する(グループ学習).	○在宅看護過程の基本的な考え方(第3～5回)の講義資料を確認する (30分)	○グループワークでの気づきや学びなどを踏まえ, 事例1のアセスメント及び療養上の課題と援助内容を修正する. さらに目標の設定と看護計画を立案する. (60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第7回	5-3在宅看護過程(事例1)【演習】(小橋・鹿内) 事例1(難病療養者と家族):療養上の課題及び、援助内容について共有する(グループ発表). 【事例提出:事例1の記録「4側面からの療養上の課題について受講後に提出する」】	○事例1のアセスメントや全体像を完成させ、看護計画の目標を設定し、援助内容について具体的な方法を考える (60分)	○グループワークでの気づきや学びなどを踏まえ、事例2の看護計画を復習する. (60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第8回	6.在宅における小児療養者に対する看護の実際 【講義】(小橋・鹿内)ゲストスピーカー:松木 由理 先生(訪問看護ステーションくまさんの手) ・小児療養者、及び、家族の特徴、対象者の理解、援助内容について 【振り返りシート①:受講後の振り返りを期日までに提出する】	○在宅看護学の展開Ⅰの講義・演習内容を復習する. (60分)	○講義資料の復習をする. (30分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第9回	<事例1の「4側面からの療養上の課題について」受講後に提出> 5-4在宅看護過程(事例1難病療養者と家族に対する看護「4側面からの療養上の課題について」)のフィードバック【講義】(小橋) 7-1在宅看護過程(事例2)【演習】(小橋・鹿内) 事例2(終末期にある療養者と家族):4側面それぞれにアセスメントの視点ごとに情報を整理する(グループ学習).	○在宅看護過程の基本的な考え方(第3～5回)の講義資料を確認する (30分)	○演習で進めた看護過程(について、加筆修正を進める. (90分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第10回	7-2 在宅看護過程(事例2)【演習】(小橋・鹿内) 事例2(終末期にある療養者と家族):アセスメントの視点ごとに整理した情報を関連づけて、解釈分析を行う。解釈分析の結果、療養上の課題と援助内容について記述する(グループ学習)。	○事例2のアセスメントや全体像を完成させ、看護計画の目標を設定し、援助内容について具体的な方法を考える。(60分)	○グループワークでの気づきや学びなどを踏まえ、事例2のアセスメント及び療養上の課題と援助内容を修正する。さらに目標の設定と看護計画を立案する。(60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第11回	<事例2の「4側面からの療養上の課題について」受講後に提出> 7-3在宅看護過程(事例2)【演習】(小橋・鹿内) 療養上の課題と援助内容について共有する(グループ発表)。 【事例提出:事例2の記録「4側面からの療養上の課題について」受講後に提出する】	○事例2の看護計画について、療養者と家族が望む暮らしを支える援助内容になっているか再考し、修正を行う。(60分)	○グループワークでの気づきや学びなどを踏まえ、事例2の看護計画を復習する。(60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第12回	8. 在宅における終末期ケア【講義】(小橋・鹿内)ゲストスピーカー:樋口 秋緒 先生(訪問看護ステーション「はあと」) 1)終末期にある療養者の特徴、がんの末期療養者などの終末期の療養者と家族への看護について 【振り返りシート②:受講後の振り返りを期日までに提出する】	○在宅看護学の展開 I の講義・演習内容を復習する。(60分)	○講義資料の復習をする。(30分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第13回	9.在宅における精神療養者に対する看護の実際 【講義】(小橋・鹿内) ゲストスピーカー: 谷藤 伸恵 先生(訪問看護ステーションやまのて) 1)精神療養者の特徴, 対象者の理解について 【振り返りシート③: 受講後の振り返りを期日までに提出する】	○精神看護学の教科書及び講義資料の復習 (60分)	○講義資料の復習をする. (30分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第14回	<確認テスト②: 第3回～第4回> 7-4在宅看護過程(事例2終末期にある療養者と家族に対する看護「4側面からの療養上の課題について」)のフィードバック【講義】(小橋)	○在宅看護学の展開Ⅰの講義・演習内容を復習する. (60分)	○講義資料の復習をする. (30分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第15回	<確認テスト②のフィードバック> 10.在宅看護におけるリスクマネジメントと倫理的課題, まとめ【講義】 【課題レポート「様々な健康レベルにある療養者や家族のその人らしい暮らしを支える在宅看護で大切なこと」を期日までに提出する】	○在宅看護学の展開Ⅰの講義・演習内容を復習する. (120分)	○講義資料の復習をする. (60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施せず.
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○確認テスト2回:50%(各25%) ○看護過程2事例:20%(各10%) ○振り返りシート3回:12%(各4%) ○課題レポート1回:10% ○出席を含む講義・演習への参加態度および、コメントシートの記載:8%
その他	0	なし.
教科書		
①臺 有桂・石田 千絵・山下 留理子: 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア,メディカ出版,2019. ②臺 有桂・石田 千絵・山下 留理子: 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術,メディカ出版,2022.		
参考文献		

適宜, 示す.

履修条件・留意事項等

・評価物において, 不正行為が認められた場合, D判定になることがある.

備考欄

なし.

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 地域・在宅看護論					
科目名		在宅看護学の展開Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小橋 拓真、鹿内 あずさ						
授業の位置づけ							
DPの「看護過程の展開や臨床判断に必要な問題探求能力・問題解決能力を有している。」「健康状態やその変化に応じた看護に必要なとなる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。」「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任感を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。」に関連した科目である。 「在宅看護学の基礎」「在宅看護学の展開Ⅰ」を学んだ内容を基盤に、在宅看護学の理論や科学的根拠に基づき、疾病や障がいを抱えながらも、在宅でその人らしい生活を支援するための生活援助技術や基本的な医療的ケア技術を学ぶ科目である。 在宅看護援助技術は、既習の「家族看護学」や「地域包括ケアシステム論」と関連させて療養者と家族の個別性を捉えた援助であり、「地域・在宅看護論実習」における基礎となる。							
授業の概要							
地域で過ごす対象の看護過程の展開に必要な基本的な能力を養うため、在宅という看護実践の場の特徴を踏まえ、在宅療養者と家族が必要とする日常生活行動の援助、及び、医療的ケアを理解し、在宅療養を支える態度、対象者と家族に対する説明とプライバシーの保護、安全・安楽の確保、自立支援を学ぶ。							
到達目標							

1. 在宅療養者が必要としている生活援助について考察できる。
2. 在宅療養者が必要としている医療的ケアについて理解できたことを発言できる。
3. 在宅療養者の家族が必要としている生活援助について考察できる。
4. 在宅療養者の家族が必要としている医療的ケアについて考察できる。
5. 在宅療養者と家族に必要な在宅看護技術を異なる疾患の事例に対して実施できる。

授業の方法

PowerPointと配布印刷物・視聴覚教材(DVD)を用いた講義形式とグループでの演習を行う。講義で学んだ知識をもとにグループ演習を行う。グループ演習では、在宅看護技術、在宅の事例を用いたグループワーク、発表を行う。毎回の講義、及び演習において課題を示し、学生自身が学んだ内容について確認する。

ICT活用

Google classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

- ・脳神経外科、及び、精神科特殊疾患病棟に計5年間の勤務経験を活かして講義を行う(小橋)。
- ・腎センターのICU病棟、整形外科・内科病棟に計5年間の勤務経験、及び、訪問看護ステーションにおける計5年間の経験を活かして講義を行う(鹿内)。

課題に対するフィードバックの方法

講義ごとに提出した振り返りシートをもとに、フィードバックし、学びを共有し、自己学習に活かせるようにする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. 訪問看護の基本的態度と面接技術について【講義】(鹿内) 1) 在宅看護場面におけるコミュニケーション技術 2) 在宅看護における看護者に求められる態度	○教科書の関連する内容を読む ○以下を復習する 在宅看護学概論, 在宅看護学の展開 I (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第2回	2.呼吸に関する在宅看護技術(在宅人工呼吸療法)【講義】(小橋) 1) 呼吸を案案にするための看護とは 2) 在宅人工呼吸療法(TPPV/NPPV), 在宅酸素療法(HOT)についての手技や看護 3) 在宅における気管内吸引についての手技や看護	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第3回	3.在宅療養者と家族に対する看護過程【講義】(小橋) 1) アセスメント/療養上の課題 / 全体像 / 看護計画 事例1「在宅における難病療養者と家族」配布 事例2「在宅における小児療養者と家族」配布	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		

第4回	4.在宅における呼吸ケア(NPPV・TPPV・HOT)【演習】(小橋・鹿内) ※フィリップ・レスピロニクス 1)在宅における呼吸ケアで利用される機器の使い方と呼吸ケアの看護について	○在宅看護学の展開Ⅱの第2回講義内容を復習する. ○提示した事例を読み込む(90分)	○演習で学んだ内容と技術演習の自己評価をする. ○在宅看護学の展開Ⅰの復習をした上で,事例の看護過程に取り組む(90分)
担当教員	小橋 拓真		
第5回	5.栄養に関する在宅看護技術【講義】(小橋) 1)食ることへの看護とは 2)在宅における経口摂取の援助方法について 3)在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法における看護	○教科書の関連する内容を読む(90分)	○講義資料,教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第6回	6.在宅における栄養のケア(在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法)【演習】(小橋・鹿内) 1)胃ろうカテーテルの構造について,経管栄養法の手技と看護について 2)CVポートの構造や,中心静脈栄養の手技と看護について 3)経口摂取で使用する自助具について	○在宅看護学の展開Ⅱ第5回の講義内容を復習する. ○演習内容について,目的・方法・手順・留意点について学習する.(90分)	○演習で学んだ内容を整理し,技術演習の自己評価を行う(60分).
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第7回	<確認テスト①:第1回～第6回> 7.清潔に関する在宅看護技術【講義】(小橋) 1)清潔への援助が必要な療養者とは 2)在宅における清潔を保つための援助技術	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料,教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第8回	8.在宅における清潔のケア【演習】(小橋・鹿内) 1)在宅における清潔援助に利用する物品の工夫(ケリーパッド,シャワーボトル)について 2)清潔援助で使用する福祉用具の使い方について	○在宅看護学の展開Ⅱ第7回の講義内容を復習する. ○演習内容について,目的・方法・手順・留意点について学習する. (90分)	○演習で学んだ内容を整理し,技術演習の自己評価を行う(60分).
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第9回	<確認テスト①のフィードバック> 9.排泄に関する在宅看護技術【講義】(小橋) 1)排泄への援助が必要な療養者とは 2)在宅における排泄援助(導尿・留置カテーテル・人工肛門)について 3)排泄に関する福祉用具について	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料,教科書の内容を復習する(60分) ○小テストでできなかった箇所を復習する(60分).
担当教員	小橋 拓真		

第10回	10.在宅における排泄ケア(人工肛門造設者への援助)【演習】(小橋・鹿内) 1)人工肛門のモデルを用いて、パウチ交換の方法について	○在宅看護学の展開Ⅱ第9回の講義内容を復習する。 ○演習内容について、目的・方法・手順・留意点について学習する。 (90分)	○演習で学んだ内容を整理し、技術演習の自己評価を行う(60分)。
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第11回	11.在宅における薬物療法【講義】(小橋) 1)薬物療法の必要な療養者とは 2)在宅における服薬管理、疼痛管理の看護について 3)インスリン自己注射をしている療養者の看護について	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料、教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第12回	12.在宅看護におけるリスクマネジメント【講義】(小橋・鹿内) ゲストスピーカー樋口 秋緒 先生 1) 病院とは異なる在宅でのリスクとは何か 2) 療養者が安全・安楽に生活するためのリスク管理の重要性 3) 療養者に必要な医療者としてのリスク管理の実際 [課題レポート①:受講した内容を振り返り、在宅看護のリスクマネジメントについてレポート提出]	○これまでの在宅看護学の展開Ⅱの講義や演習内容を復習し、事例の看護過程に取り組む。 (90分)	○講義資料、教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第13回	<確認テスト②:第7回～第12回> 13.在宅療養者と家族に対する看護過程【演習】(小橋・鹿内) 1)事例について、各自で進めた看護過程を持ち寄り、グループディスカッションを行う。	○これまでの在宅看護学の展開Ⅱの講義や演習内容を復習し、事例の看護過程に取り組む。(90分)	○グループ内でディスカッションした看護過程を修正し、提出する。(90分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第14回	<確認テスト②のフィードバック> 14.在宅療養者と家族に対する看護過程【演習】(小橋・鹿内) 1)事例について、グループディスカッションで、共有した内容を発表する。 【2事例 提出】※原則、提出期限延長は認めない 受講後、事例1「在宅における難病療養者と家族」提出 受講後、事例2「在宅における小児療養者と家族」提出	○在宅看護学の展開Ⅰを復習する。 ○教科書の関連する内容を読む(90分)	○グループ内でディスカッションした看護過程を修正し、提出する。(90分) ○小テストでできなかった箇所を復習する(60分)。
担当教員	小橋 拓真		
第15回	<課題(事例1・事例2)の提出> 15.在宅における人生の最終段階における看護と意思決定支援【講義】(鹿内) 1)在宅看護における意思決定支援・人生の最終段階における支援 2)アドバンス ケア プランニング(ACP)とは 3)在宅看護における課題 / まとめ [課題レポート②:受講した内容を振り返り、在宅療養者と家族を支えるためにどのような看護が大切かについてレポート提出]	○在宅看護学の展開Ⅰの復習 ○教科書の関連する内容を読む(60分) ○在宅看護学の展開Ⅱの講義・演習内容を復習する。(120分)	○在宅看護学の展開Ⅰの講義資料や教科書の内容を復習する(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施せず.
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○確認テスト2回:50%(各25%) ○看護過程2事例:20%(各10%) ○振り返りシート3回:12%(各4%) ○課題レポート1回:10% ○出席を含む講義・演習への参加態度および、コメントシートの記載:8%
その他	0	なし.
教科書		
①臺 有桂・石田 千絵・山下 留理子: 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア,メディカ出版,2019. ②臺 有桂・石田 千絵・山下 留理子: 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術,メディカ出版,2022.		
参考文献		

適宜, 示す.

履修条件・留意事項等

・評価物において, 不正行為が認められた場合, D判定になることがある.

備考欄

なし.

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 地域・在宅看護論					
科目名		家族看護学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	鹿内 あずさ						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー本学のディプロマポリシー「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有した人材(知識・技能)」と関連し、地域看護・在宅看護の基本を学ぶ科目である。在宅看護学の基礎・地域看護学の基礎・在宅看護学の展開Ⅰ・在宅看護学の展開Ⅱ・地域包括ケアシステム論の科目と関連し、地域・在宅看護論実習等の専門科目の基礎となる。							

- 1.看護の対象としての家族の特性を理解できる
- 2.家族をひとつの単位として捉える意義を理解できる
- 3.家族看護理論・モデルの概要を理解できる
- 4.ジェノグラム・エコマップを描くことができる
- 5.家族看護のプロセスを理解できる
- 6.家族のライフステージ別の看護について理解できる

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物、視聴覚教材を活用し、講義形式で進める。理解度を確認するために毎回の講義において課題を示し、学生自身が学んだ内容について記述する。
毎回の講義で、学生が記述したコメントシートを活用し、授業を振り返り、疑問の解決を図る。

ICT活用

Google classroomを活用し、加えて、視聴覚教材を用いて家族アセスメントの実際を学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

医療機関・訪問看護ステーション・介護保険事業所における実践内容を活かした講義資料、および、地域看護専門看護師としての地域における活動経験を活かした講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義中に質問・意見に対する返答を行い、学びの共有ができるようなフィードバックを行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. 家族看護学とは 1) 家族看護学の発展と動向 2) 家族の定義, 及び, 家族看護の定義 2. 家族とは何か 1) 我が国の家族の変遷 2) 看護の対象としての家族 3) 家族の形態(かたち) 4) 家族の機能	テキストのp.2-5, 39-45を読む (90分)	講義資料、テキストを用いて復 習する(90分)
担当教員			
第2回	5) 家族の構造 6) 家族の意思決定 7) 家族の生活と地域社会との関係 8) ジェノグラムとエコマップ <課題①:ジェノグラムとエコマップ>	テキストのp.27-28, 101を読む (90分)	講義資料とテキストを用いて復 習する(90分)
担当教員			
第3回	<課題①のフィードバック> 3. 看護学における家族の理解 1) 健康な家族 2) 機能している家族の構造 3) 家族のセルフケア機能	前回の講義資料、テキストp.53- 58を読む(90分)	講義資料とテキストを用いて復 習する(90分)
担当教員			

第4回	4. 家族看護学の基本概念 1) 家族看護学の概念枠組 2) 看護の目的と対象 3) 1単位としての家族 4) 家族を理解する場 5) 看護者の姿勢	前回の講義資料を読む(60分)	講義資料とテキストを復習する(120分)
担当教員			
第5回	5. 家族を理解するための理論・モデル 1) 家族発達理論 2) 家族システム理論 3) 家族ストレス対処理論 4) フリードマン家族アセスメントモデル 5) カルガリー家族アセスメントモデル 6) 家族エンパワーメントモデル 7) 鈴木・渡辺の家族アセスメントモデル	前回の講義資料,テキストp.9-26を読む(60分)	講義資料とテキストを用いて復習する(120分)
担当教員			
第6回	<確認テスト①フィードバック> 6. 家族看護過程(1) 1) 家族看護の展開 2) 家族アセスメントの構造 3) 情報収集とアセスメント 4) ニーズと介入の判断 5) 家族看護計画 6) 家族看護計画の評価	テキストのp.93-104を読む(60分)	講義資料とテキストを用いて復習する(120分)
担当教員			

第7回	7. 家族看護過程(2) [ゲストスピーカー 川村真澄先生(家族支援看護専門看護師)] 課題① レポート「家族看護の実際を学んで」	前回の講義資料を読む(60分)	資料をもとに講義内容を復習する(120分)
担当教員			
第8回	<4～6:確認テスト②(20分)/確認テスト②フィードバック> 8. まとめ / 課題② レポート「家族看護学を学んで」	前回までの講義資料、テキストの該当部分を読む(60分)	全ての講義資料、及び、配布資料、テキストを復習する(120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	課題(2回:各20%), 授業への参加態度,及び,コメントシートの記載内容(20%)により評価する。
その他	40	確認テスト(2回: 各20%)により評価する。
教科書		
家族看護学 改定第3版 山崎あけみ 原礼子 南江堂 2022		
参考文献		
講義内で提示する。		
履修条件・留意事項等		

テキストでの予習をして臨むこと。評価物に不正行為があった場合は、D判定となることがある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護研究 I				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐藤 洋子						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる」を目指し、看護学における基本的な研究プロセスに関する知識を習得する科目である。この知識に基づき「看護研究Ⅱ」で発展的な学習につなげる。

授業の概要

看護学と医療・保健の質向上に貢献できる研究能力を養うため、看護活動を効果的に展開するためには、研究的視点を持ち看護の実践知を論理的・体系的にとらえ、看護実践の改善に役立てていくが必要になる。本科目では、看護における研究の意義を理解した上で、実際に看護研究のプロセスを理解する。また、看護研究に必要な研究方法、研究デザイン、研究倫理について学び、研究計画書を作成する基礎的知識を習得する。

到達目標

1. 看護学における研究の役割を理解することができる。
2. 研究のプロセスが理解できる。
3. 看護研究における今後の課題を考えることができる。
4. 批判的に文献検討を行う視点を身につけることができる。

授業の方法

本科目は、講義形式と学生同士のディスカッションを活用して学習する。教材は、教科書と担当教員が作成した資料である。理解度を確認するための小テスト並びに課題レポートの提出によって総合的に評価する。理解を深めるため小テストを実施する。また、適宜レポートおよび課題を提示する。

ICT活用

Google Classroomを活用して、レポート提出や準備学習・事後学習を行い自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

本講義は実務、研究の経験がある教員が授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト・課題レポートを実施した後、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1.コースオリエンテーション 2.看護研究Ⅰの位置づけとシラバスの説明	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 シラバスを読んでおく。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第2回	1.看護における研究の役割 2.研究の目的と意義、研究プロセス	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 テキスト:第1章 pp.2-21	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第3回	1.研究対象者の権利と倫理審査体制 2.研究における倫理的配慮 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 等	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 テキスト:第1章 pp.19-30,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員			

第4回	1.研究課程の概要 2.研究デザイン(量的研究、質的研究、他)	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト:第2章 pp.31-41, 第10章 pp.221-240,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第5回	1.文献検討の方法 文献検討の目的、方法、文献の分類、研究論文の形式、国内外のデータベース等	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト:第3章 pp.43-63,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第6回	1.文献検索の方法 データベース「医学中央雑誌」を中心とした検索方法、他(図書館司書)	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト:第3章 pp.43-63,他 本学図書館のホームページ https://libro.dobunkyo.ac.jp	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			

第7回	課題1:文献検索および文献クリティーク検討のレポート文献検索レポート	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第8回	1.研究デザインとクリティーク	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト:第4章 pp.43-63,他、第5章 pp.81-117,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第9回	1.研究計画書の作成方法	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト:第6章 pp.120-134,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			

第10回	2.データ収集と分析	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト: 第7章 pp.135-170,他、第8章 pp.171-1202,他、第10章 pp.221-240,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第11回	1.研究成果の公表について 2.プレゼンテーション、論文の作成の方法	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト: 第9章 pp.207-220,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第12回	1.研究結果の活用 1: 文献クリティーク 2.チェックシートに基づいて文献をクリティークする	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員			

第13回	1.研究結果の活用 2:文献クリティーク 2.チェックシートに基づいて文献をクリティークする	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第14回	1.課題2:研究計画書作成 ※確認テスト	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
第15回	1.看護研究の今後の課題、まとめ	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 テキスト:第12章 pp.265-276,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義内での確認試験1回(60点) 課題1レポート:20点 課題2レポート:20点
その他	0	
教科書		
南 裕子・野嶋佐由美編/看護における研究第2版/日本看護協会出版会		
参考文献		

講義内で提示する。

履修条件・留意事項等

講義中は能動的な学修姿勢で臨むこと。
他学生の学びを妨げる行為は慎むこと。
講義中の私語は厳禁です。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護臨床判断				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 洋子、木口 幸子、鹿内 あずさ						
授業の位置づけ							
本科目は看護学の理論や科学的根拠に基づき、ディプロマポリシー「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している」に関係する。また、本科目は看護専門職の人材の育成に関係し、「看護起業論」「リスクマネジメント論」「看護マネジメント論」国際看護学」「災害看護学」を含む対象者の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得するための統合科目として位置づけられる。							
</							

- 1.看護臨床判断の必要性と関連する基本的な概念を理解する。
- 2.看護臨床判断モデルが理解できる。
- 3.看護実践における臨床判断の思考プロセスを習得する。
- 4.臨床判断の4つのフェーズが理解できる。
- 5.臨床判断のフェーズに基づき、事例を活用して実施ができる。

授業の方法

授業方法はパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材(DVD)などを用いたオムニバス講義形式とする。理解を深めるため、適宜レポートおよび課題を提示する。グループワークを実施し互いの考えを共有する。

ICT活用

Google Classroomを活用して、情報共有、レポート提出や準備学習・事後学習を行い自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

本講義は豊富な実務経験を有する看護師有資格教員が授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト、グループワーク報告後、テスト並びに課題の講評・解説を適宜行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1.コースオリエンテーション 2.看護を取り巻く現状と臨床判断能力 3.臨床判断・臨床推論の定義	・シラバスを読んでおく。 ・臨床判断の定義について看護過程と関係からまとめておく。(90分)	・講義演習日程を再確認し、関連する科目について復習する。 ・看護を取り巻く現状と、臨床判断の重要性についてまとめておく。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第2回	1.タナーの理論と臨床判断モデル 2.看護臨床判断のための思考プロセス	・タナーの理論について、検索し一読しておく。 ・臨床判断モデルについて確認しておく。(90分)	・講義資料や関連するテキストを読み、自分の考えをまとめる。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第3回	1. 臨床判断の概念 2. 臨床判断モデルの4つのフェーズ	・第1回から2回の講義資料を復習する(60分)	・講義資料を復習する(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		

第4回	1.臨床判断モデルの活用 2.臨床判断を促進する方法	・臨床判断モデルについて復習する(60分)	・講義資料を復習する(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第5回	1.臨床判断を促進するモデルの活用(1) 講義(20分) 事例を通してグループでの検討(40分)発表(20分) フィードバック(10分)課題(個人)の提示	・講義資料を復習する(60分)	・グループで話し合った内容と自身の学びについてまとめる。 ・課題レポートの作成(指示された日時までに提出する)(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第6回	臨床判断の4つのフェーズについて再確認(講義) ・前回までの復習 ・臨床判断の【気づく】【解釈】【反応】【省察】の4つのフェーズについて再確認 ・今後の進め方	・前回までの講義について復習する(60分)	・4つのフェーズについて復習する(60分)
担当教員	木口 幸子		

第7回	(講義・演習) ・【気づく】【解釈】【反応】【省察】とは(講義20分) ・事例の背景と直前情報を読み、【気づく】【気づく】【解釈】【反応】【省察】について、グループで話し合う。(40分) ・発表(20分)・講評(10分)	・【気づく】【気づく】【解釈】【反応】【省察】について復習・予習をしてくる(60分)	・【気づく】【気づく】【解釈】【反応】【省察】について、演習を通し、個人課題①を提出(90分) ・グループ分提出
担当教員	木口 幸子		
第8回	・臨床判断の【気づく】【解釈】【反応】【省察】の4つのフェーズ まとめ ・レポート説明	・まとめ ・レポート説明	・個人課題レポート、グループ課題レポート作成(90分)
担当教員	木口 幸子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各担当教員が実施する授業中の小テスト、個人並びにグループ課題レポート提出の合計により評価する。各担当教員より講義時に、テストやレポートの評価割合(%)を明示する
その他	0	
教科書		
既得の教科書を参照し、特に指定しない。 必要時資料を提示する。		
参考文献		
別途講義中に紹介する。		
履修条件・留意事項等		

講義中は能動的な学修姿勢で臨むこと。
他学生の学びを妨げる行為は慎むこと。
講義中の私語は厳禁。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護起業論				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	高岡 哲子						
授業の位置づけ							
本科目は、「看護の統合と実践(総合講座)」に位置づけられ、ディプロマポリシーの「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる【知識・技能】」「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる【思考・判断・表現】」につながる。「キャリア教育」に位置づけられている「キャリア入門」などを基盤として学習する。これらの学習により、卒業後の進路の幅を広げられるように看護職者が起業する際に必要な知識と考え方を学ぶ。							

- ・看護師が病院以外で活躍する方法を知り、起業の選択肢を持つことができる。
- ・自分のスキルの価値を知り、実際に収益につなげる方法を考えることができる。
- ・事業の立ち上げ方や継続の仕方を学び、今後のキャリア設計に応用することができる。

授業の方法

本科目は、講義・事例紹介・グループワーク・ディスカッションを組み合わせ、実践的かつ参加型の学習を重視する。看護師の多様なキャリアや起業の可能性を学びながら、ワークを通じて自分のスキルを活かせる方法を考える。特に「自分ごと」として捉えられるよう、未来のキャリア設計に役立つ内容を提供する。最終回では5年後の自分を考えてディスカッションすることで、主体的なキャリア形成のきっかけをつくる。

ICT活用

この科目では、ICTを活用して学習をサポートする。資料はGoogle Classroomに掲載し、学生が必要なときに閲覧できるようにする。ワークシートの提出はGoogleフォームを利用し、簡単に提出できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

総合病院で約7年間勤務し、臨床経験を積んだ実務家教員として、看護の現場で培った知識と実践力を活かし、看護師の多様なキャリアや起業の可能性について実践的に伝える。

課題に対するフィードバックの方法

本授業では提出された課題に対し、共通フィードバックを中心に実施し、全体の理解を深める。具体的には、授業内で優れた回答やよくある誤解を共有し、解説を行うことで全体の学習効果を高める。また、個別のフィードバックは、単位取得が危うい場合や、課題の理解が大きくずれている場合に実施する。該当する学生には、具体的な改善点を提示し、学習の方向性を修正できるよう支援する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション(講義・GW) 内容:起業の概念を身近に感じられるように、看護師の多様な働き方を紹介し、実際の起業事例を学ぶ。ディスカッションやワークを通じて、病院以外で活躍する可能性を考え、自身のスキルを活かす視点を養う。 行動目標: ・病院以外の看護師の働き方を知ることができる。 ・自分の看護スキルを活かせる可能性に気づくことができる。	・シラバスを熟読する。 ・「起業」と聞いて思い浮かぶものを3つ挙げる。 ・看護師が病院以外で働く方法を知っているか考える。 ・身の回りで「看護の知識があれば解決できそうな困りごと」を1つ探す。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。「もし自分が何か起業するとしたら？」のアイデアを簡単にまとめる(100字程度)。(90分)
担当教員			
第2回	お金になる看護のアイデアを探せ！(講義・GW) 内容:ビジネスは「人の困りごとを解決すること」と理解し、看護スキルを活かした副業や起業の事例を紹介する。身の回りで「お金を払ってでも解決したい困りごと」を考え、看護のできるビジネスアイデアを見つけるワークを行う。 行動目標 ・「お金になる看護のアイデア」が身近にあることを知る。 ・困りごとを解決する視点で、ビジネスの可能性を考えられるようになる。 ワークシート	・「最近困ったこと」「お金を払ってでも誰かに助けてもらいたいこと」を3つ考える。 ・看護の知識があれば解決できそうな問題がないか身の回りを観察する。(90分)	・「自分の看護スキルを活かしてできそうな仕事」を1つ考え、簡単にまとめる(100字程度)。 ・看護師として働く中で「困りごとを解決する視点」をどのように活かせるか考える。(90分)
担当教員			
第3回	あなたの看護スキル、1時間いくら？(講義・GW) 内容:看護師の時給を病院勤務とフリーランスで比較し、スキルの価値を考える。実際に看護スキルを活かして副業・起業した事例を紹介し、「自分ならどんなサービスを提供できるか？」をワークで考える。 行動目標: ・看護師のスキルが価値を持ち、ビジネスにつながることを知る。 ・自分のスキルを活かしてできる仕事の可能性を考えられるようになる。 ワークシート	・看護師の時給(バイト・正社員など)を調べ、自分が知っている範囲で比較してみる。 ・「自分が持っているスキルや経験」で、お金をもらえる可能性があるものを3つ考える。(90分)	・自分のスキルを使って「誰に」「どんなサービスを」「いくらで」提供できそうかを簡単にまとめる(100字程度)。 ・「看護スキルの価値」を意識して、病院で働くときにどのように活かせるか考える。(90分)
担当教員			

第4回	看護師ができる副業(講義・GW) 内容:看護師が病院勤務を続けながらできる副業の種類を学ぶ。SNSやYouTube、オンライン相談、訪問サービス、健康講座などの事例を紹介し、「自分にもできそうな副業アイデア」を考えるワークを行う。 行動目標: ・看護師ができる副業の種類を知る。 ・自分のスキルを活かした副業の可能性を考える。 ワークシート	・看護師の副業について調べてみる(YouTube、オンライン相談、訪問サービスなど)。 ・自分のスキルや興味で「仕事になりそうなこと」を3つ考える。(90分)	・自分ができそうな副業アイデアを100字程度でまとめる。 ・病院勤務を続けながら、副業をするメリット・デメリットを考える。(90分)
担当教員			
第5回	みんなに知ってもらうには? マーケティング入門(講義・GW) 内容:「良いサービス」だけでは成功しないことを理解し、SNSや口コミを活用したマーケティングの基本を学ぶ。看護師インフルエンサーの事例を紹介し、「看護×○○でバズるアイデア」を考えるワークを行う。 行動目標: ・マーケティングの重要性と基本的な手法を理解する。 ・看護の視点を活かした発信アイデアを考える。	・最近SNSで話題になった健康・医療系の投稿を1つ探し、なぜバズったのか考える。 ・自分がよく見るSNS・YouTubeの健康系コンテンツを思い出す。(90分)	・「自分が発信するとしたら?」を100字程度で考え、どのSNSを活用するか決める。 ・病院勤務でも活かせるマーケティングの考え方を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	実際に売ってみる! ミニビジネス体験(講義) 内容:「売る=価値を伝えてお金をもらう」ことを学び、500円で売れる看護系サービスを考える。チームで模擬販売を行い、実際にお客さんに提供する体験を通して「売れるとは何か?」を実感する。 行動目標: ・「売ること」から、看護スキルの価値を実感する。 ・自分のアイデアを具体的に形にする力を養う。 ワークシート	・「最近買ったもの」を思い出し、なぜ買ったのかを考える。 ・看護師のスキルを活かしたサービスで、お金を払ってもいいと思うものを3つ考える。(90分)	・自分のスキルで500円の価値を提供できるとしたら何ができるか、100字でまとめる。 ・看護師として働く上で「価値を伝える力」をどう活かせるか考える。(90分)
担当教員			

第7回	看護師として働きながら、どうキャリアを広げる？（講義・GW） 内容：病院勤務だけがキャリアの選択肢ではないことを学び、専門性の向上、副業、フリーランスなど多様な働き方を知る。起業の考え方を活かしてキャリアを広げる方法を考え、5年後の理想の働き方をイメージするワークを行う。 行動目標： ・看護師のキャリアには多様な選択肢があると知る。 ・起業の考え方を活かして、自分の将来を柔軟に設計できるようになる。 ワークシート	「病院勤務以外で看護師が活躍できる場」について調べてみる。 5年後の自分がどんな働き方をしていたいか、簡単に考えてみる。（90分）	・今日の授業で「新しく知ったキャリアの選択肢」を1つ書く。 ・5年後の理想の働き方を100字程度でまとめる。 ・そのために今からできる準備や学ぶべきことを考える。（90分）
担当教員			
第8回	看護師としての未来の自分を描く（講義・GW） 内容：5年後の自分の理想の働き方を考え、未来のキャリアについてプレゼンを行う。クラスメートと意見を共有し、キャリアの多様な可能性を学ぶ。柔軟な視点を持ち、自分の未来を主体的に描く力を養う。 行動目標： ・自分のキャリアプランを具体的に考え、言葉にできるようになる。 ディスカッションを通じて、看護師の多様な働き方を知る。 確認レポート	・5年後の自分がどんな働き方をしたいか考えておく。 ・理想のキャリアのために必要なスキルや経験をリストアップする。（90分）	・5年後の目標達成のために「今からできること」を100字でまとめる。 ・キャリアの選択肢を増やすために興味のある分野をさらに調べる。（90分）
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合（％）	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認レポート:5回×20点=100点
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
必要時提示する。		
履修条件・留意事項等		

- ・私語、教員が求めた時以外の携帯電話の使用を禁止する。
- ・学習は主体的に行う。
- ・欠席した場合は、必ず欠席届を提出する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		リスクマネジメント論				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる」に関連した科目である。
各領域の「臨地看護学実習」や「看護倫理」「チーム医療概論」「看護マネジメント論」に関連する科目である。

授業の概要

医療や看護において日常的に起こりうる可能性がある医療上の事故・インシデントのリスクを認識し、予防するために必要な行動と、安全な医療環境の形成に向けた組織活動について理解する。また、保健・医療・福祉における個人情報保護や守秘義務と、倫理的配慮に基づいた情報管理について理解する

到達目標

1. 安全な医療環境の形成に向けて、医療事故に伴う看護職の法的責任について説明できる
2. 医療や看護を实践するうえで起こるリスク、およびその予防方法について説明できる。
3. 医療者自身におこるリスクについて説明できる。
4. 医療事故の予防に向けて、組織における医療安全対策について説明できる

授業の方法

PowerPointを用いた講義と個人ワークによる演習を実施する。

ICT活用

Google Classroomにより出席の確認、課題の提出を行う。

実務経験のある教員の教育内容

看護師としての勤務経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

確認テストや学生からの質問に対し、Web上もしくは授業内で解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【なぜ医療事故が起こるのか】 ヒューマンエラーと医療安全の基本、個人としての医療安全の取り組みについて説明する。 コメントシート①	教科書P.1～P.17, P.46～P.59 を読んでくる(90分)	日常生活の中で、自分に起きているヒューマンエラーをまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第2回	【事例から学ぶ①】 臨地で起こりやすい薬剤に関連した事例から、予防策を説明する。	教科書P.120～P.146を読んでくる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第3回	【事例から学ぶ②】 点滴静注、輸血、輸液ポンプ・シリンジポンプなど医療機器、浣腸、酸素投与など、医療処置に関連した事例から、予防策を説明する。	教科書P.147～P.172を読んでくる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		

第4回	確認テスト① 【事例から学ぶ③】 点滴ルート、気管内挿管チューブ・気管切開カニューレ、人工呼吸器など、ドレーンやチューブ類に関連する事例から、予防策について説明する	第2回と第3回の授業内容を復習する。教科書P.173～P.196を讀んでくる(90分)	確認テストで間違ったところを復習する。授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第5回	【事例から学ぶ④】 検査、療養上の世話、誤認に関連する事例から、予防法について説明する。	教科書P.197～P.225を讀んでくる(90分)。	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第6回	確認テスト② 【医療・看護における安全対策①】 個人の医療安全への取り組みについて説明し、危険予知トレーニング(KYT)から体験的に学ぶ	第4回と第5回の授業内容を復習する。教科書P.46～P.59を讀んでくる(90分)。	確認テストで間違ったところを復習する。KYTに関する課題に取り組み期限までに提出する(90分)。
担当教員	水野 愛子		

第7回	【医療・看護における安全対策②】 チームのリスクマネジメントとして、医療事故報告の活かし方について説明し、インシデントレポートの書き方について体験的に学ぶ	教科書P.17～P.43を読んでもくる(90分)。	インシデントレポートに関する課題に取り組み期限までに提出する(90分)。
担当教員	坂東 奈穂美		
第8回	【医療・看護における安全対策③】 組織として安全な医療を提供するための体制や組織づくりについて説明する。	教科書P.60～P.67, P.101～P.118を読んでもくる(90分)。	医療安全に関するレポート課題を期限までに提出する(90分)。
担当教員	坂東 奈穂美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	コメントシート10% 確認テスト40%(20%×2回) レポート課題50%(KYTワーク課題15%, インシデントレポート課題15%, 医療安全に関するレポート20%)
その他	0	なし
教科書		
看護テキストNice 医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして(改訂第2版) 山内 豊明, 荒井 有美(編)		
参考文献		
必要時、授業内で提示する。		
履修条件・留意事項等		

週2回の集中講義であり、毎回課題があるため、欠席しないように体調管理を行ってください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		基礎看護学実習 I				ナンバリング	3801
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	藤長 すが子、木口 幸子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子						

授業の位置づけ

看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探究力・問題解決能力を有することを目指す科目である(思考・判断・表現)。看護学の基礎、共通看護援助技術、コミュニケーション論を関連させながら、看護の対象者の生活の場と人々の健康増進に関心を持ち、主体的に学習を継続し、自己成長につなげることをねらいとする。また、人々の健康課題を解決するための柔軟な思考力と大局的な判断力をもち、協働しながら援助を实践する能力を身につける。看護の対象者の生活の場と看護活動の実際を学ぶことは、今後の看護の学修への動機づけとなる動の実際を学ぶことは、今後の看護の学修への動機づけとなる。後期の人体構造学Ⅱ、人体機能学Ⅱ、免疫学、メンタルヘルスに関連付けられる。

授業の概要

看護の実践場面を通して、療養の場と対象者の生活を知り、その中で看護師が対象者の健康の保持・増進、健康の回復、苦痛の緩和に向けてどのような援助を行っているかを学ぶ

到達目標

1. 健康問題を持つ対象者の療養の場の特徴を述べることができる。
2. 健康問題を持つ対象者の療養生活の実際を知り、説明できる。
3. 健康問題を持つ対象者に対する看護活動の実際を知り、説明できる。
4. 看護者として基本的態度について、身につける理由を知り、実施できる。

授業の方法

実習開始前ガイダンス
実習施設での学修は、臨地実習指導者と実習担当教員からの助言・指導を受け展開する
実習記録やレポート、カンファレンスにより学修を深める
他、詳細については基礎看護学実習Ⅰ要項を参照

ICT活用

ナーシングスキル、他動画を活用し、看護技術の確認を行う

実務経験のある教員の教育内容

看護師としての病院勤務経験をもとに実践の場で指導する

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、口頭または文書等でコメントを返却する

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	詳細については基礎看護学実習Ⅰ要項を参照	ガイダンス時に指示する	ガイダンス時に指示する
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第2回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第3回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第4回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第6回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第7回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第8回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第9回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第10回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第11回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第13回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習要項参照
その他	0	
教科書		
①宮脇美保子編(2022). 新体系看護学全書 基礎看護学①看護学概論, 第5版. メヂカルフレンド社. ②深井喜代子編(2022). 新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術 I, 第5版. .メヂカルフレンド社. ③②と同編者. 基礎看護技術Ⅱ ④前原澄子他編(2018). よくわかる大学での学び方, 第2版, 金芳堂		
参考文献		

その都度紹介

履修条件・留意事項等

評価対象物において、代筆や盗用などの不正行為があった場合はD判定となる可能性がある

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		基礎看護学実習Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	藤長 すが子、木口 幸子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子						
授業の位置づけ							
本科目は、看護学科のディプロマ・ポリシーの中で特に「看護過程の展開や臨床判断に必要な問題探求能力・問題解決能力を有した人材」に関連している。人々の健康問題を解決するための柔軟な思考力と科学的根拠に基づいた判断力をもち、協働しながら援助を実践する能力を身につけるための科目である。さらに、これまで学修した科目を関連づけ、基礎看護学全般の学修の集大成として位置づけられる。							
</							

1. 対象者とのコミュニケーションや看護記録など多様な資源を活用し、情報を収集することができる。
2. 対象者の健康状態を理解し、看護過程を通して個別的な援助を考えることができる。
3. 対象者の必要としている看護ケアを安全・安楽に実施し、評価することができる。
4. 保健医療チームにおける看護の役割を知ることができる。
5. 看護者としての基本的態度を身につけることができる。

授業の方法

1. 実習開始前ガイダンス
 2. 実習施設での学修は、臨地実習指導者と実習担当教員からの助言・指導を受け展開する。
 3. 実習記録や実習後レポート、カンファレンスにより学修を深める。
- 他、詳細については基礎看護学実習Ⅱ要項を参照

ICT活用

Google class roomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

看護師としての病院勤務経験を活かし、さらに学内で学んだことを関連づけながら、実践の場で指導する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、口頭または文書等でコメントを返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	詳細については基礎看護学実習Ⅱ要項を参照	ガイダンス時に指示する。	ガイダンス時に指示する。
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第2回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第3回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第4回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第6回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第7回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第8回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第9回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第10回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第11回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第13回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	詳細は基礎看護学実習Ⅱ要項を参照
その他	0	
教科書		
1. 深井喜代子編(2021). 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ メヂカルフレンド社 2. 渡邊トシ子編(2011). ヘンダーソン・ゴードンに考えに基づく実践看護アセスメント同一事例による比較,第3版. ヌーベルヒロカ 3. 山岸節子編(2000). 自分で描ける病態関連図, 照林社		
参考文献		

その都度紹介する。

履修条件・留意事項等

評価対象物において、代筆や盗用などの不正行為があった場合はD判定となる可能性がある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		成人看護学実習				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	4
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介						

授業の位置づけ

本科目は成人期にある対象者に必要な看護の実際を知るとともに既習の知識・技術・態度の統合を図り看護実践能力を養うことをねらう。成人看護学実習では、成人期以降にあり健康障害を生じ入院治療を必要とする対象者の看護過程を展開し実践的に学ぶ。専門基礎科目のすべてと連携し、「看護実践マネジメント実習」「看護研究Ⅱ」に繋がる。DP「看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探求能力・問題解決能力を有している(思考・判断・表現)」「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)」「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

成人看護学実習では、成人期以降にあり、健康障害を生じ入院治療を必要とする対象者の看護過程を実践的に展開する。急性の健康障害、周術期、慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象へ、症状緩和並びに健康危機状況から回復して健康を維持・増進できるようなセルフマネジメントの支援に向けた援助を習得する。

到達目標

1. 対象を統合的に理解し、症状緩和並びに健康危機状況から回復し健康を維持・増進するための看護計画を立案できる
2. 対象が症状緩和並びに健康危機状態から回復して健康を維持・増進するためのセルフマネジメント支援に向けた看護ケアを実施・評価できる
3. 実践した看護を振り返り、根拠に基づき説明することができる
4. チームアプローチにおける看護師及び多職種役割を理解し、対象を中心とした連携と協働のあり方を説明できる
5. 学生としての役割・責務を果たすことができる

授業の方法

実習開始前にオリエンテーションを受けて、事前の自己学習として実習に必要な知識と技術を整理する
実習施設内の学習は、患者を受け持ち臨床指導者と実習担当教員からの助言・指導のもとで看護過程を展開する
受け持った患者への看護の理解を深めるために、実習記録やレポートの作成とカンファレンスを行う

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

看護実践経験のある教員が実習指導を行う

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対しては、面談による指導もしくはコメントを返す

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	詳細については成人看護学実習要項を参照	オリエンテーション時に提示する	オリエンテーション時に提示する
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第2回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第3回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第4回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第5回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第6回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第7回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第8回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第9回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第10回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第11回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第12回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第13回	なし	なし	なし
	担当教員 尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第14回	なし	なし	なし
	担当教員 尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第15回	なし	なし	なし
	担当教員 尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習要項の評価表を参照のこと
その他	0	なし
教科書		
看護病態治療学、基礎看護学、成人看護学の基礎・成人看護学の展開で使用した教科書を活用する		
参考文献		

ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版 スーヴェルヒロカワ
 NANDA-I 看護診断定義と分類2024-2026 原書第13版 医学書院
 疾病別看護過程 第4版 医学書院
 根拠がわかる疾患別看護過程 改訂第4版 南江堂
 疾患別看護過程の展開 第6版 学研

履修条件・留意事項等

実習の履修要件をシラバスで確認すること
 実習前オリエンテーションを含め、無断欠席は減点とする
 評価対象物において不正行為が認められた場合は、D判定になることがある

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		小児看護学実習				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	横山 佳世、菅原 美保						
授業の位置づけ							
本科目は看護学科のディプロマポリシー「看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探求能力・問題解決能力を有している」特に関係し、「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している」「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる」と関係する。小児期にある対象に対し看護過程を展開し、看護実践能力を養う。「小児看護学の基礎」「看護病態治療学Ⅱ」「小児看護学の展開Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識・技術を統合し、小児看護に必要な基本的知識、技術、態度と看護実践の基礎的能力を修得するための科目である。							
授業の概要							
看護の基盤となる問題探究能力と問題解決能力を活用して、看護過程の展開に必要な基本的な能力を養うため、様々な健康状態の子どもとその家族とのコミュニケーションを通して対象理解を深める。さらに、子どもを取り巻く環境が子どもと家族の成長・発達にどのような影響を与えるのか学習し、状況に応じた生活支援および健康の回復、維持・増進をはかるために必要な看護を学ぶ。							
到達目標							

1. 健康問題や入院が子どもと家族に及ぼす影響について説明でき、子どもの発達段階と健康レベルに応じた看護過程が展開できる
2. 健康問題をもつ子どもと家族の個別性を考慮した安全で安楽な看護が実践できる
3. 受け持ち患児と家族に展開した看護について説明できる
4. 集団保育を通して健康な乳幼児の成長・発達促進に必要な支援について説明できる
5. 障害をもつ小児への教育的支援について理解できる
6. 看護学生として、責任のある行動と役割を果たすことができる

授業の方法

実習前はオリエンテーションで提示した学修を行い実習に臨む。実習は病棟、保育園および学内で行う。詳細は小児看護学実習要項を参照。小児看護学臨地実習要項に沿って学習を進めるが、状況によっては変更になることがある。その場合は、事前に周知する。

ICT活用

双方型授業(Google forms を利用した意見集約と結果の開示)
自主学習支援(Google classroomを利用したレポート・課題提出、関連資料提供)

実務経験のある教員の教育内容

NICUや小児病棟で看護師として勤務した経験を活かし、小児とその家族への看護援助技術と看護過程の展開について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、看護援助に同行し指導を行う。また、記載された実習記録物には指導コメントの記載とともに口頭による指導も行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第2回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第3回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第4回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第5回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第6回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第7回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第8回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第9回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第10回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第11回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第12回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第13回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第14回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第15回	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照	詳細については小児看護学実習実習要項を参照
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習目標の到達度、実習記録とレポート、事前学習課題、実習態度により総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
小児看護学の基礎、小児看護学の展開Ⅰ・Ⅱ、看護病態治療学Ⅱで使用した教科書に準ずる。		
参考文献		

発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図第4版／浅野みどり他／医学書院
病気がみえる vol.15 小児科/医療情報科学研究所編/メディックメディア
他、適宜提示する。

履修条件・留意事項等

本科目を履修するには「小児看護学の展開Ⅱ」の科目の単位取得が必要である。
評価対象物に不正行為が認められた場合はD判定となることもある。

備考欄

体調管理を行い、既習の内容を復習の上、実習に臨むこと。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		母性看護学実習				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	多賀 昌江、小堀 ゆかり						

授業の位置づけ

本学科のDP「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を固め、看護師としての実践能力を有している」、「看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探求力・問題解決能力を有している」、「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる」と関連した科目である。また、すべてのDPと関係している。これまで履修した「母性看護学の基礎」「母性看護学の展開Ⅰ」「母性看護学の展開Ⅱ」の総まとめとなる。母性看護に必要な基本的知識、技術、態度と看護実践の基礎的能力を修得するための科目である。

授業の概要

妊娠・分娩・産褥各期の母体と胎児または新生児の生理的变化や心理・社会的特徴を理解する。また、母子及びその家族に対する看護の実践をとおり、セルフケア能力や親役割の獲得と退院後の生活に向けた支援など周産期看護を学ぶ。

到達目標

1. 妊娠・分娩・産褥各期における女性の生理的・心理的・社会的な変化の実際を学び、必要な看護を实践できる。
2. 新生児期にある対象の生理的变化を理解し、健康状態についてアセスメントすることができる。
3. 周産期にある母子に必要な看護援助を考えることができる。
4. 母親と家族の妊娠・出産・子育てにおける心理的・社会的変化について説明することができる。
5. 子育ての現状と地域で行われている子育て支援の実際について挙げるすることができる。
6. 周産期にある母子に対して安全に配慮した行動をとることができる。

授業の方法

実習では、実習オリエンテーション、実技実習、子育て支援実習、助産院実習、学内実習、病棟実習、見学実習と実習報告会を行う。詳細はオリエンテーションにて説明する。

ICT活用

Google Classroomを用いて、実習に向けた資料の提示を行う。
Google Classroomの課題提出機能を用いて、実習レポートと課題の提出および実習記録のフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当教員は全員助産師である。助産師として、産科や周産期母子医療センター、NICUなどに10年前後勤務した経験があり、臨床現場における周産期ケアと看護の実際について豊富な知識を有している。この臨床経験を活かし、母子とその家族の看護について実践的な実習指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実習記録は、実習期間中に随時コメントをフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	実習方法と実習スケジュールは母性看護学実習要項を参照のこと。	関連授業の配布資料を整理し、ファイリングする。実習に必要な知識を理解しておく。学習ノートは提出期日までに記載する。	実習記録のまとめと各実習の実習レポート・課題は期日までに作成して提出すること。
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第2回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第3回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		

第4回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第5回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第6回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		

第7回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第8回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第9回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		

第10回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第11回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第12回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		

第13回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第14回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
第15回	なし	なし	なし
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習目標の到達度、実習記録およびレポートと課題から総合的に評価する。 実習評価基準は、実習要項を参照のこと。
その他	0	
教科書		
1) 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 大平光子編 南江堂 2) 母性・小児看護ぜんぶガイド第3版 古川亮子編 照林社		
参考文献		

- 1) ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程第4版 太田操編著 医歯薬出版株式会社 電子版
2) Nursing Skills ELSEVIER

履修条件・留意事項等

- ・履修要件は学生便覧を参照のこと。実習記録およびレポートに不正行為が認められた場合はD判定となることがある。
- ・必要な抗体価検査の実施とワクチン接種状況について自己管理し、確認しておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		地域・在宅看護論実習				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真						

授業の位置づけ

本学のディプロマポリシー「看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探究能力・問題解決能力を有している」に関連する科目である。

授業の概要

看護の基盤となる問題探究能力と問題解決能力を活用して、看護過程の展開に必要な基本的な能力を養うため、地域における様々な健康レベルにある人々(疾病や障がいを持つ人とその 家族等)に対して、看護援助を展開するために必要な知識と基本的技術、及び、地域で生活する人々に対する在宅ケアサービスや在宅ケアシステムがどのように活用されているかを看護援助の実践の中から学ぶ。

到達目標

1.在宅療養者とその家族への看護を理解できる。 1) 在宅療養者(以下、療養者)及び家族の特性を健康レベル、発達段階、生活背景から理解する。 2) 療養者、および、家族の健康状態や生活状況から看護上の課題を明らかにできる。 3) 療養者、および、家族に必要な看護援助を考え、看護計画を立案できる。 4) 立案した看護計画をもとに実施し、評価できる。 2.地域の人々の生活を支援する社会資源とその活用方法を理解できる。 1) 療養者が利用している社会資源の内容について理解できる。 2) 療養者に必要な社会資源について理解できる。 3) 訪問看護の役割と機能について理解できる。 4) 地域包括支援センターの役割や機能について理解できる。 5) 子ども発達支援センターの役割や機能について理解できる。 6) 療養者および家族の健康課題を解決するために行われている関係機関との連携について理解できる。 7) 地域で生活する人々を支えるための保健・医療・福祉の多職種が協働する意義を理解できる。

授業の方法

臨地実習(訪問看護ステーション / 地域包括支援センター / 子ども発達支援センターにおいて、在宅看護の実際、地域で生活する人々を支えるための連携を学ぶ /)、学内実習(実習オリエンテーション、学内演習、学内での報告会による学びの共有とまとめ)を行う。

ICT活用

視聴覚教材を用いて、初日の学内日に訪問看護の実際について、イメージを促進する。

実務経験のある教員の教育内容

看護師・保健師の国家資格をもち、医療機関・訪問看護ステーション・介護保険事業所での実務経験を活用して指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実習中、および、実習最終日に面接によりフィードバックを行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第2回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第3回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第4回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第5回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第6回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第7回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第8回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第9回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第10回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第11回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第12回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第13回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第14回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第15回	詳細は実習要項を参照すること	なし	なし
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	学習状況と態度、毎日の記録内容、レポートから総合的に評価する。評価物に不正行為があった場合は、D判定となることがある。
その他	0	特になし。
教科書		
1年次・2年次・3年次で使用した教科書を用いる。		
参考文献		

実習開始時に紹介する。

履修条件・留意事項等

本科目を履修するには、「在宅看護学の基礎」「地域包括ケアシステム論」「家族看護学」「在宅看護学の基礎Ⅰ」「在宅看護学の基礎Ⅱ」の科目の単位取得が必要である。

備考欄

体調管理を行い、既習の内容を復習して臨んでください。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 看護学科(医)					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		地域フィールド実習				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子						
授業の位置づけ							
本科目は臨地実習に帰属する「臨地実習によって看護実践能力を磨く」科目である。ディプロマポリシーの「看護過程の展開や臨床判断必要となる問題探求能力・問題解決能力を有した人材」につながる。「地域包括ケアシステム論」「在宅看護学の展開Ⅰ」「家族看護学」での学修を参考に本実習で学び、「在宅看護学の展開Ⅱ」「地域・在宅看護論実習」につなげる。							

詳細は地域フィールド実習要項を参照

授業の方法

詳細は地域フィールド実習要項を参照

ICT活用

Google classroomの使用

実務経験のある教員の教育内容

高岡は総合的な病院で、辻は脳神経外科系病院で、初見は循環器病棟と訪問看護ステーションでの勤務経験を活用して実習指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

詳細は地域フィールド実習要項を参照

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	詳細は地域フィールド実習要項を参照	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第2回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第3回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第4回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第5回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第6回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第7回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第8回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第9回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第10回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第11回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第12回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第13回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第14回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第15回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	100	詳細は地域フィールド実習要項を参照
教科書		
なし		
参考文献		

必要時提示する。

履修条件・留意事項等

オリエンテーションで提示する。

備考欄